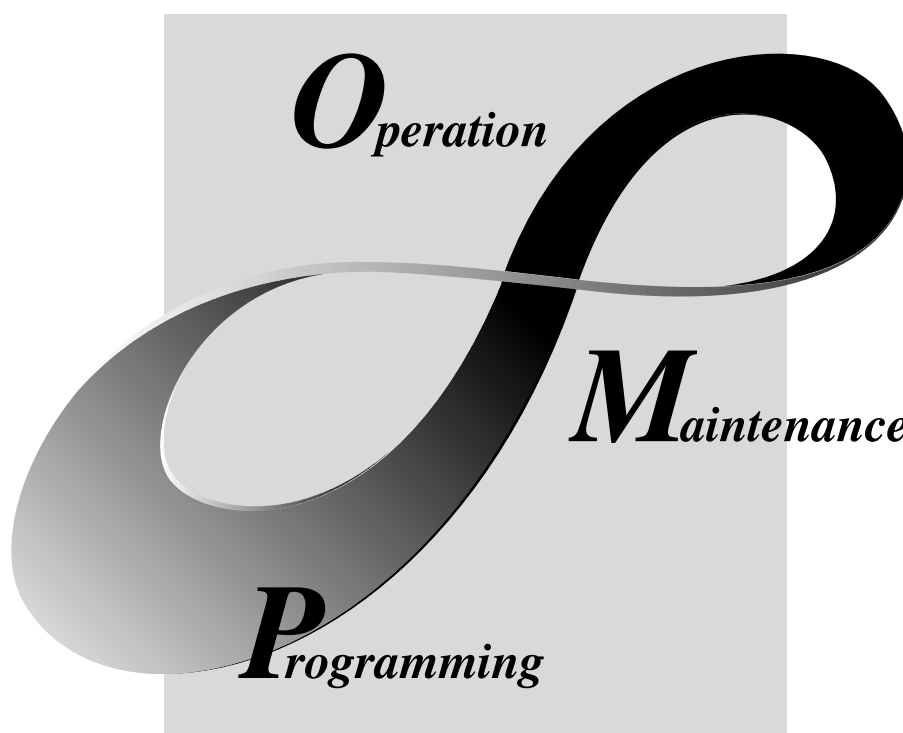


MX Component Version 3

プログラミングマニュアル

mitsubishi



統合FAソフトウェア
MELSOFT

SW3D5C-ACT-J

安全上のご注意

(ご使用前に必ずお読みください)

本製品のご使用に際しては、本マニュアルおよび本マニュアルで紹介している関連マニュアルをよくお読みいただくと共に、安全に対して十分に注意を払って、正しい取扱いをしていただくようお願いいたします。

本マニュアルで示す注意事項は、本製品に関するもののみにについて記載したものです。シーケンサシステムとしての安全上のご注意に関しては、CPUユニットのユーザズマニュアルを参照してください。

この 安全上のご注意 では、安全注意事項のランクを「危険」、「注意」として区分してあります。




危険

取扱いを誤った場合に、危険な状況が起こりえて、死亡または重傷を受ける可能性が想定される場合。



注意

取扱いを誤った場合に、危険な状況が起こりえて、中程度の傷害や軽傷を受ける可能性が想定される場合および物的損害だけの発生が想定される場合。

なお、 注意に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結びつく可能性があります。

いずれも重要な内容を記載していますので必ず守ってください。

本マニュアルは必要なときに読めるよう大切に保管すると共に、必ず最終ユーザまでお届けいただくようお願いいたします。

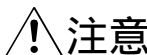
【設計上の注意事項】



危険

パソコンから運転中のシーケンサに対するデータ変更、状態制御は常にシステム全体が安全側に働くようにシーケンサシステムの外部でインタロック回路を構成してください。

また、周辺機器からシーケンサCPUへのオンライン操作において、ケーブルの接続不良などによる交信異常発生時のシステムとして処置方法を取り決めておいてください。



注意

パソコンを運転中のCPUユニットに接続して行うオンライン操作（特に強制出力、運転状態の変更）はマニュアルを熟読し、十分に安全を確認してから行ってください。

操作ミスにより機械の破損や事故の原因になります。

改 定 履 歴

取扱説明書番号は、本説明書の裏表紙の左下に記載してあります。

印刷日付	取扱説明書番号	改 定 内 容
2002年 4月	SH(名)-080275-A	初版印刷
2002年 6月	SH(名)-080275-B	<div>一部修正</div> <p>ご使用上の注意事項，5.1.2項</p>
2003年12月	SH(名)-080275-C	<div>一部修正</div> <p>ご使用上の注意事項，3.2節，3.3節，4.1節，6.1節</p> <div>一部追加</div> <p>総称・略称について，1.1節，1.2.1項，3.1節，3.3.17項，4.2.9項，4.2.10項，4.2.11項，4.2.12項，4.2.14項，付3.1</p>
2004年 6月	SH(名)-080275-D	<div>機種追加</div> <p>Q12PRHCPU，Q25PRHCPU，FX_{3u}CPU</p> <div>新規追加</div> <p>2.1.5項，5.1.3項，5.6節，5.7節，保証について</p> <div>一部修正</div> <p>ご使用上の注意事項，3.3節（全体），4.2節（全体），4.3.17項，5.1.1項，5.2.1項，5.2.2項</p> <div>一部追加</div> <p>総称・略称について，2.2節，3.2節，3.3節，4.1節，4.2節，5章，6.1節</p>
2004年 8月	SH(名)-080275-E	<div>一部修正</div> <p>ご使用上の注意事項</p> <div>一部追加</div> <p>2.3節，3.2節，3.3.28項</p>
2005年 8月	SH(名)-080275-F	<div>機種追加</div> <p>FX_{3u}CPU</p> <div>一部追加</div> <p>総称・略称について，3.2節，3.3.2項，3.3.3項，3.3.23項，3.3.24項，4.2.9項，4.2.10項，4.2.11項，4.2.12項，4.2.13項，4.2.14項，6.1節</p>

本書によって，工業所有権その他の権利の実施に対する保証，または実施権を許諾するものではありません。また本書の掲載内容の使用により起因する工業所有権上の諸問題については，当社は一切その責任を負うことができません。

ご使用上の注意事項

本項では下記の順序で注意事項の説明を行っています。

使用するOS、パソコンの注意事項

インストール、アンインストール時の注意事項

シーケンサCPU関連の注意事項

他MELSOFT製品使用時の注意事項

Ethernetユニット使用時の注意事項

CC-Linkユニット使用時の注意事項

MELSECNET(), MELSECNET/10, MELSECNET/H使用時の注意事項

計算機リンクユニット、シリアルコミュニケーションユニット使用時の注意事項

モデム通信時の注意事項

プログラミング時の注意事項

Microsoft® Excel使用時の注意事項

Microsoft® Access使用時の注意事項

VBScript, ASP機能使用時の注意事項

使用するOS、パソコンの注意事項

- (1) Microsoft® Windows NT® Workstation Operating System Version 4.0, Microsoft® Windows® 2000 Professional Operating System, Microsoft® Windows® XP Professional Operating SystemおよびMicrosoft® Windows® XP Home Edition使用時について

Administrator権限のないユーザでMX Componentを動作させる場合、以下の制約があります。

(a) 通信設定ユーティリティ

- ・ 論理局番の作成、変更、および削除が行えません。
- ・ 通信設定のインポートが行えません。
- ・ MX Component Version 3.00Aより前のバージョンで通信設定を行っている場合、起動できません。 *1

(b) シーケンサモニタユーティリティ

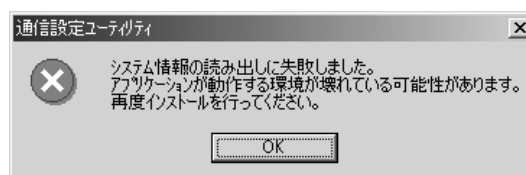
- ・ MX Component Version 3.00Aより前のバージョンで通信設定を行っている場合、起動できません。 *1
- ・ デバイス登録モニタで、デバイス登録が行えません。

(c) 通信ボード

- ・ MELSECNET/H, MELSECNET/10, MELSECNET(), CC-Link, AF, CPUボードの各ユーティリティで、各種設定が行えません。

*1: 以下のエラーメッセージが表示された場合、一度Administrator権限のあるユーザでユーティリティを起動・終了してください。

その後はAdministrator権限のないユーザでも、ユーティリティが起動できるようになります。



- (2) Microsoft® Windows® 95 Operating SystemにおけるEthernet通信，計算機リンク通信およびCPU COM通信について
- (a) OSR2より古いバージョンのWindows® 95上で，TCP/IPおよびUDP/IPを使用したEthernet通信を行うとメモリリークが発生します。
Windows® 95上で連続稼働を行う場合は，Windows® 95 OSR2以降を使用してください。
- (b) Windows® 95上では，計算機リンク通信およびCPU COM通信などのCOMポートを使用した通信を行うと，メモリリークが発生しますので連続稼働は行わないでください。
- (3) Microsoft® Windows® Millennium Edition Operating System使用時の注意事項
MX Componentはオペレーティングシステムによる，「システムの復元機能」が無効な状態での使用は推奨されていません。
システムドライブの空き容量が200MB以下になると，オペレーティングシステムにより「システムの復元機能」が無効になってしまいますので，Windows® Meを使用する場合は，システムドライブに200MB以上の空き容量を確保してください。
- (4) パソコンのレジューム機能などについて
パソコンのレジューム機能・サスペンド設定・省電力機能・スタンバイモードを設定してシーケンサCPUと交信すると，交信エラーが発生することがあります。
そのためにシーケンサCPUと交信する場合は，上記機能の設定を行わないでください。

インストール，アンインストール時の注意事項

- (1) インストールについて
- (a) 上書きインストールを行う時は，既にインストールされているフォルダと同じフォルダにインストールしてください。
- (b) MX Componentがインストール済みのパソコンに，MELSECボードドライバやGX Developerをインストールすると特定の経路（AJ71E71のASCIIパケットなど）を使用した通信が，受信エラーやデバイス番号エラーなどになる可能性があります。
これらの現象が発生した場合は，再度，MX Componentを上書きインストールしてください。
- (2) 1台のDOS/Vパソコンに2種類のOSがインストールされている，デュアルブートマシンでインストール，アンインストールを行う際についての注意事項
Windows NT® Workstation 4.0（以下OS1と略します。）とWindows® 95またはWindows® 98（以下OS2と略します。）のデュアルブートマシンで，始めにOS1でMX Componentをインストールし，次にOS2で同じフォルダにMX Componentを上書きインストールした場合，以下の点に注意してください。
- (a) OS2側で先にMX Componentをアンインストールした場合，アンインストールを行っても各コントロールDLLやACTフォルダは削除されずにDOS/Vパソコン内に残ります。
各コントロールDLLやACTフォルダを削除するためには，OS1側でもアンインストールを実行してください。

- (b) OS1側で先にMX Componentをアンインストールした場合、各コントロールDLLやACTフォルダは削除されます。
 この場合、OS2側ではMX Componentが正常に動作しなくなったりアンインストールができなくなります。
 OS2側のMX Componentを正常に動作させる、またはアンインストールを行うためには、OS2側で再度MX Componentをインストールしてください。
- (3) スタートメニューについて
 MX Componentをアンインストールした時に、スタートメニューに項目が残ることがあります。
 その場合は、DOS/Vパソコンを再起動してください。

シーケンサCPU関連の注意事項

- (1) 伝送速度について
 QCPU (Qモード)、QCPU (Aモード) は、9600bps、19200bps、38400bps、57600bps、115200bpsが設定可能です。
 バージョン9707B以降のQnACPUは、伝送速度を9600bps、19200bps、38400bpsに設定することができます。
 その他のQnACPUは、9600bps、19200bpsが設定可能です。
 また、ACPU (A2USHCPU-S1を除く)、FXCPU、モーションコントローラCPUの伝送速度は9600bps固定です。(A2USHCPU-S1は19200bpsが設定可能。)
- (2) USB通信時の注意事項
 シーケンサCPUと交信中にUSBケーブルの脱着、シーケンサCPUのリセットおよび電源のOFF/ONを頻繁に行うと通信エラーが発生し復旧しない場合があります。
 もし、通信エラーが復旧しない場合は、USBケーブルを一度完全に抜いて5秒以上経過後に再度装着してください。
 (本操作後も初回通信時にエラーとなる場合がありますが、2回目以降は正常に機能します。)
- (3) シーケンサCPUの時計データについて
- (a) ACPU (モーションコントローラCPUを含む) では、シーケンサCPUがSTOP状態の場合にのみ実行可能です。
 QCPU (Qモード)、QCPU (Aモード)、QnACPUおよびFXCPUでは、シーケンサCPUがRUN状態でも実行可能です。
 - (b) AOJ2HCPU、A2CCPU、A2CJCPUは時計機能を持たないため設定を行えません。
 - (c) ACPUは、時計設定用の特殊リレー“M9028”のON/OFF状態に関係なく設定を行うことができます。(ただし実行後に特殊リレー“M9028”はOFFとなります。)
 QCPU (Qモード)、QCPU (Aモード)およびQnACPUは、時計設定用デバイス“SM1028”のON/OFF状態に関係なく設定を行えます。
 - (d) FXCPUはFX1N (時計内蔵)、FX1NC (時計内蔵)、FX1S (時計内蔵)、FX2N (時計内蔵)、FX2NC (RTCカセット装着時)、FX2 (RTCカセット装着時)、FX2C (RTCカセット装着時) のみ設定可能です。
 - (e) 時計設定は転送時間分の誤差が生じますのでご注意ください。

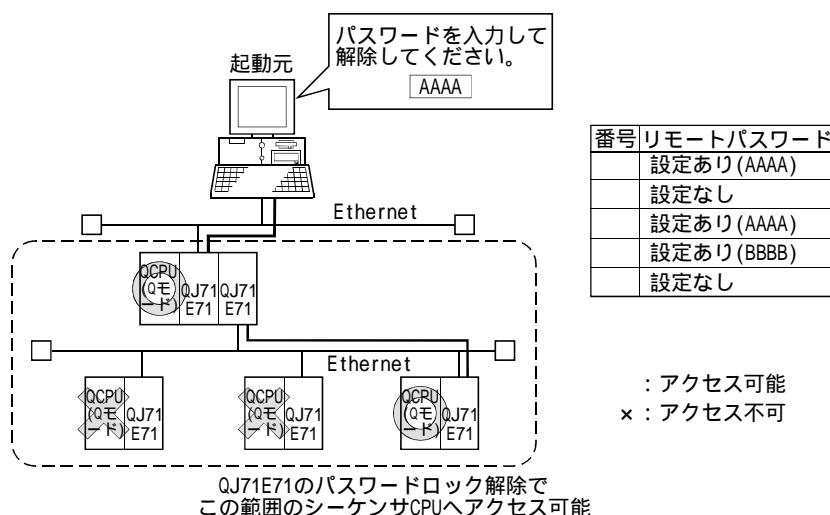
- (4) Q4ARCPU使用時の注意事項
2重化機能を使用しているQ4ARCPUへはアクセスできません。
- (5) FXCPU使用時の制約事項
- (a) FXCPU使用時のTNデバイス（タイマ現在値）およびCNデバイス（カウンタ現在値）へのアクセスは、デバイス番号199以前からデバイス番号200を越えてアクセスすることはできません。
 - (b) FXCPUは、シーケンサCPUとしてPAUSEスイッチを持たないため、SetCpuStatusでリモートPAUSEを指定するとエラーを返します。
 - (c) ユニットが存在しない先頭I/O番号を指定してWriteBuffer()メソッドを実行しても、エラーは返りませんので注意してください。
 - (d) FXCPUのインデックスレジスタ（Z,V）に対して、WriteDeviceBlock()で2点以上を連続して書き込むことはできません。（1点のみ書き込み可能です。）
- (6) Q00J/Q00/Q01CPUのシリアルコミュニケーション機能
下記の条件をすべて満たすときは、パソコン - Q00J/Q00/Q01CPU間の通信速度は9600bpsで通信を行います。
接続CPUがQ00CPU, Q01CPU
接続CPUのシリアルコミュニケーション機能が有効になっている。
パソコン側伝送速度設定とQ00J/Q00/Q01CPU側伝送速度設定が異なっている。
通信速度を向上させたい場合は、パソコン側伝送速度とQ00J/Q00/Q01CPU側伝送速度を一致させてください。

他MELSOFT製品使用時の注意事項

- (1) GX Developerとの共存について
E71ユニットによるEthernet通信時は、GX Developerと同時に同一ユニットを使用する場合、下記に示す設定を行ってください。
- (a) 通信設定ウィザード画面のプロトコルを“UDP/IP”に設定する。
 - (b) E71ユニットの交信設定スイッチの“SW2”をOFF（バイナリ使用）にする。
- (2) GX Simulator通信時の注意事項
モニタユーティリティ、通信設定ユーティリティ、ユーザプログラムを実行する際は、GX SimulatorおよびGX Developerが起動していることを確認してください。
また、ユーザプログラム実行中に、GX SimulatorおよびGX Developerを終了しないようにしてください。
ユーザプログラムが正常に終了できなくなります。

Ethernetユニット使用時の注意事項

- (1) TCP/IPコネクション確立中のシーケンサCPUリセット
MX Componentを使用してTCP/IPコネクション確立中（Open中）に，シーケンサCPUをリセットすると，それ以降の通信時に通信エラーや受信エラーが発生します。その場合は，MX Componentを使用するアプリケーションをクローズ後，再度オープン処理を行ってください。
- (2) Ethernetユニットの対象先生存確認開始間隔*1について
DOS/Vパソコンからクローズ処理(Close)を実行しても，Ethernetユニットがクローズ処理(Close)を実行しない場合があります。
このような原因の1つにケーブルの断線があげられます。
Ethernetユニットがクローズ処理(Close)を実行しない状態で，DOS/Vパソコンからオープン処理(Open)を実行しても，Ethernetユニットが対象先生存確認を行い，Ethernetユニットのクローズ処理(Close)を実行するまでDOS/Vパソコンからのオープン処理(Open)は正常終了しません。
DOS/Vパソコンからオープン処理(Open)を早期に終了したい場合は，Ethernetユニットの対象先生存確認間隔を短く設定してください。
(Ethernetユニットの対象先生存確認開始間隔はデフォルト10分となっています。)
*1：E71ではAJ71E71-S3以降設定可能です。
- (3) Ethernetユニットの交換
Ethernet通信を行っている場合に，デバッグや故障などによりEthernetユニットを交換した場合は，他ノード（DOS/Vパソコン）側の再起動が必要となります。
(Ethernetアドレス（MACアドレス）が機器ごとに異なっているため)
- (4) Qシリーズ対応Ethernetユニット使用時の同時アクセスについて
複数のDOS/Vパソコンから同時に同一ユニットにTCP/IPプロトコルを用いて通信を行う場合は，下記の条件を満たしてください。
・ シリアルNo.の上5桁が* 02122 *以降で機能バージョンB以降のQシリーズ対応E71ユニット(QJ71E71-100を除く)
・ GX Developer Version 6.05F以降を使用して，Ethernetパラメータの“ オープン方式 ”を“ MELSOFT接続 ”に設定する。
- (5) QJ71E71使用時のパスワードロック解除について
遠隔操作によりパスワードロック解除できる範囲は，接続対象局までです。
下位階層側にもパスワードが設定されていると下位の階層のシーケンサCPUと通信することはできません。

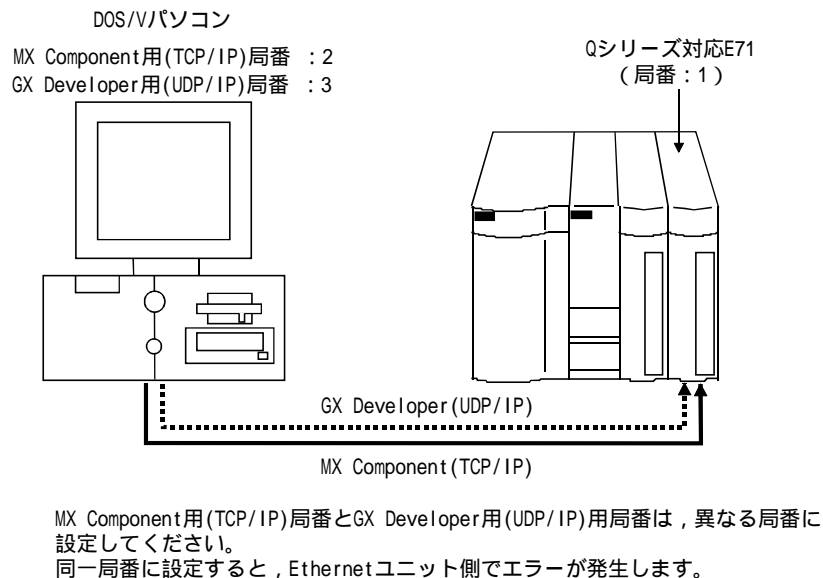


- (6) Q4ARCPUを使用する場合について
Ethernet通信のUDP/IPプロトコルを使用する場合は、Q4ARCPUの製造年月が“ 0012 ”
以降で、機能バージョンB以降を製品を使用してください。

(7) Ethernet通信について

- (a) QnACPU、AnUCPU、QCPU（Aモード）およびモーションコントローラCPUにE71
経由でアクセスする場合、デバイス範囲はAnACPU相当となります。
- (b) Ethernet通信にてシーケンサCPUにアクセスする場合、シーケンサCPUの状態
により関数が実行できない場合があります。
プロトコルがTCP/IPの場合（対象ユニット：E71、QE71）
通信対象のシーケンサCPUがRUNの時のみ関数が実行可能となります。
シーケンサCPUがRUN以外の場合は、エラーが返ります。
プロトコルがUDP/IPの場合（対象ユニット：E71、QE71）
シーケンサCPUを1度、RUNするまで関数を実行することができません。
シーケンサCPUを1度もRUNしていない場合は、エラーが返ります。
- (c) Ethernet通信（プロトコルがTCP/IPの場合）にCPUダウンまたはEthernetユ
ニットのリセットが発生すると、通信回線が切断されます。
その場合は回線クローズ処理(Close)を実行後、再オープン処理(Open)を行っ
てください。
- (d) 1台のDOS/Vパソコンから2種類の通信方式（プロトコル）を使用して、1台のQ
シリーズ対応E71にアクセスを行う場合、TCP/IP用局番とUDP/IP用局番の2通
りを設定する必要があります。ただし、MX Componentバージョン3以降とシリ
アル番号“ 05051 ”以降のQシリーズ対応E71を使用する場合は、TCP/IP用局番
およびUDP/IP用局番を別々に設定する必要はありません。

（例）MX ComponentがTCP/IP、GX DeveloperがUDP/IPを使用する場合



- (8) E71およびQE71のスイッチ設定について
E71およびQE71を使用したEthernet通信時に発生したエラーコードで、下4桁のエ
ラーコードがE71およびQE71のマニュアルに記載されていない場合、E71および
QE71のディップスイッチ(SW2)を確認してください。
ディップスイッチが正しく設定されていない場合、パケット形式(ASCII / バイナ
リ)に違いが発生しているため、ユニットから返されたエラーコードを正しく認
識できなくなります。

CC-Linkユニット使用時の注意事項

- (1) CC-Linkマスタ・ローカルユニットのソフトウェアバージョン
CC-Link通信, CC-Link G4通信 (AJ65BT-G4使用時のみ) で使用するCC-Linkマスタ・ローカルユニットは, ソフトウェアバージョン“N”以降を使用してください。
“M”以前のソフトウェアバージョンのユニットでは, 正常に動作しません。
- (2) CC-Link G4ユニットのソフトウェアバージョン
CC-Link G4通信 (AJ65BT-G4使用時のみ) で使用するCC-Link G4ユニットは, ソフトウェアバージョン“D”以降を使用してください。
“C”以前のソフトウェアバージョンのユニットでは, 正常に動作しません。

MELSECNET () , MELSECNET/10 , MELSECNET/H使用時の注意事項

- (1) MELSECNET/10装着局からの経路について
AnNCPU, AnACPUに装着している場合はMELSECNET()として認識されます。
接続局がAnNCPU, AnACPUの場合は, 経路ネットワークをMELSECNET()に設定してください。
また, 管理局にアクセスする場合は局番を“0”に設定してください。
- (2) MELSECNET()経路時の注意事項
QnACPU, AnUCPU, QCPU (Aモード) およびモーションコントローラCPUにMELSECNET ()経路でアクセスする場合, デバイス範囲はAnACPU相当となります。

計算機リンクユニット, シリアルコミュニケーションユニット使用時の注意事項

- (1) 計算機リンク通信について
 - (a) 計算機リンク接続時に接続局がAnUCPUで, 計算機リンクユニットがUC24の場合, MELSECNET/10経路でAnNCPU, AnACPU, QnACPUにアクセスする際には, リモート操作がエラーとなります。
 - (b) UC24およびC24以外の計算機リンクユニットでは, すべての接続でリモート操作“PAUSE”がエラーとなります。
 - (c) QC24は, ユニットの存在しない先頭I/O番号を指定して, U* *¥G* *を読み出し/書き込みするイリーガルケースに対し, S/Wバージョンが“k”以前のユニットではエラーが返りませんので注意してください。
 - (d) UC24およびC24で, QnACPUを対象局とするすべての接続形態(直結, 経路)において時計データ読み出し/書き込みを実行すると, エラーが返ります。
 - (e) FX0N, FX1S, FX1N(C), FX2N(C)CPUで計算機リンク通信をする場合は, FX拡張ポートが必要です。
- (2) パソコンとシリアルコミュニケーションユニットを接続する際の注意事項
 - (a) QJ71C24-R2の機能バージョンAを使用する場合
MX Componentアプリケーションは, CH1またはCH2のどちらか一方しか使用できません。
また, GX Developer, GOTなどMELSOFT製品が片方のチャンネルを使用している場合は, 他方のチャンネルを使用できません。
機能バージョンBのQJ71C24-R2を使用している場合は, 両チャンネルが使用可能です。

- (b) AJ71QC24-R2, A1SJ71QC24-R2, AJ71QC24N-R2, A1SJ71QC24N-R2を使用する場合
MX Componentアプリケーションは、CH1のみ使用可能です。
CH2は使用できません。

モデム通信時の注意事項

- (1) モデム通信時の他アプリケーションとの共存
モデム通信を行う場合、MX ComponentとGX Developerなどの他アプリケーションは同時に通信を行うことはできません。
MX Componentでモデム通信を行う場合は、他アプリケーションでモデム通信を行わないようにしてください。
MX Componentと他アプリケーションを使用して同時にモデム通信を行った場合、通信エラー、電話回線の切断などの現象が発生します。
- (2) 電話回線使用時の注意事項
- (a) キャッチホン回線は使用しないでください。
キャッチホン回線では割込みの読出し音によりデータの乱れ、電話回線の切断などが発生する場合があります。
- (b) 親子電話への回線接続は行わないでください。
親子電話への電話回線接続中に子機などの受話器などをあげた場合、電話回線が切断される恐れがあります。
- (c) 電話回線はアナログ2線式を使用してください。
デジタル回線を使用する場合、ターミナルアダプタを使用してください。
また、電話回線が4線式の場合、モジュラジャックの配線タイプにより回線接続できないことがあります。
4線式の場合は、事前に接続テストを行い接続可否を確認してください。
- (d) 通信プロトコルがNTT相当の電話回線を使用してください。
- (3) 携帯電話、PHS使用時の注意事項
- (a) 携帯電話を使用して無線通信を行う場合のモデムについて
各メーカーによりモデムの名称が異なりますが、本マニュアルでは携帯電話用通信ユニットと総称します。
使用する携帯電話に合わせて携帯電話用通信ユニットの機種を選択してください。
詳細はご使用の携帯電話会社へお問い合わせください。
- (b) PHSを使用して無線通信を行う場合のモデムについて
アナログ携帯電話接続アダプタを使用してください。
詳細はご使用のPHS電話会社へお問い合わせください。
- (c) 自動着信機能の無い携帯電話について
自動着信機能の無い携帯電話は、ANS/ORG/TEL切換えスイッチがある携帯電話用通信ユニットを使用してください。
ANS/ORG/TEL切換えスイッチの無い携帯電話用通信ユニットを使用した場合、回線接続することができません。
携帯電話会社および携帯電話の機種により回線接続の手順が異なります。
詳細はご使用のメーカーにお問い合わせください。

プログラミング時の注意事項

- (1) サンプルプログラム, テストプログラム, サンプルシーケンスプログラムについて
 - (a) サンプルプログラム, テストプログラム
サンプルプログラムはユーザプログラムを作成する際に, 参考にしていただくために添付しています。
また, テストプログラムは通信テストを行うために添付しています。
これらのご使用に関しては, お客様の責任においてご使用ください。
 - (b) サンプルシーケンスプログラム
MX Componentに付属しているサンプルシーケンスプログラムは, システム構成, パラメータの設定によって内容の変更が必要になります。
システムに最適な内容に修正してください。
また, サンプルシーケンスプログラムをご使用の際は, お客様の責任においてご使用ください。
- (2) 通信中のプロセスの強制終了について
複数のプロセスで同種のコントロールをオープンして通信を行っている場合, タスクマネージャなどによりプロセスを強制終了すると, 他プロセスが通信関数実行部分で停止することがあります。
- (3) 通信開始時のエラーについて
通信診断ボタンの押下時, モニタ開始時, 各関数実行時などの通信開始時に, 設定されたタイムアウト値以内に通信エラーが発生する場合があります。
これらは, タイムアウトエラー以前にエラーが検出された場合です。
(例: 通信ケーブルが接続されていない, シーケンサ電源OFF時など)
- (4) CheckDeviceString
各ACTコントロールにはCheckDeviceStringメソッドがありますが使用しないでください。
- (5) ActUmsgコントロール, ActUWzdコントロール
MX Componentをインストールすると, ActUmsgコントロールおよびActUWzdコントロールが登録されますが, 使用しないでください。
- (6) Act(ML)QJ71E71TCP, Act(ML)AJ71QE71TCPおよびAct(ML)AJ71E71TCPコントロール使用時の注意事項
 - (a) Openメソッド実行後, Closeメソッドを実行するまでに, Ethernetユニット装着局のシーケンススキャンタイム以上の間隔を置いてください。
 - (b) Closeメソッド実行後, 再度Openメソッドを実行するまでに最低500ms以上間隔を置いてください。
- (7) Disconnect実行時の注意事項
なんらかの原因によりDisconnectを実行しても電話回線が切断できない場合, 電話をかけたモデムの電源を切り, 強制的に電話回線を切断するようにしてください。

- (1) Windows® Me上でのExcelファイル複数起動の注意事項

コントロールオブジェクトが多数使用されている、Excelファイルを複数実行した場合に、Windows® Meが停止してしまう現象が確認されていますので、ご注意ください。

* 本現象は、本製品に起因するものではありません。

 - (a) 本現象が確認されている条件

グラフィックドライバ : Matrox社製 MGA Mystiqueディスプレイドライバ
OS : Windows® Me(日本語版)
Excelファイルに貼り付けるコントロール数 : BOOK全体で合計150個以上使用
<その他弊社で確認した機材(参考)>
コンピュータスペック
CPU : Pentium® 166MHz
メモリ : 64MB
ハードディスク : 8GB(空き容量6GB)
 - (b) 原因

Matrox社製MGA Mystiqueグラフィックカード用ディスプレイドライバを利用した際に発生していることが確認されています。
MGA Mystiqueグラフィックカード用ディスプレイドライバのVersion 4.12では、Windows® Meには対応していないためです。
 - (c) 同様の現象かどうかの判別方法

使用しているグラフィックドライバを標準VGAドライバに変更後、テンポラリフォルダに残されたテンポラリデータ(*.emf)を削除してください。
その後、複数のExcelファイル起動を試してください。
標準VGAドライバに変更することにより本現象が発生しない場合は、同様の現象であると思われます。
 - (d) 対処方法

本現象が発生すると、システムのテンポラリフォルダにテンポラリデータ(*.emf)が残ってしまいます。
残ったテンポラリデータ(*.emf)を手動で削除する必要があります。
システムのテンポラリフォルダは通常、C:\Tempにあります。
その後、下記のいずれかの対処を行ってください。
Windows® Meに対応したグラフィックカードおよびディスプレイドライバを使用する。
Excelファイルに貼り付けるコントロールオブジェクト数を減らす。
- (2) EXCEL VBA使用時の注意事項

EXCEL VBAを使用したアプリケーションに、改ページプレビュー機能を設定しないでください。
メモリリークの発生、OS基本操作(ファイル操作、印刷など)の異常といった現象が発生する恐れがあります。
- (3) Microsoft® Excel使用時の注意事項
 - (a) Excelにコントロールの貼り付けを行っても、貼り付かない場合があります。
この現象はExcelのキャッシュファイル(一時ファイル)が残っている場合に発生します。
この場合は、下記の手順にて操作してください。
Excelを終了する。
tempフォルダ^{*1}のExcel8.0フォルダにある*.exdを削除する。^{*2}
Excelを再度、起動する。

*1: tempフォルダは、OSによって場所が異なります。
*2: 該当フォルダ、ファイルが表示されていない場合はフォルダオプションの設定で、すべてのファイルとフォルダを表示するように設定してください。

- (b) ExcelではACTコントロールのサイズ変更ができますが、MX Componentの動作には影響ありません。
サイズを元に戻す場合は、ACTコントロールのHeightプロパティとWidthプロパティを“24”に設定し直してください。

Microsoft® Access使用時の注意事項

(1) Microsoft® Access使用時の注意事項

- (a) ACTコントロールをAccessフォームに貼り付けて、ACTコントロールのダブルクリックまたはプロパティ中のカスタムコントロールを選択すると、下図のエラーメッセージが表示されますが、ACTコントロールの動作には影響はありません。
(他のエラーメッセージが表示される場合もあります。)



- (b) ACTコントロールを貼り付け、プロパティの表示を行った場合に、プロパティ名が途切れて表示される場合があります。
この現象は、プロパティの表示だけの問題のため、プロパティの機能については問題ありません。
- (c) AccessではACTコントロールのサイズ変更ができますが、MX Componentの動作には影響ありません。
サイズを元に戻す場合は、ACTコントロールのHeightプロパティとWidthプロパティを“24”に設定し直してください。

VBScript、ASP機能使用時の注意事項

- (1) VBScript使用時のインターネット/イントラネットのセキュリティ
MX Componentにはインターネット/イントラネットのセキュリティ機能はありません。
セキュリティ機能が必要な場合は、ユーザにて設定を行ってください。
- (2) Windows® 2000 Professional使用時にASPページとアプリケーション*1で、CPU COM通信、計算機リンク通信、CC-Link G4通信およびEthernet(TCP/IP)通信を行う場合の注意事項
アプリケーションより先にASPページが、CPU COM通信、計算機リンク通信、CC-Link G4通信およびEthernet(TCP/IP)通信のオープンを実行すると、ASPページのクローズをするまで、アプリケーションでは、同一経路による通信ができなくなりますので、次の点に注意してください。
- (a) CPU COM通信、計算機リンク通信、CC-Link G4通信およびEthernet(TCP/IP)通信のオープンは、アプリケーションを先に実行するようにしてください。
アプリケーションにてオープン後は、クローズが実行されるまでは、アプリケーション、ASPページ共に通信が可能です。
- (b) ASPページでCPU COM通信、計算機リンク通信、CC-Link G4通信およびEthernet(TCP/IP)通信のオープンを実行した場合は、必ずクローズを実行するようにしてください。
- *1：アプリケーションとは、MXシリーズを利用して作成されたユーザアプリケーション、MELSOFT製品を示します。

は じ め に

このたびは、三菱統合ソフトウェアMELSOFTシリーズをお買い上げいただきまことにありがとうございます。
た。

ご使用前に本書をよくお読みいただき、MELSOFTシリーズの機能・性能を十分ご理解のうえ、正しくご使用
くださるようお願い致します。

目 次

安全上のご注意	A- 1
改定履歴	A- 2
ご使用上の注意事項	A- 3
はじめに	A-14
目 次	A-14
マニュアルについて	A-18
マニュアルの見方	A-19
総称・略称について	A-20

1 概 要	1- 1~1- 4
-------	-----------

1.1 ACTコントロールの概要	1- 1
1.2 ACTコントロールおよび関数一覧	1- 2
1.2.1 ACTコントロール一覧	1- 2
1.2.2 関数一覧	1- 3

2 ACTコントロールについて	2- 1~2-22
-----------------	-----------

2.1 ACTコントロールを使用するための設定	2- 1
2.1.1 Visual Basic® 6.0を使用する場合	2- 1
2.1.2 Visual C++® 6.0を使用する場合	2- 3
2.1.3 VBAを使用する場合	2- 7
2.1.4 VBScriptを使用する場合	2- 9
2.1.5 Visual Studio® .NETを使用する場合	2-10
2.2 プログラミング手順	2-16
2.2.1 Visual Basic® 6.0/Visual Basic® .NETを使用する場合	2-16
2.2.2 Visual C++® 6.0/Visual C++® .NETを使用する場合	2-17
2.2.3 VBAを使用する場合	2-18
2.2.4 VBScriptを使用する場合	2-19
2.3 デバイスタイプ	2-20
2.4 アクセス可能デバイス・範囲	2-22

3 ACTコントロールの詳細	3- 1~3-74
----------------	-----------

3.1 ACTコントロールの詳細	3- 1
3.2 プロパティの詳細	3- 2
3.3 各ACTコントロールが保有するプロパティ一覧	3- 9
3.3.1 ActEasyIF, ActMLEasyIFコントロール	3-10
3.3.2 ActQJ71E71TCP, ActMLQJ71E71TCPコントロール	3-11
3.3.3 ActQJ71E71UDP, ActMLQJ71E71UDPコントロール	3-13
3.3.4 ActAJ71QE71TCP, ActMLAJ71QE71TCPコントロール	3-15

3.3.5	ActAJ71QE71UDP, ActMLAJ71QE71UDPコントロール	3-16
3.3.6	ActAJ71E71TCP, ActMLAJ71E71TCPコントロール	3-17
3.3.7	ActAJ71E71UDP, ActMLAJ71E71UDPコントロール	3-18
3.3.8	ActQCPUQ, ActMLQCPUQコントロール	3-19
3.3.9	ActQCPUA, ActMLQCPUAコントロール	3-21
3.3.10	ActQnACPU, ActMLQnACPUコントロール	3-22
3.3.11	ActACPU, ActMLACPUコントロール	3-23
3.3.12	ActFXCPU, ActMLFXCPUコントロール	3-24
3.3.13	ActQJ71C24, ActMLQJ71C24コントロール	3-25
3.3.14	ActAJ71QC24, ActMLAJ71QC24コントロール	3-29
3.3.15	ActAJ71UC24, ActMLAJ71UC24コントロール	3-31
3.3.16	ActAJ71C24, ActMLAJ71C24コントロール	3-33
3.3.17	ActFX485BD, ActMLFX485BDコントロール	3-35
3.3.18	ActQCPUQUSB, ActMLQCPUQUSBコントロール	3-36
3.3.19	ActCCG4Q, ActMLCCG4Qコントロール	3-38
3.3.20	ActCCG4QnA, ActMLCCG4QnAコントロール	3-39
3.3.21	ActCCG4A, ActMLCCG4Aコントロール	3-40
3.3.22	ActMnet2BD, ActMLMnet2BDコントロール	3-41
3.3.23	ActMnet10BD, ActMLMnet10BDコントロール	3-42
3.3.24	ActMnetHBD, ActMLMnetHBDコントロール	3-46
3.3.25	ActCCBD, ActMLCCBDコントロール	3-53
3.3.26	ActAnUBD, ActMLAnUBDコントロール	3-57
3.3.27	ActAF, ActMLAFコントロール	3-58
3.3.28	ActLLT, ActMLLLTコントロール	3-60
3.3.29	ActQCPUQBus, ActMLQCPUQBusコントロール	3-61
3.3.30	ActA6TELコントロール	3-62
3.3.31	ActQ6TELコントロール	3-63
3.3.32	ActFXCPU TELコントロール	3-65
3.3.33	ActQJ71C24TELコントロール	3-66
3.3.34	ActAJ71QC24TELコントロール	3-70
3.3.35	ActGOT, ActMLGOTコントロール	3-73

4 関 数

4- 1 ~ 4-76

4.1	プログラミング時の注意事項	4- 1
4.2	関数の詳細 (ディスパッチI/F)	4- 5
4.2.1	Open (通信回線のオープン)	4- 5
4.2.2	Close (通信回線のクローズ)	4- 6
4.2.3	ReadDeviceBlock (デバイスの一括読出し)	4- 7
4.2.4	WriteDeviceBlock (デバイスの一括書込み)	4-10
4.2.5	ReadDeviceRandom (デバイスのランダム読出し)	4-13
4.2.6	WriteDeviceRandom (デバイスのランダム書込み)	4-16
4.2.7	SetDevice (デバイスデータの設定)	4-19
4.2.8	GetDevice (デバイスデータの取得)	4-21
4.2.9	ReadBuffer (バッファメモリ読出し)	4-23
4.2.10	WriteBuffer (バッファメモリ書込み)	4-26
4.2.11	GetClockData (時計データ読出し)	4-29
4.2.12	SetClockData (時計データ書込み)	4-32
4.2.13	GetCpuType (シーケンサCPU形名読出し)	4-35

4.2.14	SetCpuStatus (リモートコントロール)	4-39
4.2.15	EntryDeviceStatus (デバイスの状態監視登録)	4-41
4.2.16	FreeDeviceStatus (デバイスの状態監視登録解除)	4-46
4.2.17	OnDeviceStatus (イベント告知)	4-47
4.2.18	ReadDeviceBlock2 (デバイスの一括読出し)	4-49
4.2.19	WriteDeviceBlock2 (デバイスの一括書込み)	4-52
4.2.20	ReadDeviceRandom2 (デバイスのランダム読出し)	4-54
4.2.21	WriteDeviceRandom2 (デバイスのランダム書込み)	4-57
4.2.22	SetDevice2 (デバイスデータの設定)	4-60
4.2.23	GetDevice2 (デバイスデータの取得)	4-62
4.2.24	Connect (電話回線の接続)	4-64
4.2.25	Disconnect (電話回線の切断)	4-66
4.2.26	GetErrorMessage (エラーメッセージの取得)	4-68
4.3	関数の詳細 (カスタム I/F)	4-69
4.3.1	Open (通信回線のオープン)	4-69
4.3.2	Close (通信回線のクローズ)	4-69
4.3.3	ReadDeviceBlock (デバイスの一括読出し)	4-69
4.3.4	WriteDeviceBlock (デバイスの一括書込み)	4-69
4.3.5	ReadDeviceRandom (デバイスのランダム読出し)	4-70
4.3.6	WriteDeviceRandom (デバイスのランダム書込み)	4-70
4.3.7	SetDevice (デバイスデータの設定)	4-70
4.3.8	GetDevice (デバイスデータの取得)	4-70
4.3.9	ReadBuffer (バッファメモリ読出し)	4-71
4.3.10	WriteBuffer (バッファメモリ書込み)	4-71
4.3.11	GetClockData (時計データ読出し)	4-71
4.3.12	SetClockData (時計データ書込み)	4-72
4.3.13	GetCpuType (シーケンサCPU形名読出し)	4-72
4.3.14	SetCpuStatus (リモートコントロール)	4-72
4.3.15	EntryDeviceStatus (デバイスの状態監視登録)	4-73
4.3.16	FreeDeviceStatus (デバイスの状態監視登録解除)	4-73
4.3.17	OnDeviceStatus (イベント告知)	4-73
4.3.18	ReadDeviceBlock2 (デバイスの一括読出し)	4-73
4.3.19	WriteDeviceBlock2 (デバイスの一括書込み)	4-73
4.3.20	ReadDeviceRandom2 (デバイスのランダム読出し)	4-74
4.3.21	WriteDeviceRandom2 (デバイスのランダム書込み)	4-74
4.3.22	SetDevice2 (デバイスデータの設定)	4-74
4.3.23	GetDevice2 (デバイスデータの取得)	4-74
4.3.24	Connect (電話回線の接続)	4-75
4.3.25	Disconnect (電話回線の切断)	4-75
4.3.26	GetErrorMessage (エラーメッセージの取得)	4-75

5 サンプルプログラム

5- 1 ~ 5-31

5.1	Visual Basic® 6.0 サンプルプログラム	5- 3
5.1.1	ActEasyIF コントロール, ActACPU コントロール用サンプルプログラム	5- 3
5.1.2	モデム通信用サンプルプログラム	5- 5
5.1.3	型変換サンプルプログラム	5- 7
5.2	Visual C++® 6.0 サンプルプログラム	5- 9
5.2.1	ディスパッチ I/F	5- 9

5.2.2	カスタムI/F	5-11
5.2.3	トラブルシュート機能サンプルプログラム	5-12
5.3	VBAサンプルプログラム	5-14
5.3.1	Excelサンプルプログラム	5-14
5.3.2	Excelサンプルプログラム（デバイス読出し／書込み）	5-16
5.3.3	Accessサンプルプログラム	5-18
5.4	VBScriptサンプルプログラム	5-20
5.5	ASPサンプルプログラム	5-22
5.6	Visual Basic® .NETサンプルプログラム	5-25
5.6.1	型変換サンプルプログラム	5-25
5.6.2	Read/Writeサンプルプログラム	5-27
5.7	Visual C++® .NETサンプルプログラム	5-31
5.7.1	Read/Writeサンプルプログラム	5-31

6 エラーコード

6- 1 ~ 6-46

6.1	ACTコントロールが返すエラーコード	6- 1
6.2	CPU，ユニット，ネットワークボードが返すエラーコード	6-45
6.3	HRESULT型のエラーコード	6-46

付 録

付- 1 ~ 付-17

付1	コールバック機能の接続方式について	付- 1
付2	ワードデバイスを状態監視する場合のプログラミング例	付- 2
付3	タイムアウト時間について	付- 6
付3.1	タイムアウトエラーでリトライする場合	付- 6
付3.2	受信データエラーでリトライする場合	付-14
付3.3	ACTコントロール内部の固定時間でタイムアウトが発生する場合	付-15

マニュアルについて

本製品に関連するマニュアルには、下記のものがあります。
必要に応じて本表を参考にしてください。

関連マニュアル

マニュアル名称	マニュアル番号 (形名コード)	標準価格
MX Component Version 3オペレーティングマニュアル(スタートアップ編) MX Componentでのインストール、アンインストールおよびPDFマニュアル閲覧までの手順を説明 しています。 (別売)	SH-080273 (13JV59)	¥1000
MX Component Version 3オペレーティングマニュアル MX Componentでの各ユーティリティの設定、操作方法を説明しています。 (別売)	SH-080274 (13JV60)	¥3000
MELSECNET/10インタフェースボードユーザーズマニュアル (SW3DNF-MNET10, SW3NNF-MNET10対応) MELSECNET/10ボードの特長、仕様、各部の名称と設定およびドライバのインストール、アン インストールなどについて説明しています。 (別売)	IB-0800037 (13JQ63)	¥3000
A70BD-J71AP23形MELSECNET()インタフェースボードユーザーズマニュアル (SW2DNF-MNET対応) MELSECNET()ボードの特長、仕様、各部の名称と設定およびドライバのインストール、アン インストールなどについて説明しています。 (別売)	IB-80020 (13JQ16)	¥1000
A80BD-J61BT11形CC-Linkシステムマスタ・ローカルインタフェースボードユーザーズ マニュアル(SW4DNF-CCLINK-B対応) CC-Linkマスタボードの特長、仕様、各部の名称と設定およびドライバのインストール、アン インストールなどについて説明しています。 (別売)	IB-0800172 (13JT46)	¥3000
A80BD-J61BT13形CC-Linkシステムローカルインタフェースボードユーザーズ マニュアル(SW4DNF-CCLINK-B対応) CC-Linkローカルボードの特長、仕様、各部の名称と設定およびドライバのインストール、アン インストールなどについて説明しています。 (別売)	IB-0800173 (13JT47)	¥3000
A80BD-A2USH-S1形シーケンサCPUボードユーザーズマニュアル(SW1DNF-AUN-B対応) CPUボードの特長、仕様、各部の名称と設定およびドライバのインストール、アンインストール などについて説明しています。 (別売)	IB-0800171 (13JT45)	¥3000
A70BD-AF形Aバスインタフェースボードユーザーズマニュアル(SW0DNF-AF対応) AFボードの特長、仕様、各部の名称と設定およびドライバのインストール、アンインストール などについて説明しています。 (別売)	IB-80011 (13JQ10)	¥1000
MELSECNET/Hインタフェースボードユーザーズマニュアル(SW0DNC-MNETH-B対応) MELSECNET/Hボードの特長、仕様、各部の名称と設定およびドライバのインストール、アン インストールなどについて説明しています。 (別売)	SH-080129 (13JT26)	¥3000

備考：MX Component Version 3オペレーティングマニュアル(スタートアップ編)およびMX Component Version 3オペ
レーティングマニュアルはソフトウェアパッケージとセットでCD-ROMに入っています。

単品でマニュアルを希望する場合は、印刷物を別売で用意していますので上記表のマニュアル番号(形名コード)
にてご用命願います。

マニュアルの見方

「マニュアルの見方」はMX Componentを使用する際の目的別に記載しています。
以下の内容を参考に本マニュアルをご使用ください。

- (1) 機能・ACTコントローラー一覧を知りたいとき（第1章）
第1章にACTコントロールの概要，ACTコントローラー一覧を記載しています。
- (2) Visual Basic[®] 6.0，Visual C++[®] 6.0でACTコントロールを使用するとき（2.1節）
2.1節にACTコントロールを利用するためのVisual Basic[®] 6.0，Visual C++[®] 6.0
における設定方法を記載しています。
- (3) プログラミング手順を知りたいとき（2.2節）
2.2節にプログラミング手順を記載しています。
- (4) 関数で指定するデバイスタイプを知りたいとき（2.3節）
2.3節にデバイスタイプについて記載しています。
- (5) ACTコントロールの詳細内容を知りたいとき（第3章）
第3章にACTコントロールの詳細について記載しています。
プログラムを作成する場合には，本章をお読みください。
- (6) 各関数の詳細内容を知りたいとき（第4章）
第4章に関数の詳細について記載しています。
プログラムを作成する場合には，本章をお読みください。
- (7) サンプルプログラムの使い方を知りたいとき（第5章）
第5章にサンプルプログラムおよび使い方を記載しています。
プログラムを作成する際の参考にしてください。
- (8) エラーコードの内容を知りたいとき（第6章）
第6章にACTコントロールが返すエラーコード，CPU，ユニット，ネットワークボード
が返すエラーコードを記載しています。
- (9) アクセス可能デバイス・範囲を知りたいとき
MX Componentオペレーティングマニュアルにアクセス可能デバイス・範囲を記載
しています。
MX Componentオペレーティングマニュアルを参照してください。

総称・略称について

本マニュアルでは、特に明記する場合を除き、下記に示す総称・略称を使って説明しています。

総称 / 略称	総称・略称の内容
MX Component	製品形名SWnD5C-ACT(-J), SWnD5C-ACT-A(-JA)の総称製品名。 (n = バージョン0, 2, 3を意味する。) -Aおよび-JAは複数ライセンス品を意味する。
DOS/V/パソコン	IBM PC/ATおよび互換機のDOS/V対応のパソコンの略称。(PC98-NXを含む。)
パソコンCPUユニット	株式会社コンテック製MELSEC-Qシリーズ対応パソコンCPUユニットの略称。
GX Developer	製品形名SWnD5C-GPPW, SWnD5C-GPPW-A, SWnD5C-GPPW-V, SWnD5C-GPPW-VAの総称製品名。 (n = バージョン0以降を意味する。) -Aは複数ライセンス品, -Vはバージョンアップ品を意味する。
GX Simulator	製品形名 SWnD5C-LLT, SWnD5C-LLT-A, SWnD5C-LLT-V, SWnD5C-LLT-VAの総称製品名。 (n = バージョン0以降を意味する。) -Aは複数ライセンス品, -Vはバージョンアップ品を意味する。
MELSECNET()ボード	A70BD-J71AP23形MELSECNET()インタフェースボードの略称。
MELSECNET/10ボード	A70BD-J71QLP23/A70BD-J71QLP23G/A70BD-J71QBR13/A70BD-J71QLR23形MELSECNET/10インタフェースボードの略称。
MELSECNET/Hボード	Q80BD-J71LP21-25/Q80BD-J71LP21G/Q80BD-J71BR11形MELSECNET/Hインタフェースボードの略称。
CC-Linkボード	A80BD-J61BT11形CC-Linkシステムマスタ・ローカルインタフェースボード, A80BD-J61BT13形CC-Linkインタフェースボードの略称。
CPUボード	A80BD-A2USH-S1形シーケンサCPUボードの略称。
AFボード	A70BD-AF形バスインタフェースボードの略称。
AnNCPU	A0J2HCPU, A1SCPU, A1SCPUC24-R2, A1SHCPU, A1SJCPU, A1SJHCPU, A1NCP, A2CCPU, A2CCPUC24, A2CCPUC24-PRF, A2CJCPU, A2NCP, A2NCP-S1, A2SCPU, A2SHCPU, A3NCP, A1FXCPUの総称。
AnACPU	A2ACPU, A2ACPU-S1, A2ACPUP21/R21, A2ACPUP21/R21-S1, A3ACPU, A3ACPUP21/R21の総称。
AnUCPU	A2UCPU, A2UCPU-S1, A2USCPU, A2USCPU-S1, A2USHCPU-S1, A3UCPU, A4UCPUの総称。
QnACPU	Q2ACPU, Q2ACPU-S1, Q2ASCPU, Q2ASCPU-S1, Q2ASHCPU, Q2ASHCPU-S1, Q3ACPU, Q4ACPU, Q4ARCPUの総称。
ACPU	AnNCPU, AnACPU, AnUCPUの総称。
QCPU (Aモード)	Q02CPU-A, Q02HCPU-A, Q06HCPU-Aの総称。
QCPU (Qモード)	Q00JCPU, Q00CPU, Q01CPU, Q02CPU, Q02HCPU, Q06HCPU, Q12HCPU, Q25HCPU, Q12PHCPU, Q25PHCPU, Q12PRHCPU, Q25PRHCPUの総称。 ただし、特に別機種として示す場合はQ00JCPU, Q00CPUおよびQ01CPUをQ00J/Q00/Q01CPUと記載し、Q02CPU, Q02HCPU, Q06HCPU, Q12HCPUおよびQ25HCPUをQ02/Q02H/Q06H/Q12H/Q25HCPUと記載する。
FXCPU	FX0CPU, FX0sCPU, FX0nCPU, FX1CPU, FX1nCPU, FX1ncCPU, FX1sCPU, FX2CPU, FX2cCPU, FX2nCPU, FX2ncCPU, FX3uCPU, FX3ucCPUの総称。
モーションコントローラCPU	A171SHCPU, A172SHCPU, A173UHCPU, A173UHCPU-S1, A273UHCPU, A273UHCPU-S3の総称。
シーケンサCPU	QCPU(Qモード), QCPU(Aモード), QnACPU, ACP, FXCPUおよびモーションコントローラCPUの総称。
C24	A1SCPUC24-R2, A1SJ71C24-PRF, A1SJ71C24-R2, A1SJ71C24-R4, A2CCPUC24, A2CCPUC24-PRF, AJ71C24-S6, AJ71C24-S8の総称。
UC24	AJ71UC24, A1SJ71UC24-R2, A1SJ71UC24-R4, A1SJ71UC24-PRFの総称。
QC24	AJ71QC24, AJ71QC24-R2, AJ71QC24-R4, A1SJ71QC24, A1SJ71QC24-R2の総称。

総称 / 略称	総称・略称の内容
QC24N	AJ71QC24N, AJ71QC24N-R2, AJ71QC24N-R4, A1SJ71QC24N, A1SJ71QC24N-R2の総称。
QC24(N)	QC24, QC24Nの総称。
Qシリーズ対応C24	QJ71C24, QJ71C24-R2の総称。
FX拡張ポート	FX0N-485ADP, FX2NC-485ADP, FX1N-485-BD, FX2N-485-BD, FX3U-485-BD, FX3U-485ADPの総称。
計算機リンクユニット (シリアルコミュニケーションユニット)	C24, UC24, QC24(N), Qシリーズ対応C24, FX拡張ポートの総称。 特にQC24(N), Qシリーズ対応C24を示す場合, シリアルコミュニケーションユニットと記載する。
E71	AJ71E71, AJ71E71-S3, A1SJ71E71-B2, A1SJ71E71-B5, A1SJ71E71-B2-S3, A1SJ71E71-B5-S3, AJ71E71N-B2, AJ71E71N-B5T, A1SJ71E71N-B2, A1SJ71E71N-B5Tの総称。
QE71	AJ71QE71, AJ71QE71-B5, A1SJ71QE71-B2, A1SJ71QE71-B5, AJ71QE71N-B2, AJ71QE71N-B5T, A1SJ71QE71N-B2, A1SJ71QE71N-B5Tの総称。
Qシリーズ対応E71	QJ71E71, QJ71E71-B2, QJ71E71-100の総称。
Ethernetユニット	E71, QE71, Qシリーズ対応E71の総称。
CC-Link G4ユニット	AJ65BT-G4形GPP機能用周辺機器接続ユニットおよびAJ65BT-G4-S3形GPP機能用周辺機器接続ユニットの総称。
A6TEL	A6TEL形モデムインタフェースユニットの略称。
Q6TEL	Q6TEL形モデムインタフェースユニットの略称。
Qシリーズ対応CMO	QJ71CMO形モデムインタフェースユニットの略称。
GOT	グラフィックオペレーションターミナルの略称。
計算機リンク通信 (シリアルコミュニケーション通信)	計算機リンクユニットを使用して, シーケンサCPUと通信を行う場合の略称。 特にQC24(N), Qシリーズ対応C24を使用した通信では, シリアルコミュニケーション通信と記載する。
Ethernet通信	Ethernetユニットを使用して, シーケンサCPUと通信を行う場合の略称。
CPU COM通信	DOS/VパソコンをシーケンサCPUのRS-232コネクタまたはRS-422コネクタに接続して通信を行う場合の略称。
CPU USB通信	DOS/VパソコンをQCPU (Qモード) のUSBコネクタに接続して通信を行う場合の略称。
MELSECNET()通信	MELSECNET()ボードを使用して, シーケンサCPUと通信を行う場合の略称。
MELSECNET/10通信	MELSECNET/10ボードを使用して, シーケンサCPUと通信を行う場合の略称。
MELSECNET/H通信	MELSECNET/Hボードを使用して, シーケンサCPUと通信を行う場合の略称。
CC-Link通信	CC-Linkボードを使用して, シーケンサCPUと通信を行う場合の略称。
CC-Link G4通信	CC-Link G4ユニットを使用して, シーケンサCPUと通信を行う場合の略称。
CPUボード通信	CPUボードを使用して, シーケンサCPUと通信を行う場合の略称。
AF通信	AFボードを使用して, シーケンサCPUと通信を行う場合の略称。
Qシリーズバス通信	パソコンCPUユニットを使用して, 同一ベース上のシーケンサCPUと通信を行う場合の略称。
GX Simulator通信	GX Simulatorと通信を行う場合の略称。
モデム通信	QC24N (AJ71QC24N-R4は除く), Qシリーズ対応C24, A6TEL, Q6TEL, Qシリーズ対応CMO, FXCPUを使用して, モデム経由でシーケンサCPUと通信を行う場合の略称。
ゲートウェイ機能通信	GOTのゲートウェイ機能を使用して, シーケンサCPUおよび各社シーケンサと通信を行う場合の略称。
ユーティリティ 設定タイプ	通信設定ユーティリティを使用して, ユーザプログラムを作成する場合の略称。
プログラム設定タイプ	通信設定ユーティリティを使用しないで, ユーザプログラムを作成する場合の略称。
ACTコントロール	MX Componentが提供するActiveXコントロールの総称。
二重化CPU	Q12PRHCPU, Q25PRHCPUの総称。
Visual C++ [®] .NET(MFC)	MFC/ATL/Win32を使用してアンマネージコードでアプリケーションを作成する場合の略称。
Visual C++ [®] .NET	.net Frameworkを使用してマネージコードでアプリケーションを作成する場合の略称。

メ 毛

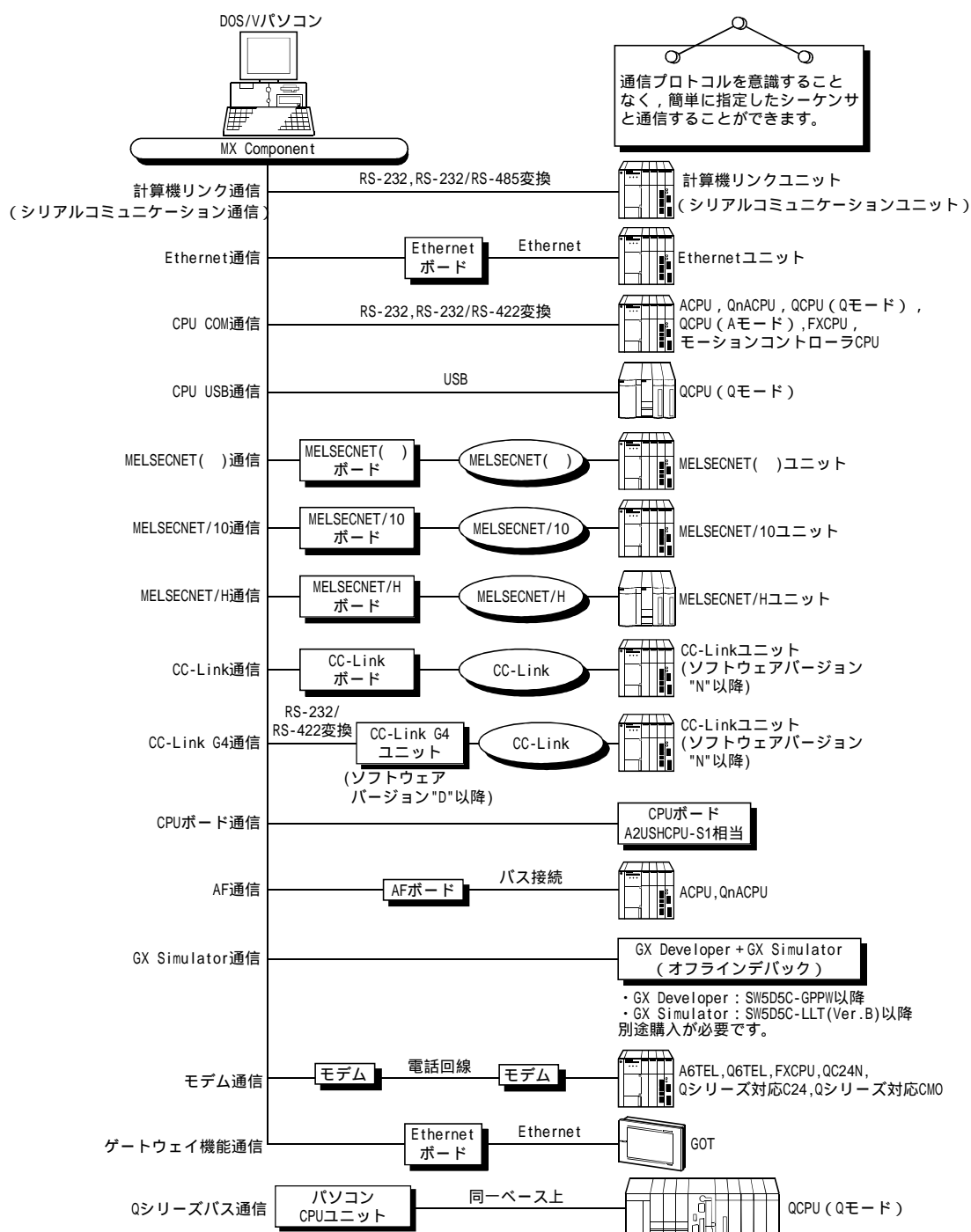
[illegible]

1 概 要

MX Componentが提供するACTコントロールの機能概要について説明します。

1.1 ACTコントロールの概要

本コントロールはシーケンサCPUに対して通信を行うユーザープログラムを作成する際に使用します。これにより、ユーザは相手先のハードウェア、通信プロトコルを意識することなく通信が可能です。



1.2 ACTコントロールおよび関数一覧

1

ACTコントロールおよび関数の一覧を次に示します。

1.2.1 ACTコントロール一覧

MX Componentが提供する各DLLに含まれるACTコントロールの一覧を次に示します。

DLL名	含まれるコントロール名		使用用途
	VB, VC++, VBA用	VBScript用	
ActMulti.DLL	ActEasyIF	ActMLEasyIF	通信設定ユーティリティで通信設定を簡単に設定して、通信を行う場合に使用する。
ActPcCom.DLL	ActQCPUQ	ActMLQCPUQ	各シーケンサCPUのシリアルポート経由で通信を行う場合に使用する。
	ActQCPUA	ActMLQCPUA	
	ActQnACPU	ActMLQnACPU	
	ActACPU	ActMLACPU	
	ActFXCPU	ActMLFXCPU	
ActComLk.DLL	ActQJ71C24	ActMLQJ71C24	計算機リンクユニット（シリアルコミュニケーションユニット）経由で通信を行う場合に使用する。
	ActAJ71QC24	ActMLAJ71QC24	
	ActAJ71UC24	ActMLAJ71UC24	
	ActAJ71C24	ActMLAJ71C24	
	ActFX485BD	ActMLFX485BD	
ActEther.DLL	ActQJ71E71TCP	ActMLQJ71E71TCP	Ethernetユニット経由で通信を行う場合に使用する。
	ActQJ71E71UDP	ActMLQJ71E71UDP	
	ActAJ71QE71TCP	ActMLAJ71QE71TCP	
	ActAJ71QE71UDP	ActMLAJ71QE71UDP	
	ActAJ71E71TCP	ActMLAJ71E71TCP	
	ActAJ71E71UDP	ActMLAJ71E71UDP	
ActPcUsb.DLL	ActQCPUQUSB	ActMLQCPUQUSB	シーケンサCPUのUSBポート経由で通信を行う場合に使用する。
ActModem.DLL	ActA6TEL	-	加入者電話または構内電話経由で通信を行う場合に使用する。
	ActQ6TEL		
	ActFXCPUTEL		
	ActAJ71QC24TEL		
	ActQJ71C24TEL		
ActCcG4.DLL	ActCCG4QnA	ActMLCCG4QnA	CC-Link G4ユニット経由で通信を行う場合に使用する。
	ActCCG4A	ActMLCCG4A	
	ActCCG4Q	ActMLCCG4Q	
ActBoard.DLL	ActMnet2BD	ActMLMnet2BD	ネットワークボードおよびネットワークボード経由で通信を行う場合に使用する。
	ActMnet10BD	ActMLMnet10BD	
	ActMnetHBD	ActMLMnetHBD	
	ActCCBD	ActMLCCBD	
	ActAnUBD	ActMLAnUBD	
	ActAFBD	ActMLAFBD	
ActLlt.DLL	ActLLT	ActMLLLT	GX Simulatorと通信を行う場合に使用する。
ActPcModule.DLL	ActQCPUQBus	ActMLQCPUQBus	パソコンCPUユニットにてQシリーズバス通信を行う場合に使用する。
ActGOT.dll	ActGOT	ActMLGOT	GOTへの通信や、GOT内部デバイスの読出し / 書き込みを行う場合に使用する。
ActSupport.dll	ActSupport	ActMLSupport	トラブルシュート機能に使用する。

1.2.2 関数一覧

各関数の機能と各ACTコントロールで使用可能な関数の一覧を次に示します。

(1) 関数一覧

各関数の詳細については，“4章 関数”を参照してください。

関数名	機 能
Connect	電話回線への接続。
Open	通信回線，電話回線のオープン。
Close	通信回線のクローズ。
Disconnect	電話回線の切断。
GetErrorMessage	エラー内容と処置方法の表示。
ReadDeviceBlock	デバイスの一括読出し。（LONG型）
WriteDeviceBlock	デバイスの一括書込み。（LONG型）
ReadDeviceBlock2	デバイスの一括読出し。（SHORT型 / INT型）
WriteDeviceBlock2	デバイスの一括書込み。（SHORT型 / INT型）
ReadDeviceRandom	デバイスのランダム読出し。（LONG型）
WriteDeviceRandom	デバイスのランダム書込み。（LONG型）
ReadDeviceRandom2	デバイスのランダム読出し。（SHORT型 / INT型）
WriteDeviceRandom2	デバイスのランダム書込み。（SHORT型 / INT型）
SetDevice	デバイス1点の設定を行う。（LONG型）
GetDevice	デバイス1点のデータ取得。（LONG型）
SetDevice2	デバイス1点の設定を行う。（SHORT型 / INT型）
GetDevice2	デバイス1点のデータ取得。（SHORT型 / INT型）
ReadBuffer	バッファメモリの読出し。
WriteBuffer	バッファメモリの書込み。
GetClockData	シーケンサCPUの時計データ読出し。
SetClockData	シーケンサCPUの時計データ書込み。
GetCpuType	シーケンサCPU形名読出し。
SetCpuStatus	シーケンサCPUのリモートRUN/STOP/PAUSE。
EntryDeviceStatus	デバイスの状態監視登録。
FreeDeviceStatus	デバイスの状態監視登録の解除。
OnDeviceStatus	イベント告知。

(2) 各ACTコントロールで使用可能な関数

各ACTコントロールで使用可能な関数の詳細については，“4章 関数”を参照してください。

メ 毛

[illegible]

2 ACTコントロールについて

ACTコントロールを使用するまでの設定，プログラミング手順，デバイスタイプおよびアクセス可能範囲について説明します。

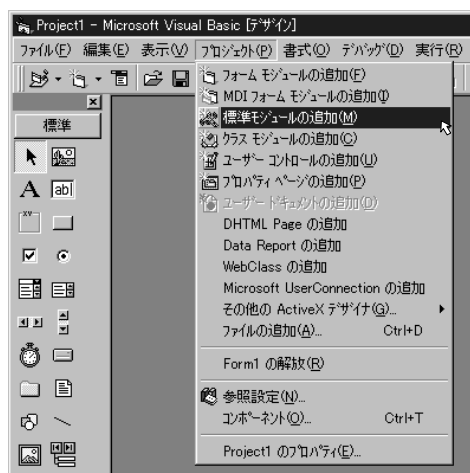
2.1 ACTコントロールを使用するための設定

ACTコントロールを使用するまでの設定操作について説明します。

2.1.1 Visual Basic® 6.0を使用する場合

Visual Basic® 6.0を使用する場合の設定操作を次に示します。

(1) インクルードファイルの設定



Visual Basic® 6.0を起動し，[プロジェクト] - [標準モジュールの追加]メニューを選択します。

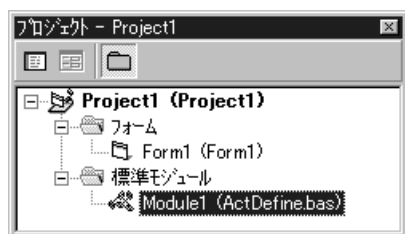


<既存のファイル>タブを選択して，“ActDefine.bas”を選択します。

“ActDefine.bas”はインストール時に，

<ユーザ指定フォルダ> - <Act> - <Include>

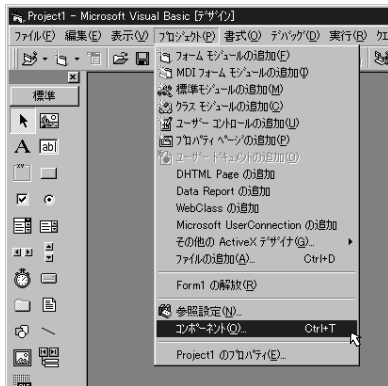
の中に格納されています。



“ActDefine.bas”を登録すると，標準モジュールに追加されます。

(2) ACTコントロールを登録する

[プロジェクト] - [コンポーネント]メニューを選択します。



<<コントロール>>タブを選択して、使用したいIACコントロールを含むDLLを選択します。



選択したDLLに含まれるACTコントロールが、ツールボックスに追加されます。



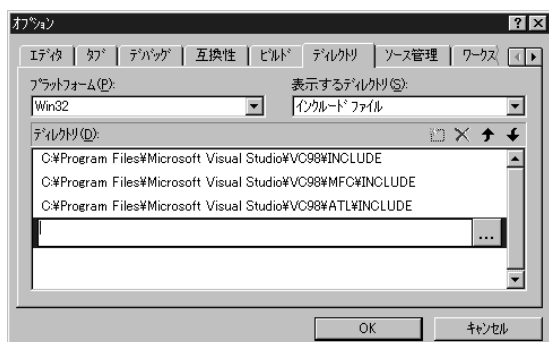
2.1.2 Visual C++® 6.0を使用する場合

Visual C++® 6.0を使用する場合の設定操作を次に示します。

(1) インクルードファイルの設定



Visual C++® 6.0を起動し, [ツール] - [オプション]メニューを選択します。



<<ディレクトリ>>タブを選択して,表示するディレクトリを“インクルードファイル”に設定します。



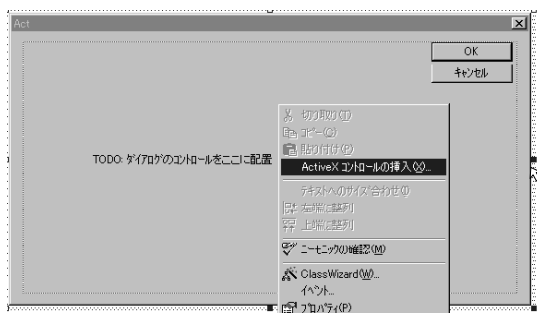
設定する項目をダブルクリックし,インクルードファイルを参照します。

“ActDefine.H”はインストール時に

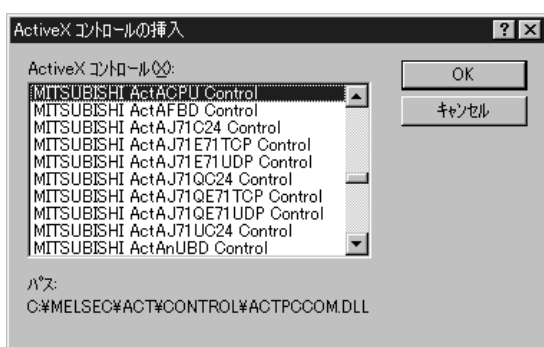
<ユーザ指定フォルダ> - <Act> - <Include>

の中に格納されています。

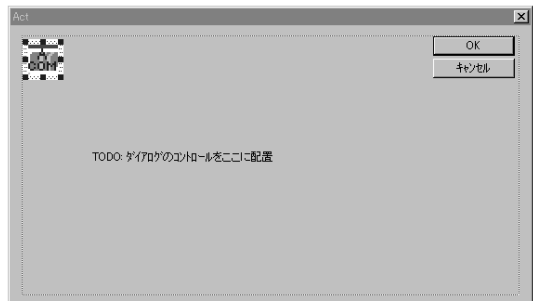
(2) ACTコントロールを登録する



フォームを右クリックして，“ActiveXコントロールの挿入”を選択します。

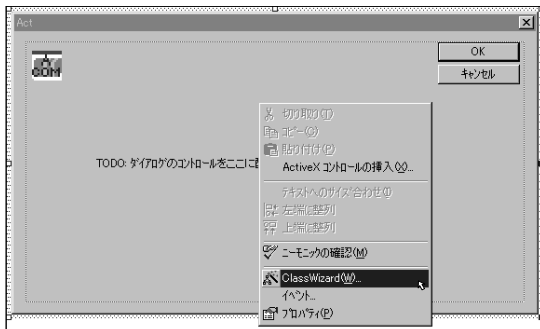


使用したいACTコントロールを選択します。

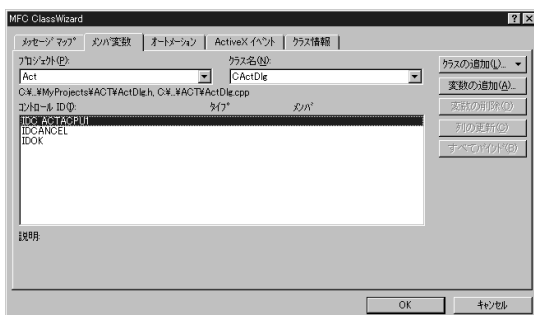


選択したACTコントロールが，フォームに貼り付けられます。

(3) メンバ変数を追加する



フォームをクリックして，“Class Wizard”を選択します。

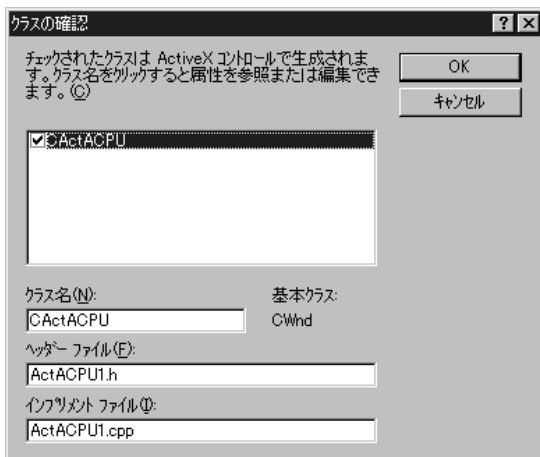


左記ダイアログボックスが表示されたら，<<メンバ変数>>タブを選択します。

メンバ変数の追加を行うコントロールIDを選択して，**変数の追加** ボタンをクリックします。



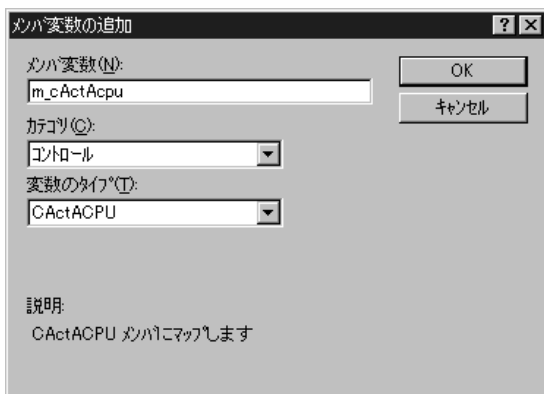
左記画面が表示されたら，内容を確認して **OK** ボタンをクリックします。



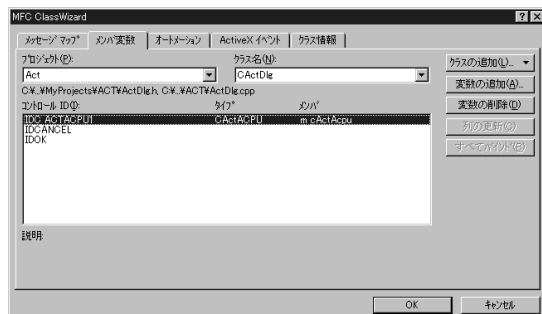
クラスのチェックボックスにチェックを入れて，**OK** ボタンをクリックします。

(次のページへ)

(前ページより)



メンバ変数を入力して、**OK** ボタンをクリックします。

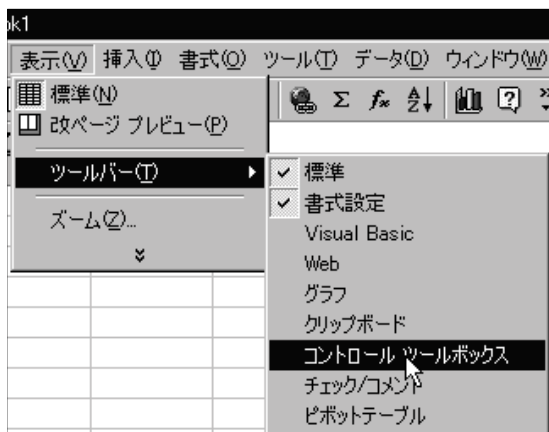


メンバ変数が登録されているか確認してください。

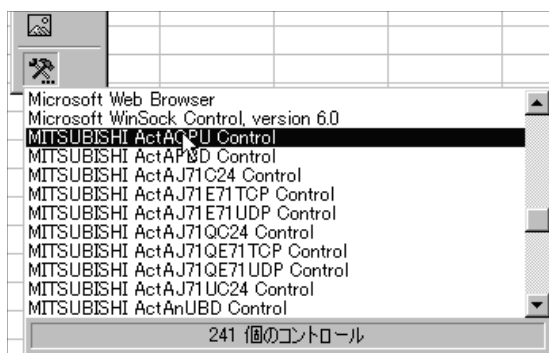
2.1.3 VBAを使用する場合


VBAを使用する場合の設定操作を次に示します。

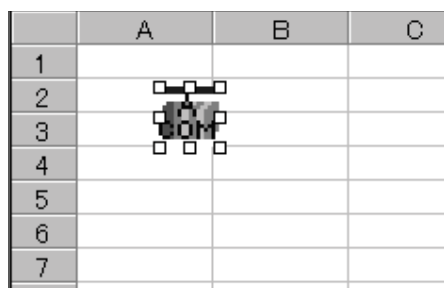
(1) Microsoft® Excel 2000およびMicrosoft® Excel 2002を使用する場合



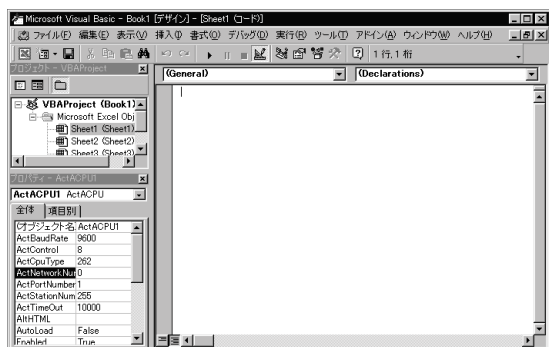
Excelを起動し、[表示] - [ツールバー] - [コントロールツールボックス]メニューを選択します。



表示されたコントロールツールボックスの  ボタンをクリックすると、メニューが表示されますので、使用したいI/Oコントロールを選択します。



選択したACTコントロールをシートに貼り付けます。



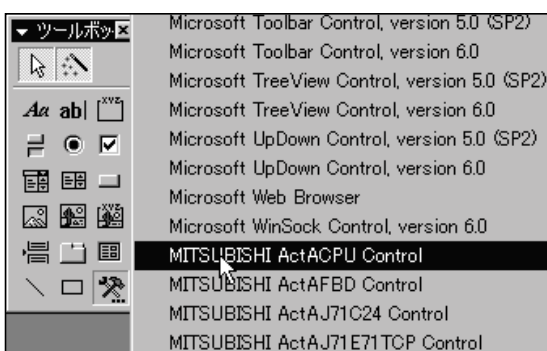
[ツール] - [マクロ] - [Visual Basic Editor]メニューを選択し、Visual Basic Editorを起動します。


Visual Basic Editorでプログラミングを行います。

(2) Microsoft® Access 2000およびMicrosoft® Access 2002を使用する場合



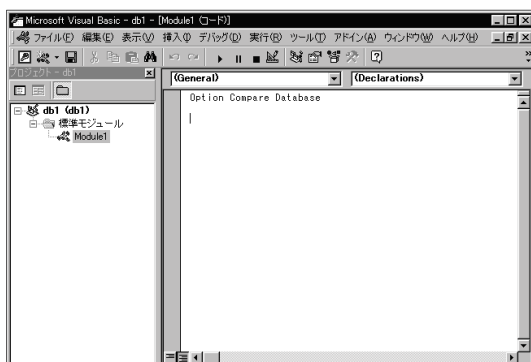
Accessを起動し、データベースのフォームをアクティブにします。



ツールボックスの  ボタンをクリックすると、メニューが表示されますので、使用したいI/Oコントロールを選択します。



選択したACTコントロールをシートに貼り付けます。



[ツール] - [マクロ] - [Visual Basic Editor]メニューを選択し、Visual Basic Editorを起動します。

Visual Basic Editorでプログラミングを行います。

2.1.4 VBScriptを使用する場合

メモ帳や市販のテキストエディタ，HTML作成ツールなどを使用して，HTML，ASPを作成してください。

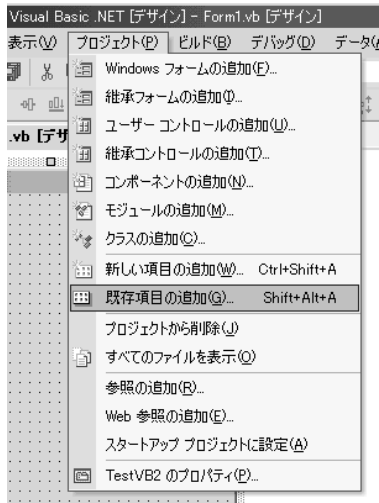
HTML，ASPの文法については，市販の参考書などを参考にしてください。

また，MX Componentは，HTMLサンプルプログラム，ASPサンプルプログラムをインストールしていますので，こちらも参考にしてください。

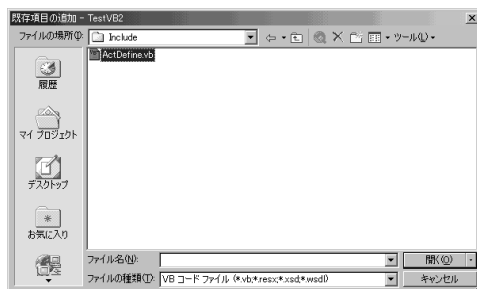
2.1.5 Visual Studio® .NETを使用する場合

Visual Studio® .NETを使用する場合の設定操作を次に示します。

(1) インクルードファイルの設定 (Visual Basic® .NETの場合)



プロジェクトを起動し、[プロジェクト] - [既存項目の追加]メニューを選択します。



ActDefine.vbファイルを参照し、**開く** ボタンをクリックします。

ActDefine.vbファイルはインストール時、

<ユーザ指定フォルダ> - <Act> - <Include>

の中にあります。

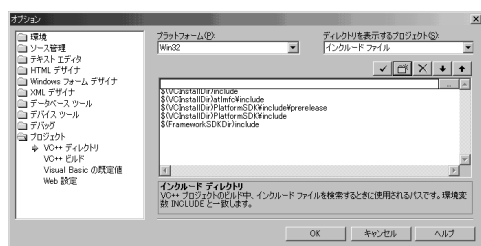



ソリューションエクスプローラ・ウィンドウ内に、「ActDefine.vb」ファイルが表示されます。


(2) インクルードファイルの設定 (Visual C++® .NETの場合)

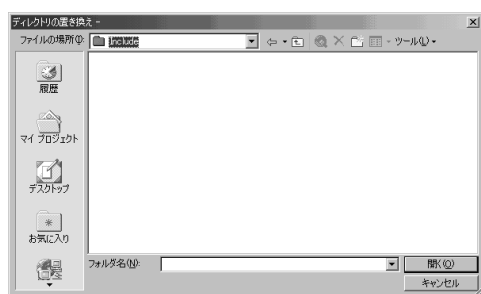


Visual Studio® .NETを起動し，[ツール] - [オプション]メニューを選択します。



左側のナビゲーションペインで[プロジェクト] - [VC++ ディレクトリ]を選択し，右上の“ディレクトリを表示するプロジェクト”で“インクルードファイル”を選択した状態で，（新しい行）ボタンを選択します。

続いて， ボタンを選択します。

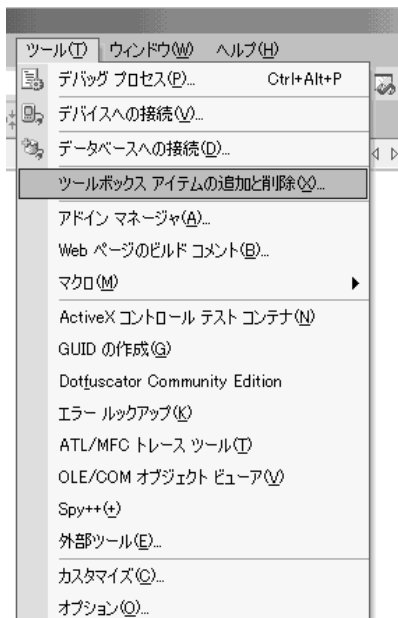


インクルードファイルのあるフォルダを参照します。
インクルードファイルはインストール時，

<ユーザ指定フォルダ> - <Act> - <Include>

の中にあります。

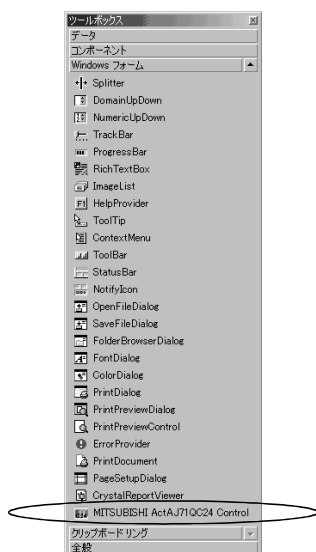
(3) ACTコントロールをフォームに貼り付けて使用する場合
(Visual C++® .NET/Visual Basic® .NETプロジェクト共通)



[ツール] - [ツールボックス アイテムの追加と削除]メニューを選択します。



<<COMコンポーネント>>タブを選択して、使用したいACTコントロールをチェックし、[OK] ボタンをクリックします。

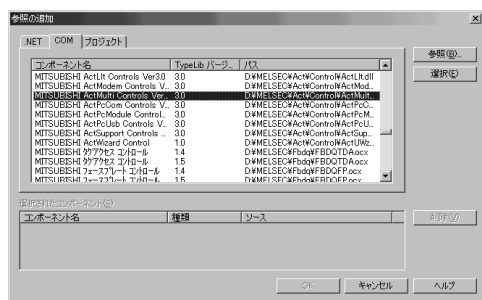
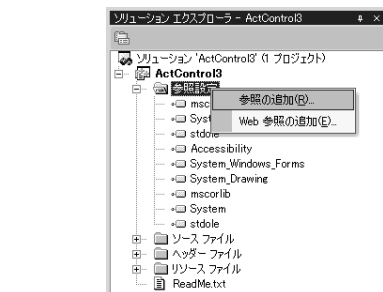


ACTコントロールは、“ツールボックス”で選択されているタブの最下部に追加されます。

“Windows フォーム”タブが選択されている場合は、左図のようになります。

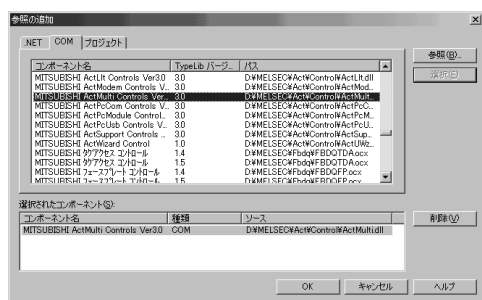
(4) ACTコントロールをフォームに貼り付けずに使用する場合（参照設定）
（Visual C++[®] .NET/Visual Basic[®] .NETプロジェクト共通）

[表示] - [ソリューションエクスプローラー]メニューを選択して“ソリューションエクスプローラー”を表示させ，“参照設定”を右クリックして“参照の追加”を選択します。

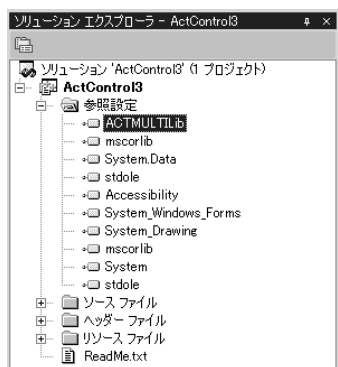


<<COM>>タブを選択して、使用するACTコントロールが選択されている状態で[選択]ボタンをクリックします。

[Ctrl]キーを押しながら選択することにより、ACTコントロールを同時に複数選択できます。

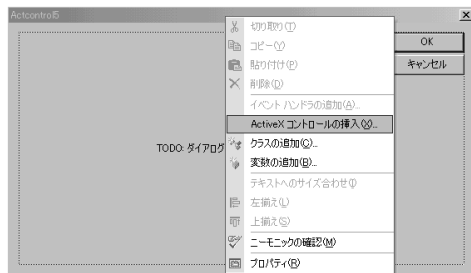


使用するコンポーネントすべてが“選択されたコンポーネント”に表示されたら，[OK]ボタンをクリックします。

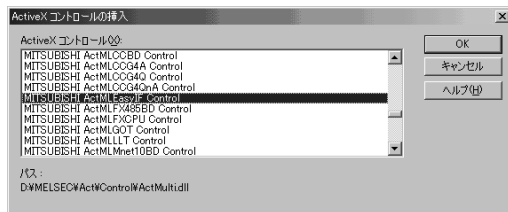


“ソリューションエクスプローラー”に使用するコンポーネントのライブラリが参照設定されます。

(5) Visual C++-MFCでACTコントロールを使用する場合



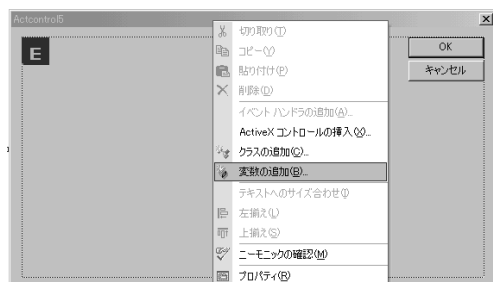
フォームを右クリックして、“ActiveXコントロールの挿入”を選択します。



使用するACTコントロールを選択して，「OK」ボタンをクリックします。



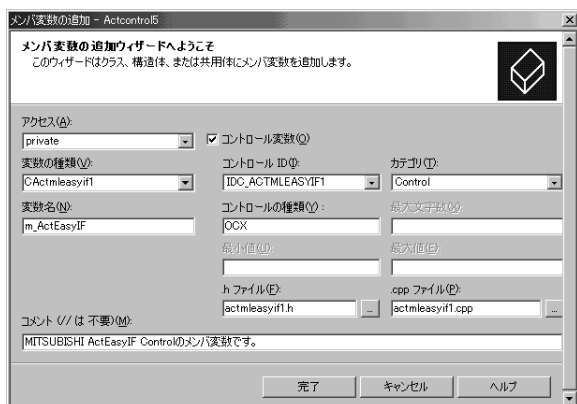
選択したACTコントロールがフォームに貼り付けられます。



フォームを右クリックして，“変数の追加”を選択します。

(次のページへ)

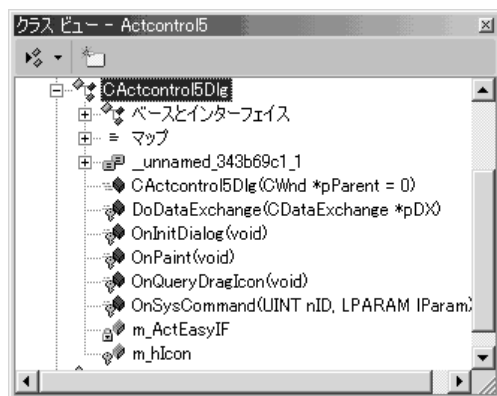
(前ページより)



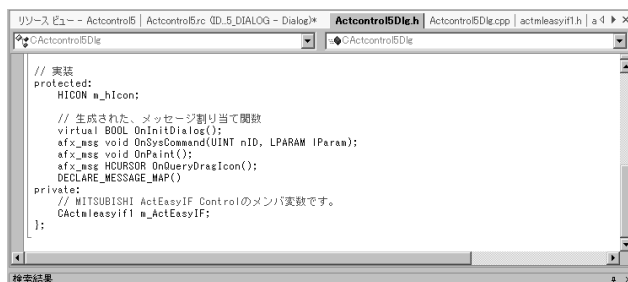
“コントロール変数”をチェック後，“コントロールID”でACTコントロールのIDを選択し、変数名を入力して[完了]ボタンをクリックします。

で設定したメンバ変数が作成されていることを確認します。

・クラスビューのフォームクラス内



・フォームクラスのヘッダファイル内

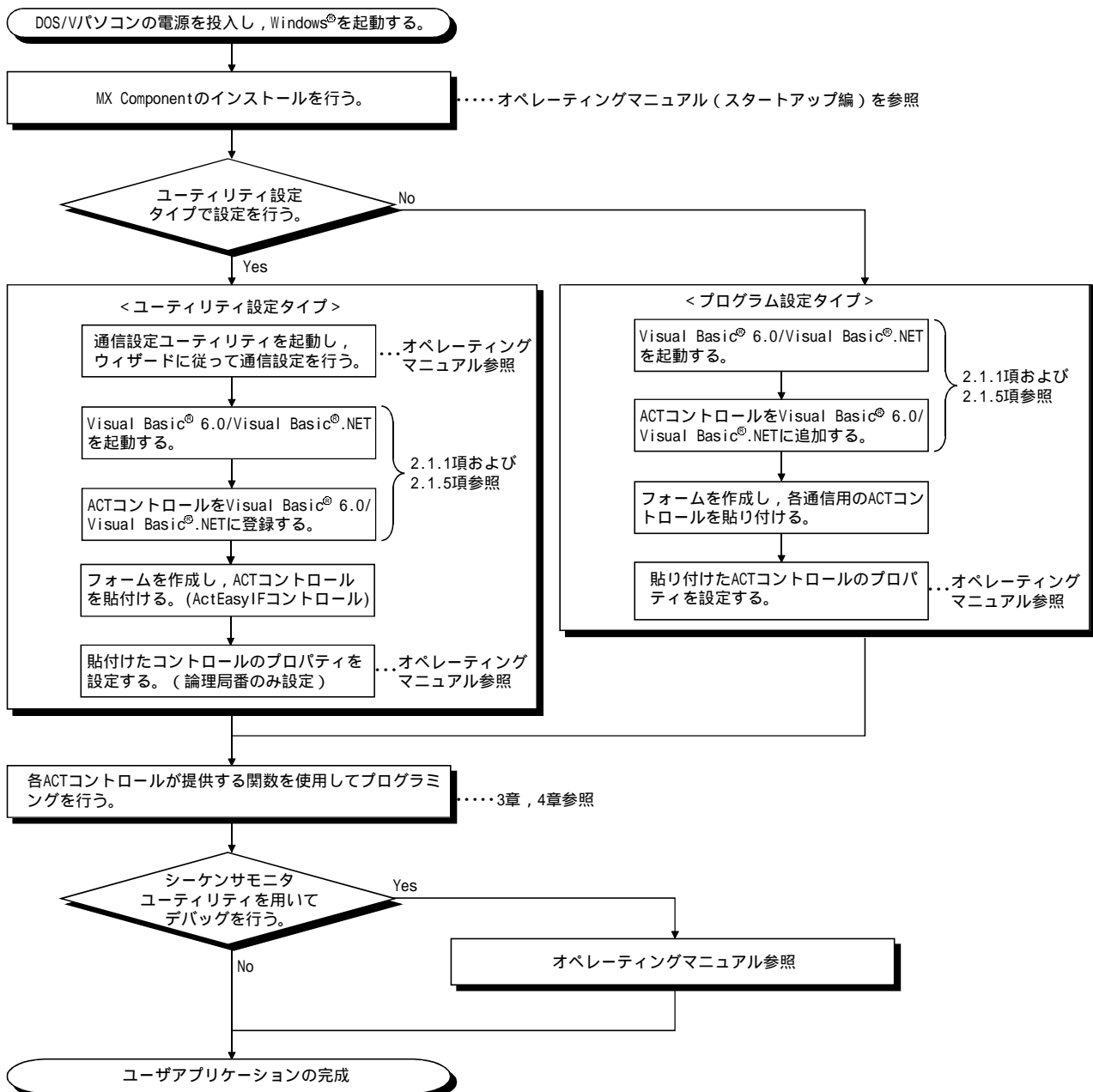


2.2 プログラミング手順

ユーザアプリケーションを作成するまでの手順について説明します。

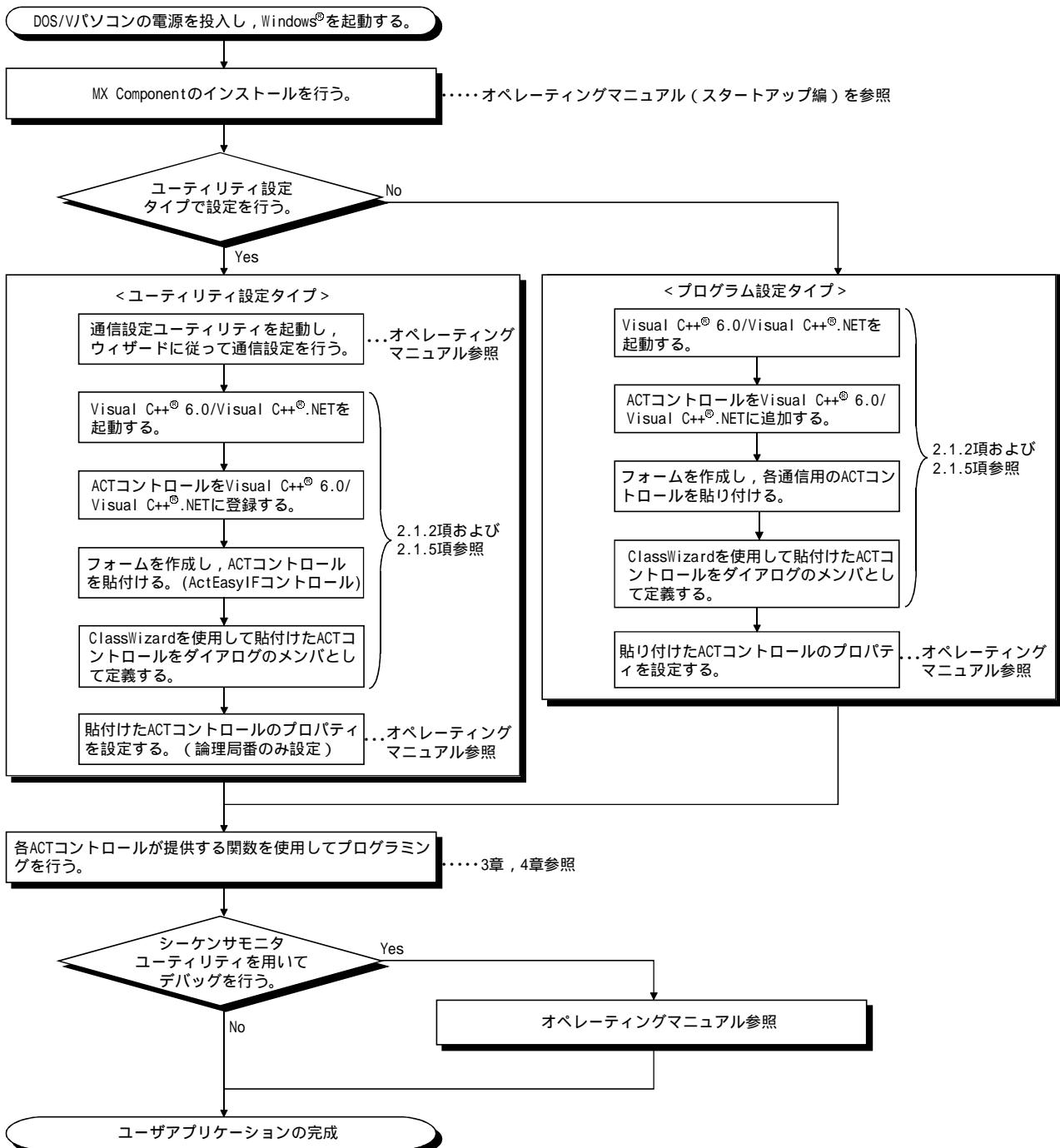
2.2.1 Visual Basic® 6.0/Visual Basic® .NETを使用する場合

Visual Basic® 6.0/Visual Basic® .NETを使用して、ユーザアプリケーションを作成する手順を次に示します。



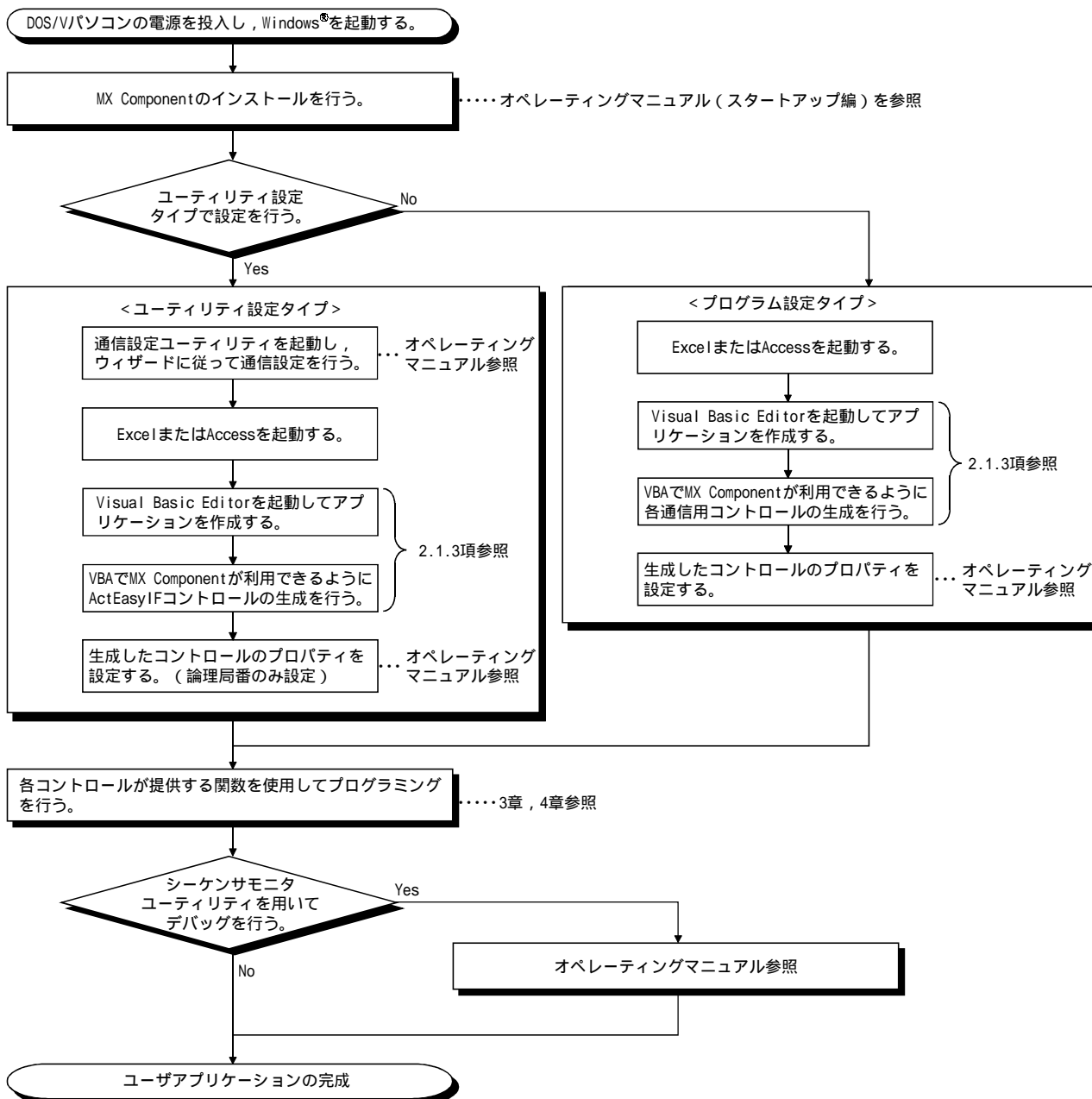
2.2.2 Visual C++® 6.0/Visual C++® .NETを使用する場合

Visual C++® 6.0/Visual C++® .NETを使用して、ユーザアプリケーションを作成する手順を次に示します。



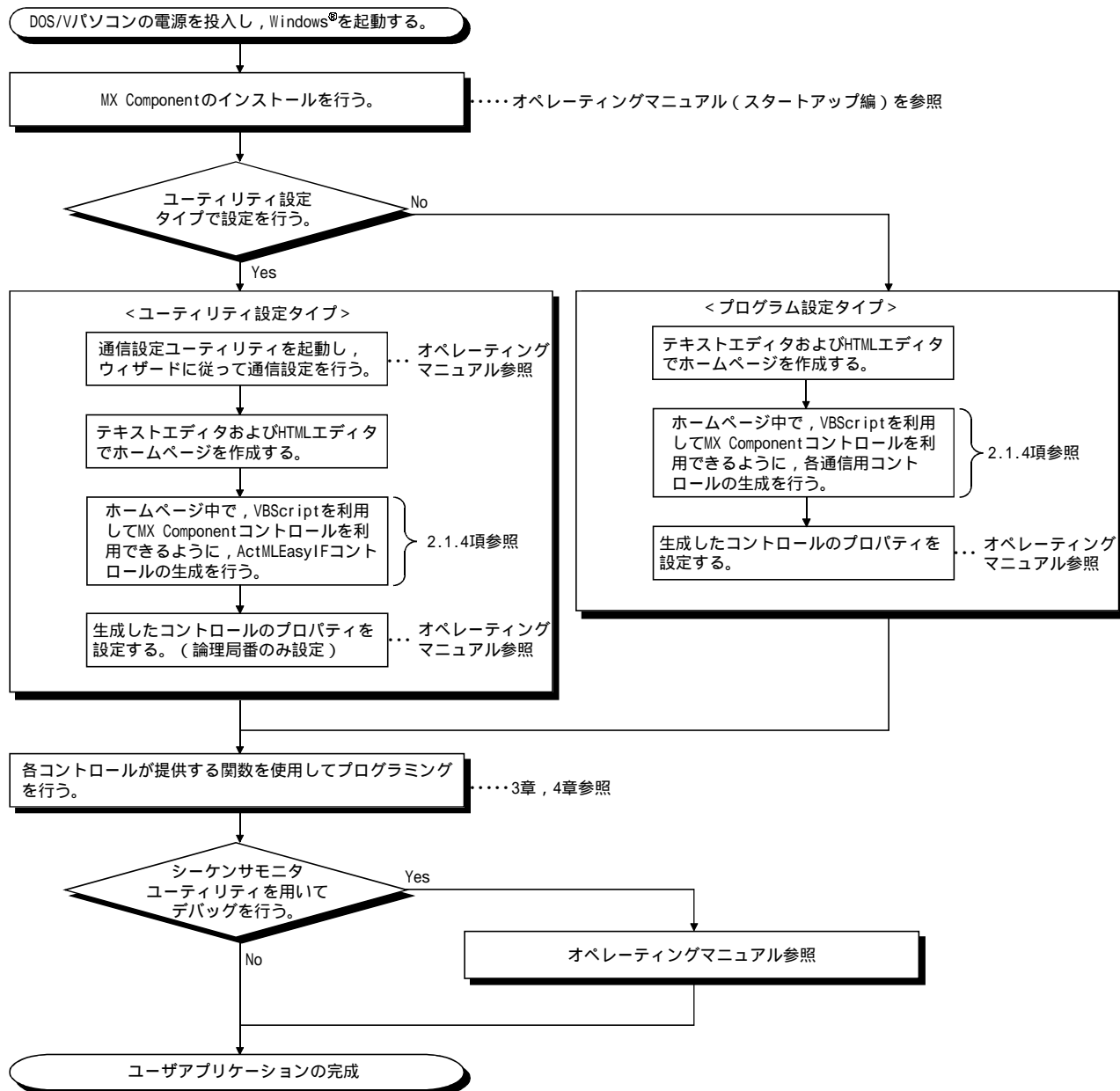
2.2.3 VBAを使用する場合

VBAを使用して、ユーザアプリケーションを作成する手順を次に示します。



2.2.4 VBScriptを使用する場合

VBScriptを使用して、ユーザアプリケーションを作成する手順を次に示します。



2.3 デバイスタイプ

関数で指定可能なデバイスについて説明します。

ポイント
<p>(1) 下記関数で指定するデバイスの指定方法は、“デバイス名+デバイス番号”で指定してください。 デバイス番号については、8進数、10進数および16進数の違いに注意してください。 対象関数：ReadDeviceBlock, ReadDeviceBlock2, WriteDeviceBlock, WriteDeviceBlock2, ReadDeviceRandom, ReadDeviceRandom2, WriteDeviceRandom, WriteDeviceRandom2, SetDevice, SetDevice2, GetDevice, GetDevice2</p> <p>(2) ReadDeviceBlock, ReadDeviceBlock2, WriteDeviceBlockおよびWriteDeviceBlock2でビットデバイスを指定する場合、デバイス番号は16の倍数で指定してください。</p> <p>(3) Q/QnAシリーズシーケンサCPUのローカルデバイスとプログラムごとのファイルレジスタは、プログラム名を指定してアクセスすることはできません。</p> <p>(4) 本節で示すデバイス以外はサポートしておりません。 未サポートのデバイスについては使用しないでください。</p>

(1) 共通（ゲートウェイ機能通信時は除く）

ゲートウェイ機能通信を除くすべての通信経路における共通のデバイスタイプです。

デバイス	デバイス名	デバイス種別	デバイス番号	備 考
ファンクション入力	FX	ビット	10進数	-
ファンクション出力	FY	ビット	10進数	-
ファンクションレジスタ	FD	ワード	10進数	1点4ワード *1
特殊リレー	SM	ビット	10進数	-
特殊レジスタ	SD	ワード	10進数	-
入力リレー	X	ビット	16進数	FXCPUの場合8進数
出力リレー	Y	ビット	16進数	FXCPUの場合8進数
内部リレー	M	ビット	10進数	*2
ラッチリレー	L	ビット	10進数	*2
アナンシェータ	F	ビット	10進数	-
エッジリレー	V	ビット	10進数	-
リンクリレー	B	ビット	16進数	-
データレジスタ	D	ワード	10進数	-
リンクレジスタ	W	ワード	16進数	-
タイマ	接 点	TS	ビット	10進数
	コイル	TC	ビット	10進数
	現在値	TN	ワード	10進数
カウンタ	接 点	CS	ビット	10進数
	コイル	CC	ビット	10進数
	現在値	CN	ワード	FXCPUの場合、200以上は32ビットデータ
積算タイマ	接 点	SS	ビット	10進数
	コイル	SC	ビット	10進数
	現在値	SN	ワード	10進数
リンク特殊リレー	SB	ビット	16進数	-
リンク特殊レジスタ	SW	ワード	16進数	-
ステップリレー	S	ビット	10進数	*2

ビット：ビットデバイス ワード：ワードデバイス

*1：一括操作の場合、1ワード単位で連続して操作します。

ランダム操作の場合、先頭の1ワードのみ読み出します。

*2：QCPU（Aモード）およびACPUの場合、M、L、Sデバイスはパラメータのデバイス設定に関わらず同一領域となります。

デバイス		デバイス名	デバイス種別	デバイス番号	備 考
アキュムレータ		A	ワード	10進数	*5
インデックスレジスタ		Z	ワード	10進数	*5
		V	ワード	10進数	*5
ファイルレジスタ		R	ワード	10進数	*3
		ZR	ワード	10進数	-
拡張ファイルレジスタ		ER*¥R	ワード	10進数	*4
ダイレクトリンク *6	リンク入力	J*¥X	ビット	16進数	*4
	リンク出力	J*¥Y	ビット	16進数	*4
	リンクリレー	J*¥B	ビット	16進数	*4
	リンク特殊リレー	J*¥SB	ビット	16進数	*4
	リンクレジスタ	J*¥W	ワード	16進数	*4
	リンク特殊レジスタ	J*¥SW	ワード	16進数	*4
特殊ダイレクトバッファメモリ *7*9		U*¥G**	ワード	16進数 / 10進数	*4, *8

ビット：ビットデバイス ワード：ワードデバイス

*3：拡張ファイルレジスタの指定は、ブロック番号部とファイルレジスタ部の間に“¥”を記述してください。

R**と指定した場合、ブロックNo.0のRが対象となります。

ER0¥R**と指定した場合、エラーが返ります。

ER**¥R**と指定する場合、拡張表現（間接指定、桁指定）はできません。

*4：ダイレクト指定は、ダイレクト指定部とデバイス指定部の間に“¥”を記述してください。

*5：E71経由の場合、使用することができません。

*6：J*はネットワーク番号を指定します。

*7：U*は特殊ユニットI/O番号（16進数）を、G**はバッファメモリアドレス（10進数）を指定します。

（例：特殊ユニットI/O番号が200_H、バッファメモリアドレスが100を指定する場合、「U20¥G100」となります。）

*8：FXCPUは使用できません。

*9：QCPUのマルチCPU構成時に、自号機QCPUの共有メモリを指定するとエラーが発生します。

また、自号機/他号機に関わらず、共有メモリへの書き込みを行うとエラーが発生します。

(2) CC-Link通信時のみ

CC-Link通信時のみ、自ボードアクセス時に下表のデバイスが使用可能です。

他の通信経路では使用できません。

デバイス	デバイス名	デバイス種別	デバイス番号	備 考
特殊リレー	SM	ビット	10進数	自ボードの特殊リレー
特殊レジスタ	SD	ワード	10進数	自ボードの特殊レジスタ
リンク特殊リレー（CC-Link用）	SB	ビット	16進数	自ボードのリンク特殊リレー
リンク特殊レジスタ（CC-Link用）	SW	ワード	16進数	自ボードのリンク特殊レジスタ
リモート入力	X	ビット	16進数	RX
リモート出力	Y	ビット	16進数	RY
リンクレジスタ	W	ワード	16進数	-
リモートレジスタ （CC-Link用書き込みエリア）	WW	ワード	16進数	RWw
リモートレジスタ （CC-Link用読み出しエリア）	WR	ワード	16進数	RWr
バッファメモリ	ML	ワード	16進数	自局CC-Linkユニットのバッファメモリ
ランダムアクセスバッファ	MC	ワード	16進数	自局CC-Linkユニットのバッファメモリ にあるランダムアクセスバッファ
自動リフレッシュバッファ	MF	ビット	16進数	自局CC-Linkユニットの自動リフレッ シュバッファ

(3) ゲートウェイ機能通信時のみ

ゲートウェイ機能通信で使用するデバイス名の指定方法について示します。

その他のコントロールのメソッドで使用するデバイス指定方法については、MX Componentオペレーティングマニュアルを参照してください。

デバイス	デバイス名	デバイス種別	デバイス番号	備 考
ゲートウェイデバイス ^{*1}	EG	ワード	10進数	-

^{*1}: シーケンサCPUのデバイスを割り付けていないゲートウェイデバイスを読み出した場合、読み出したデータは0となります。

(4) デバイス拡張表現について

デバイス拡張表現の可否表を下記の示します。

ReadDeviceBlockおよびWriteDeviceBlockでは使用できません。

ActAJ71E71TCPコントロール, ActMLAJ71E71TCPコントロール, ActAJ71QE71TCPコントロール, ActMLAJ71QE71TCPコントロール使用時は、デバイス拡張表現は使用できません。

デバイス拡張表現	対象CPU						GOT
	QCPU (Qモード)	QCPU (Aモード)	QnACPU	ACPU	FXCPU	モーションコントローラCPU	
桁指定 (例: K4M0) ^{*2}							×
ビット指定 (例: D0.1)	*3	*3	*3	*3	*3	*3	
インデックス修飾 (例: M100Z0) ^{*4}		×	*1	×	×	×	×

: 使用可能 ×: 使用不可

^{*1}: QE71経由の場合使用できません。

^{*2}: FX/FY, DX/DY, T/C/ST (接点, コイル) は指定できません。

^{*3}: Z, V, T/C/ST (現在値) は指定できません。

^{*4}: FX/FY, DX/DY, T/C/ST (接点, コイル), ZおよびSは指定できません。

2.4 アクセス可能デバイス・範囲

各通信時におけるアクセス可能デバイス・範囲は、MX Componentオペレーティングマニュアルを参照してください。

3 ACTコントロールの詳細

ACTコントロールの詳細, プロパティの詳細および保有するプロパティ一覧について説明します。

3.1 ACTコントロールの詳細

各ACTコントロールの内容および使用可能設定タイプを次に示します。

コントロール名		内 容	使用可能 設定タイプ
VB, VC++, VBA用	VBScript用		
ActEasyIF	ActMLEasyIF	全通信経路と通信可能。 通信を行うための情報は、通信設定ユーティリティにて設定を行う。	U
ActQJ71E71TCP	ActMLQJ71E71TCP	接続ユニットがQシリーズ対応E71 (TCP/IP通信) のEthernet通信時に使用する。	P
ActQJ71E71UDP	ActMLQJ71E71UDP	接続ユニットがQシリーズ対応E71 (UDP/IP通信) のEthernet通信時に使用する。	P
ActAJ71QE71TCP	ActMLAJ71QE71TCP	接続ユニットがQE71 (TCP/IP通信) のEthernet通信時に使用する。	P
ActAJ71QE71UDP	ActMLAJ71QE71UDP	接続ユニットがQE71 (UDP/IP通信) のEthernet通信時に使用する。	P
ActAJ71E71TCP	ActMLAJ71E71TCP	接続ユニットがE71 (TCP/IP通信) のEthernet通信時に使用する。	P
ActAJ71E71UDP	ActMLAJ71E71UDP	接続ユニットがE71 (UDP/IP通信) のEthernet通信時に使用する。	P
ActQCPUQ	ActMLQCPUQ	接続シーケンサCPUがQCPU (Qモード) のCPU COM通信時に使用する。	P
ActQCPUA	ActMLQCPUA	接続シーケンサCPUがQCPU (Aモード) のCPU COM通信時に使用する。	P
ActQnACPU	ActMLQnACPU	接続シーケンサCPUがQnACPUのCPU COM通信時に使用する。	P
ActACPU	ActMLACPU	接続シーケンサCPUがACPU (モーションコントローラCPUも含む) のCPU COM通信時に使用する。	P
ActFXCPU	ActMLFXCPU	接続シーケンサCPUがFXCPUのCPU COM通信時に使用する。	P
ActQJ71C24	ActMLQJ71C24	接続ユニットがQシリーズ対応C24の計算機リンク通信時に使用する。	P
ActAJ71QC24	ActMLAJ71QC24	接続ユニットがQC24(N)の計算機リンク通信時に使用する。	P
ActAJ71UC24	ActMLAJ71UC24	接続ユニットがUC24の計算機リンク通信時に使用する。	P
ActAJ71C24	ActMLAJ71C24	接続ユニットがC24の計算機リンク通信時に使用する。	P
ActFX485BD	ActMLFX485BD	接続ユニットがFX拡張ポートの計算機リンク通信時に使用する。	P
ActQCPUQUSB	ActMLQCPUQUSB	接続シーケンサCPUがQCPU (Qモード) のUSB通信時に使用する。	P
ActA6TEL	-	接続ユニットがA6TEL, Q6TEL (Aモード) のモデム通信時に使用する。	P
ActQ6TEL	-	接続ユニットがQ6TEL (QnAモード) のモデム通信時に使用する。	P
ActFXCPU TEL	-	接続シーケンサCPUがFXCPUのモデム通信時に使用する。	P
ActAJ71QC24TEL	-	接続ユニットがQ24Nのモデム通信時に使用する。	P
ActQJ71C24TEL	-	接続ユニットがQシリーズ対応C24, Qシリーズ対応CM0のモデム通信時に使用する。	P
ActCCG4QnA	ActMLCCG4QnA	接続ユニットがAJ65BT-G4(-S3) (QnAモード) のCC-Link G4通信時に使用する。	P
ActCCG4A	ActMLCCG4A	接続ユニットがAJ65BT-G4(-S3) (Aモード) のCC-Link G4通信時に使用する。	P
ActCCG4Q	ActMLCCG4Q	接続ユニットがAJ65BT-G4-S3 (Qモード) のCC-Link G4通信時に使用する。	P
ActMnet2BD	ActMLMnet2BD	MELSECNET()通信時に使用する。	P
ActMnet10BD	ActMLMnet10BD	MELSECNET/10通信時に使用する。	P
ActMnetHBD	ActMLMnetHBD	MELSECNET/H通信時に使用する。	P
ActCCBD	ActMLCCBD	CC-Link通信時に使用する。	P
ActAnUBD	ActMLAnUBD	CPUボード通信時に使用する。	P
ActAFBD	ActMLAFBD	AF通信時に使用する。	P
ActLLt	ActMLLLt	GX Simulator通信時に使用する。	P
ActQCPUQBus	ActMLQCPUQBus	Qシリーズバス通信時に使用する。	P
ActGOT	ActMLGOT	ゲートウェイ機能通信時に使用する。	P
ActSupport	ActMLSupport	トラブルシュート機能に使用する。	P

U: ユーティリティ設定タイプ
P: プログラム設定タイプ

3.2 プロパティの詳細

ユーザアプリケーションを作成する際に設定必要なプロパティの詳細を次に示します。

ポイント
プロパティ値を直接Visual Basic® 6.0またはVisual C++® 6.0のプロパティウィンドウに入力する場合、16進数およびCPUタイプなどの文字列は、10進数のプロパティ値に変更して入力してください。

3

プロパティ名 (型)	内 容						
ActLogicalStationNumber (LONG)	通信設定ユーティリティにて設定した論理局番。(設定可能範囲: 0 ~ 1023)						
ActNetworkNumber (LONG)	MELSECNET/10(H)でのネットワーク番号を指定する。(自局指定時は“0x00”を指定) GX Simulatorによる他局アクセスでのネットワーク番号を指定する。 マルチドロップ接続(Qシリーズ対応C24, QJ61BT11経由)時に指定した場合は下記の通りです。 <table border="1"> <tr> <th>ActIntelligentPreferenceBit値</th><th>内 容</th></tr> <tr> <td>0x00</td><td>自ネットワーク指定</td></tr> <tr> <td>0x01</td><td>マルチドロップ先の他ネットワーク指定</td></tr> </table>	ActIntelligentPreferenceBit値	内 容	0x00	自ネットワーク指定	0x01	マルチドロップ先の他ネットワーク指定
ActIntelligentPreferenceBit値	内 容						
0x00	自ネットワーク指定						
0x01	マルチドロップ先の他ネットワーク指定						
ActStationNumber (LONG)	MELSECNET/10(H), CC-Linkでの局番号を指定する。(自局指定時は“0x00”を指定) GX Simulatorによる他局アクセスでの局番号を指定する。 CPUボード, AFボードのCPUにアクセスする場合は自局扱いとなる。 マルチドロップ接続(Qシリーズ対応C24, QJ61BT11経由)時に指定した場合は下記の通りです。 <table border="1"> <tr> <th>ActIntelligentPreferenceBit値</th><th>内 容</th></tr> <tr> <td>0x00</td><td>自ネットワーク指定</td></tr> <tr> <td>0x01</td><td>マルチドロップ先の他ネットワーク指定</td></tr> </table>	ActIntelligentPreferenceBit値	内 容	0x00	自ネットワーク指定	0x01	マルチドロップ先の他ネットワーク指定
ActIntelligentPreferenceBit値	内 容						
0x00	自ネットワーク指定						
0x01	マルチドロップ先の他ネットワーク指定						
ActUnitNumber (LONG)	計算機リンクユニットのユニット番号およびQシリーズ対応のインテリジェント機能ユニット対象時の局番を指定する。ただし、QnAシリーズの自局設定(自局CPUに装着されているユニット)時は“0x00”を指定する。 計算機リンク通信およびQシリーズ対応のインテリジェント機能ユニットを対象としていない場合は無効。 マルチドロップリンク時は対象先の計算機リンクユニットのユニット番号を指定する。						
ActConnectUnitNumber (LONG)	計算機リンクユニット, QE71およびQシリーズ対応E71のユニット番号を指定する。 マルチドロップリンク時は、要求元の計算機リンクユニットのユニット番号を指定する。ただし、CPU COM通信経由のマルチドロップリンクの場合、要求元局のユニット番号は不要(“0x00”を指定する)。 マルチドロップリンク以外の場合は、“0x00”を指定する。 QE71およびQシリーズ対応E71の場合は、中継先局番を指定する(自ネットワーク内アクセスの場合は“0x00”固定)。 MELSECNET/10経由で他のネットワークへアクセスする場合は、接続Ethernetユニットのパラメータで設定した局番を指定する。						
ActIONumber (LONG)	ユニットI/O番号を指定する。 マルチドロップリンクおよびインテリジェント機能ユニットアクセス時は、対象となる計算機リンクユニットおよびインテリジェント機能ユニットの実入出力No.(先頭入出力番号÷16)を指定する(マルチドロップリンク時は、経由する局、要求元局のI/O番号を指定)。 自局CPUやネットワーク経由で他局へアクセスする場合は“0x3FF”を指定する。						

プロパティ名 (型)	内 容			
ActCpuType (LONG)	通信を行う対象CPUを指定する。 パラメータには、下表のCPUタイプを指定する。			
	プロパティ値 (プロパティウィンドウ 入力値)	対象CPU	プロパティ値 (プロパティウィンドウ 入力値)	対象CPU
	CPU_Q00JCPU(0x30)	Q00JCPU	CPU_A2NCP(0x108)	A2NCP(-S1), A2SCP
	CPU_Q00CPU(0x31)	Q00CPU	CPU_A2SHCP(0x109)	A2SHCP
	CPU_Q01CPU(0x32)	Q01CPU	CPU_A3NCP(0x10A)	A3NCP
	CPU_Q02CPU(0x22)	Q02(H)CPU	CPU_A2ACPU(0x10C)	A2ACPU(-S1), A2ACPUP21/R21(-S1)
	CPU_Q06CPU(0x23)	Q06HCP	CPU_A3ACPU(0x10D)	A3ACPU, A3ACPUP21/R21
	CPU_Q12CPU(0x24)	Q12HCP	CPU_A2UCPU(0x10E)	A2UCPU(-S1), A2USCP(-S1)
	CPU_Q25CPU(0x25)	Q25HCP	CPU_A2USHS1CPU(0x10F)	A2USHCP-S1, CPUボード
	CPU_Q12PHCP(0x41)	Q12PHCP	CPU_A3UCPU(0x110)	A3UCPU
	CPU_Q25PHCP(0x42)	Q25PHCP	CPU_A4UCPU(0x111)	A4UCPU
	CPU_Q12PRHCP(0x43)	Q12PRHCP	CPU_FX0CPU(0x201)	FX0CPU, FX0sCPU
	CPU_Q25PRHCP(0x44)	Q25PRHCP	CPU_FX0NCP(0x202)	FX0NCP
	CPU_Q02CPU_A(0x141)	Q02(H)CPU-A	CPU_FX1CPU(0x203)	FX1CPU
	CPU_Q06CPU_A(0x142)	Q06HCP-A	CPU_FX2CPU(0x204)	FX2CPU, FX2cCPU
	CPU_Q2ACPU(0x11)	Q2ACPU, Q2ASCP, Q2ASHCP	CPU_FX2NCP(0x205)	FX2NCP, FX2NCPU
	CPU_Q2AS1CPU(0x12)	Q2ACPU-S1, Q2ASCP(-S1), Q2ASHCP(-S1)	CPU_FX1SCPU(0x206)	FX1sCPU
	CPU_Q3ACPU(0x13)	Q3ACPU	CPU_FX1NCP(0x207)	FX1NCP, FX1NCPU
	CPU_Q4ACPU(0x14)	Q4ACPU, Q4ARCP	CPU_FX3UCCPU(0x208)	FX3uCPU, FX3ucCPU
	CPU_A0J2HCP(0x102)	A0J2HCP	CPU_A171SHCP(0x601)	A171SHCP
	CPU_A1FXCPU(0x103)	A1FXCPU	CPU_A172SHCP(0x602)	A172SHCP
	CPU_A1SCPU(0x104)	A1SCPU, A1SCPUC24-R2, A1SJCPU	CPU_A273UHCP(0x603)	A273UHCP(-S3)
	CPU_A1SHCP(0x105)	A1SHCP, A1SJHCP	CPU_A173UHCP(0x604)	A173UHCP(-S1)
	CPU_A1NCP(0x106)	A1NCP	CPU_BOARD(0x401)	自ボードアクセス時 ^{*1}
	CPU_A2CCPU(0x107)	A2CCPU, A2CCPUC24(-PRF), A2CJCPU		
			*1: CPUボード, AFボードを除く	

プロパティ名 (型)	内 容			
ActPortNumber (LONG)	DOS/Vパソコンの接続ポート番号を指定する。 Ethernetユニット接続時は要求元 (DOS/Vパソコン) のポート番号として任意値を設定する。 ポート番号として “=0 ” を指定した場合、局番↔IP関連情報設定方式は自動応答方式とする。 (QE71経由自動応答方式以外を選択時は、固定値 “ 5001 ” を設定すること。) また、ネットワークボード用コントロール使用時は、ボード1枚目をPORT_1, 2枚目以降はPORT_2, PORT_3・・・の順に指定する。			
	プロパティ値 (プロパティウィンドウ入力値)		内 容	
	PORT_1 (0x01)		通信ポート1	
	PORT_2 (0x02)		通信ポート2	
	PORT_3 (0x03)		通信ポート3	
	PORT_4 (0x04)		通信ポート4	
	PORT_5 (0x05)		通信ポート5	
	PORT_6 (0x06)		通信ポート6	
	PORT_7 (0x07)		通信ポート7	
	PORT_8 (0x08)		通信ポート8	
	PORT_9 (0x09)		通信ポート9	
	PORT_10 (0x0A)		通信ポート10	
	ActBaudRate (LONG)	計算機リンク通信時の伝送速度を指定する。		
プロパティ値 (プロパティウィンドウ入力値)		内 容		
BAUDRATE_300 (300)		300bps		
BAUDRATE_600 (600)		600bps		
BAUDRATE_1200 (1200)		1200bps		
BAUDRATE_2400 (2400)		2400bps		
BAUDRATE_4800 (4800)		4800bps		
ActDataBit (LONG)	計算機リンク通信時の送信および受信されるバイトデータのビット数 (7または8) を指定する。			
ActParity (LONG)	計算機リンク通信時に使われるパリティ方式を指定する。			
	プロパティ値 (プロパティウィンドウ入力値)		内 容	
	NO_PARITY (0)		パリティなし	
	ODD_PARITY (1)		奇 数	
	EVEN_PARITY (2)		偶 数	

プロパティ名 (型)	内 容																	
ActStopBit (LONG)	計算機リンク通信時に使われるストップビットの数を指定する。 <table><tr><th>プロパティ値 (プロパティウィンドウ入力値)</th><th>内 容</th></tr><tr><td>STOPBIT_ONE (0)</td><td>1ストップビット</td></tr><tr><td>STOPBITS_TWO (2)</td><td>2ストップビット</td></tr></table>		プロパティ値 (プロパティウィンドウ入力値)	内 容	STOPBIT_ONE (0)	1ストップビット	STOPBITS_TWO (2)	2ストップビット										
プロパティ値 (プロパティウィンドウ入力値)	内 容																	
STOPBIT_ONE (0)	1ストップビット																	
STOPBITS_TWO (2)	2ストップビット																	
ActControl (LONG)	信号線の制御設定を指定する。 <table><tr><th>プロパティ値 (プロパティウィンドウ入力値)</th><th>内 容</th></tr><tr><td>TRC_DTR (0x01)</td><td>DTR制御</td></tr><tr><td>TRC_RTS (0x02)</td><td>RTS制御</td></tr><tr><td>TRC_DRT_AND_RTS (0x07)</td><td>DTR制御かつRTS制御</td></tr><tr><td>TRC_DTR_OR_RTS (0x08)</td><td>DTR制御またはRTS制御</td></tr></table>		プロパティ値 (プロパティウィンドウ入力値)	内 容	TRC_DTR (0x01)	DTR制御	TRC_RTS (0x02)	RTS制御	TRC_DRT_AND_RTS (0x07)	DTR制御かつRTS制御	TRC_DTR_OR_RTS (0x08)	DTR制御またはRTS制御						
プロパティ値 (プロパティウィンドウ入力値)	内 容																	
TRC_DTR (0x01)	DTR制御																	
TRC_RTS (0x02)	RTS制御																	
TRC_DRT_AND_RTS (0x07)	DTR制御かつRTS制御																	
TRC_DTR_OR_RTS (0x08)	DTR制御またはRTS制御																	
ActHostAddress(BSTR)	Ethernet通信時の接続ホスト名 (IPアドレス) 文字列を示すポインタ。																	
ActCpuTimeOut (LONG)	Ethernet通信時のCPU監視タイマを指定する。(単位は “ × 250ms ”) FXの計算機リンク通信時の送信待ち時間を指定する。(単位は “ × 10ms ”)																	
ActTimeOut (LONG)	DOS/Vパソコンとシーケンサ間の、通信のタイムアウト値を設定する。(単位は “ ms ”) MX Componentでは、通信経路によりタイムアウト処理を内部処理で行う場合があります。 詳細は “ 付3 タイムアウト時間について ” を参照してください。																	
ActSumCheck (LONG)	サムチェックの有無を指定する。 計算機リンクユニットのみ有効。 <table><tr><th>プロパティ値 (プロパティウィンドウ入力値)</th><th>内 容</th></tr><tr><td>NO_SUM_CHECK (0)</td><td>サムチェックなし</td></tr><tr><td>SUM_CHECK (1)</td><td>サムチェックあり</td></tr></table>		プロパティ値 (プロパティウィンドウ入力値)	内 容	NO_SUM_CHECK (0)	サムチェックなし	SUM_CHECK (1)	サムチェックあり										
プロパティ値 (プロパティウィンドウ入力値)	内 容																	
NO_SUM_CHECK (0)	サムチェックなし																	
SUM_CHECK (1)	サムチェックあり																	
ActSourceNetworkNumber (LONG)	QE71およびQシリーズ対応E71指定時の要求元ネットワーク番号を指定する。 接続QE71およびQシリーズ対応E71と同じネットワークNo. (ネットワークパラメータで指定するネットワークNo.) を指定する。																	
ActSourceStationNumber (LONG)	QE71およびQシリーズ対応E71指定時の要求元局番 (DOS/Vパソコン側局番) を指定する。 Ethernet同一ループ内で設定したQE71の局番と重複しないように設定する。																	
ActDestinationPort Number (LONG)	Ethernet通信指定時に対象先のポート番号を指定する。 他のネットワークへのアクセス時は、中継先ポート番号を指定する。 自動応答方式以外は下表の設定とする。 <table><tr><th colspan="2">通 信</th><th>設 定</th></tr><tr><td colspan="2">QE71(UDP/IP)</td><td>“ 5001 ” 固定</td></tr><tr><td rowspan="3">Qシリーズ対応E71(TCP/IP)</td><td>二重化CPU以外</td><td>“ 5002 ” 固定</td></tr><tr><td>MELSOFT接続*1</td><td>“ 5002 ” 固定</td></tr><tr><td>OPS接続*1</td><td>ネットワークパラメータによる</td></tr><tr><td colspan="2">Qシリーズ対応E71(UDP/IP)</td><td>“ 5001 ” 固定</td></tr></table> *1: 詳細については「Q対応Ethernetインタフェースユニットユーザズマニュアル(基本編)」を参照してください。		通 信		設 定	QE71(UDP/IP)		“ 5001 ” 固定	Qシリーズ対応E71(TCP/IP)	二重化CPU以外	“ 5002 ” 固定	MELSOFT接続*1	“ 5002 ” 固定	OPS接続*1	ネットワークパラメータによる	Qシリーズ対応E71(UDP/IP)		“ 5001 ” 固定
通 信		設 定																
QE71(UDP/IP)		“ 5001 ” 固定																
Qシリーズ対応E71(TCP/IP)	二重化CPU以外	“ 5002 ” 固定																
	MELSOFT接続*1	“ 5002 ” 固定																
	OPS接続*1	ネットワークパラメータによる																
Qシリーズ対応E71(UDP/IP)		“ 5001 ” 固定																
ActDestinationIONumber (LONG)	マルチドロップ接続 (Qシリーズ対応C24・CC-Link経由) 時、最終アクセス対象局の実入出力No. (先頭入出力 ÷ 16) を指定する。(対象がインテリジェント機能ユニットの場合) 対象がCPUの場合、 “ 0x3FF ” を指定する。																	
ActMultiDropChannel Number (LONG)	マルチドロップ接続 (Qシリーズ対応C24・CC-Link経由) 時、マルチドロップ接続チャンネルNo. (Ch1/Ch2) を指定する。 他の接続時は無効。																	

プロパティ名 (型)	内 容						
ActThroughNetworkType (LONG)	<p>ActQJ71C24コントロール, ActQJ71E71TCPコントロール, ActQJ71E1UDPコントロール, ActQCPUQコントロール, ActQCPUQUSBコントロール, ActMnetHBDコントロールを使用して他局へアクセスを行う場合, 経由ネットワークがMELSECNET/Hのみか, MELSECNET/10を含んでいるか選択します。</p> <p>上記以外のコントロール使用時には, “ MELSECNET/10を含む ” 固定となります。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>プロパティ値</th><th>内 容</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0x00</td><td>MELSECNET/Hのみ</td></tr> <tr> <td>0x01</td><td>MELSECNET/10を含む</td></tr> </tbody> </table>	プロパティ値	内 容	0x00	MELSECNET/Hのみ	0x01	MELSECNET/10を含む
プロパティ値	内 容						
0x00	MELSECNET/Hのみ						
0x01	MELSECNET/10を含む						
ActIntelligent PreferenceBit (LONG)	<p>マルチドロップ接続 (Qシリーズ対応C24・CC-Link経由) 時, マルチドロップリンク先のネットワークを経由するかどうかを指定する。(自ネットワークユニットを区別するため。)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>プロパティ値</th><th>内 容</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0x00</td><td>マルチドロップ先の他ネットワークをアクセスしない。</td></tr> <tr> <td>0x01</td><td>マルチドロップ先の他ネットワークをアクセスする。</td></tr> </tbody> </table>	プロパティ値	内 容	0x00	マルチドロップ先の他ネットワークをアクセスしない。	0x01	マルチドロップ先の他ネットワークをアクセスする。
プロパティ値	内 容						
0x00	マルチドロップ先の他ネットワークをアクセスしない。						
0x01	マルチドロップ先の他ネットワークをアクセスする。						
ActDidPropertyBit (LONG)	<p>Qシリーズ対応の自局インテリジェント機能ユニットにアクセス (自局CPUに装着されているインテリジェント機能ユニット) 時, 下記設定を無効にすることで “ ActUnitNumber ” を指定する必要がなくなる。(ユニットI/O番号 “ ActIOnumber ” のみで指定)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>プロパティ値</th><th>内 容</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0x00</td><td>ユニット番号を有効にする。</td></tr> <tr> <td>0x01</td><td>ユニット番号を無効にする。</td></tr> </tbody> </table>	プロパティ値	内 容	0x00	ユニット番号を有効にする。	0x01	ユニット番号を無効にする。
プロパティ値	内 容						
0x00	ユニット番号を有効にする。						
0x01	ユニット番号を無効にする。						
ActDsidPropertyBit (LONG)	<p>マルチドロップ接続 (Qシリーズ対応C24・CC-Link経由) 時, 下記設定を無効にすることで “ ActDestinationIOnumber ” を指定する必要がなくなる。</p> <p>ただし, 下記設定を無効とする場合は “ ActDidPropertyBit ” は必ず有効とする。 (“ ActUnitNumber ” で指定する。)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>プロパティ値</th><th>内 容</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0x00</td><td>最終アクセス対象局のI/O番号を有効にする。</td></tr> <tr> <td>0x01</td><td>最終アクセス対象局のI/O番号を無効にする。</td></tr> </tbody> </table>	プロパティ値	内 容	0x00	最終アクセス対象局のI/O番号を有効にする。	0x01	最終アクセス対象局のI/O番号を無効にする。
プロパティ値	内 容						
0x00	最終アクセス対象局のI/O番号を有効にする。						
0x01	最終アクセス対象局のI/O番号を無効にする。						
ActPacketType (LONG)	<p>Aシリーズ, QnAシリーズ用Ethernetユニットと通信するときのパケットタイプを指定する。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>プロパティ値 (プロパティウィンドウ入力値)</th><th>内 容</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>PACKET_ASCII (2)</td><td>アスキーパケット</td></tr> <tr> <td>PACKET_BINARY (3)</td><td>バイナリパケット</td></tr> </tbody> </table>	プロパティ値 (プロパティウィンドウ入力値)	内 容	PACKET_ASCII (2)	アスキーパケット	PACKET_BINARY (3)	バイナリパケット
プロパティ値 (プロパティウィンドウ入力値)	内 容						
PACKET_ASCII (2)	アスキーパケット						
PACKET_BINARY (3)	バイナリパケット						
ActPassword (BSTR)	<p>A6TEL, Q6TEL, Qシリーズ対応C24, Qシリーズ対応CM0およびQシリーズ対応E71に設定されたパスワードロックを解除するために, 設定されたパスワードを指定する。^{*1} 4文字まで設定可能。^{*2}</p> <p>ActEasyIF, ActMLEasyIFコントロール使用時に, 通信対象がA6TEL, Q6TEL, Qシリーズ対応C24, Qシリーズ対応CM0およびQシリーズ対応E71以外の場合は無視される。</p> <p>英数字以外の文字を指定した場合は, Open時に文字コード変換エラー (0xF1000001) となる。</p>						

*1: A6TEL, Q6TEL, Qシリーズ対応C24, Qシリーズ対応CM0およびQシリーズ対応E71にパスワードが設定されていない場合, ActPasswordの設定は必要ありません。

*2: 設定文字数を越えた文字を入力した場合, 設定範囲を越えた文字は無視されます。

プロパティ名 (型)	内 容																		
ActConnectWay(LONG)	<p>接続方式を設定する。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>プロパティ値 (プロパティウィンドウ入力値)</th><th>接続方式 *3</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>TEL_AUTO_CONNECT (0x00)</td><td>自 動</td></tr> <tr> <td>TEL_AUTO_CALLBACK (0x01)</td><td>自動 (コールバック固定時)</td></tr> <tr> <td>TEL_AUTO_CALLBACK_NUMBER (0x02)</td><td>自動 (コールバック番号指定時)</td></tr> <tr> <td>TEL_CALLBACK (0x03)</td><td>コールバック接続 (固定時)</td></tr> <tr> <td>TEL_CALLBACK_NUMBER (0x04)</td><td>コールバック接続 (番号指定時)</td></tr> <tr> <td>TEL_CALLBACK_REQUEST (0x05)</td><td>コールバック要求 (固定時)</td></tr> <tr> <td>TEL_CALLBACK_REQUEST_NUMBER (0x06)</td><td>コールバック要求 (番号指定時)</td></tr> <tr> <td>TEL_CALLBACK_WAIT (0x07)</td><td>コールバック受信待ち</td></tr> </tbody> </table>	プロパティ値 (プロパティウィンドウ入力値)	接続方式 *3	TEL_AUTO_CONNECT (0x00)	自 動	TEL_AUTO_CALLBACK (0x01)	自動 (コールバック固定時)	TEL_AUTO_CALLBACK_NUMBER (0x02)	自動 (コールバック番号指定時)	TEL_CALLBACK (0x03)	コールバック接続 (固定時)	TEL_CALLBACK_NUMBER (0x04)	コールバック接続 (番号指定時)	TEL_CALLBACK_REQUEST (0x05)	コールバック要求 (固定時)	TEL_CALLBACK_REQUEST_NUMBER (0x06)	コールバック要求 (番号指定時)	TEL_CALLBACK_WAIT (0x07)	コールバック受信待ち
プロパティ値 (プロパティウィンドウ入力値)	接続方式 *3																		
TEL_AUTO_CONNECT (0x00)	自 動																		
TEL_AUTO_CALLBACK (0x01)	自動 (コールバック固定時)																		
TEL_AUTO_CALLBACK_NUMBER (0x02)	自動 (コールバック番号指定時)																		
TEL_CALLBACK (0x03)	コールバック接続 (固定時)																		
TEL_CALLBACK_NUMBER (0x04)	コールバック接続 (番号指定時)																		
TEL_CALLBACK_REQUEST (0x05)	コールバック要求 (固定時)																		
TEL_CALLBACK_REQUEST_NUMBER (0x06)	コールバック要求 (番号指定時)																		
TEL_CALLBACK_WAIT (0x07)	コールバック受信待ち																		
ActATCommand(BSTR)	<p>モデムを初期化するATコマンドを指定する。 何も設定しない (プロパティ値を入力しない) 場合は、モデム標準のATコマンドを使用する。 70文字まで設定可能 *2。</p>																		
ActDialNumber(BSTR)	<p>電話番号を指定する。 50文字まで設定可能 *2。 (設定可能文字: 0, 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, -, *, #)</p>																		
ActOutsideLineNumber(BSTR)	<p>外線発信番号を指定する。 半角10文字まで設定可能 *2。 (設定可能文字: 0, 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, -, *, #)</p>																		
ActCallbackNumber(BSTR)	<p>コールバック用の電話番号を指定する。 62文字まで設定可能 *2。 (設定可能文字: 0, 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, -, *, #) 接続方式 (ActConnectWay) が自動 (コールバック番号指定時), コールバック接続 (番号指定時) およびコールバック要求 (番号指定時) 以外の接続方式は設定必要なし。</p>																		
ActLineType(LONG)	<p>回線種別を認識する。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>プロパティ値 (プロパティウィンドウ入力値)</th><th>内 容</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>LINETYPE_PULSE (0x00)</td><td>パルス (ダイヤル回線)</td></tr> <tr> <td>LINETYPE_TONE (0x01)</td><td>トーン (プッシュ回線)</td></tr> <tr> <td>LINETYPE_ISDN (0x02)</td><td>ISDN (ISDN回線)</td></tr> </tbody> </table>	プロパティ値 (プロパティウィンドウ入力値)	内 容	LINETYPE_PULSE (0x00)	パルス (ダイヤル回線)	LINETYPE_TONE (0x01)	トーン (プッシュ回線)	LINETYPE_ISDN (0x02)	ISDN (ISDN回線)										
プロパティ値 (プロパティウィンドウ入力値)	内 容																		
LINETYPE_PULSE (0x00)	パルス (ダイヤル回線)																		
LINETYPE_TONE (0x01)	トーン (プッシュ回線)																		
LINETYPE_ISDN (0x02)	ISDN (ISDN回線)																		
ActConnectionCDWaitTime(LONG)	<p>回線接続CD信号確認時間。 回線の確立時にCD信号線のON/OFFを監視する時間を設定する。 (設定範囲: 1~999, 単位: s) 回線接続する地域 (例: 海外) によって設定時間内にCD信号がONしない場合は設定時間を延ばす。</p>																		
ActConnectionModemReportWaitTime(LONG)	<p>回線接続モデム待ち時間。 回線接続後のモデムからのリザルトコード応答に対する待ち時間を設定する。 (設定範囲: 1~999, 単位: s) モデムの応答速度が遅い場合は設定時間を延ばす。</p>																		
ActDisconnectionCDWaitTime(LONG)	<p>回線切断CD信号確認時間。 回線の切断時にCD信号線のON/OFFを監視する時間を設定する。 (設定範囲: 1~999, 単位: s) 回線接続する地域 (例: 海外) によって設定時間内にCD信号がOFFしない場合は設定時間を延ばす。</p>																		

*2: 設定文字数を超えた文字を入力した場合, 設定範囲を超えた文字は無視される。

*3: ActA6TELコントロール, ActQ6TELコントロール, ActFXCPUTELコントロールおよびActAJ71QC24TELコントロールは“自動”のみ選択可能です。

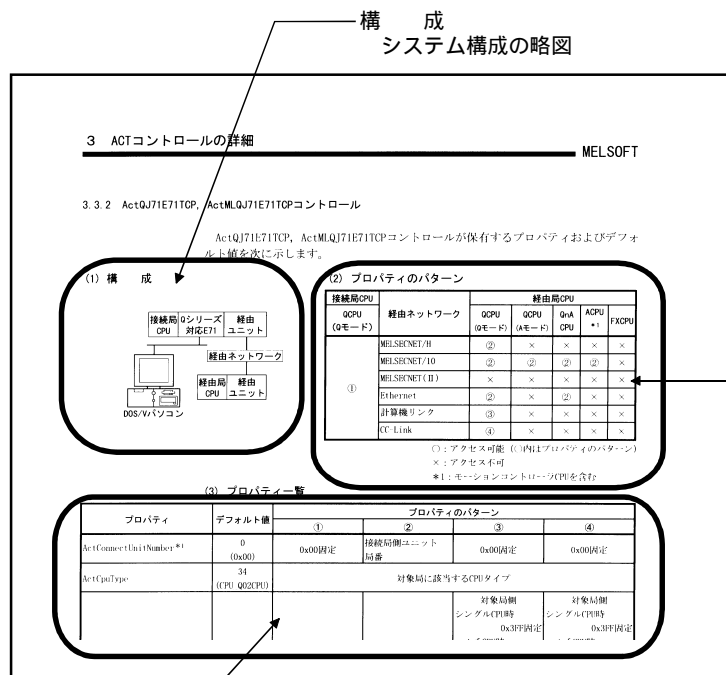
ActQJ71C24TELコントロール使用時の接続方式の詳細については“付1 コールバック機能の接続方式について”を参照してください。

プロパティ名 (型)	内 容
ActDisconnectionDelayTime(LONG)	回線切断遅延時間。 モデムに対して送信するエスケープコマンドのガードタイム（無通信時間）を設定する。 （設定範囲：1～999，単位：s） モデムの応答速度が遅い場合は設定時間を延ばす。
ActTransmissionDelayTime(LONG)	データ送信遅延時間。 ATコマンドを送信する前に設ける時間を設定する。（設定範囲：0～999，単位：s） 正しいATコマンドを設定したにも関わらずエラーコード(0xF2100008)が返ってくる場合は設定時間を延ばす。 モデムの応答速度が遅い場合は設定時間を延ばす。
ActATCommandResponseWaitTime(LONG)	ATコマンド送信レスポンス待ち時間。（設定範囲：1～999，単位：s） モデムの応答速度が遅い場合は設定時間を延ばす。
ActPasswordCancelResponseWaitTime(LONG)	パスワード解除レスポンス待ち時間。（設定範囲：1～999，単位：s） 相手先との回線品質が悪い場合は設定時間を延ばす。
ActATCommandPasswordCancelRetryTimes(LONG)	ATコマンド/パスワード解除送信リトライ回数。（設定範囲：1～999，単位：回）
ActCallbackCancelWaitTime(LONG)	コールバック回線切断待ち時間。（設定範囲：1～180，単位：s） 回線接続する地域（例：海外）によって相手先（Qシリーズ対応C24およびQシリーズ対応CM0側）の回線が設定時間内に切断されない場合は設定時間を延ばす。 接続方式（ActConnectWay）がコールバック接続およびコールバック要求以外の接続方式は設定必要なし。
ActCallbackDelayTime(LONG)	コールバック実施遅延時間。（設定範囲：1～999，単位：s） 回線への接続を中継する機器（例：モデムなど）が、回線の切断後の再接続に一定時間をあける必要がある場合は設定時間を延ばす。 接続方式（ActConnectWay）がコールバック接続およびコールバック要求以外の接続方式は設定必要なし。
ActCallbackReceptionWaitingTimeOut(LONG)	コールバック受信待ち用タイムアウト時間。（設定範囲：1～3600，単位：s） コールバック受信待ちの状態で、Qシリーズ対応C24およびQシリーズ対応CM0からの電話回線接続の要求を待つ時間を設定する。 設定時間を経過するとコールバック受信待ちの状態をやめ、電話回線の接続が完了しなかったためConnect関数は異常終了する。 接続方式（ActConnectWay）がコールバック受信待ち以外の接続方式は設定必要なし。

3.3 各ACTコントロールが保有するプロパティ一覧

各ACTコントロールが保有するプロパティの一覧およびデフォルト値を説明します。
下記に3.3.1項から3.3.34項までのマニュアルの見方を示します。

<3.3.1項から3.3.34項までのマニュアルの見方>



プロパティのパターン
使用するコントロールのアクセス可能範囲
およびプロパティのパターンを示しています。

プロパティ一覧

- (1) プロパティ
プロパティ名を記載しています。
- (2) デフォルト値
・プロパティのデフォルト値を記載しています。
・プログラム内部でプロパティを変更する際のデフォルト値は、
“() ” カッコ書きで記載しています。
- (3) プロパティのパターン
通信設定を行う際に必要な、プロパティの設定
内容を記載しています。
プロパティのパターン番号は、“プロパティのパターン表”を
参照してください。

ポイント

デフォルト値は、Visual Basic® または Visual C++® のプロパティウィンドウに表示されているプロパティ値を記載しています。
プログラム内部でプロパティ値を変更する際、10進数以外の値で変更を行わなければならないプロパティのデフォルト値はカッコ書きで記載しています。

3.3.1 ActEasyIF, ActMLEasyIFコントロール

ActEasyIF, ActMLEasyIFコントロールが保有するプロパティおよびデフォルト値を次に示します。

プロパティ	デフォルト値	プロパティのパターン
ActLogicalStationNumber	0	通信設定ユーティリティで設定した論理局番
ActPassword*1	あき	接続局側のA6TEL, Q6TEL, Qシリーズ対応C24, Qシリーズ対応CMOおよびQシリーズ対応E71に設定されたパスワード

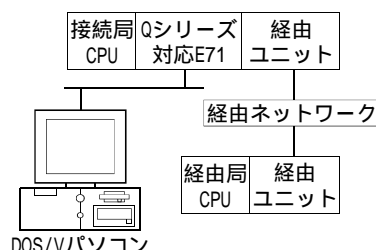
*1: パスワードが設定されていない場合, ActPasswordの設定は必要ありません。

ポイント
通信経路(Ethernet通信, MELSECNET/10通信など)によって, 各通信経路用コントロールと同様の制約が発生します。 制約事項は, 各通信経路のコントロール(3.3.2項~3.3.34項)を参照ください。

3.3.2 ActQJ71E71TCP, ActMLQJ71E71TCPコントロール

ActQJ71E71TCP, ActMLQJ71E71TCPコントロールが保有するプロパティおよびデフォルト値を次に示します。

(1) 構成



(2) プロパティのパターン

接続局CPU QCPU (Qモード)	経路ネットワーク	経路局CPU				
		QCPU (Qモード)	QCPU (Aモード)	QnA CPU	ACPU *1	FXCPU
	MELSECNET/H		×	×	×	×
	MELSECNET/10					×
	MELSECNET()	×	×	×	×	×
	Ethernet		×		×	×
	計算機リンク	*2	×	×	×	×
	CC-Link					×

：アクセス可能（内はプロパティのパターン）

×：アクセス不可

*1：モーションコントローラCPUを含む

*2：二重化CPUの場合は、アクセス不可

(3) プロパティ一覧

プロパティ	デフォルト値	プロパティのパターン			
ActConnectUnitNumber *3	0 (0x00)	0x00固定	接続局側ユニット 局番	0x00固定	0x00固定
ActCpuType	34 (CPU_Q02CPU)	対象局に該当するCPUタイプ			
ActDestinationIONumber	0 (0x00)	0x00固定	0x00固定	対象局側 シングルCPU時 0x3FF固定 マルチCPU時 接続号機：0x3FF 1号機：0x3E0 2号機：0x3E1 3号機：0x3E2 4号機：0x3E3	対象局側 シングルCPU時 0x3FF固定 マルチCPU時 接続号機：0x3FF 1号機：0x3E0 2号機：0x3E1 3号機：0x3E2 4号機：0x3E3 二重化CPU時 対象局側 制御系：0x3D0 指定なし：0x3FF
ActDestinationPortNumber	5002 (0x138A)	MELSOFT接続時5002 OPS接続時 任意のポートNo. *4			
ActDidPropertyBit	1 (0x01)	0x01固定	0x01固定	0x00固定	0x00固定
ActDsidPropertyBit	1 (0x01)	0x01固定	0x01固定	0x00固定	0x00固定
ActHostAddress	1.1.1.1	接続局側ユニットのホスト名またはIPアドレス			

*3：MELSECNET/10経由の他局アクセス（プロパティのパターンが ）の場合は、接続局側Qシリーズ対応E71のEthernetパラメータで設定した接続局側Qシリーズ対応E71の局番を指定してください。

*4：二重化CPU接続時にOPS接続の機能を使用する場合は、ネットワークパラメータに指定した任意のポートNo.を指定してください。
（設定範囲は、1025 ポートNo. 4999または5003 ポートNo. 65534）

（次ページへ）

プロパティ	デフォルト値	プロパティのパターン			
ActIONumber ^{*5}	1023 (0x3FF)	シングルCPU時 0x3FF固定 マルチCPU時 接続号機：0x3FF 1号機：0x3E0 2号機：0x3E1 3号機：0x3E2 4号機：0x3E3 二重化CPU時 制御系：0x3D0 指定なし：0x3FF	対象局側 シングルCPU時 0x3FF固定 マルチCPU時 接続号機：0x3FF 1号機：0x3E0 2号機：0x3E1 3号機：0x3E2 4号機：0x3E3 二重化CPU時 対象局側 制御系：0x3D0 指定なし：0x3FF	接続局側経由ユニットI/Oアドレス	接続局側経由ユニットI/Oアドレス
ActMultiDropChannelNumber	0 (0x00)	0x00固定	0x00固定	0x00または0x02 ^{*9}	0x00固定
ActNetworkNumber ^{*6}	1 (0x01)	対象局側ユニットのネットワークNo.	対象局側ユニットのネットワークNo.	接続局側Qシリーズ対応E71ネットワークNo.	接続局側Qシリーズ対応E71ネットワークNo.
ActPassword	あき	接続局側のQシリーズ対応E71に設定されたパスワード			
ActSourceNetworkNumber ^{*7}	1 (0x01)	DOS/Vパソコン側ネットワークNo.			
ActSourceStationNumber ^{*8}	2 (0x02)	DOS/Vパソコン側局番			
ActStationNumber ^{*6}	1 (0x01)	対象局側ユニット局番	対象局側ユニット局番	接続局側Qシリーズ対応E71局番	接続局側Qシリーズ対応E71局番
ActThroughNetworkType	0 (0x00)	QCPU (Qモード) : 0x00 (MELSECNET/Hのみ), QCPU (Qモード) 以外 : 0x01 (MELSECNET/10を含む)。ただし, GPP機能のネットワークパラメータの内容と同一にする。			
ActTimeOut	10000	ms単位でユーザ任意			
ActUnitNumber	0 (0x00)	0x00固定	0x00固定	対象局側ユニット局番	対象局側ユニット局番

*5 : I/Oアドレスは、実際のI/O先頭No.を16で割った値を指定してください。

*6 : プロパティのパターンが または の場合、ActNetworkNumberおよびActStationNumberは対象局側のパラメータで設定した値を指定してください。

*7 : 対象局側Qシリーズ対応E71のEthernetパラメータ設定で、Qシリーズ対応E71に設定したMELSECNET/10用ネットワークNo.と同一のネットワークNo.を指定してください。

*8 : Ethernetの同一ループ内でのQシリーズ対応E71に設定した局番と重複しないように、DOS/Vパソコン側の局番を指定してください。

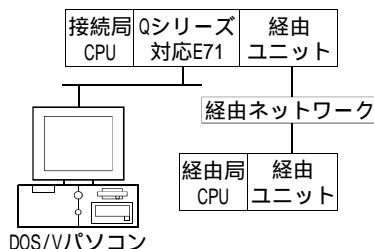
*9 : 下記の条件をすべて満たす場合は、ActMultiDropChannelNumberの値を0x00にしてください。

- ・接続しているQシリーズ対応E71にリモートパスワードが設定されている。
- ・接続しているQシリーズ対応E71のバージョンがJ以前である。

3.3.3 ActQJ71E71UDP, ActMLQJ71E71UDPコントロール

ActQJ71E71UDP, ActMLQJ71E71UDPコントロールが保有するプロパティおよびデフォルト値を次に示します。

(1) 構成



(2) プロパティのパターン

接続局CPU QCPU (Qモード)	経路ネットワーク	経路局CPU				
		QCPU (Qモード)	QCPU (Aモード)	QnA CPU	ACPU *1	FXCPU
	MELSECNET/H		×	×	×	×
	MELSECNET/10					×
	MELSECNET()	×	×	×	×	×
	Ethernet		×		×	×
	計算機リンク	*2	×	×	×	×
	CC-Link					×

：アクセス可能（内はプロパティのパターン）

×：アクセス不可

*1：モーションコントローラCPUを含む

*2：二重化CPUの場合は、アクセス不可

(3) プロパティ一覧

プロパティ	デフォルト値	プロパティのパターン			
ActConnectUnitNumber *3	0 (0x00)	0x00固定	接続局側ユニット 局番	0x00固定	0x00固定
ActCpuType	34 (CPU_Q02CPU)	対象局に該当するCPUタイプ			
ActDestinationIONumber	0 (0x00)	0x00固定	0x00固定	対象局側 シングルCPU時 0x3FF固定	対象局側 シングルCPU時 0x3FF固定
				マルチCPU時 接続号機：0x3FF 1号機：0x3E0 2号機：0x3E1 3号機：0x3E2 4号機：0x3E3	マルチCPU時 接続号機：0x3FF 1号機：0x3E0 2号機：0x3E1 3号機：0x3E2 4号機：0x3E3
				二重化CPU時 対象局側 制御系：0x3D0 指定なし：0x3FF	
ActDidPropertyBit	1 (0x01)	0x01固定	0x01固定	0x00固定	0x00固定
ActDsidPropertyBit	1 (0x01)	0x01固定	0x01固定	0x00固定	0x00固定
ActHostAddress	1.1.1.1	接続局側ユニットのホスト名またはIPアドレス			

*3：MELSECNET/10経由の他局アクセス（プロパティのパターンが ）の場合は、接続局側Qシリーズ対応E71のEthernetパラメータで設定した接続局側Qシリーズ対応E71の局番を指定してください。

(次ページへ)

プロパティ	デフォルト値	プロパティのパターン			
ActIONumber ^{*4}	1023 (0x3FF)	シングルCPU時 0x3FF固定 マルチCPU時 接続号機：0x3FF 1号機：0x3E0 2号機：0x3E1 3号機：0x3E2 4号機：0x3E3 二重化CPU時 制御系：0x3D0 指定なし：0x3FF	対象局側 シングルCPU時 0x3FF固定 マルチCPU時 接続号機：0x3FF 1号機：0x3E0 2号機：0x3E1 3号機：0x3E2 4号機：0x3E3 二重化CPU時 対象局側 制御系：0x3D0 指定なし：0x3FF	接続局側経由ユニットI/Oアドレス	接続局側経由ユニットI/Oアドレス
ActMultiDropChannelNumber	0 (0x00)	0x00固定	0x00固定	0x00または0x02 ^{*9}	0x00固定
ActNetworkNumber ^{*5}	1 (0x01)	対象局側ユニットのネットワークNo.	対象局側ユニットのネットワークNo.	接続局側Qシリーズ対応E71ネットワークNo.	接続局側Qシリーズ対応E71ネットワークNo.
ActPassword	あき	接続局側のQシリーズ対応E71に設定されたパスワード			
ActPortNumber ^{*7}	5001	DOS/Vパソコン側ポート番号			
ActSourceNetworkNumber ^{*6}	1 (0x01)	DOS/Vパソコン側ネットワークNo.			
ActSourceStationNumber ^{*8}	2 (0x02)	DOS/Vパソコン側局番			
ActStationNumber ^{*5}	1 (0x01)	対象局側ユニット局番	対象局側ユニット局番	接続局側Qシリーズ対応E71局番	接続局側Qシリーズ対応E71局番
ActThroughNetworkType	0 (0x00)	QCPU (Qモード) : 0x00 (MELSECNET/Hのみ), QCPU (Qモード) 以外 : 0x01 (MELSECNET/10を含む)。ただし, GPP機能のネットワークパラメータの内容と同一にする。			
ActTimeOut	10000	ms単位でユーザ任意			
ActUnitNumber	0 (0x00)	0x00固定	0x00固定	対象局側ユニット局番	対象局側ユニット局番

*4 : I/Oアドレスは、実際のI/O先頭No.を16で割った値を指定してください。

*5 : プロパティのパターンが または の場合、ActNetworkNumberおよびActStationNumberは対象局側のパラメータで設定した値を指定してください。

*6 : 対象局側Qシリーズ対応E71のEthernetパラメータ設定で、Qシリーズ対応E71に設定したMELSECNET/10用ネットワークNo.と同一のネットワークNo.を指定してください。

*7 : ActPortNumberの1～1024までは使用しないでください。

*8 : Ethernetの同一ループ内でのQシリーズ対応E71に設定した局番と重複しないように、DOS/Vパソコン側の局番を指定してください。

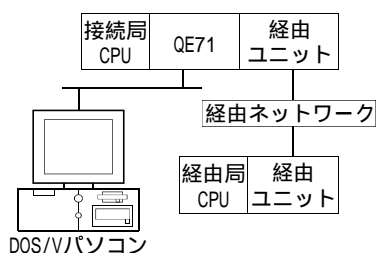
*9 : 下記の条件をすべて満たす場合は、ActMultiDropChannelNumberの値を0x00にしてください。

- ・接続しているQシリーズ対応E71にリモートパスワードが設定されている。
- ・接続しているQシリーズ対応E71のバージョンがJ以前である。

3.3.4 ActAJ71QE71TCP, ActMLAJ71QE71TCPコントロール

ActAJ71QE71TCP, ActMLAJ71QE71TCPコントロールが保有するプロパティおよびデフォルト値を次に示します。

(1) 構成



(2) プロパティのパターン

接続局CPU QnACPU	経路ネットワーク	経路局CPU				
		QCPU (Qモード)	QCPU (Aモード)	QnA CPU	ACPU *1	FXCPU
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×
	MELSECNET/10	×	×		×	×
	MELSECNET()	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×
	計算機リンク	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×

：アクセス可能（内はプロパティのパターン）

×：アクセス不可

*1：モーションコントローラCPUを含む

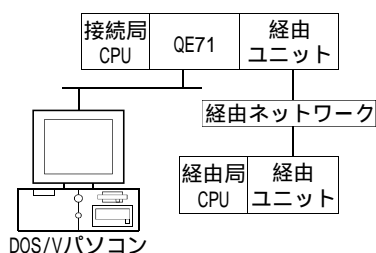
(3) プロパティ一覧

プロパティ	デフォルト値	プロパティのパターン	
ActCpuTimeOut	40	250ms単位でユーザ任意	
ActCpuType	17 (CPU_Q2ACPU)	対象局に該当するCPUタイプ	
ActDestinationPortNumber	1280 (0x500)	接続局側ユニットのポートNo.	
ActHostAddress	1.1.1.1	接続局側ユニットのホスト名またはIPアドレス	
ActNetworkNumber	0 (0x00)	0x00	対象局側ユニットネットワークNo.
ActPacketType	2 (PACKET_ASCII)	PACKET_BINARYまたはPACKET_ASCII	
ActStationNumber	255 (0xFF)	0xFF	対象局側ユニット局番
ActTimeOut	10000	ms単位でユーザ任意	

3.3.5 ActAJ71QE71UDP, ActMLAJ71QE71UDPコントロール

ActAJ71QE71UDP, ActMLAJ71QE71UDPコントロールが保有するプロパティおよびデフォルト値を次に示します。

(1) 構成



(2) プロパティのパターン

接続局CPU	経路ネットワーク	経路局CPU				
		QCPU (Qモード)	QCPU (Aモード)	QnA CPU	ACPU *1	FXCPU
QnACPU	MELSECNET/H	×	×	×	×	×
	MELSECNET/10	×	×		×	×
	MELSECNET()	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×		×	×
	計算機リンク	×	×		×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×

：アクセス可能（ 内はプロパティのパターン）

×：アクセス不可

*1：モーションコントローラCPUを含む

(3) プロパティ一覧

プロパティ	デフォルト値	プロパティのパターン		
ActConnectUnitNumber *2	0 (0x00)	0x00固定	接続局側ユニット局番	0x00固定
ActCpuType	17 (CPU_Q2ACPU)	対象局に該当するCPUタイプ		
ActHostAddress	1.1.1.1	接続局側ユニットのホスト名またはIPアドレス		
ActIIONumber *8	1023 (0x3FF)	0x3FF固定	0x3FF固定	接続局側経路ユニット I/Oアドレス
ActNetworkNumber *3	1 (0x01)	対象局側ユニット ネットワークNo.	対象局側ユニット ネットワークNo.	接続局側QE71 ネットワークNo.
ActPortNumber *4 *7	5001	DOS/Vパソコン側ポートNo.		
ActSourceNetworkNumber *5	1 (0x01)	DOS/Vパソコン側ネットワークNo.		
ActSourceStationNumber *6	2 (0x02)	DOS/Vパソコン側局番		
ActStationNumber *3	1 (0x01)	対象局側ユニット局番	対象局側ユニット局番	接続局側QE71局番
ActTimeOut	10000	ms単位でユーザ任意		
ActUnitNumber	0 (0x00)	0x00固定	0x00固定	対象局側ユニット局番

*2：MELSECNET/10経由の他局アクセス（プロパティパターンが ）の場合，接続局側QE71のEthernetパラメータ設定で設定した接続局側QE71の局番を指定してください。

*3：プロパティのパターンが または の場合，ActNetworkNumberおよびActStationNumberは対象局側のパラメータ設定で設定した値を指定してください。

*4：接続局側QE71のEthernetパラメータ設定内容が「自動応答方式」以外の場合，“5001”固定で指定してください。

接続局側QE71のEthernetパラメータ設定内容が「自動応答方式」の場合，“0”固定で指定してください。

*5：対象局側QE71のEthernetパラメータ設定で，QE71に設定したMELSECNET/10用ネットワークNo.と同一のネットワークNo.を指定してください。

*6：Ethernetの同一ループ内でのQE71に設定した局番と重複しないように，DOS/Vパソコン側の局番を指定してください。

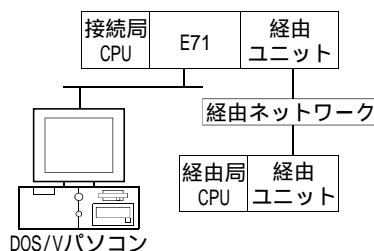
*7：ActPortNumberの1～1024までは使用しないでください。

*8：I/Oアドレスは，実際のI/O先頭No.を16で割った値を指定してください。

3.3.6 ActAJ71E71TCP, ActMLAJ71E71TCPコントロール

ActAJ71E71TCP, ActMLAJ71E71TCPコントロールが保有するプロパティおよびデフォルト値を次に示します。

(1) 構成



(2) プロパティのパターン

接続局CPU			経路ネットワーク	経路局CPU				
QCPU (Aモード)	QnACPU	ACPU *1		QCPU (Qモード)	QCPU (Aモード)	QnACPU	ACPU *1	FXCPU
	*2		MELSECNET/H	×	×	×	×	×
			MELSECNET/10	×		*2		×
			MELSECNET()	×		*2		×
			Ethernet	×	×	×	×	×
			計算機リンク	×	×	×	×	×
			CC-Link	×	×	×	×	×

：アクセス可能 (内はプロパティのパターン)

×：アクセス不可

*1：モーションコントローラCPUを含む。

*2：AnACPU相当として動作する。

(3) プロパティ一覧

プロパティ	デフォルト値	プロパティのパターン	
ActCpuTimeOut	40	250ms単位でユーザ任意	
ActCpuType	262 (CPU_A1NCPU)	対象局に該当するCPUタイプ	
ActDestinationPortNumber	1280 (0x500)	接続局側ユニットのポートNo.	
ActHostAddress	1.1.1.1	接続局側ユニットのホスト名またはIPアドレス	
ActPacketType	2 (PACKET_ASCII)	PACKET_BINARYまたはPACKET_ASCII	
ActStationNumber *3	255 (0xFF)	0xFF固定	対象局側ユニット局番
ActTimeOut	10000	ms単位でユーザ任意	

*3：接続局側のMELSECNET/10ユニットが管理局/通常局により下記の点に注意してください。

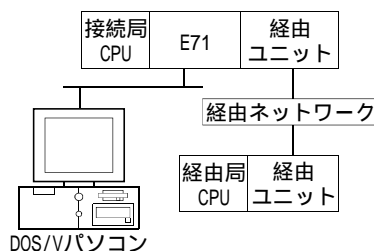
接続局側のMELSECNET/10ユニットが管理局の場合・・・対象局側MELSECNET/10ユニットの実際の局番をActStationNumberに指定してください。

接続局側のMELSECNET/10ユニットが通常局の場合・・・対象局側MELSECNET/10ユニットは必ず管理局とし、ActStationNumberに“0x00”を指定してください。

3.3.7 ActAJ71E71UDP, ActMLAJ71E71UDPコントロール

ActAJ71E71UDP, ActMLAJ71E71UDPコントロールが保有するプロパティおよびデフォルト値を次に示します。

(1) 構成



(2) プロパティのパターン

接続局CPU			経由ネットワーク	経由局CPU				
QCPU (Aモード)	QnACPU	ACPU *1		QCPU (Qモード)	QCPU (Aモード)	QnACPU	ACPU *1	FXCPU
	*2		MELSECNET/H	×	×	×	×	×
			MELSECNET/10	×		*2		×
			MELSECNET()	×		*2		×
			Ethernet	×	×	×	×	×
			計算機リンク	×	×	×	×	×
			CC-Link	×	×	×	×	×

：アクセス可能 (内はプロパティのパターン)

×：アクセス不可

*1：モーションコントローラCPUを含む。

*2：AnACPU相当として動作する。

(3) プロパティ一覧

プロパティ	デフォルト値	プロパティのパターン	
ActCpuTimeOut	40	250ms単位でユーザ任意	
ActCpuType	262 (CPU_A1NCPU)	対象局に該当するCPUタイプ	
ActDestinationPortNumber	1280 (0x500)	接続局側ユニットのポートNo.	
ActHostAddress	1.1.1.1	接続局側ユニットのホスト名またはIPアドレス	
ActPacketType	3 (PACKET_BINARY)	PACKET_BINARYまたはPACKET_ASCII	
ActPortNumber*3	0	DOS/Vパソコン側ポートNo.	
ActStationNumber*4	255 (0xFF)	0xFF固定	対象局側ユニット局番
ActTimeOut	10000	ms単位でユーザ任意	

*3：0・・・DOS/Vパソコンの空きポート番号を自動で割当てる。

0以外・・・指定ポート番号を使用してUDPソケットを生成する。

ActPortNumberの1～1024までは使用しないでください。

*4：接続局側のMELSECNET/10ユニットが管理局/通常局により下記の点に注意してください。

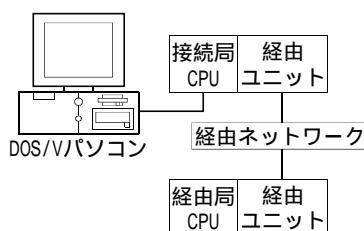
接続局側のMELSECNET/10ユニットが管理局の場合・・・対象局側MELSECNET/10ユニットの実際の局番をActStationNumberに指定してください。

接続局側のMELSECNET/10ユニットが通常局の場合・・・対象局側MELSECNET/10ユニットは必ず管理局とし、ActStationNumberに“0x00”を指定してください。

3.3.8 ActQCPUQ, ActMLQCPUQコントロール

ActQCPUQ, ActMLQCPUQコントロールが保有するプロパティおよびデフォルト値を次に示します。

(1) 構成



(2) プロパティのパターン

接続局CPU QCPU (Qモード)	経路ネットワーク	経路局CPU				
		QCPU (Qモード)	QCPU (Aモード)	QnA CPU	ACPU *1	FXCPU
	MELSECNET/H		×	×	×	×
	MELSECNET/10					×
	MELSECNET()	×	×	×	×	×
	Ethernet		×		×	×
	計算機リンク	*3	×		×	×
	CC-Link		*2	*2	*2	×

：アクセス可能（内はプロパティのパターン）

×：アクセス不可

*1：モーションコントローラCPUを含む

*2：QnA, ACP側CC-LinkユニットはROMバージョン
“S”以降を使用。

*3：二重化CPUの場合は、アクセス不可

(3) プロパティ一覧

プロパティ	デフォルト値	プロパティのパターン			
		*2			
ActBaudRate	19200 (BAUDRATE_19200)	BAUDRATE_9600, BAUDRATE_19200, BAUDRATE_38400, BAUDRATE_57600, BAUDRATE_115200			
ActControl	8 (TRC_DTR_OR_RTS)	使用ケーブルによる			
ActCpuType	34 (CPU_Q02CPU)	対象局に該当するCPUタイプ			
ActDestinationIONumber	0 (0x00)	0x00固定	0x00固定	対象局側 シングルCPU時 0x3FF固定 マルチCPU時 接続号機：0x3FF 1号機：0x3E0 2号機：0x3E1 3号機：0x3E2 4号機：0x3E3	対象局側 シングルCPU時 0x3FF固定 マルチCPU時 接続号機：0x3FF 1号機：0x3E0 2号機：0x3E1 3号機：0x3E2 4号機：0x3E3 二重化CPU時 対象局側 制御系：0x3D0 指定なし：0x3FF
ActDidPropertyBit	1 (0x01)	0x01固定	0x01固定	0x00固定	0x00固定
ActDisdPropertyBit	1 (0x01)	0x01固定	0x01固定	0x00固定	0x00固定

(次ページへ)

プロパティ	デフォルト値	プロパティのパターン			
		*5			
ActIntelligentPreferenceBit	0 (0x00)	0x00固定	0x00固定	0x01 (対象局がQCPU (Qモード)), 0x00 (対象局がQCPU (Qモード)以外)	0x01 (対象局がQCPU (Qモード)), 0x00 (対象局がQCPU (Qモード)以外)
ActIOnumber *4	1023 (0x3FF)	シングルCPU時 0x3FF固定 マルチCPU時 接続号機: 0x3FF 1号機: 0x3E0 2号機: 0x3E1 3号機: 0x3E2 4号機: 0x3E3 二重化CPU時 制御系: 0x3D0 指定なし: 0x3FF	対象局側 シングルCPU時 0x3FF固定 マルチCPU時 接続号機: 0x3FF 1号機: 0x3E0 2号機: 0x3E1 3号機: 0x3E2 4号機: 0x3E3 二重化CPU時 対象局側 制御系: 0x3D0 指定なし: 0x3FF	接続局側ユニット I/Oアドレス	接続局側ユニット I/Oアドレス
ActMultiDropChannelNumber	0 (0x00)	0x00固定	0x00固定	0x00または0x02	0x00固定
ActNetworkNumber	0 (0x00)	0x00固定	対象局側ユニット ネットワークNo.	0x00固定	0x00固定
ActPortNumber	1 (PORT_1)	DOS/Vパソコン側COMポートNo.			
ActStationNumber	255 (0xFF)	0xFF固定	対象局側ユニット 局番	0xFF固定	0xFF固定
ActThroughNetworkType	0 (0x00)	QCPU (Qモード): 0x00 (MELSECNET/Hのみ), QCPU (Qモード)以外: 0x01 (MELSECNET/10を含む)。ただし, GPP機能のネットワークパラメータの内容と同一にする。			
ActTimeOut	10000	ms単位でユーザ任意			
ActUnitNumber	0 (0x00)	0x00固定	0x00固定	対象局側ユニット 局番	対象局側ユニット 局番

*4: I/Oアドレスは、実際のI/O先頭No.を16で割った値を指定してください。

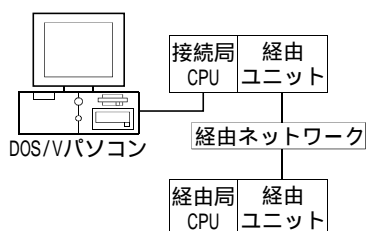
*5: Ethernetユニット (Qシリーズ対応E71, QE71) 経由のアクセスは、下記の事項に注意してください。

- ActNetworkNumber, ActStationNumberは、対象局側のQシリーズ対応E71, QE71のパラメータ設定で設定した値を指定してください。
- Qシリーズ対応E71, QE71のパラメータ設定の「局番↔IP関連情報」を設定してください。また、設定を行う際、「局番↔IP関連情報設定方式」は自動応答方式以外 (IPアドレス算出方式, テーブル変換方式, 併用方式のいずれか) を指定してください。

3.3.9 ActQCPUA, ActMLQCPUAコントロール

ActQCPUA, ActMLQCPUAコントロールが保有するプロパティおよびデフォルト値を次に示します。

(1) 構成



(2) プロパティのパターン

接続局CPU QCPU (Aモード)	経路ネットワーク	経路局CPU				
		QCPU (Qモード)	QCPU (Aモード)	QnA CPU	ACPU *1	FXCPU
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×
	MELSECNET/10	×		×		×
	MELSECNET()	×		×		×
	Ethernet	×	×	×	×	×
	計算機リンク	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×

：アクセス可能（内はプロパティのパターン）

×：アクセス不可

*1：モーションコントローラCPUを含む

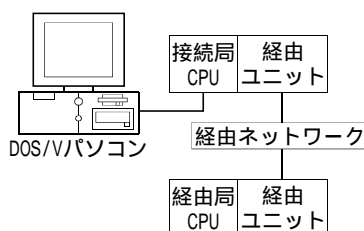
(3) プロパティ一覧

プロパティ	デフォルト値	プロパティのパターン		
ActBaudRate	9600 (BAUDRATE_9600)	BAUDRATE_9600, BAUDRATE_19200, BAUDRATE_38400, BAUDRATE_57600, BAUDRATE_115200		
ActControl	8 (TRC_DTR_OR_RTS)	使用ケーブルによる		
ActCpuType	321 (CPU_Q02CPU_A)	対象局に該当するCPUタイプ		
ActNetworkNumber	0 (0x00)	0x00固定	対象局側ユニットネットワークNo.	0x00固定
ActPortNumber	1 (PORT_1)	DOS/Vパソコン側COMポートNo.		
ActStationNumber	255 (0xFF)	0xFF固定	対象局側ユニット局番	対象局側ユニット局番
ActTimeOut	10000	ms単位でユーザ任意		

3.3.10 ActQnACPU, ActMLQnACPUコントロール

ActQnACPU, ActMLQnACPUコントロールが保有するプロパティおよびデフォルト値を次に示します。

(1) 構成



(2) プロパティのパターン

接続局CPU QnACPU	経路ネットワーク	経路局CPU				
		QCPU (Qモード)	QCPU (Aモード)	QnA CPU	ACPU *1	FXCPU
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×
	MELSECNET/10	×	×		×	×
	MELSECNET()	×	×		×	×
	Ethernet	×	×		×	×
	計算機リンク	×	×		×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×

：アクセス可能（内はプロパティのパターン）

×：アクセス不可

*1：モーションコントローラCPUを含む

(3) プロパティ一覧

プロパティ	デフォルト値	プロパティのパターン			
		*3			
ActBaudRate	19200 (BAUDRATE_19200)	BAUDRATE_9600, BAUDRATE_19200, BAUDRATE_38400 *4			
ActControl	8 (TRC_DTR_OR_RTS)	使用ケーブルによる			
ActCpuType	17 (CPU_Q2ACPU)	対象局に該当するCPUタイプ			
ActIONumber *2	1023 (0x3FF)	0x3FF固定	0x3FF固定	0x3FF固定	接続局側ユニット I/Oアドレス
ActNetworkNumber	0 (0x00)	0x00固定	対象局側ユニット ネットワークNo.	0x00固定	0x00固定
ActPortNumber	1 (PORT_1)	DOS/Vパソコン側COMポートNo.			
ActStationNumber	255 (0xFF)	0xFF固定	対象局側ユニット 局番	対象局側ユニット 局番	0xFF固定
ActTimeOut	10000	ms単位でユーザ任意			
ActUnitNumber	0 (0x00)	0x00固定	0x00固定	0x00固定	対象局側ユニット 局番

*2：I/Oアドレスは、実際のI/O先頭No.を16で割った値を指定してください。

*3：Ethernetユニット(QE71)経由のアクセスは、下記の事項に注意してください。

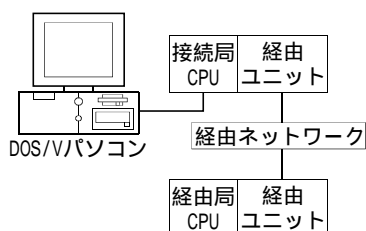
- ・ActNetworkNumber, ActStationNumberは、対象局側のQE71のパラメータ設定で設定した値を指定してください。
- ・QE71のパラメータ設定の「局番↔IP関連情報」を設定してください。また、設定を行う際、「局番↔IP関連情報設定方式」は自動応答方式以外（IPアドレス算出方式、テーブル変換方式、併用方式のいずれか）を指定してください。

*4：QnACPUバージョン9707B以降のみ使用可能です。

3.3.11 ActACPU, ActMLACPUコントロール

ActACPU, ActMLACPUコントロールが保有するプロパティおよびデフォルト値を次に示します。

(1) 構成



(2) プロパティのパターン

接続局CPU ACPU*1	経路ネットワーク	経路局CPU				
		QCPU (Qモード)	QCPU (Aモード)	QnA CPU	ACPU *1	FXCPU
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×
	MELSECNET/10	×		×		×
	MELSECNET()	×		×		×
	Ethernet	×	×	×	×	×
	計算機リンク	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×

：アクセス可能（内はプロパティのパターン）

×：アクセス不可

*1：モーションコントローラCPUを含む

(3) プロパティ一覧

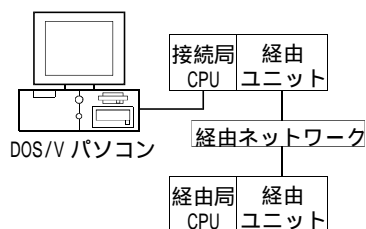
プロパティ	デフォルト値	プロパティのパターン		
ActBaudRate	9600 (BAUDRATE_9600)	BAUDRATE_9600固定*2		
ActControl	8 (TRC_DTR_OR_RTS)	使用ケーブルによる		
ActCpuType	262 (CPU_A1NCPU)	対象局に該当するCPUタイプ		
ActNetworkNumber	0 (0x00)	0x00固定	対象局側ユニット ネットワークNo.	0x00固定
ActPortNumber	1 (PORT_1)	DOS/Vパソコン側COMポートNo.		
ActStationNumber	255 (0xFF)	0xFF固定	対象局側ユニット局番	対象局側ユニット局番
ActTimeOut	10000	ms単位でユーザ任意		

*2：接続局CPUがA2USHCPU-S1の時のみBAUDRATE_19200が使用可能です。

3.3.12 ActFXCPU , ActMLFXCPUコントロール

ActFXCPU , ActMLFXCPUコントロールが保有するプロパティおよびデフォルト値を次に示します。

(1) 構成



(2) プロパティのパターン

接続局CPU FXCPU	経由ネットワーク	経由局CPU				
		QCPU (Qモード)	QCPU (Aモード)	QnA CPU	ACPU *1	FXCPU
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×
	MELSECNET/10	×	×	×	×	×
	MELSECNET()	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×
	計算機リンク	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×

：アクセス可能（内はプロパティのパターン）

×：アクセス不可

*1：モーションコントローラCPUを含む

(3) プロパティ一覧

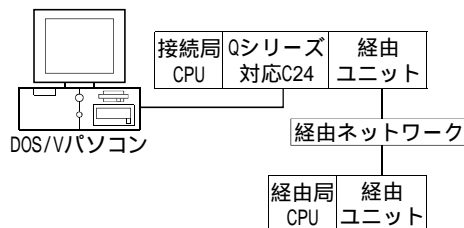
プロパティ	デフォルト値	プロパティのパターン
ActBaudRate	9600 (BAUDRATE_9600)	BAUDRATE_9600 , BAUDRATE_19200 , BAUDRATE_38400 , BAUDRATE_57600 , BAUDRATE_115200 のいずれか
ActControl	8 (TRC_DTR_OR_RTS)	使用ケーブルによる
ActCpuType	513 (CPU_FXOCPU)	対象局に該当するCPUタイプ
ActPortNumber	1 (PORT_1)	DOS/Vパソコン側COMポートNo.
ActTimeOut	10000	ms単位でユーザ任意

3.3.13 ActQJ71C24 , ActMLQJ71C24コントロール

ActQJ71C24 , ActMLQJ71C24コントロールが保有するプロパティおよびデフォルト値を次に示します。

(1) 接続局側Qシリーズ対応C24の他に経由ユニットが存在する場合

(a) 構 成



(b) プロパティのパターン

接続局CPU QCPU (Qモード)	経由ネットワーク	経由局CPU				
		QCPU (Qモード)	QCPU (Aモード)	QnA CPU	ACPU *1	FXCPU
	MELSECNET/H		×	×	×	×
	MELSECNET/10					×
	MELSECNET()	×	×	×	×	×
	Ethernet		×		×	×
	計算機リンク	*2	×		×	×
	CC-Link					×

：アクセス可能（ 内はプロパティのパターン）

×：アクセス不可

*1：モーションコントローラCPUを含む

*2：二重化CPUの場合は、アクセス不可

(c) プロパティ一覧

プロパティ	デフォルト値	プロパティのパターン			
		*3			
ActBaudRate	19200 (BAUDRATE _19200)	Qシリーズ対応C24の設定に合わせる			
ActConnectUnitNumber	0 (0x00)	接続局側ユニット局番			
ActControl	8 (TRC_DTR_OR _RTS)	使用ケーブルによる			
ActCpuType	34 (CPU_Q02CPU)	対象局に該当するCPUタイプ			
ActDestinationIONumber	0 (0x00)	0x00固定	0x00固定	対象局側 シングルCPU時 0x3FF固定 マルチCPU時 接続号機：0x3FF 1号機：0x3E0 2号機：0x3E1 3号機：0x3E2 4号機：0x3E3	対象局側 シングルCPU時 0x3FF固定 マルチCPU時 接続号機：0x3FF 1号機：0x3E0 2号機：0x3E1 3号機：0x3E2 4号機：0x3E3 二重化CPU時 対象局側 制御系：0x3D0 指定なし：0x3FF

*3：Ethernetユニット（Qシリーズ対応E71，QE71）経由のアクセスは、下記の事項に注意してください。

- ・ ActNetworkNumber，ActStationNumberは、対象局側のQシリーズ対応E71，QE71のパラメータ設定で設定した値を指定してください。
- ・ Qシリーズ対応E71，QE71のパラメータ設定の「局番↔IP関連情報」を設定してください。また、設定を行う際、「局番↔IP関連情報設定方式」は自動応答方式以外（IPアドレス算出方式，テーブル変換方式，併用方式のいずれか）を指定してください。

(次ページへ)

プロパティ	デフォルト値	プロパティのパターン			
		*5			
ActDidPropertyBit	1 (0x01)	0x01固定	0x01固定	0x00固定	0x00固定
ActDisdPropertyBit	1 (0x01)	0x01固定	0x01固定	0x00固定	0x00固定
ActIntelligentPreferenceBit	0 (0x00)	0x00固定	0x00固定	0x00固定	0x00固定
ActIOnumber *4	1023 (0x3FF)	シングルCPU時 0x3FF固定 マルチCPU時 接続号機 : 0x3FF 1号機 : 0x3E0 2号機 : 0x3E1 3号機 : 0x3E2 4号機 : 0x3E3 二重化CPU時 制御系 : 0x3D0 指定なし : 0x3FF	対象局側 シングルCPU時 0x3FF固定 マルチCPU時 接続号機 : 0x3FF 1号機 : 0x3E0 2号機 : 0x3E1 3号機 : 0x3E2 4号機 : 0x3E3 二重化CPU時 対象局側 制御系 : 0x3D0 指定なし : 0x3FF	接続局側ユニット I/Oアドレス	接続局側ユニット I/Oアドレス
ActMultiDropChannelNumber	0 (0x00)	0x00固定	0x00固定	0x00または0x02	0x00固定
ActNetworkNumber	0 (0x00)	0x00固定	対象局側ユニット ネットワークNo.	0x00固定	0x00固定
ActParity	1 (ODD_PARITY)	Qシリーズ対応C24の設定に合わせる			
ActPortNumber	1 (PORT_1)	DOS/Vパソコン側COMポートNo.			
ActStationNumber	255 (0xFF)	0xFF固定	対象局側ユニット 局番	0xFF固定	0xFF固定
ActThroughNetworkType	0 (0x00)	QCPU (Qモード) : 0x00 (MELSECNET/Hのみ), QCPU (Qモード) 以外 : 0x01 (MELSECNET/10を含む)。ただし, GPP機能のネットワークパラメータの内容と同一にする。			
ActTimeOut	10000	ms単位でユーザ任意			
ActUnitNumber	0 (0x00)	0x00固定	0x00固定	対象局側ユニット 局番	対象局側ユニット 局番

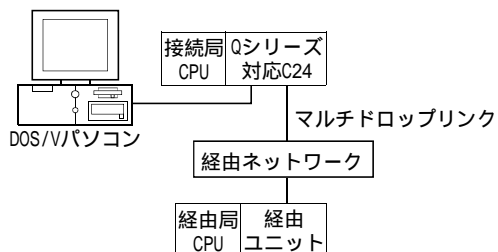
*4 : I/Oアドレスは、実際のI/O先頭No.を16で割った値を指定してください。

*5 : Ethernetユニット (Qシリーズ対応E71, QE71) 経由のアクセスは、下記の事項に注意してください。

- ActNetworkNumber, ActStationNumberは、対象局側のQシリーズ対応E71, QE71のパラメータ設定で設定した値を指定してください。
- Qシリーズ対応E71, QE71のパラメータ設定の「局番↔IP関連情報」を設定してください。また、設定を行う際、「局番↔IP関連情報設定方式」は自動応答方式以外 (IPアドレス算出方式, テーブル変換方式, 併用方式のいずれか) を指定してください。

(2) 接続局側Qシリーズ対応C24で経由ユニットとマルチドロップリンクを行う場合

(a) 構 成



(b) プロパティのパターン

接続局CPU		経由ネットワーク	経由局CPU				
QCPU (Qモード)			QCPU (Qモード)	QCPU (Aモード)	QnA CPU	ACPU *6	FXCPU
独立モード *7		計算機リンク	*8	×		×	×
連動モード *7	×		*8	×	×	×	×

: アクセス可能 (内はプロパティのパターン)

×: アクセス不可

*6: モーションコントローラCPUを含む

*7: CH2側の設定を示します (CH1側は独立モード固定)

*8: 二重化CPUの場合は, アクセス不可

(c) プロパティ一覧

プロパティ	デフォルト値	プロパティのパターン		
ActBaudRate	19200 (BAUDRATE_19200)	Qシリーズ対応C24の設定に合わせる		
ActConnectUnitNumber	0 (0x00)	接続局側ユニット局番		
ActControl	8 (TRC_DTR_OR_RTS)	使用ケーブルによる		
ActCpuType	34 (CPU_Q02CPU)	対象局に該当するCPUタイプ		
ActDestinationIONumber	0 (0x00)	0x00固定	対象局側 シングルCPU時 0x3FF固定 マルチCPU時 接続号機: 0x3FF 1号機: 0x3E0 2号機: 0x3E1 3号機: 0x3E2 4号機: 0x3E3	0x00固定
ActDidPropertyBit	1 (0x01)	0x01固定	0x00固定	0x01固定
ActDsidPropertyBit	1 (0x01)	0x01固定	0x00固定	0x01固定
ActIntelligentPreferenceBit	0 (0x00)	0x00固定	0x00固定	0x00固定

(次ページへ)

プロパティ	デフォルト値	プロパティのパターン		
ActIONumber ^{*9}	1023 (0x3FF)	シングルCPU時 0x3FF固定 マルチCPU時 接続号機：0x3FF 1号機：0x3E0 2号機：0x3E1 3号機：0x3E2 4号機：0x3E3	接続局側経由ユニット I/Oアドレス	対象局側 シングルCPU時 0x3FF固定 マルチCPU時 接続号機：0x3FF 1号機：0x3E0 2号機：0x3E1 3号機：0x3E2 4号機：0x3E3
ActMultiDropChannelNumber	0 (0x00)	0x00固定	0x00または0x02	0x00固定
ActNetworkNumber	0 (0x00)	0x00固定	0x00固定	0x00固定
ActParity	1 (ODD_PARITY)	Qシリーズ対応C24の設定に合わせる		
ActPortNumber	1 (PORT_1)	DOS/Vパソコン側COMポートNo.		
ActStationNumber	255 (0xFF)	0xFF固定	0xFF固定	0xFF固定
ActThroughNetworkType	0 (0x00)	QCPU (Qモード) : 0x00 (MELSECNET/Hのみ), QCPU (Qモード) 以外 : 0x01 (MELSECNET/10を含む)。ただし, GPP機能のネットワークパラメータの内容と同一にする。		
ActTimeOut	10000	ms単位でユーザ任意		
ActUnitNumber	0 (0x00)	0x00固定	対象局側ユニット局番	0x00固定

*9 : I/Oアドレスは、実際のI/O先頭No.を16で割った値を指定してください。

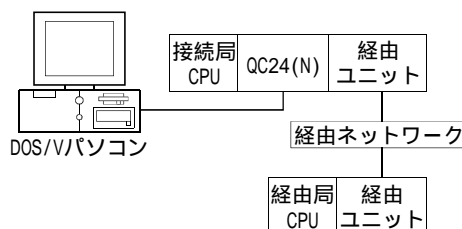
ポイント
<p>接続局側Qシリーズ対応C24を連動モードにした場合, Qシリーズ対応C24のパラメータの伝送仕様S/Wスイッチ設定の「サムチェック(SW06)」は必ず有り(ON)に設定してください。</p> <p>無し(OFF)の場合, 通信エラーが発生し正常に通信できなくなります。</p>

3.3.14 ActAJ71QC24, ActMLAJ71QC24コントロール

ActAJ71QC24, ActMLAJ71QC24コントロールが保有するプロパティおよびデフォルト値を次に示します。

(1) 接続局側QC24(N)の他に経由ユニットが存在する場合

(a) 構 成



(b) プロパティのパターン

接続局CPU QnACPU	経由ネットワーク	経由局CPU				
		QCPU (Qモード)	QCPU (Aモード)	QnA CPU	ACPU *1	FXCPU
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×
	MELSECNET/10	×	×		×	×
	MELSECNET()	×	×		×	×
	Ethernet	×	×		×	×
	計算機リンク	×	×		×	×
	CC-Link	×	×		×	×

：アクセス可能 (内はプロパティのパターン)

×：アクセス不可

*1：モーションコントローラCPUを含む

(c) プロパティ一覧

プロパティ	デフォルト値	プロパティのパターン			
		*3			
ActBaudRate	19200 (BAUDRATE_19200)	QC24(N)の設定に合わせる			
ActConnectUnitNumber	0 (0x00)	接続局側ユニット局番			
ActControl	8 (TRC_DTR_OR_RTS)	使用ケーブルによる			
ActCpuType	17 (CPU_Q2ACPU)	対象局に該当するCPUタイプ			
ActIOnumber *2	1023 (0x3FF)	0x3FF固定	0x3FF固定	0x3FF固定	接続局側ユニット I/Oアドレス
ActNetworkNumber	0 (0x00)	0x00固定	対象局側ユニット ネットワークNo.	0x00固定	0x00固定
ActParity	1 (ODD_PARITY)	QC24(N)の設定に合わせる			
ActPortNumber	1 (PORT_1)	DOS/Vパソコン側COMポートNo.			
ActStationNumber	255 (0xFF)	0xFF固定	対象局側ユニット 局番	対象局側ユニット 局番	0xFF固定
ActTimeOut	10000	ms単位でユーザ任意			
ActUnitNumber	0 (0x00)	0x00固定	0x00固定	0x00固定	対象局側ユニット 局番

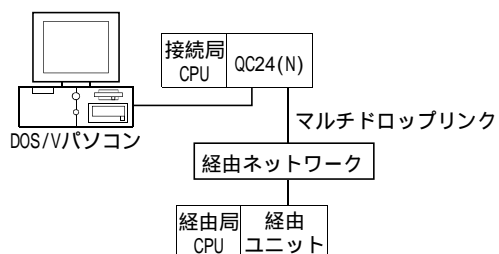
*2：I/Oアドレスは、実際のI/O先頭No.を16で割った値を指定してください。

*3：Ethernetユニット(QE71)経由のアクセスは、下記の事項に注意してください。

- ・ ActNetworkNumber, ActStationNumberは、対象局側のQE71のパラメータ設定で設定した値を指定してください。
- ・ QE71のパラメータ設定の「局番↔IP関連情報」を設定してください。また、設定を行う際、「局番↔IP関連情報設定方式」は自動応答方式以外（IPアドレス算出方式、テーブル変換方式、併用方式のいずれか）を指定してください。

(2) 接続局側QC24(N)で経由ユニットとマルチドロップリンクを行う場合

(a) 構 成



(b) プロパティのパターン

接続局CPU		経由ネットワーク	経由局CPU				
QnACPU			QCPU (Qモード)	QCPU (Aモード)	QnA CPU	ACPU *1	FXCPU
独立モード *2		計算機リンク	×	×		×	×
連動モード *2			×	×		×	×

: アクセス可能 (内はプロパティのパターン)

× : アクセス不可

*1 : モーションコントローラCPUを含む

*2 : CH2側の設定を示します (CH1側は独立モード固定)

(c) プロパティ一覧

プロパティ	デフォルト値	プロパティのパターン		
ActBaudRate	19200 (BAUDRATE_19200)	QC24(N)の設定に合わせる		
ActConnectUnitNumber	0 (0x00)	接続局側ユニット局番		
ActControl	8 (TRC_DTR_OR_RTS)	使用ケーブルによる		
ActCpuType	17 (CPU_Q2ACPU)	対象局に該当するCPUタイプ		
ActIOnumber*3	1023 (0x3FF)	0x3FF固定	接続局側経由ユニット I/Oアドレス	0x3FF固定
ActNetworkNumber	0 (0x00)	0x00固定	0x00固定	0x00固定
ActParity	1 (ODD_PARITY)	QC24(N)の設定に合わせる		
ActPortNumber	1 (PORT_1)	DOS/Vパソコン側COMポートNo.		
ActStationNumber	255 (0xFF)	0xFF固定	0xFF固定	0xFF固定
ActTimeOut	10000	ms単位でユーザ任意		
ActUnitNumber	0 (0x00)	0x00固定	対象局側ユニット局番	0x00固定

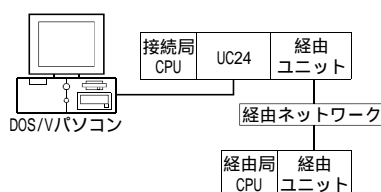
*3 : I/Oアドレスは、実際のI/O先頭No.を16で割った値を指定してください。

3.3.15 ActAJ71UC24, ActMLAJ71UC24コントロール

ActAJ71UC24, ActMLAJ71UC24コントロールが保有するプロパティおよびデフォルト値を次に示します。

(1) 接続局側UC24の他に経由ユニットが存在する場合

(a) 構成



(b) プロパティのパターン

接続局CPU			経由ネットワーク	経由局CPU				
QCPU (Aモード)	QnACPU	ACPU *1		QCPU (Qモード)	QCPU (Aモード)	QnACPU	ACPU *1	FXCPU
	*2		MELSECNET/H	×	×	×	×	×
			MELSECNET/10	×		*2		×
			MELSECNET()	×		*2		×
			Ethernet	×	×	×	×	×
			計算機リンク	×	×	×	×	×
			CC-Link	×	×	×	×	×

：アクセス可能（内はプロパティのパターン）

×：アクセス不可

*1：モーションコントローラCPUを含む。

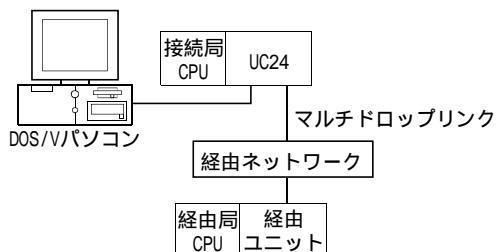
*2：AnACPU相当として動作する。

(c) プロパティ一覧

プロパティ	デフォルト値	プロパティのパターン		
ActBaudRate	19200 (BAUDRATE_19200)	UC24の設定に合わせる		
ActControl	8 (TRC_DTR_OR_RTS)	使用ケーブルによる		
ActCpuType	262 (CPU_A1NCPU)	対象局に該当するCPUタイプ		
ActDataBits	8 (DATABIT_8)	UC24の設定に合わせる		
ActNetworkNumber	0 (0x00)	0x00固定	対象局側ユニットネットワークNo.	0x00固定
ActParity	1 (ODD_PARITY)	UC24の設定に合わせる		
ActPortNumber	1 (PORT_1)	DOS/Vパソコン側COMポートNo.		
ActStationNumber	255 (0xFF)	0xFF固定	対象局側ユニット局番	対象局側ユニット局番
ActStopBits	0 (STOPBIT_ONE)	UC24の設定に合わせる		
ActSumCheck	1 (SUM_CHECK)	UC24の設定に合わせる		
ActTimeOut	10000	ms単位でユーザ任意		
ActUnitNumber	0 (0x00)	対象局側ユニット局番	接続局側ユニット局番	接続局側ユニット局番

(2) 接続局側UC24で経由ユニットとマルチドロップリンクを行う場合

(a) 構 成



(b) プロパティのパターン

接続局CPU		経由ネットワーク	経由局CPU				
QCPU (Aモード) QnACPU*5 ACPU*3			QCPU (Qモード)	QCPU (Aモード)	QnA CPU	ACPU *3	FXCPU
独立モード *4		計算機リンク	×		*3		×

: アクセス可能 (内はプロパティのパターン)

× : アクセス不可

*3 : モーションコントローラCPUを含む

*4 : モード設定スイッチ, 主チャンネル設定で設定を行う。

*5 : AnACPU相当として動作する。

(c) プロパティ一覧

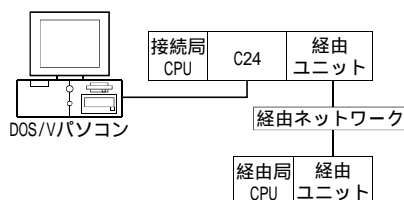
プロパティ	デフォルト値	プロパティのパターン
ActBaudRate	19200 (BAUDRATE_19200)	UC24の設定に合わせる
ActControl	8 (TRC_DTR_OR_RTS)	使用ケーブルによる
ActCpuType	262 (CPU_A1NCPU)	対象局に該当するCPUタイプ
ActDataBits	8 (DATABIT_8)	UC24の設定に合わせる
ActNetworkNumber	0 (0x00)	0x00固定
ActParity	1 (ODD_PARITY)	UC24の設定に合わせる
ActPortNumber	1 (PORT_1)	DOS/Vパソコン側COMポートNo.
ActStationNumber	255 (0xFF)	0xFF固定
ActStopBits	0 (STOPBIT_ONE)	UC24の設定に合わせる
ActSumCheck	1 (SUM_CHECK)	UC24の設定に合わせる
ActTimeOut	10000	ms単位でユーザ任意
ActUnitNumber	0 (0x00)	対象局側ユニット局番

3.3.16 ActAJ71C24, ActMLAJ71C24コントロール

ActAJ71C24, ActMLAJ71C24コントロールが保有するプロパティおよびデフォルト値を次に示します。

(1) 接続局側C24の他に経由ユニットが存在する場合

(a) 構 成



(b) プロパティのパターン

接続局CPU			経由ネットワーク	経由局CPU				
QCPU (Aモード)	QnACPU	ACPU *1		QCPU (Qモード)	QCPU (Aモード)	QnACPU	ACPU *1	FXCPU
*2	*2	*2	MELSECNET/H	×	×	×	×	×
			MELSECNET/10	×		*2		×
			MELSECNET()	×		*2		×
			Ethernet	×	×	×	×	×
			計算機リンク	×	×	×	×	×
			CC-Link	×	×	×	×	×

：アクセス可能（内はプロパティのパターン）

×：アクセス不可

*1：モーションコントローラCPUを含む。

*2：AnACPU相当として動作する。

(c) プロパティ一覧

プロパティ	デフォルト値	プロパティのパターン	
			*4
ActBaudRate	19200 (BAUDRATE_19200)	C24の設定に合わせる	
ActControl	8 (TRC_DTR_OR_RTS)	使用ケーブルによる	
ActCpuType	262 (CPU_A1NCPU)	対象局に該当するCPUタイプ	
ActDataBits	8 (DATABIT_8)	C24の設定に合わせる	
ActParity	1 (ODD_PARITY)	C24の設定に合わせる	
ActPortNumber	1 (PORT_1)	DOS/Vパソコン側ポートNo.	
ActStationNumber*3	255 (0xFF)	0xFF固定	対象局側ユニット局番
ActStopBits	0 (STOPBIT_ONE)	C24の設定に合わせる	
ActSumCheck	1 (SUM_CHECK)	C24の設定に合わせる	
ActTimeOut	10000	ms単位でユーザ任意	
ActUnitNumbr	0 (0x00)	対象局側ユニット局番	接続局側ユニット局番

*3：接続局側のMELSECNET/10ユニットが管理局／通常局により下記の点に注意してください。

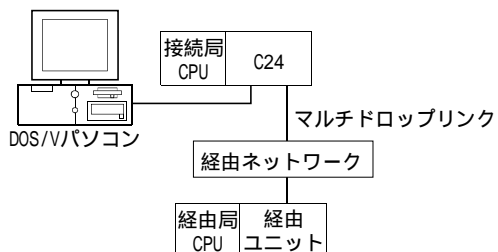
接続局側のMELSECNET/10ユニットが管理局の場合・・・対象局側MELSECNET/10ユニットの実際の局番をActStationNumberに指定してください。

接続局側のMELSECNET/10ユニットが通常局の場合・・・対象局側MELSECNET/10ユニットは必ず管理局とし、ActStationNumberに“0x00”を指定してください。

*4：ネットワーク経由アクセスは、接続局側のネットワークパラメータ中の「他局アクセス時有効ユニット」により指定された側のネットワークのみにアクセス可能です。

(2) 接続局側C24で経由ユニットとマルチドロップリンクを行う場合

(a) 構 成



(b) プロパティのパターン

接続局CPU		経由ネットワーク	経由局CPU				
QCPU (Aモード) QnACPU*7 ACPU*5			QCPU (Qモード)	QCPU (Aモード)	QnA CPU	ACPU *5	FXCPU
独立モード *6		計算機リンク	×		*7		×

: アクセス可能 (内はプロパティのパターン)

×: アクセス不可

*5: モーションコントローラCPUを含む

*6: モード設定スイッチ, 主チャンネル設定で設定を行う。

*7: AnACPU相当として動作する。

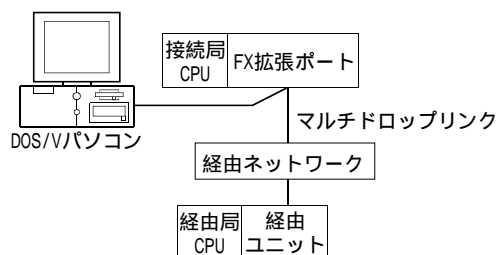
(c) プロパティ一覧

プロパティ	デフォルト値	プロパティのパターン
ActBaudRate	19200 (BAUDRATE_19200)	C24の設定に合わせる
ActControl	8 (TRC_DTR_OR_RTS)	使用ケーブルによる
ActCpuType	262 (CPU_A1NCPU)	対象局に該当するCPUタイプ
ActDataBits	8 (DATABIT_8)	C24の設定に合わせる
ActParity	1 (ODD_PARITY)	C24の設定に合わせる
ActPortNumber	1 (PORT_1)	DOS/Vパソコン側ポートNo.
ActStationNumber	255 (0xFF)	0xFF固定
ActStopBits	0 (STOPBIT_ONE)	C24の設定に合わせる
ActSumCheck	1 (SUM_CHECK)	C24の設定に合わせる
ActTimeOut	10000	ms単位でユーザ任意
ActUnitNumbr	0 (0x00)	対象局側ユニット局番

3.3.17 ActFX485BD, ActMLFX485BDコントロール

ActFX485BD, ActMLFX485BDコントロールが保有するプロパティおよびデフォルト値を次に示します。

(1) 構成



(2) プロパティのパターン

接続局CPU FXCPU	経路ネットワーク	経路局CPU				
		QCPU (Qモード)	QCPU (Aモード)	QnA CPU	ACPU *1	FXCPU
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×
	MELSECNET/10	×	×	×	×	×
	MELSECNET()	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×
	計算機リンク	×	×	×	×	
	CC-Link	×	×	×	×	×

：アクセス可能（内はプロパティのパターン）

×：アクセス不可

*1：モーションコントローラCPUを含む

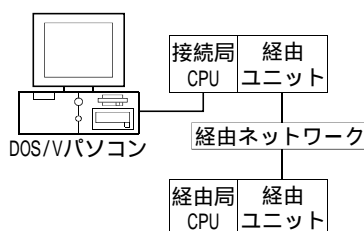
(3) プロパティ一覧

プロパティ	デフォルト値	プロパティのパターン
ActBaudRate	19200 (BAUDRATE_19200)	FX拡張ポートの設定に合わせる
ActControl	8 (TRC_DTR_OR_RTS)	使用ケーブルによる
ActCpuTimeOut	4	10ms単位でユーザ任意
ActCpuType	0x205 (CPU_FX2NCPU)	対象局に該当するCPUタイプ
ActDataBits	8 (DATABIT_8)	FX拡張ポートの設定に合わせる
ActParity	1 (ODD_PARITY)	FX拡張ポートの設定に合わせる
ActPortNumber	0x01 (PORT_1)	パソコン側COMポートNo.
ActStopBits	0 (STOPBIT_ONE)	FX拡張ポートの設定に合わせる
ActSumCheck	1(SUM_CHECK)	FX拡張ポートの設定に合わせる
ActTimeOut	10000	ms単位でユーザ任意
ActUnitNumber	0x00	対象局側ユニット局番

3.3.18 ActQCPUUSB, ActMLQCPUUSBコントロール

ActQCPUUSB, ActMLQCPUUSBコントロールが保有するプロパティおよびデフォルト値を示します。

(1) 構成



(2) プロパティのパターン

接続局CPU QCPU (Qモード)	経路ネットワーク	経路局CPU				
		QCPU (Qモード)	QCPU (Aモード)	QnA CPU	ACPU *1	FXCPU
	MELSECNET/H		×	×	×	×
	MELSECNET/10					×
	MELSECNET()	×	×	×	×	×
	Ethernet		×		×	×
	計算機リンク	*3	×		×	×
	CC-Link		*2	*2	*2	×

：アクセス可能（内はプロパティのパターン）

×：アクセス不可

*1：モーションコントローラCPUを含む

*2：QnA, ACP側CC-LinkユニットはROMバージョン“S”以降を使用。

*3：二重化CPUの場合は、アクセス不可

(3) プロパティ一覧

プロパティ	デフォルト値	プロパティのパターン			
		*4			
ActCpuType	34 (CPU_Q02CPU)	対象局に該当するCPUタイプ			
ActDestinationIONumber	0 (0x00)	0x00固定	0x00固定	対象局側 シングルCPU時 0x3FF固定 マルチCPU時 接続号機：0x3FF 1号機：0x3E0 2号機：0x3E1 3号機：0x3E2 4号機：0x3E3	対象局側 シングルCPU時 0x3FF固定 マルチCPU時 接続号機：0x3FF 1号機：0x3E0 2号機：0x3E1 3号機：0x3E2 4号機：0x3E3 二重化CPU時 対象局側 制御系：0x3D0 指定なし：0x3FF
ActDidPropertyBit	1 (0x01)	0x01固定	0x01固定	0x00固定	0x00固定
ActDisdPropertyBit	1 (0x01)	0x01固定	0x01固定	0x00固定	0x00固定
ActIntelligentPreferenceBit	0 (0x00)	0x00固定	0x00固定	0x01（対象局がQCPU（Qモード））、0x00（対象局がQCPU（Qモード）以外）	0x01（対象局がQCPU（Qモード））、0x00（対象局がQCPU（Qモード）以外）

*4：Ethernetユニット（Qシリーズ対応E71, QE71）経由のアクセスは、下記の事項に注意してください。

・ActNetworkNumber, ActStationNumberは、対象局側のQシリーズ対応E71, QE71のパラメータ設定で設定した値を指定してください。

・Qシリーズ対応E71, QE71のパラメータ設定の「局番↔IP関連情報」を設定してください。また、設定を行う際、「局番↔IP関連情報設定方式」は自動応答方式以外（IPアドレス算出方式、テーブル変換方式、併用方式のいずれか）を指定してください。

(次ページへ)

プロパティ	デフォルト値	プロパティのパターン			
		*6			
ActIONumber *5	1023 (0x3FF)	シングルCPU時 0x3FF固定 マルチCPU時 接続号機：0x3FF 1号機：0x3E0 2号機：0x3E1 3号機：0x3E2 4号機：0x3E3 二重化CPU時 対象局側 制御系：0x3D0 指定なし：0x3FF	対象局側 シングルCPU時 0x3FF固定 マルチCPU時 接続号機：0x3FF 1号機：0x3E0 2号機：0x3E1 3号機：0x3E2 4号機：0x3E3 二重化CPU時 対象局側 制御系：0x3D0 指定なし：0x3FF	接続局側ユニット I/Oアドレス	接続局側ユニット I/Oアドレス
ActMultiDropChannelNumber	0 (0x00)	0x00固定	0x00固定	0x00または0x02	0x00固定
ActNetworkNumber	0 (0x00)	0x00固定	対象局側ユニット ネットワークNo.	0x00固定	0x00固定
ActStationNumber	255 (0xFF)	0xFF固定	対象局側ユニット 局番	0xFF固定	0xFF固定
ActThroughNetworkType	0 (0x00)	QCPU (Qモード) : 0x00 (MELSECNET/Hのみ), QCPU (Qモード) 以外 : 0x01 (MELSECNET/10を含む)。ただし, GPP機能のネットワークパラメータの内容と同一にする。			
ActTimeOut	10000	ms単位でユーザ任意			
ActUnitNumber	0 (0x00)	0x00固定	0x00固定	対象局側ユニット 局番	対象局側ユニット 局番

*5 : I/Oアドレスは、実際のI/O先頭No.を16で割った値を指定してください。

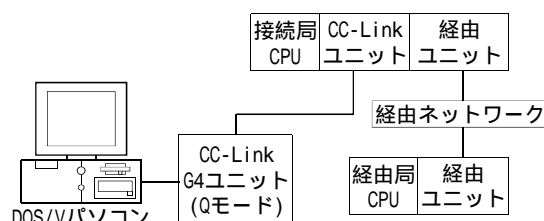
*6 : Ethernetユニット (Qシリーズ対応E71, QE71) 経由のアクセスは、下記の事項に注意してください。

- ActNetworkNumber, ActStationNumberは、対象局側のQシリーズ対応E71, QE71のパラメータ設定で設定した値を指定してください。
- Qシリーズ対応E71, QE71のパラメータ設定の「局番↔IP関連情報」を設定してください。また、設定を行う際、「局番↔IP関連情報設定方式」は自動応答方式以外 (IPアドレス算出方式, テーブル変換方式, 併用方式のいずれか) を指定してください。

3.3.19 ActCCG4Q, ActMLCCG4Qコントロール

ActCCG4Q, ActMLCCG4Qコントロールが保有するプロパティおよびデフォルト値を次に示します。

(1) 構成



(2) プロパティのパターン

接続局CPU QCPU (Qモード)	経路ネットワーク	経路局CPU				
		QCPU (Qモード)	QCPU (Aモード)	QnA CPU	ACPU *1	FXCPU
	MELSECNET/H		×	×	×	×
	MELSECNET/10					×
	MELSECNET()	×	×	×	×	×
	Ethernet		×		×	×
	計算機リンク	×	×		×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×

：アクセス可能（内はプロパティのパターン）

×：アクセス不可

*1：モーションコントローラCPUを含む

(3) プロパティ一覧

プロパティ	デフォルト値	プロパティのパターン		
		*3		
ActBaudRate	19200 (BAUDRATE_19200)	BAUDRATE_9600, BAUDRATE_19200, BAUDRATE_38400, BAUDRATE_57600, BAUDRATE_115200		
ActConnectUnitNumber	0 (0x00)	接続局側ユニット局番		
ActControl	8 (TRC_DTR_OR_RTS)	使用ケーブルによる		
ActCpuType	34 (CPU_Q02CPU)	対象局に該当するCPUタイプ		
ActIONumber*2	1023 (0x3FF)	対象局側 シングルCPU時 0x3FF固定 マルチCPU時 接続局機：0x3FF 1号機：0x3E0 2号機：0x3E1 3号機：0x3E2 4号機：0x3E3 二重化CPU時 制御系：0x3D0 指定なし：0x3FF	対象局側 シングルCPU時 0x3FF固定 マルチCPU時 接続局機：0x3FF 1号機：0x3E0 2号機：0x3E1 3号機：0x3E2 4号機：0x3E3 二重化CPU時 対象局側 制御系：0x3D0 指定なし：0x3FF	接続局側 経路ユニット I/Oアドレス
ActNetworkNumber	0 (0x00)	0x00固定	対象局側ユニット ネットワークNo.	0x00固定
ActPortNumber	1 (PORT_1)	DOS/Vパソコン側COMポートNo.		
ActStationNumber	255 (0xFF)	0xFF固定	対象局側ユニット 局番	0xFF固定
ActThroughNetworkType	0 (0x00)	QCPU (Qモード)：0x00 (MELSECNET/Hのみ), QCPU (Qモード) 以外：0x01 (MELSECNET/10を含む)。ただし, GPP機能のネットワークパラメータの内容と同一にする。		
ActTimeOut	10000	ms単位でユーザ任意		
ActUnitNumber	0 (0x00)	0x00固定	0x00固定	対象局側ユニット 局番

*2：I/Oアドレスは、実際のI/O先頭No.を16で割った値を指定してください。

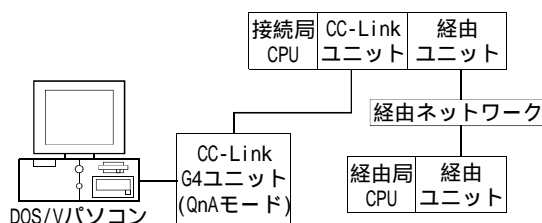
*3：Ethernetユニット(QE71)経由のアクセスは、下記の事項に注意してください。

- ・ActNetworkNumber, ActStationNumberは、対象局側のQE71のパラメータ設定で設定した値を指定してください。
- ・QE71のパラメータ設定の「局番↔IP関連情報」を設定してください。また、設定を行う際、「局番↔IP関連情報設定方式」は自動応答方式以外（IPアドレス算出方式、テーブル変換方式、併用方式のいずれか）を指定してください。

3.3.20 ActCCG4QnA, ActMLCCG4QnAコントロール

ActCCG4QnA, ActMLCCG4QnAコントロールが保有するプロパティおよびデフォルト値を次に示します。

(1) 構成



(2) プロパティのパターン

接続局CPU	経路ネットワーク	経由局CPU				
		QCPU (Qモード)	QCPU (Aモード)	QnA CPU	ACPU *1	FXCPU
QnACPU	MELSECNET/H	×	×	×	×	×
	MELSECNET/10	×	×		×	×
	MELSECNET()	×	×		×	×
	Ethernet	×	×		×	×
	計算機リンク	×	×		×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×

：アクセス可能（内はプロパティのパターン）

×：アクセス不可

*1：モーションコントローラCPUを含む

(3) プロパティ一覧

プロパティ	デフォルト値	プロパティのパターン			
		*3			
ActBaudRate	19200 (BAUDRATE_19200)	BAUDRATE_9600, BAUDRATE_19200, BAUDRATE_38400			
ActConnectUnitNumber	0 (0x00)	接続局側CC-Linkユニット局番			
ActControl	8 (TRC_DTR_OR_RTS)	使用ケーブルによる			
ActCpuType	17 (CPU_Q2ACPU)	対象局に該当するCPUタイプ			
ActIONumber *2	1023 (0x3FF)	0x3FF固定	0x3FF固定	0x3FF固定	接続局側 経由ユニット I/Oアドレス
ActNetworkNumber	0 (0x00)	0x00固定	対象局側ユニット ネットワークNo.	0x00固定	0x00固定
ActPortNumber	1 (PORT_1)	DOS/Vパソコン側COMポートNo.			
ActStationNumber	255 (0xFF)	0xFF固定	対象局側ユニット 局番	対象局側ユニット 局番	0xFF固定
ActTimeOut	10000	ms単位でユーザ任意			
ActUnitNumber	0 (0x00)	0x00固定	0x00固定	0x00固定	対象局側ユニット 局番

*2：I/Oアドレスは、実際のI/O先頭No.を16で割った値を指定してください。

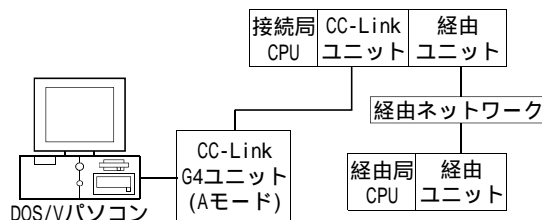
*3：Ethernetユニット(QE71)経由のアクセスは、下記の事項に注意してください。

- ActNetworkNumber, ActStationNumberは、対象局側のQE71のパラメータ設定で設定した値を指定してください。
- QE71のパラメータ設定の「局番↔IP関連情報」を設定してください。また、設定を行う際、「局番↔IP関連情報設定方式」は自動応答方式以外（IPアドレス算出方式、テーブル変換方式、併用方式のいずれか）を指定してください。

3.3.21 ActCCG4A, ActMLCCG4Aコントロール

ActCCG4A, ActMLCCG4Aコントロールが保有するプロパティおよびデフォルト値を次に示します。

(1) 構成



(2) プロパティのパターン

接続局CPU			経由ネットワーク	経由局CPU				
QCPU (Aモード)	QnACPU	ACPU *1		QCPU (Qモード)	QCPU (Aモード)	QnACPU	ACPU *1	FXCPU
	×		MELSECNET/H	×	×	×	×	×
			MELSECNET/10	×	×	×	×	×
			MELSECNET()	×	×	×	×	×
			Ethernet	×	×	×	×	×
			計算機リンク	×	×	×	×	×
			CC-Link	×	×	×	×	×

：アクセス可能（内はプロパティのパターン）

×：アクセス不可

*1：モーションコントローラCPUを含む。

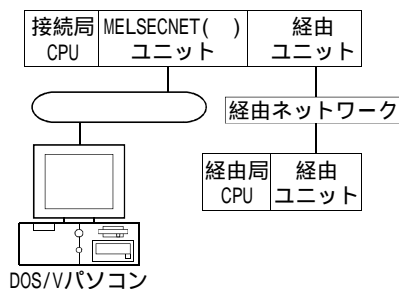
(3) プロパティ一覧

プロパティ	デフォルト値	プロパティのパターン
ActControl	8 (TRC_DTR_OR _RTS)	使用ケーブルによる
ActCpuType	262 (CPU_A1NCPU)	対象局に該当するCPUタイプ
ActPortNumber	1 (PORT_1)	DOS/Vパソコン側COMポートNo.
ActStationNumber	0 (0x00)	対象局側ユニット局番
ActTimeOut	10000	ms単位でユーザ任意

3.3.22 ActMnet2BD , ActMLMnet2BDコントロール

ActMnet2BD , ActMLMnet2BDコントロールが保有するプロパティおよびデフォルト値を次に示します。

(1) 構 成



(2) プロパティのパターン

自ボード	接続局CPU			経路ネットワーク	経路局CPU				
	QCPU (Aモード)	QnACPU	ACPU *1		QCPU (Qモード)	QCPU (Aモード)	QnACPU	ACPU *1	FXCPU
		*2		MELSECNET/H	×	×	×	×	×
				MELSECNET/10	×	×	×	×	×
				MELSECNET()	×	×	×	×	×
				Ethernet	×	×	×	×	×
				計算機リンク	×	×	×	×	×
				CC-Link	×	×	×	×	×

：アクセス可能（ 内はプロパティのパターン）

×：アクセス不可

*1：モーションコントローラCPUを含む。

*2：AnACPU相当として動作する。

(3) プロパティ一覧

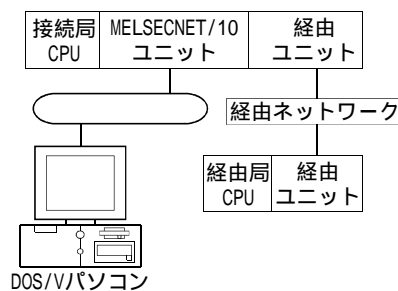
プロパティ	デフォルト値	プロパティのパターン	
ActCpuType	1025 (CPU_BOARD)	対象局に該当するCPUタイプ	
ActPortNumber	1 (PORT_1)	DOS/Vパソコン側MELSECNET()ボードのボードNo. , PORT1 , PORT2 (1枚目, 2枚目)	
ActStationNumber	255 (0xFF)	0xFF固定	対象局側ユニット局番

3.3.23 ActMnet10BD, ActMLMnet10BDコントロール

ActMnet10BD, ActMLMnet10BDコントロールが保有するプロパティおよびデフォルト値を次に示します。

(1) 接続局CPUがQCPU (Qモード) の場合

(a) 構成



(b) プロパティのパターン

自ボード	接続局CPU	経由ネットワーク	経由局CPU				
	QCPU (Qモード)		QCPU (Qモード)	QCPU (Aモード)	QnACPU	ACPU *1	FXCPU
		MELSECNET/H		×	×	×	×
		MELSECNET/10					×
		MELSECNET()	×	×	×	×	×
		Ethernet		×	×	×	×
		計算機リンク	*2	×		×	×
		CC-Link		×	×	×	×

：アクセス可能（内はプロパティのパターン）

×：アクセス不可

*1：モーションコントローラCPUを含む。

*2：二重化CPUの場合は、アクセス不可

(c) プロパティ一覧

プロパティ	デフォルト値	プロパティのパターン			
ActCpuType	1025 (CPU_BOARD)	対象局に該当するCPUタイプ			
ActDestinationIONumber	0 (0x00)	0x00固定	0x00固定	対象局側 シングルCPU時 0x3FF固定 マルチCPU時 接続号機：0x3FF 1号機：0x3E0 2号機：0x3E1 3号機：0x3E2 4号機：0x3E3	対象局側 シングルCPU時 0x3FF固定 マルチCPU時 接続号機：0x3FF 1号機：0x3E0 2号機：0x3E1 3号機：0x3E2 4号機：0x3E3 二重化CPU時 0x3FF固定
ActDidPropertyBit	0 (0x00)	0x00固定	0x01固定	0x00固定	0x00固定
ActDsidPropertyBit	0 (0x00)	0x00固定	0x01固定	0x00固定	0x00固定

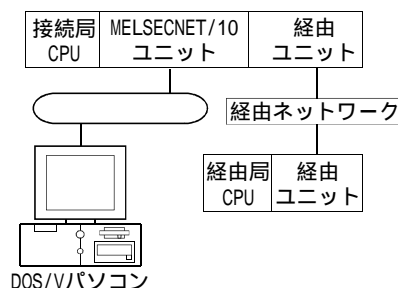
(次ページへ)

プロパティ	デフォルト値	プロパティのパターン			
ActIOnNumber *3	0 (0x00)	0x00固定	シングルCPU時 0x3FF固定 マルチCPU時 接続号機：0x3FF 1号機：0x3E0 2号機：0x3E1 3号機：0x3E2 4号機：0x3E3 二重化CPU時 0x3FF固定	接続局側 経由ユニット I/Oアドレス	接続局側 経由ユニット I/Oアドレス
ActMultiDropChannelNumber	0 (0x00)	0x00固定	0x00固定	0x00または0x02	0x00固定
ActNetworkNumber	0 (0x00)	0x00固定	対象局側ユニット ネットワークNo.	接続局側ユニット ネットワークNo.	接続局側ユニット ネットワークNo.
ActPortNumber	1 (PORT_1)	DOS/Vパソコン側MELSECNET/10ボードのボードNo. , PORT1 ~ PORT4 (1枚目 ~ 4枚目)			
ActStationNumber	255 (0xFF)	0xFF固定	対象局側ユニット 局番	接続局側ユニット 局番	接続局側ユニット 局番
ActUnitNumber	0 (0x00)	0x00固定	0x00固定	対象局側ユニット 局番	対象局側ユニット 局番

*3 : I/Oアドレスは、実際のI/O先頭No.を16で割った値を指定してください。

(2) 接続局CPUがQCPU (Aモード) またはACPUの場合

(a) 構成



(b) プロパティのパターン

自ボード	接続局CPU		経由ネットワーク	経由局CPU				
	QCPU (Aモード)	ACPU*1		QCPU (Qモード)	QCPU (Aモード)	QnACPU	ACPU *4	FXCPU
			MELSECNET/H	×	×	×	×	×
			MELSECNET/10					×
			MELSECNET()	×	×	×	×	×
			Ethernet	×	×	×	×	×
			計算機リンク	×	×	×	×	×
			CC-Link	×	×	×	×	×

: アクセス可能 (内はプロパティのパターン)

×: アクセス不可

*4: モーションコントローラCPUを含む。

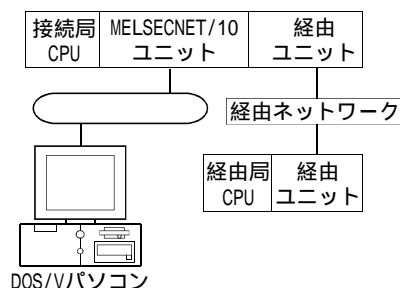
(c) プロパティ一覧

プロパティ	デフォルト値	プロパティのパターン		
ActCpuType	1025 (CPU_BOARD)	対象局に該当するCPUタイプ		
ActDestinationIONumber	0 (0x00)	0x00固定		
ActDidPropertyBit	0 (0x00)	0x00固定	0x01固定	0x00固定
ActDsidPropertyBit	0 (0x00)	0x00固定	0x01固定	0x00固定
ActIONumber *5	0 (0x00)	0x00固定	対象局側 シングルCPU時 0x3FF固定 マルチCPU時 接続号機：0x3FF 1号機：0x3E0 2号機：0x3E1 3号機：0x3E2 4号機：0x3E3 二重化CPU時 0x3FF固定	0x3FF固定
ActMultiDropChannelNumber	0 (0x00)	0x00固定		
ActNetworkNumber	0 (0x00)	0x00固定	対象局側ユニットネットワークNo.	
ActPortNumber	1 (PORT_1)	DOS/Vパソコン側MELSECNET/10ボードのボードNo.，PORT1～PORT4（1枚目～4枚目）		
ActStationNumber	255 (0xFF)	0xFF固定	対象局側ユニット局番	
ActUnitNumber	0 (0x00)	0x00固定		

*5: I/Oアドレスは, 実際のI/O先頭No. を16で割った値を指定してください。

(3) 接続局CPUがQnACPUの場合

(a) 構 成



(b) プロパティのパターン

自ボード	接続局CPU	経由ネットワーク	経由局CPU				
	QnACPU		QCPU (Qモード)	QCPU (Aモード)	QnACPU	ACPU *6	FXCPU
		MELSECNET/H	×	×	×	×	×
		MELSECNET/10					×
		MELSECNET()	×	×	×	×	×
		Ethernet	×	×		×	×
		計算機リンク	×	×		×	×
		CC-Link	×	×	×	×	×

: アクセス可能 (内はプロパティのパターン)

×: アクセス不可

*6: モーションコントローラCPUを含む。

(c) プロパティ一覧

プロパティ	デフォルト値	プロパティのパターン			
ActCpuType	1025 (CPU_BOARD)	対象局に該当するCPUタイプ			
ActDestinationIONumber	0 (0x00)	0x00固定			
ActDidPropertyBit	0 (0x00)	0x00固定		0x01固定	0x00固定
ActDsIdPropertyBit	0 (0x00)	0x00固定		0x01固定	0x00固定
ActIONumber *7	0 (0x00)	0x00固定	0x3FF固定	対象局側 シングルCPU時 0x3FF固定 マルチCPU時 接続号機: 0x3FF 1号機: 0x3E0 2号機: 0x3E1 3号機: 0x3E2 4号機: 0x3E3 二重化CPU時 0x3FF固定	接続局側経由 ユニットI/Oアドレス
ActMultiDropChannelNumber	0 (0x00)	0x00固定			
ActNetworkNumber	0 (0x00)	0x00固定	対象局側ユニット ネットワークNo.	対象局側ユニット ネットワークNo.	接続局側ユニット ネットワークNo.
ActPortNumber	1 (PORT_1)	DOS/Vパソコン側MELSECNET/10ボードのボードNo., PORT1~PORT4 (1枚目~4枚目)			
ActStationNumber	255 (0xFF)	0xFF固定	対象局側ユニット 局番	対象局側ユニット 局番	接続局側ユニット 局番
ActUnitNumber	0 (0x00)	0x00固定	0x00固定	0x00固定	対象局側ユニット 局番

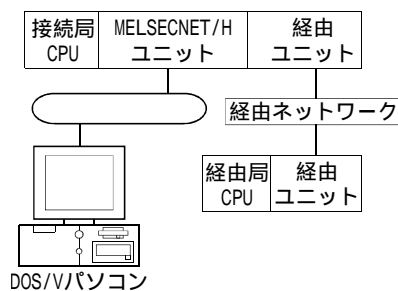
*7: I/Oアドレスは, 実際のI/O先頭No. を16で割った値を指定してください。

3.3.24 ActMnetHBD, ActMLMnetHBDコントロール

ActMnetHBD, ActMLMnetHBDコントロールが保有するプロパティおよびデフォルト値を次に示します。

(1) 接続局CPUがQCPU (Qモード) でMELSECNET/Hモード経由の場合

(a) 構成



(b) プロパティのパターン

自ボード	接続局CPU	経由ネットワーク	経由局CPU *2				
	QCPU (Qモード)		QCPU (Qモード)	QCPU (Aモード)	QnACPU	ACPU *1	FXCPU
		MELSECNET/H		×	×	×	×
		MELSECNET/10					×
		MELSECNET()	×	×	×	×	×
		Ethernet		×	×	×	×
		計算機リンク	*3	×		×	×
		CC-Link		×	×	×	×

：アクセス可能（内はプロパティのパターン）

×：アクセス不可

*1：モーションコントローラCPUを含む。

*2：QCPU (Qモード) の場合のみ動作する。

*3：二重化CPUの場合は、アクセス不可

(c) プロパティ一覧

プロパティ	デフォルト値	プロパティのパターン			
ActCpuType	1025 (CPU_BOARD)	対象局に該当するCPUタイプ			
ActDestinationIONumber	0 (0x00)	0x00固定	0x00固定	対象局側 シングルCPU時 0x3FF固定 マルチCPU時 接続号機：0x3FF 1号機：0x3E0 2号機：0x3E1 3号機：0x3E2 4号機：0x3E3	対象局側 シングルCPU時 0x3FF固定 マルチCPU時 接続号機：0x3FF 1号機：0x3E0 2号機：0x3E1 3号機：0x3E2 4号機：0x3E3 二重化CPU時 対象局側 制御系：0x3D0 指定なし：0x3FF
ActDidPropertyBit	0 (0x00)	0x00固定	0x01固定	0x00固定	0x00固定
ActDsidPropertyBit	0 (0x00)	0x00固定	0x01固定	0x00固定	0x00固定

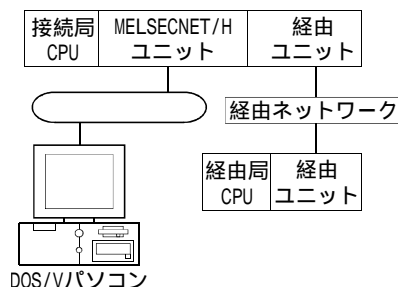
(次ページへ)

プロパティ	デフォルト値	プロパティのパターン			
ActIOnNumber ^{*4}	0 (0x00)	0x00固定	シングルCPU時 0x3FF固定 マルチCPU時 接続号機：0x3FF 1号機：0x3E0 2号機：0x3E1 3号機：0x3E2 4号機：0x3E3 二重化CPU時 対象局側 制御系 ：0x3D0 指定なし：0x3FF	接続局側 経由ユニット I/Oアドレス	接続局側 経由ユニット I/Oアドレス
ActMultiDropChannelNumber	0 (0x00)	0x00固定	0x00固定	0x02固定	0x00固定
ActNetworkNumber	0 (0x00)	0x00固定	対象局側ユニット ネットワークNo.	接続局側ユニット ネットワークNo.	接続局側ユニット ネットワークNo.
ActPortNumber	1 (PORT_1)	DOS/Vパソコン側MELSECNET/HボードのボードNo. , PORT1 ~ PORT4 (1枚目 ~ 4枚目)			
ActStationNumber	255 (0xFF)	0xFF固定	対象局側ユニット 局番	接続局側ユニット 局番	接続局側ユニット 局番
ActThroughNetworkType	1 (0x01)	0x00 (MELSECNET/Hのみ) , 0x01 (MELSECNET/10を含む)			
ActUnitNumber	0 (0x00)	0x00固定	0x00固定	対象局側ユニット 局番	対象局側ユニット 局番

*4 : I/Oアドレスは、実際のI/O先頭No.を16で割った値を指定してください。

- (2) 接続局CPUがQCPU (Qモード) でMELSECNET/10モード経由の場合
MELSECNET/Hボード, 経由ユニットの両方がMELSECNET/10モードの場合に動作します。

(a) 構成



(b) プロパティのパターン

自ボード	接続局CPU	経由ネットワーク	経由局CPU				
	QCPU (Qモード)		QCPU (Qモード)	QCPU (Aモード)	QnACPU	ACPU *5	FXCPU
		MELSECNET/H	×	×	×	×	×
		MELSECNET/10					×
		MELSECNET()	×	×	×	×	×
		Ethernet		×	×	×	×
		計算機リンク	*6	×		×	×
		CC-Link		×	×	×	×

：アクセス可能 (内はプロパティのパターン)

×：アクセス不可

*5：モーションコントローラCPUを含む。

*6：二重化CPUの場合は、アクセス不可

(c) プロパティ一覧

プロパティ	デフォルト値	プロパティのパターン			
ActCpuType	1025 (CPU_BOARD)	対象局に該当するCPUタイプ			
ActDestinationIONumber	0 (0x00)	0x00固定	0x00固定	対象局側 シングルCPU時 0x3FF固定 マルチCPU時 接続号機：0x3FF 1号機：0x3E0 2号機：0x3E1 3号機：0x3E2 4号機：0x3E3	対象局側 シングルCPU時 0x3FF固定 マルチCPU時 接続号機：0x3FF 1号機：0x3E0 2号機：0x3E1 3号機：0x3E2 4号機：0x3E3 二重化CPU時 対象局側 制御系：0x3D0 指定なし：0x3FF
ActDidPropertyBit	0 (0x00)	0x00固定	0x01固定	0x00固定	0x00固定
ActDsidPropertyBit	0 (0x00)	0x00固定	0x01固定	0x00固定	0x00固定

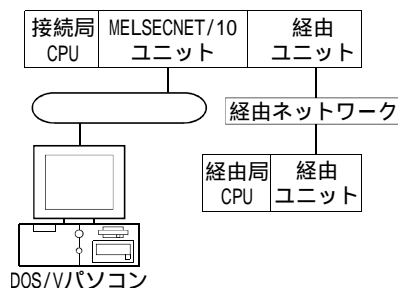
(次ページへ)

プロパティ	デフォルト値	プロパティのパターン			
ActIONumber*7	0 (0x00)	0x00固定	シングルCPU時 0x3FF固定 マルチCPU時 接続号機：0x3FF 1号機：0x3E0 2号機：0x3E1 3号機：0x3E2 4号機：0x3E3 二重化CPU時 対象局側 制御系 ：0x3D0 指定なし：0x3FF	接続局側 経由ユニット I/Oアドレス	接続局側 経由ユニット I/Oアドレス
ActMultiDropChannelNumber	0 (0x00)	0x00固定	0x00固定	0x00または0x02	0x00固定
ActNetworkNumber	0 (0x00)	0x00固定	対象局側ユニット ネットワークNo.	接続局側ユニット ネットワークNo.	接続局側ユニット ネットワークNo.
ActPortNumber	1 (PORT_1)	DOS/Vパソコン側MELSECNET/HボードのボードNo. , PORT1 ~ PORT4 (1枚目 ~ 4枚目)			
ActStationNumber	255 (0xFF)	0xFF固定	対象局側ユニット 局番	接続局側ユニット 局番	接続局側ユニット 局番
ActThroughNetworkType	1 (0x01)	0x01固定			
ActUnitNumber	0 (0x00)	0x00固定	0x00固定	対象局側ユニット 局番	対象局側ユニット 局番

*7：I/Oアドレスは、実際のI/O先頭No.を16で割った値を指定してください。

- (3) 接続局CPUがQCPU（Aモード）またはACPUでMELSECNET/10モード経由の場合
MELSECNET/HボードがMELSECNET/10モードの場合に動作します。

(a) 構 成



(b) プロパティのパターン

自ボード	接続局CPU		経路ネットワーク	経路局CPU				
	QCPU (Aモード)	ACPU*1		QCPU (Qモード)	QCPU (Aモード)	QnACPU	ACPU *8	FXCPU
			MELSECNET/H	×	×	×	×	×
			MELSECNET/10					×
			MELSECNET()	×	×	×	×	×
			Ethernet	×	×	×	×	×
			計算機リンク	×	×	×	×	×
			CC-Link	×	×	×	×	×

：アクセス可能（ 内はプロパティのパターン）

×：アクセス不可

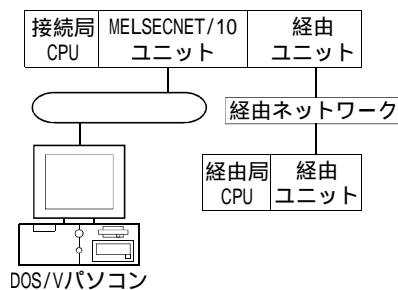
*8：モーションコントローラCPUを含む。

(c) プロパティ一覧

プロパティ	デフォルト値	プロパティのパターン		
ActCpuType	1025 (CPU_BOARD)	対象局に該当するCPUタイプ		
ActDestinationIONumber	0 (0x00)	0x00固定		
ActDidPropertyBit	0 (0x00)	0x00固定	0x01固定	0x00固定
ActDsidPropertyBit	0 (0x00)	0x00固定	0x01固定	0x00固定
ActIONumber	0 (0x00)	0x00固定	対象局側 シングルCPU時 0x3FF固定 マルチCPU時 接続号機：0x3FF 1号機：0x3E0 2号機：0x3E1 3号機：0x3E2 4号機：0x3E3 二重化CPU時 対象局側 制御系：0x3D0 指定なし：0x3FF	0x3FF固定
ActMultiDropChannelNumber	0 (0x00)	0x00固定		
ActNetworkNumber	0 (0x00)	0x00固定	対象局側ユニットネットワークNo.	
ActPortNumber	1 (PORT_1)	DOS/Vパソコン側MELSECNET/HボードのボードNo.，PORT1～PORT4（1枚目～4枚目）		
ActStationNumber	255 (0xFF)	0xFF固定	対象局側ユニット局番	
ActThroughNetworkType	1 (0x01)	0x01固定		
ActUnitNumber	0 (0x00)	0x00固定		

- (4) 接続局CPUがQnACPUでMELSECNET/10モード経由の場合
MELSECNET/HボードがMELSECNET/10モードの場合に動作します。

(a) 構成



(b) プロパティのパターン

自ボード	接続局CPU	経由ネットワーク	経由局CPU				
	QnACPU		QCPU (Qモード)	QCPU (Aモード)	QnACPU	ACPU *9	FXCPU
		MELSECNET/H	×	×	×	×	×
		MELSECNET/10					×
		MELSECNET()	×	×	×	×	×
		Ethernet	×	×		×	×
		計算機リンク	×	×		×	×
		CC-Link	×	×	×	×	×

：アクセス可能（内はプロパティのパターン）

×：アクセス不可

*9：モーションコントローラCPUを含む。

(c) プロパティ一覧

プロパティ	デフォルト値	プロパティのパターン		
		*10		
ActCpuType	1025 (CPU_BOARD)	対象局に該当するCPUタイプ		
ActDestinationIONumber	0 (0x00)	0x00固定		
ActDidPropertyBit	0 (0x00)	0x00固定	0x01固定	0x00固定
ActDsidPropertyBit	0 (0x00)	0x00固定	0x01固定	0x00固定

*10：Ethernetユニット（Qシリーズ対応E71，QE71）経由のアクセスは，下記の事項に注意してください。

- ・ ActNetworkNumber，ActStationNumberは，対象局側のQシリーズ対応E71，QE71のパラメータ設定で設定した値を指定してください。
- ・ Qシリーズ対応E71，QE71のパラメータ設定の「局番↔IP関連情報」を設定してください。また，設定を行う際，「局番↔IP関連情報設定方式」は自動応答方式以外（IPアドレス算出方式，テーブル変換方式，併用方式のいずれか）を指定してください。

(次ページへ)

プロパティ	デフォルト値	プロパティのパターン			
			*11		
ActIONumber *12	0 (0x00)	0x00固定	0x3FF固定	対象局側 シングルCPU時 0x3FF固定 マルチCPU時 接続号機：0x3FF 1号機：0x3E0 2号機：0x3E1 3号機：0x3E2 4号機：0x3E3 二重化CPU時 対象局側 制御系：0x3D0 指定なし：0x3FF	接続局側経由 ユニットI/Oアドレス
ActMultiDropChannelNumber	0 (0x00)	0x00固定			
ActNetworkNumber	0 (0x00)	0x00固定	対象局側ユニット ネットワークNo.	対象局側ユニット ネットワークNo.	接続局側ユニット ネットワークNo.
ActPortNumber	1 (PORT_1)	DOS/Vパソコン側MELSECNET/HボードのボードNo. , PORT1 ~ PORT4 (1枚目 ~ 4枚目)			
ActStationNumber	255 (0xFF)	0xFF固定	対象局側ユニット 局番	対象局側ユニット 局番	接続局側ユニット 局番
ActThroughNetworkType	1 (0x01)	0x01固定			
ActUnitNumber	0 (0x00)	0x00固定	0x00固定	0x00固定	対象局側ユニット 局番

*11：Ethernetユニット（Qシリーズ対応E71，QE71）経由のアクセスは，下記の事項に注意してください。

- ・ActNetworkNumber，ActStationNumberは，対象局側のQシリーズ対応E71，QE71のパラメータ設定で設定した値を指定してください。
- ・Qシリーズ対応E71，QE71のパラメータ設定の「局番↔IP関連情報」を設定してください。また，設定を行う際，「局番↔IP関連情報設定方式」は自動応答方式以外（IPアドレス算出方式，テーブル変換方式，併用方式のいずれか）を指定してください。

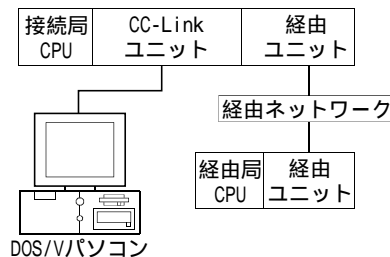
*12：I/Oアドレスは，実際のI/O先頭No.を16で割った値を指定してください。

3.3.25 ActCCBD, ActMLCCBDコントロール

ActCCBD, ActMLCCBDコントロールが保有するプロパティおよびデフォルト値を次に示します。

(1) 接続局CPUがQCPU (Qモード) の場合

(a) 構成



(b) プロパティのパターン

自ボード	接続局CPU	経路ネットワーク	経路局CPU				
	QCPU (Qモード)		QCPU (Qモード)	QCPU (Aモード)	QnACPU	ACPU *1	FXCPU
		MELSECNET/H		×	×	×	×
		MELSECNET/10		×	×	×	×
		MELSECNET()	×	×	×	×	×
		Ethernet		×	×	×	×
		計算機リンク	×	×	×	×	×
		CC-Link	×	×	×	×	×

：アクセス可能（内はプロパティのパターン）

×：アクセス不可

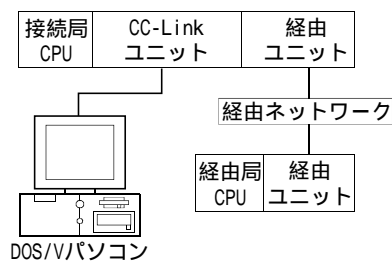
*1：モーションコントローラCPUを含む。

(c) プロパティ一覧

プロパティ	デフォルト値	プロパティのパターン		
ActCpuType	1025 (CPU_BOARD)	対象局に該当するCPUタイプ		
ActDestinationIONumber	0 (0x00)	0x00固定	対象局側 シングルCPU時 0x3FF固定 マルチCPU時 接続号機：0x3FF 1号機：0x3E0 2号機：0x3E1 3号機：0x3E2 4号機：0x3E3 二重化CPU時 対象局側 制御系：0x3D0 指定なし：0x3FF	対象局側 シングルCPU時 0x3FF固定 マルチCPU時 接続号機：0x3FF 1号機：0x3E0 2号機：0x3E1 3号機：0x3E2 4号機：0x3E3 二重化CPU時 対象局側 制御系：0x3D0 指定なし：0x3FF
ActIONumber	0 (0x00)	0x00固定	0x3FF固定	0x3FF固定
ActNetworkNumber	0 (0x00)	0x00固定	0x00固定	対象局側ユニット ネットワークNo.
ActPortNumber	1 (PORT_1)	DOS/Vパソコン側CC-LinkボードのボードNo. , PORT1～PORT4 (1枚目～4枚目)		
ActStationNumber	255 (0xFF)	0xFF固定	対象局側CC-Link ユニット局番	対象局側ユニット局番
ActUnitNumber	0 (0x00)	0x00固定	0x00固定	接続局側CC-Link ユニット局番

(2) 接続局CPUがQCPU (Aモード) の場合

(a) 構 成



(b) プロパティのパターン

自ボード	接続局CPU	経路ネットワーク	経路局CPU				
	QCPU (Aモード)		QCPU (Qモード)	QCPU (Aモード)	QnACPU	ACPU *2	FXCPU
		MELSECNET/H	×	×	×	×	×
		MELSECNET/10	×	×	×	×	×
		MELSECNET()	×	×	×	×	×
		Ethernet	×	×	×	×	×
		計算機リンク	×	×	×	×	×
		CC-Link	×	×	×	×	×

: アクセス可能 (内はプロパティのパターン)

× : アクセス不可

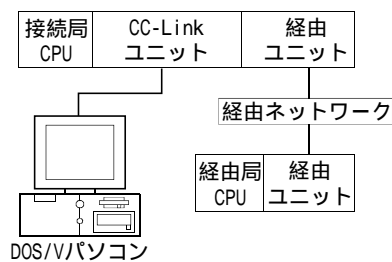
*2 : モーションコントローラCPUを含む。

(c) プロパティ一覧

プロパティ	デフォルト値	プロパティのパターン	
ActCpuType	1025 (CPU_BOARD)	対象局に該当するCPUタイプ	
ActDestinationIONumber	0 (0x00)	0x00固定	
ActIONumber	0 (0x00)	0x00固定	
ActNetworkNumber	0 (0x00)	0x00固定	
ActPortNumber	1 (PORT_1)	DOS/Vパソコン側CC-LinkボードのボードNo. , PORT1 ~ PORT4 (1枚目 ~ 4枚目)	
ActStationNumber	255 (0xFF)	0xFF固定	対象局側CC-Link ユニット局番
ActUnitNumber	0 (0x00)	0x00固定	

(3) 接続局CPUがQnACPUの場合

(a) 構 成



(b) プロパティのパターン

自ボード	接続局CPU	経由ネットワーク	経由局CPU				
	QnACPU		QCPU (Qモード)	QCPU (Aモード)	QnACPU	ACPU *3	FXCPU
		MELSECNET/H	×	×	×	×	×
		MELSECNET/10	×	×		×	×
		MELSECNET()	×	×	×	×	×
		Ethernet	×	×		×	×
		計算機リンク	×	×	×	×	×
		CC-Link	×	×	×	×	×

: アクセス可能 (内はプロパティのパターン)

×: アクセス不可

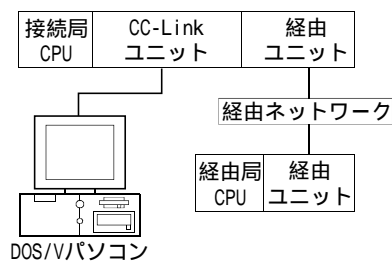
*3: モーションコントローラCPUを含む。

(c) プロパティ一覧

プロパティ	デフォルト値	プロパティのパターン		
ActCpuType	1025 (CPU_BOARD)	対象局に該当するCPUタイプ		
ActDestinationIONumber	0 (0x00)	0x00固定		
ActIONumber	0 (0x00)	0x3FF固定		
ActNetworkNumber	0 (0x00)	0x00固定	0x00固定	対象局側ユニット ネットワークNo.
ActPortNumber	1 (PORT_1)	DOS/Vパソコン側CC-LinkボードのボードNo. , PORT1 ~ PORT4 (1枚目 ~ 4枚目)		
ActStationNumber	255 (0xFF)	0xFF固定	対象局側CC-Linkユニット 局番	対象局側ユニット局番
ActUnitNumber	0 (0x00)	0x00固定	0x00固定	接続局側CC-Linkユニット 局番

(4) 接続局CPUがACPUの場合

(a) 構 成



(b) プロパティのパターン

自ボード	接続局CPU	経路ネットワーク	経路局CPU				
	ACPU*1		QCPU (Qモード)	QCPU (Aモード)	QnACPU	ACPU *4	FXCPU
		MELSECNET/H	×	×	×	×	×
		MELSECNET/10	×	×	×	×	×
		MELSECNET()	×	×	×	×	×
		Ethernet	×	×	×	×	×
		計算機リンク	×	×	×	×	×
		CC-Link	×	×	×	×	×

: アクセス可能 (内はプロパティのパターン)

× : アクセス不可

*4 : モーションコントローラCPUを含む。

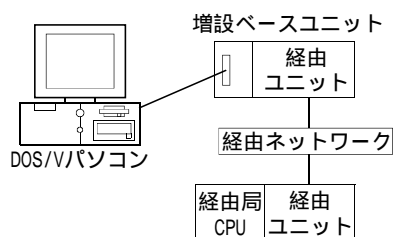
(c) プロパティ一覧

プロパティ	デフォルト値	プロパティのパターン	
ActCpuType	1025 (CPU_BOARD)	対象局に該当するCPUタイプ	
ActDestinationIONumber	0 (0x00)	0x00固定	
ActIONumber	0 (0x00)	0x00固定	
ActNetworkNumber	0 (0x00)	0x00固定	
ActPortNumber	1 (PORT_1)	DOS/Vパソコン側CC-LinkボードのボードNo. , PORT1 ~ PORT4 (1枚目 ~ 4枚目)	
ActStationNumber	255 (0xFF)	0xFF固定	対象局側ユニット局番
ActUnitNumber	0 (0x00)	0x00固定	

3.3.26 ActAnUBD , ActMLAnUBDコントロール

ActAnUBD , ActMLAnUBDコントロールが保有するプロパティおよびデフォルト値を次に示します。

(1) 構成



(2) プロパティのパターン

接続局CPU 自ボード	経路ネットワーク	経路局CPU				
		QCPU (Qモード)	QCPU (Aモード)	QnA CPU	ACPU *1	FXCPU
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×
	MELSECNET/10	×		*2		×
	MELSECNET()	×		*2		×
	Ethernet	×	×	×	×	×
	計算機リンク	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×

：アクセス可能（内はプロパティのパターン）

×：アクセス不可

*1：モーションコントローラCPUを含む。

*2：AnACPU相当として動作する。

(3) プロパティ一覧

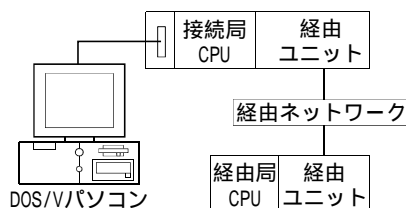
プロパティ	デフォルト値	プロパティのパターン		
ActCpuType	271 (CPU _A2USHS1CPU)	対象局に該当するCPUタイプ		
ActNetworkNumber	0 (0x00)	0x00固定	対象局側ユニット ネットワークNo.	0x00固定
ActStationNumber	255 (0xFF)	0xFF固定	対象局側ユニット局番	対象局側ユニット局番

3.3.27 ActAF, ActMLAFコントロール

ActAF, ActMLAFコントロールが保有するプロパティおよびデフォルト値を次に示します。

(1) 接続局CPUがQnACPUの場合

(a) 構 成



(b) プロパティのパターン

接続局CPU QnACPU	経路ネットワーク	経路局CPU				
		QCPU (Qモード)	QCPU (Aモード)	QnA CPU	ACPU *1	FXCPU
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×
	MELSECNET/10	×	×		×	×
	MELSECNET()	×	×		×	×
	Ethernet	×	×		×	×
	計算機リンク	×	×		×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×

：アクセス可能 (内はプロパティのパターン)

×：アクセス不可

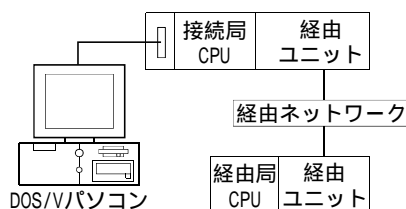
*1：モーションコントローラCPUを含む。

(c) プロパティ一覧

プロパティ	デフォルト値	プロパティのパターン			
ActCpuType	17 (CPU_Q2ACPU)	対象局に該当するCPUタイプ			
ActIONumber	1023 (0x3FF)	0x3FF固定	0x3FF固定	0x3FF固定	接続局側ユニット I/Oアドレス
ActNetworkNumber	0 (0x00)	0x00固定	対象局側ユニット ネットワークNo.	0x00固定	0x00固定
ActStationNumber	255 (0xFF)	0xFF固定	対象局側ユニット 局番	対象局側ユニット 局番	0xFF固定
ActUnitNumber	0 (0x00)	0x00固定	0x00固定	0x00固定	対象局側ユニット 局番

(2) 接続局CPUがACPUの場合

(a) 構 成



(b) プロパティのパターン

接続局CPU ACPU *1	経路ネットワーク	経路局CPU				
		QCPU (Qモード)	QCPU (Aモード)	QnA CPU	ACPU *2	FXCPU
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×
	MELSECNET/10	×		×		×
	MELSECNET()	×		×		×
	Ethernet	×	×	×	×	×
	計算機リンク	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×

：アクセス可能（内はプロパティのパターン）

×：アクセス不可

*2：モーションコントローラCPUを含む。

(c) プロパティ一覧

プロパティ	デフォルト値	プロパティのパターン		
ActCpuType	17 (CPU_Q2ACPU)	対象局に該当するCPUタイプ		
ActIONumber	1023 (0x3FF)	0x00固定		
ActNetworkNumber	0 (0x00)	0x00固定	対象局側ユニット ネットワークNo.	0x00固定
ActStationNumber	255 (0xFF)	0xFF固定	対象局側ユニット局番	対象局側ユニット局番
ActUnitNumber	0 (0x00)	0x00固定		

3.3.28 ActLLT, ActMLLLTコントロール

ActLLT, ActMLLLTコントロールが保有するプロパティおよびデフォルト値を次に示します。

プロパティ	デフォルト値	プロパティのパターン	
		自局	他局
ActCpuType	34 (CPU_Q02CPU)	対象局に該当するCPUタイプ	対象局に該当するCPUタイプ
ActNetworkNumber	0 (0x00)	0x00固定	対象局 ネットワークNo.
ActStationNumber	255 (0xFF)	0xFF固定	対象局 局番
ActTimeOut	10000	ms単位でユーザ任意	

ポイント

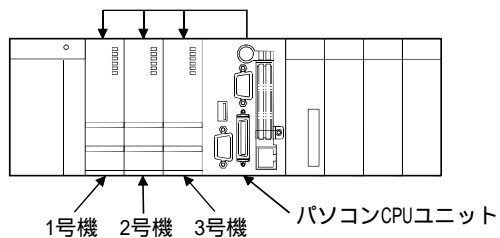
プロパティ設定で、以下いずれかの設定が含まれているときは自局にアクセスします。

- ・ ActNetworkNumber : 1～255以外が設定されているとき
- ・ ActStationNumber : 1～64以外が設定されているとき

3.3.29 ActQCPUQBus , ActMLQCPUQBusコントロール

ActQCPUBus , ActMLQCPUQBusコントロールが保有するプロパティおよびデフォルト値を次に示します。

(1) 構成



(2) プロパティ

プロパティ	デフォルト値	プロパティのパターン
ActCpuType	34 (CPU_Q02CPU)	対象局に該当するCPUタイプ
ActIOnNumber	992 (0x3E0)	対象局 1号機 : 0x3E0 2号機 : 0x3E1 3号機 : 0x3E2

ポイント

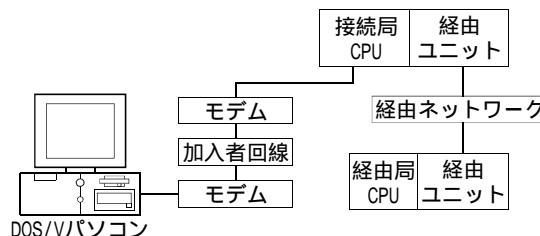
パソコンCPUユニットが管理する各ユニット経由にてシーケンサCPUへアクセスする場合は、下記のコントロールを使用してください。

経由ユニット	使用するコントロール	
	VB, VC++, VBA用	VBScript用
MELSECNET/Hユニット	ActMnethBD	ActMLMnethBD
CC-Linkユニット	ActCCBD	ActMLCCBD

3.3.30 ActA6TELコントロール

ActA6TELコントロールが保有するプロパティおよびデフォルト値を次に示します。

(1) 構成



(2) プロパティのパターン

接続局CPU ACPU *1	経路ネットワーク	接続局CPU				
		QCPU (Qモード)	QCPU (Aモード)	QnA CPU	ACPU *1	FXCPU
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×
	MELSECNET/10	×		×		×
	MELSECNET()	×		×		×
	Ethernet	×	×	×	×	×
	計算機リンク	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×

：アクセス可能（内はプロパティのパターン）

×：アクセス不可

*1：モーションコントローラCPUを含む。

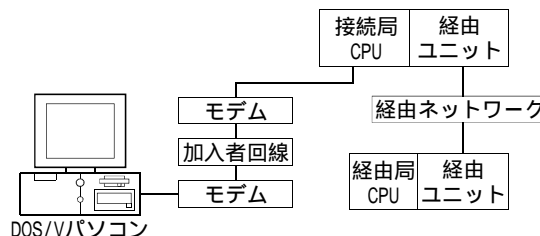
(3) プロパティ一覧

プロパティ	デフォルト値	プロパティのパターン		
ActATCommand	あき	ユーザ任意		
ActATCommandPasswordCancel RetryTimes	3	ユーザ任意		
ActATCommandResponse WaitTime	1	ユーザ任意（単位 秒）		
ActConnectionCDWaitTime	90	ユーザ任意（単位 秒）		
ActConnectionModemReport WaitTime	5	ユーザ任意（単位 秒）		
ActCpuType	262 (CPU_A1NCPU)	対象局に該当するCPUタイプ		
ActDialNumber	あき	ユーザ任意の電話番号		
ActDisconnectionCDWaitTime	5	ユーザ任意（単位 秒）		
ActDisconnectionDelayTime	3	ユーザ任意（単位 秒）		
ActLineType	1 (LINETYPE_ TONE)	LINETYPE_PULSE, LINETYPE_TONE, LINETYPE_ISDN		
ActNetworkNumber	0 (0x00)	0x00固定	対象局側ユニット ネットワークNo.	0x00固定
ActOutsideLineNumber	あき	ユーザ任意の外線発信番号		
ActPassword	あき	Q6TEL, A6TELに設定しているパスワード		
ActPasswordCancelResponse WaitTime	5	ユーザ任意（単位 秒）		
ActPortNumber	1 (PORT_1)	パソコン側COMポートNo.		
ActStationNumber	255 (0xFF)	0xFF固定	対象局側ユニット局番	対象局側ユニット局番
ActTimeOut	10000	ms単位でユーザ任意		
ActTransmissionDelayTime	0	ユーザ任意（単位 秒）		

3.3.31 ActQ6TELコントロール

ActQ6TELコントロールが保有するプロパティおよびデフォルト値を次に示します。

(1) 構成



(2) プロパティのパターン

接続局CPU	経路ネットワーク	経由局CPU				
QnACPU		QCPU (Qモード)	QCPU (Aモード)	QnA CPU	ACPU*1	FXCPU
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×
	MELSECNET/10	×	×		×	×
	MELSECNET()	×	×		×	×
	Ethernet	×	×		×	×
	計算機リンク	×	×		×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×

：アクセス可能（内はプロパティのパターン）

×：アクセス不可

*1：モーションコントローラCPUを含む。

(3) プロパティ一覧

プロパティ	デフォルト値	プロパティのパターン			
		*3			
ActATCommand	あき	ユーザ任意			
ActATCommandPasswordCancel RetryTimes	3	ユーザ任意			
ActATCommandResponse WaitTime	1	ユーザ任意（単位 秒）			
ActConnectionCDWaitTime	90	ユーザ任意（単位 秒）			
ActConnectionModemReport WaitTime	5	ユーザ任意（単位 秒）			
ActCpuType	17 (CPU_Q2ACPU)	対象局に該当するCPUタイプ			
ActDialNumber	あき	ユーザ任意の電話番号			
ActDisconnectionCDWaitTime	5	ユーザ任意（単位 秒）			
ActDisconnectionDelayTime	3	ユーザ任意（単位 秒）			
ActIOnumber *2	1023 (0x3FF)	0x3FF固定	0x3FF固定	0x3FF固定	接続局側ユニット I/Oアドレス
ActLineType	1 (LINETYPE_ TONE)	LINETYPE_PULSE, LINETYPE_TONE, LINETYPE_ISDN			

*2：I/Oアドレスは、実際のI/O先頭No.を16で割った値を指定してください。

*3：Ethernetユニット(QE71)経由のアクセスは、下記の事項に注意してください。

- ・ActNetworkNumber, ActStationNumberは、対象局側のQE71のパラメータ設定で設定した値を指定してください。
- ・QE71のパラメータ設定の「局番↔IP関連情報」を設定してください。また、設定を行う際、「局番↔IP関連情報設定方式」は自動応答方式以外（IPアドレス算出方式、テーブル変換方式、併用方式のいずれか）を指定してください。

(次ページへ)

プロパティ	デフォルト値	プロパティのパターン			
		*4			
ActNetworkNumber	0 (0x00)	0x00固定	対象局側ユニット ネットワークNo.	0x00固定	0x00固定
ActOutsideLineNumber	あき	ユーザ任意の外線発信番号			
ActPassword	あき	Q6TELに設定しているパスワード			
ActPasswordCancelResponse WaitTime	5	ユーザ任意 (単位 秒)			
ActPortNumber	1 (PORT_1)	パソコン側COMポートNo.			
ActStationNumber	255 (0xFF)	0xFF固定	対象局側ユニット 局番	対象局側ユニット 局番	0xFF固定
ActTimeOut	10000	ms単位でユーザ任意			
ActTransmissionDelayTime	0	ユーザ任意 (単位 秒)			
ActUnitNumber	0 (0x00)	0x00固定	0x00固定	0x00固定	対象局側ユニット 局番

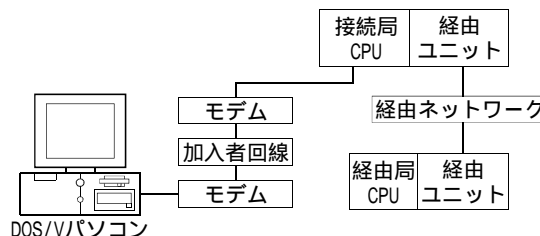
*4 : Ethernetユニット(QE71)経由のアクセスは、下記の事項に注意してください。

- ・ ActNetworkNumber, ActStationNumberは、対象局側のQE71のパラメータ設定で設定した値を指定してください。
- ・ QE71のパラメータ設定の「局番↔IP関連情報」を設定してください。また、設定を行う際、「局番↔IP関連情報設定方式」は自動応答方式以外 (IPアドレス算出方式、テーブル変換方式、併用方式のいずれか) を指定してください。

3.3.32 ActFXCPU TELコントロール

ActFXCPU TELコントロールが保有するプロパティおよびデフォルト値を次に示します。

(1) 構成



(2) プロパティのパターン

接続局CPU	経路ネットワーク	接続局CPU				
FXCPU		QCPU (Qモード)	QCPU (Aモード)	QnA CPU	ACPU*1	FXCPU
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×
	MELSECNET/10	×	×	×	×	×
	MELSECNET()	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×
	計算機リンク	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×

：アクセス可能（内はプロパティのパターン）

×：アクセス不可

*1：モーションコントローラCPUを含む。

(3) プロパティ一覧

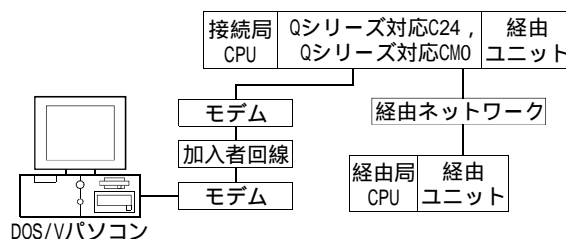
プロパティ	デフォルト値	プロパティのパターン
ActATCommand	あき	ユーザ任意
ActATCommandPasswordCancel RetryTimes	3	ユーザ任意
ActATCommandResponse WaitTime	1	ユーザ任意（単位 秒）
ActConnectionCDWaitTime	90	ユーザ任意（単位 秒）
ActConnectionModemReport WaitTime	5	ユーザ任意（単位 秒）
ActCpuType	513 (CPU_FX0CPU)	対象局に該当するCPUタイプ
ActDialNumber	あき	ユーザ任意の電話番号
ActDisconnectionCDWaitTime	5	ユーザ任意（単位 秒）
ActDisconnectionDelayTime	3	ユーザ任意（単位 秒）
ActLineType	1 (LINETYPE_TONE)	LINETYPE_PULSE, LINETYPE_TONE, LINETYPE_ISDN
ActOutsideLineNumber	あき	ユーザ任意の外線発信番号
ActPasswordCancelResponse WaitTime	5	ユーザ任意（単位 秒）
ActPortNumber	1 (PORT_1)	パソコン側COMポートNo.
ActTimeOut	10000	ms単位でユーザ任意
ActTransmissionDelayTime	0	ユーザ任意（単位 秒）

3.3.33 ActQJ71C24TELコントロール

ActQJ71C24TELコントロールが保有するプロパティおよびデフォルト値を次に示します。

(1) 接続局CPU側Qシリーズ対応C24 / Qシリーズ対応CMOとは別に経路ユニットが存在する場合

(a) 構成



(b) プロパティのパターン

接続局CPU QCPU (Qモード)	経路ネットワーク	経路局CPU				
		QCPU (Qモード)	QCPU (Aモード)	QnA CPU	ACPU*1	FXCPU
	MELSECNET/H		×	×	×	×
	MELSECNET/10					×
	MELSECNET()	×	×	×	×	×
	Ethernet		×		×	×
	計算機リンク	*2	×		×	×
	CC-Link					×

：アクセス可能（内はプロパティのパターン）

×：アクセス不可

*1：モーションコントローラCPUを含む。

*2：二重化CPUの場合は、アクセス不可

(c) プロパティ一覧

プロパティ	デフォルト値	プロパティのパターン	
			*3
ActATCommand	あき	ユーザ任意	
ActATCommandPasswordCancel RetryTimes	3	ユーザ任意	
ActATCommandResponse WaitTime	1	ユーザ任意（単位 秒）	
ActBaudRate	19200 (BAUDRATE_19200)	BAUDRATE_9600, BAUDRATE_19200, BAUDRATE_38400, BAUDRATE_57600, BAUDRATE_115200 (Qシリーズ対応C24, Qシリーズ対応CMOの設定に合わせる)	
ActCallbackCancelWaitTime	90	ユーザ任意（単位 秒）	
ActCallbackDelayTime	20	ユーザ任意（単位 秒）	
ActCallbackNumber	あき	ユーザ任意の電話番号	
ActCallbackReceptionWaiting TimeOut	120	ユーザ任意（単位 秒）	
ActConnectionCDWaitTime	90	ユーザ任意（単位 秒）	
ActConnectionModemReport WaitTime	5	ユーザ任意（単位 秒）	
ActConnectUnitNumber	0 (0x00)	接続局側ユニット局番	

*3：Ethernetユニット(QE71)経由のアクセスは、下記の事項に注意してください。

- ActNetworkNumber, ActStationNumberは、対象局側のQE71のパラメータ設定で設定した値を指定してください。
- QE71のパラメータ設定の「局番↔IP関連情報」を設定してください。また、設定を行う際、「局番↔IP関連情報設定方式」は自動応答方式以外（IPアドレス算出方式、テーブル変換方式、併用方式のいずれか）を指定してください。

(次ページへ)

プロパティ	デフォルト値	プロパティのパターン			
		*5			
ActConnectWay	0 (TEL_AUTO_CONNECT)	TEL_AUTO_CONNECT, TEL_AUTO_CALLBACK, TEL_AUTO_CALLBACK_NUMBER, TEL_CALLBACK, TEL_CALLBACK_NUMBER, TEL_CALLBACK_REQUEST, TEL_CALLBACK_REQUEST_NUMBER, TEL_CALLBACK_WAIT (コールバック機能の設定による。)			
ActCpuType	34 (CPU_Q02CPU)	対象局に該当するCPUタイプ			
ActDestinationIONumber	0 (0x00)	0x00固定	0x00固定	対象局側 シングルCPU時 0x3FF固定 マルチCPU時 接続号機: 0x3FF 1号機: 0x3E0 2号機: 0x3E1 3号機: 0x3E2 4号機: 0x3E3	対象局側 シングルCPU時 0x3FF固定 マルチCPU時 接続号機: 0x3FF 1号機: 0x3E0 2号機: 0x3E1 3号機: 0x3E2 4号機: 0x3E3 二重化CPU時 制御系: 0x3D0 指定なし: 0x3FF
ActDialNumber	あき	ユーザ任意の電話番号			
ActDidPropertyBit	1 (0x01)	0x01	0x01	0x00	0x00
ActDisconnectionCDWaitTime	5	ユーザ任意 (単位 秒)			
ActDisconnectionDelayTime	3	ユーザ任意 (単位 秒)			
ActDsIdPropertyBit	1 (0x01)	0x01	0x01	0x00	0x00
ActIntelligentPreferenceBit	0 (0x00)	0x00固定	0x00固定	0x00固定	0x00固定
ActIONumber*4	1023 (0x3FF)	対象局側 シングルCPU時 0x3FF固定 マルチCPU時 接続号機: 0x3FF 1号機: 0x3E0 2号機: 0x3E1 3号機: 0x3E2 4号機: 0x3E3 二重化CPU時 制御系: 0x3D0 指定なし: 0x3FF	対象局側 シングルCPU時 0x3FF固定 マルチCPU時 接続号機: 0x3FF 1号機: 0x3E0 2号機: 0x3E1 3号機: 0x3E2 4号機: 0x3E3 二重化CPU時 制御系: 0x3D0 指定なし: 0x3FF	接続局側 経由ユニット I/Oアドレス	接続局側 経由ユニット I/Oアドレス
ActLineType	1 (LINETYPE_TONE)	LINETYPE_PULSE, LINETYPE_TONE, LINETYPE_ISDN			
ActMultiDropChannelNumber*6	0 (0x00)	0x00固定	0x00固定	マルチドロップ チャンネルNo.	0x00固定
ActNetworkNumber	0 (0x00)	0x00固定	対象局側ユニット ネットワークNo.	0x00固定	0x00固定
ActOutsideLineNumber	あき	ユーザ任意の外線発信番号			
ActPassword	あき	Qシリーズ対応C24, Qシリーズ対応CM0に設定しているパスワード			
ActPasswordCancelResponseWaitTime	5	ユーザ任意 (単位 秒)			
ActPortNumber	1 (PORT_1)	パソコン側CPUポートNo.			
ActStationNumber	255 (0xFF)	0xFF固定	対象局側ユニット 局番	0xFF固定	0xFF固定
ActThroughNetworkType	0 (0x00)	QCPU (Qモード): 0x00 (MELSECNET/Hのみ), QCPU (Qモード) 以外: 0x01 (MELSECNET/10を含む)。ただし, GPP機能のネットワークパラメータの内容と同一にする。			
ActTimeOut	10000	ms単位でユーザ任意			
ActTransmissionDelayTime	0	ユーザ任意 (単位 秒)			
ActUnitNumber	0 (0x00)	0x00固定	0x00固定	対象局側ユニット 局番	対象局側ユニット 局番

*4: I/Oアドレスは、実際のI/O先頭No.を16で割った値を指定してください。

*5: Ethernetユニット(QE71)経由のアクセスは、下記の事項に注意してください。

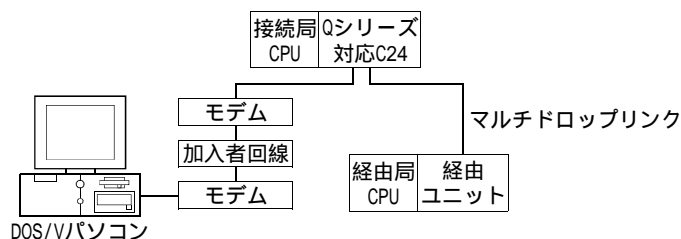
- ActNetworkNumber, ActStationNumberは、対象局側のQE71のパラメータ設定で設定した値を指定してください。
- QE71のパラメータ設定の「局番↔IP関連情報」を設定してください。また、設定を行う際、「局番↔IP関連情報設定方式」は自動応答方式以外 (IPアドレス算出方式, テーブル変換方式, 併用方式のいずれか) を指定してください。

*6: マルチドロップリンクするチャンネルNo.は下記を指定してください。

- 0: ユニットのデフォルトチャンネルを使用
- 1: チャンネル1
- 2: チャンネル2

(2) 接続局CPU側Qシリーズ対応C24で経由ユニットとマルチドロップする場合

(a) 構 成



(b) プロパティのパターン

接続局CPU		経由ネットワーク	経由局CPU				
QCPU (Qモード)			QCPU (Qモード)	QCPU (Aモード)	QnACPU	ACPU *7	FXCPU
独立モード*8		計算機リンク	*9	×		×	×

: アクセス可能 (内はプロパティのパターン)

×: アクセス不可

*7: モーションコントローラCPUを含む。

*8: 独立モードは、パラメータを以下の通りに設定した場合を示します。

・CH1側: 伝送設定の動作設定 = 独立(0), 交信プロトコル設定 = 0

・CH2側: 伝送設定の動作設定 = 独立(0)

*9: 二重化CPUの場合は、アクセス不可

(c) プロパティ一覧

プロパティ	デフォルト値	プロパティのパターン	
ActATCommand	あき	ユーザ任意	
ActATCommandPasswordCancel RetryTimes	3	ユーザ任意	
ActATCommandResponse WaitTime	1	ユーザ任意 (単位 秒)	
ActBaudRate	19200 (BAUDRATE_19200)	BAUDRATE_9600, BAUDRATE_19200, BAUDRATE_38400, BAUDRATE_57600, BAUDRATE_115200 (Qシリーズ対応C24の設定に合わせる)	
ActCallbackCancelWaitTime	90	ユーザ任意 (単位 秒)	
ActCallbackDelayTime	20	ユーザ任意 (単位 秒)	
ActCallbackNumber	あき	ユーザ任意の電話番号	
ActCallbackReceptionWaiting TimeOut	120	ユーザ任意 (単位 秒)	
ActConnectionCDWaitTime	90	ユーザ任意 (単位 秒)	
ActConnectionModemReport WaitTime	5	ユーザ任意 (単位 秒)	
ActConnectUnitNumber	0 (0x00)	接続局側ユニット局番	接続局側ユニット局番
ActConnectWay	0 (TEL_AUTO_CONNECT)	TEL_AUTO_CONNECT, TEL_AUTO_CALLBACK, TEL_AUTO_CALLBACK_NUMBER, TEL_CALLBACK, TEL_CALLBACK_NUMBER, TEL_CALLBACK_REQUEST, TEL_CALLBACK_REQUEST_NUMBER, TEL_CALLBACK_WAIT (コールバック機能の設定による。)	
ActCpuType	34 (CPU_Q02CPU)	対象局に該当するCPUタイプ	

(次ページへ)

プロパティ	デフォルト値	プロパティのパターン	
ActDestinationIONumber	0 (0x00)	0x00固定	対象局側 シングルCPU時 0x3FF固定 マルチCPU時 接続号機: 0x3FF 1号機: 0x3E0 2号機: 0x3E1 3号機: 0x3E2 4号機: 0x3E3
ActDialNumber	あき	ユーザ任意の電話番号	
ActDidPropertyBit	1 (0x01)	0x01	0x00
ActDisconnectionCDWaitTime	5	ユーザ任意 (単位 秒)	
ActDisconnectionDelayTime	3	ユーザ任意 (単位 秒)	
ActDsidPropertyBit	1 (0x01)	0x01	0x00
ActIntelligentPreferenceBit	0 (0x00)	0x00固定	0x00固定
ActIONumber *10	1023 (0x3FF)	対象局側 シングルCPU時 0x3FF固定 マルチCPU時 接続号機: 0x3FF 1号機: 0x3E0 2号機: 0x3E1 3号機: 0x3E2 4号機: 0x3E3	接続局側経由ユニットI/Oアドレス
ActLineType	1 (LINETYPE_TONE)	LINETYPE_PULSE, LINETYPE_TONE, LINETYPE_ISDN	
ActMultiDropChannelNumber *11	0 (0x00)	0x00固定	マルチドロップ チャンネルNo.
ActNetworkNumber	0 (0x00)	0x00固定	0x00固定
ActOutsideLineNumber	あき	ユーザ任意の外線発信番号	
ActPassword	あき	Qシリーズ対応C24ユニットに設定しているパスワード	
ActPasswordCancelResponseWaitTime	5	ユーザ任意 (単位 秒)	
ActPortNumber	1 (PORT_1)	パソコン側COMポートNo.	
ActStationNumber	255 (0xFF)	0xFF固定	0xFF固定
ActThroughNetworkType	0 (0x00)	QCPU (Qモード): 0x00 (MELSECNET/Hのみ), QCPU (Qモード) 以外: 0x01 (MELSECNET/10を含む)。ただし, GPP機能のネットワークパラメータの内容と同一にする。	
ActTimeOut	10000	ms単位でユーザ任意	
ActTransmissionDelayTime	0	ユーザ任意 (単位 秒)	
ActUnitNumber	0 (0x00)	0x00固定	対象局側ユニット局番

*10: I/Oアドレスは, 実際のI/O先頭No.を16で割った値を指定してください。

*11: マルチドロップリンクするチャンネルNo.は下記を指定してください。

0: ユニットのデフォルトチャンネルを使用

1: チャンネル1

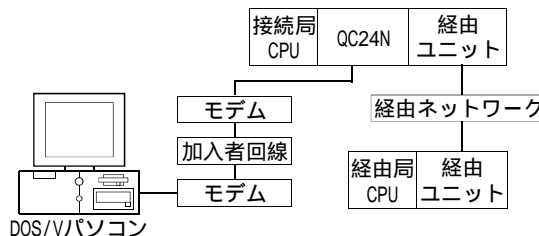
2: チャンネル2

3.3.34 ActAJ71QC24TELコントロール

ActAJ71QC24TELコントロールが保有するプロパティおよびデフォルト値を次に示します。

(1) 接続局CPU側QC24Nとは別に経由ユニットが存在する場合

(a) 構成



(b) プロパティのパターン

接続局CPU		経由局CPU				
QnACPU	経由ネットワーク	QCPU (Qモード)	QCPU (Aモード)	QnA CPU	ACPU*1	FXCPU
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×
	MELSECNET/10	×	×		×	×
	MELSECNET()	×	×		×	×
	Ethernet	×	×		×	×
	計算機リンク	×	×		×	×
	CC-Link	×	×		×	×

：アクセス可能（内はプロパティのパターン）

×：アクセス不可

*1：モーションコントローラCPUを含む。

(c) プロパティ一覧

プロパティ	デフォルト値	プロパティのパターン		
		*2		
ActATCommand	あき	ユーザ任意		
ActATCommandPasswordCancel RetryTimes	3	ユーザ任意		
ActATCommandResponse WaitTime	1	ユーザ任意（単位 秒）		
ActBaudRate	19200 (BAUDRATE _19200)	QC24Nの設定に合わせる		
ActConnectionCDWaitTime	90	ユーザ任意（単位 秒）		
ActConnectionModemReport WaitTime	5	ユーザ任意（単位 秒）		
ActConnectUnitNumber	0 (0x00)	接続局側ユニット局番		
ActCpuType	17 (CPU_Q2ACPU)	対象局に該当するCPUタイプ		
ActDialNumber	あき	ユーザ任意の電話番号		

*2：Ethernetユニット(QE71)経由のアクセスは、下記の事項に注意してください。

- ・ ActNetworkNumber, ActStationNumberは、対象局側のQE71のパラメータ設定で設定した値を指定してください。
- ・ QE71のパラメータ設定の「局番↔IP関連情報」を設定してください。また、設定を行う際、「局番↔IP関連情報設定方式」は自動応答方式以外（IPアドレス算出方式、テーブル変換方式、併用方式のいずれか）を指定してください。

(次ページへ)

プロパティ	デフォルト値	プロパティのパターン			
		*4			
ActDisconnectionCDWaitTime	5	ユーザ任意 (単位 秒)			
ActDisconnectionDelayTime	3	ユーザ任意 (単位 秒)			
ActIOMNumber *3	1023 (0x3FF)	0x3FF固定	0x3FF固定	0x3FF固定	接続局側 経由ユニット I/Oアドレス
ActLineType	1 (LINETYPE_ TONE)	LINETYPE_PULSE, LINETYPE_TONE, LINETYPE_ISDN			
ActNetWorkNumber	0 (0x00)	0x00固定	対象局側ユニット ネットワークNo.	0x00固定	0x00固定
ActOutsideLineNumber	あき	ユーザ任意の外線発信番号			
ActPasswordCancelResponseWaitTime	5	ユーザ任意 (単位 秒)			
ActPortNumber	1 (PORT_1)	パソコン側COMポートNo.			
ActStationNumber	255 (0xFF)	0xFF固定	対象局側ユニット 局番	対象局側ユニット 局番	0xFF固定
ActTimeOut	10000	ms単位でユーザ任意			
ActTransmissionDelayTime	0	ユーザ任意 (単位 秒)			
ActUnitNumber	0 (0x00)	0x00固定	0x00固定	0x00固定	対象局側ユニット 局番

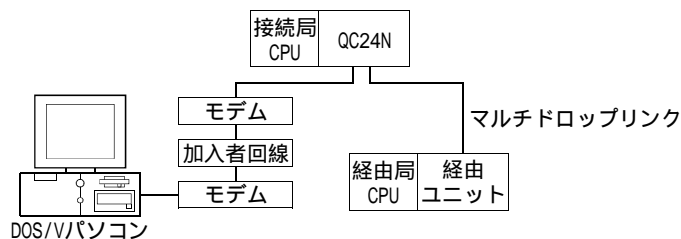
*3: I/Oアドレスは、実際のI/O先頭No.を16で割った値を指定してください。

*4: Ethernetユニット(QE71)経由のアクセスは、下記の事項に注意してください。

- ・ ActNetworkNumber, ActStationNumberは、対象局側のQE71のパラメータ設定で設定した値を指定してください。
- ・ QE71のパラメータ設定の「局番↔IP関連情報」を設定してください。また、設定を行う際、「局番↔IP関連情報設定方式」は自動応答方式以外 (IPアドレス算出方式, テーブル変換方式, 併用方式のいずれか) を指定してください。

(2) 接続局CPU側QC24Nで経由ユニットとマルチドロップリンクする場合

(a) 構成



(b) プロパティのパターン

接続局CPU		経由ネットワーク	経由局CPU				
QnACPU			QCPU (Qモード)	QCPU (Aモード)	QnACPU	ACPU *5	FXCPU
独立モード*6		計算機リンク	×	×		×	×

: アクセス可能 (内はプロパティのパターン)

×: アクセス不可

*5: モーションコントローラCPUを含む。

*6: 独立モードは、ユニットのスイッチを以下の通りに設定した場合を示す。

・ CH1側: モード設定スイッチ=5,
動作設定スイッチのSW01=OFF

(c) プロパティ一覧

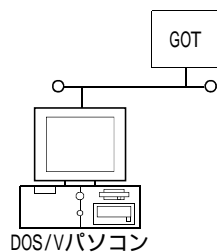
プロパティ	デフォルト値	プロパティのパターン	
ActATCommand	あき	ユーザ任意	
ActATCommandPasswordCancelRetryTimes	3	ユーザ任意	
ActATCommandResponseWaitTime	1	ユーザ任意 (単位 秒)	
ActBaudRate	19200 (BAUDRATE_19200)	QC24Nの設定に合わせる	
ActConnectionCDWaitTime	90	ユーザ任意 (単位 秒)	
ActConnectionModemReportWaitTime	5	ユーザ任意 (単位 秒)	
ActConnectUnitNumber	0 (0x00)	接続局側ユニット局番	接続局側ユニット局番
ActCpuType	17 (CPU_Q2ACPU)	対象局に該当するCPUタイプ	
ActDialNumber	あき	ユーザ任意の電話番号	
ActDisconnectionCDWaitTime	5	ユーザ任意 (単位 秒)	
ActDisconnectionDelayTime	3	ユーザ任意 (単位 秒)	
ActIOLNumber *7	1023 (0x3FF)	0x3FF固定	接続局側経由ユニットI/Oアドレス
ActLineType	1 (LINETYPE_TONE)	LINETYPE_PULSE, LINETYPE_TONE, LINETYPE_ISDN	
ActNetworkNumber	0 (0x00)	0x00固定	0x00固定
ActOutsideLineNumber	あき	ユーザ任意の外線発信番号	
ActPasswordCancelResponseWaitTime	5	ユーザ任意 (単位 秒)	
ActPortNumber	1 (PORT_1)	パソコン側COMポートNo.	
ActStationNumber	255 (0xFF)	0xFF固定	0xFF固定
ActTimeOut	10000	ms単位でユーザ任意	
ActTransmissionDelayTime	0	ユーザ任意 (単位 秒)	
ActUnitNumber	0 (0x00)	0x00固定	対象局側ユニット局番

*7: I/Oアドレスは、実際のI/O先頭No.を16で割った値を指定してください。

3.3.35 ActGOT, ActMLGOTコントロール

ActGOT, ActMLGOTコントロールが保有するプロパティおよびデフォルト値を次に示します。

(1) 構成



(2) プロパティ一覧

プロパティ	デフォルト値	プロパティのパターン
ActHostAddress	1.1.1.1	接続するGOTのホスト名またはIPアドレス
ActPortNumber	5011	パソコン側CPUポートNo.
ActTimeOut	10000	ms単位でユーザ任意

メ 毛

[illegible]

4 関 数

プログラミング時の注意事項および関数の詳細(ディスパッチI/F^{*1}, カスタムI/F^{*2})について説明します。

*1: ディスパッチI/Fとは, ActiveXコントロールをVisual Basic[®], Visual C++[®], VBA(Excel, Access)上のフォームに貼り付け, ActiveXコントロールを使用する方法です。

I/F取得やオブジェクト生成をプログラムする必要がありません。(ActiveXコントロールをフォームに貼りつけずに, オブジェクト生成するプログラムも作成することが可能です。)

カスタムI/Fに比べ, プログラムを簡単に作成することが可能です。

MX ComponentではディスパッチI/Fを使用し, ユーザアプリケーション作成することを推奨します。

*2: カスタムI/Fとは, ActiveXコントロールの使用の際にI/F取得関数を使用してI/Fを取得します。

また, オブジェクト生成時もオブジェクト生成関数を使用します。

ディスパッチI/Fに比べプログラムは複雑になりますが, オブジェクトの生成/消滅を細かく管理することが可能です。

ポイント

プログラミングの際には, “ 4.1節 プログラミング時の注意事項 ” を参照してください。

4.1 プログラミング時の注意事項

プログラミングを行う場合の注意事項について説明します。

(1) マルチスレッドプログラミング時の注意事項

マルチスレッドプログラミングを行う際には, COMおよびActiveXコントロールの規約に従ってください。

詳細については, COMおよびActiveXコントロールの規約, 参考書を参照してください。

ポイント

- | |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| (1) MX Componentで使用するActiveXコントロールはSTAモデルです。
(2) インタフェースポインタを他のアパートメントに渡す場合, インタフェースポインタをマーシャリングする必要があります。
COM関数のCoMarshalerThreadInterfaceInStream, CoGetInterfaceAndReleaseStreamを使用して同期をとってください。 |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

(2) Visual Basic[®] 6.0使用時の注意事項

ディスパッチI/Fのみ使用可能です。

(3) Visual C++® 6.0 (ディスパッチI/F , カスタムI/F) 使用時の注意事項

(a) ディスパッチI/FおよびカスタムI/Fともに使用可能です。

(b) BSTR*型

BSTRのポインタ型を使用するメソッドおよびプロパティの取得関数では、メモリ確保をActiveXコントロール内部で行い、メモリ開放をユーザプログラムで行う必要があります。(COM、ActiveXコントロールの規約によるものです。)

(例)

```
BSTR    szCpuName;  
LONG    ICpuCode;  
Obj.GetCpuType( &szCpuName, &ICpuCode );  
MessgBox( "CpuName = %s, CpuCode = %d", szCpuName, ICpuCode );  
SysFreeString( szCpuName );
```

(4) Visual C++® 6.0 (カスタムI/F) 使用時の注意事項

(a) HRESULT型

COMの返り値であるHRESULT型の正常終了および異常終了については、SUCCEEDEDマクロまたはFAILEDマクロを使用して確認してください。

(例)

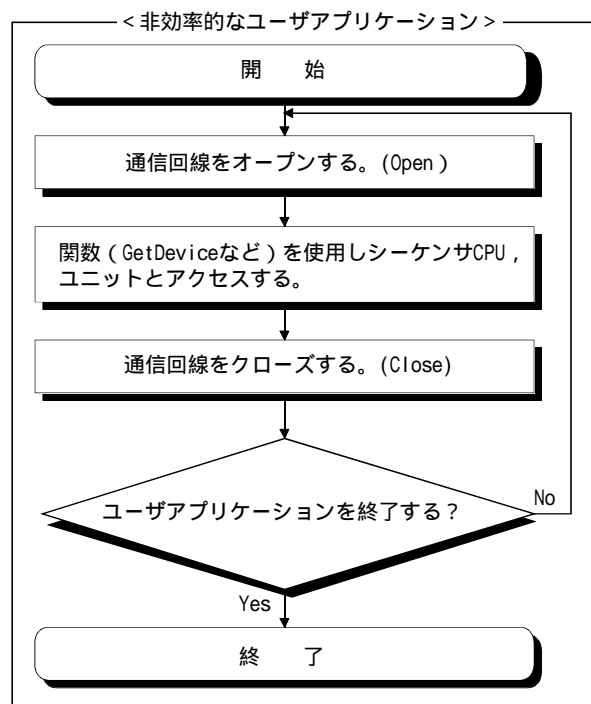
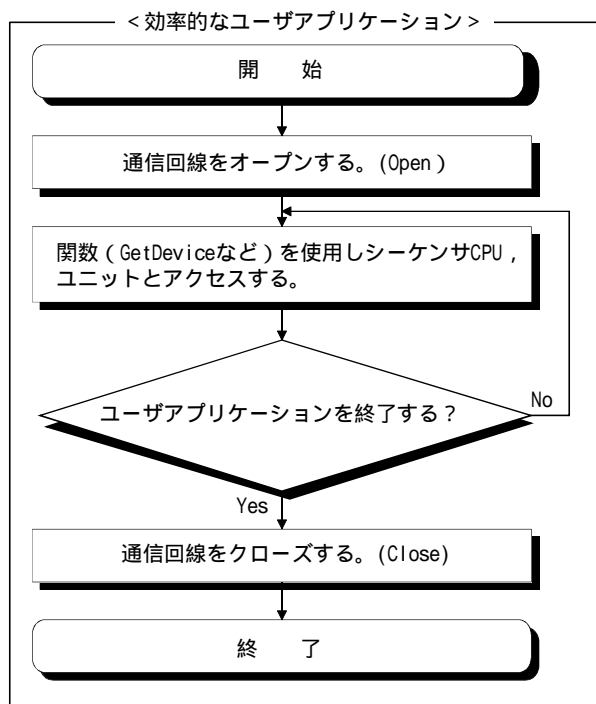
```
HRESULT    hResult;  
LONG       IRet;  
hResult = Obj.Open( &IRet );  
if( SUCCEEDED( hResult ) ) {  
    if( IRet = SUCCESS ) {  
  
    } else {  
        MessgeBox( "Communication Error = %x", IRet );  
    }  
} else {  
    MessgeBox( "COM ERROR Occurd" );  
}
```

(5) Open（通信回線のオープン）について

Open関数は通信経路の確立，シーケンサ内部情報の取得などの処理を行うため処理時間が長くなる場合があります。

ユーザアプリケーションの速度性能をあげるため，効率的なプログラムを作成する必要があります。

下記に効率的なユーザアプリケーションと非効率的なユーザアプリケーションの作成フローを示します。



(6) LONG型の関数とSHORT型 / INT型の関数の違い

MX Componentでは“デバイスの一括読出し”、“デバイスの一括書込み”、“デバイスのランダム読出し”、“デバイスのランダム書込み”、“デバイスデータの設定”および“デバイスデータの取得”を行うための関数としてLONG型の関数とSHORT型 / INT型の関数の2種類を用意しています。

下記にLONG型の関数とSHORT型 / INT型の関数との違いを示します。

(a) LONG型の関数（参照項：4.2.3項～4.2.8項）

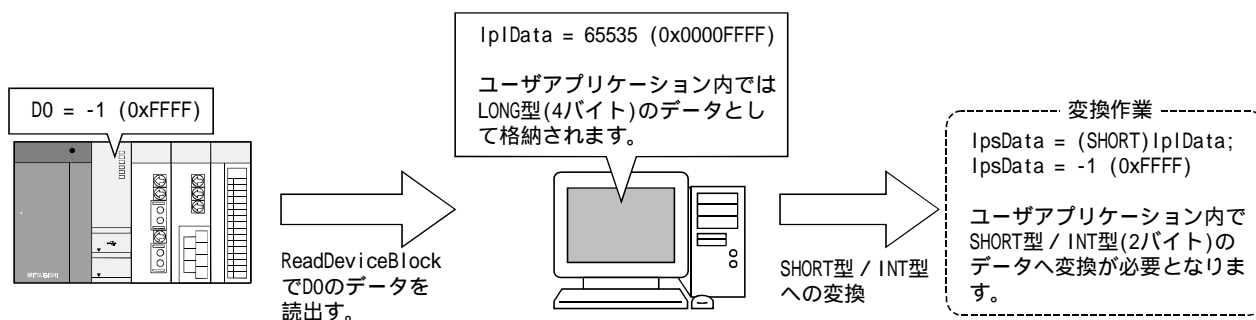
LONG型の関数は負のデバイス値を書込み / 読出しする場合、ユーザアプリケーション内にてSHORT型 / INT型への変換作業を行う必要があります。

負のデバイス値を書込み / 読み出しする場合は(b)に示すSHORT型 / INT型の関数を使用してください。

対象関数：ReadDeviceBlock, WriteDeviceBlock, ReadDeviceRandom, WriteDeviceRandom, SetDevice, GetDevice

< 例 >

ReadDeviceBlockで負の値の入ったデバイスデータを読出す場合



(b) SHORT型 / INT型の関数（参照項：4.2.18項～4.2.23項）

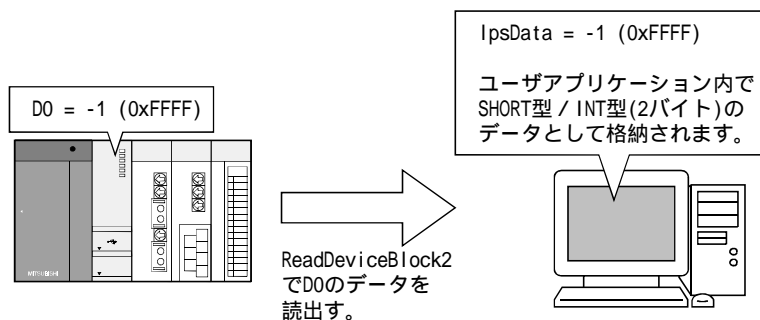
SHORT型 / INT型の関数は負のデバイス値を書込み / 読出しする場合、書込み / 読出しを行うデバイス値をそのまま使用することが可能です。（変換作業を行う必要はありません。）

ダブルワードデバイスなどを扱う場合は、(a)に示すLONG型の関数を使用してください。

対象関数：ReadDeviceBlock2, WriteDeviceBlock2, ReadDeviceRandom2, WriteDeviceRandom2, SetDevice2, GetDevice2

< 例 >

ReadDeviceBlock2で負の値の入ったデバイスデータを読出す場合



4.2 関数の詳細（ディスパッチI/F）

各関数の詳細について説明します。

下記関数の詳細は、ディスパッチI/Fです。

カスタムI/Fについては、“4.3節 関数の詳細（カスタムI/F）”を参照してください。

4.2.1 Open（通信回線のオープン）

(1) 使用可能ACTコントロール

ActSupportコントロールおよびActMLSupportコントロールを除くすべてのACTコントロールで使用可能です。

(2) 機 能

通信回線をオープンします。

(3) 書 式

Visual Basic® 6.0 , Visual C++® 6.0 ,			
Visual C++® .NET(MFC) , VBA : IRet = object.Open()	Long	IRet	戻り値
			Output
VBScript : varRet = object.Open()			
	VARIANT	varRet	戻り値(内容はLONG型)
			Output
Visual Basic® .NET : IRet = object.Open()			
	Integer	IRet	戻り値
			Output
Visual C++® .NET : iRet = object.Open()			
	int	iRet	戻り値
			Output

(4) 説 明

Open関数用プロパティの設定値をもとに回線の接続を行います。

(5) 戻り値

正常終了：0を返す。

異常終了：0以外を返す。（6章エラーコードを参照）

ポイント

- (1) モデム通信使用時はConnect実行後でないといとOpenは実行できません。
- (2) Open完了後にOpen関数用プロパティを変更しても、通信相手先の変更は行われません。
通信設定の変更を行う場合は、1度通信回線をクローズした後、通信相手先の設定を行い再度通信回線をオープンしてください。
- (3) ActEasyIFコントロールおよびActMLEasyIFコントロールを除くACTコントロールでOpenする際に、プロパティActCpuTypeに通信を行うCPUと異なるCPUタイプを入力した場合でも、Openが正常に終了することがあります。
このような場合、接続範囲、使用可能メソッドおよびデバイス範囲が狭まるなどの現象が発生します。
Openを行う際には、プロパティActCpuTypeに正しいCPUタイプを設定してください。

4.2.2 Close (通信回線のクローズ)

- (1) 使用可能ACTコントロール
ActSupportコントロールおよびActMLSupportコントロールを除くすべてのACTコントロールで使用可能です。
- (2) 機 能
通信回線をクローズします。
- (3) 書 式
- | | | | |
|-----------------------------------------------------|---------|--------|---------------|
| Visual Basic® 6.0 , Visual C++® 6.0 , | | | |
| Visual C++® .NET(MFC) , VBA : IRet = object.Close() | Long | IRet | 戻り値 |
| | | | Output |
| VBScript : varRet = object.Close() | VARIANT | varRet | 戻り値(内容はLONG型) |
| | | | Output |
| Visual Basic® .NET : IRet = object.Close() | Integer | IRet | 戻り値 |
| | | | Output |
| Visual C++® .NET : iRet = object.Close() | int | iRet | 戻り値 |
| | | | Output |
- (4) 説 明
Open関数にて接続した回線をクローズします。
- (5) 戻り値
正常終了 : 0を返す。
異常終了 : 0以外を返す。(6章エラーコードを参照)

4.2.3 ReadDeviceBlock (デバイスの一括読出し)

(1) 使用可能ACTコントロール

ActSupportコントロールおよびActMLSupportコントロールを除くすべてのACTコントロールで使用可能です。

(2) 機 能

デバイスの一括読出しを行います。

(3) 書 式

Visual Basic® 6.0 , VBA : IRet = object.ReadDeviceBlock(szDevice, ISize, IData(0))

Long	IRet	戻り値	Output
String	szDevice	デバイス名	Input
Long	ISize	読出し点数	Input
Long	IData(n)	読み出したデバイス値	Output

Visual C++® 6.0 , Visual C++® .NET(MFC) : IRet = object.ReadDeviceBlock
(szDevice, ISize, *IpIData)

Long	IRet	戻り値	Output
CString	szDevice	デバイス名	Input
Long	ISize	読出し点数	Input
Long	*IpIData	読み出したデバイス値	Output

VBScript : varRet = object.ReadDeviceBlock(varDevice, varSize, IpvarData)

VARIANT	varRet	戻り値(内容はLONG型)	Output
VARIANT	varDevice	デバイス名(内容は文字列型)	Input
VARIANT	varSize	読出し点数(内容はLONG型)	Input
VARIANT	IpvarData	読み出したデバイス値(内容はLONG配列型)	Output

Visual Basic® .NET : IRet = object.ReadDeviceBlock(szDevice, iSize, IData(0))

Integer	IRet	戻り値	Output
String	szDevice	デバイス名	Input
Integer	iSize	読出し点数	Input
Integer	IData(n)	読み出したデバイス値	Output

Visual C++® .NET : iRet = object.ReadDeviceBlock(*szDevice, iSize, *ipIData)

int	iRet	戻り値	Output
String	*szDevice	デバイス名	Input
int	iSize	読出し点数	Input
int	*ipIData	読み出したデバイス値	Output

(4) 説 明

(a) szDevice(varDevice)にて指定したデバイスから, ISize(varSize)分のデバイス値を一括して読み出します。

(b) 読み出したデバイス値は, IData(IpIDataまたはIpvarData)に格納されます。

(c) IData(IpIDataまたはIpvarData)は, ISize(varSize)以上の配列を確保してください。

(5) デバイス指定方法

デバイスの指定方法を下記に示します。

<ビットデバイス指定時>

(例) M0から16点単位で3点(3ワード分)

読み出す

上位2バイト	下位2バイト
*1	M0 ~ M15 *2
*1	M16 ~ M31 *2
*1	M32 ~ M47 *2

<ワードデバイス指定時>

(例) D0から3点

上位2バイト	下位2バイト
*1	D0
*1	D1
*1	D2

<FXCPUのCN200以降指定時>

(例) CN200から6点 *3

上位2バイト	下位2バイト
*1	CN200のL
*1	CN200のH
*1	CN201のL
*1	CN201のH
*1	CN202のL
*1	CN202のH

<FDデバイス指定時(4ワードデバイス)>

(例) FD0から6点

上位2バイト	下位2バイト
*1	FD0のLL
*1	FD0のLH
*1	FD0のHL
*1	FD0のHH
*1	FD1のLL
*1	FD1のLH

<ゲートウェイデバイスに割り付けられた8ビットデバイス>

(例) EG0から4点(EG0 ~ EG3に8ビットデバイス(シャープ社製シーケンサのE0000 ~ E0007)が割り付けられている場合)

上位2バイト	下位2バイト
*1	EG0
	(E0001) (E0000)
*1	EG1
	(E0003) (E0002)
*1	EG2
	(E0005) (E0004)
*1	EG3
	(E0007) (E0006)

*1: 使用しません。(0が格納されます。)

*2: デバイスの番号順に, 下位ビットから格納されます。

*3: FXCPUのCN200以降は, 2点で2ワード読み出します。1点ではエラーとなります。

(6) 戻り値

正常終了：0を返す。

異常終了：0以外を返す。（6章エラーコードを参照）

ポイント
(1) ISize(varSize)に指定できる最大読出し点数は、下記の満たす範囲です。 読出し開始デバイス番号 + 読出し点数 最終デバイス番号
(2) ビットデバイス指定時は、デバイス番号は16の倍数が指定可能です。
(3) IData(IpDataまたはIpvarData)は、ISize(varSize)に指定した点数分のメモリエリアを用意してください。 メモリエリアがない場合は、アプリケーションエラーなど重大な現象が発生する恐れがあります。

4.2.4 WriteDeviceBlock (デバイスの一括書込み)

(1) 使用可能ACTコントロール

ActSupportコントロールおよびActMLSupportコントロールを除くすべてのACTコントロールで使用可能です。

(2) 機 能

デバイスの一括書込みを行います。

(3) 書 式

Visual Basic® 6.0 , VBA : IRet = object.WriteDeviceBlock(szDevice, ISize, IData(0))

Long	IRet	戻り値	Output
String	szDevice	デバイス名	Input
Long	ISize	書込み点数	Input
Long	IData(n)	書き込むデバイス値	Input

Visual C++® 6.0 , Visual C++® .NET(MFC) : IRet = object.WriteDeviceBlock(szDevice, ISize, *lpIData)

Long	IRet	戻り値	Output
CString	szDevice	デバイス名	Input
Long	ISize	書込み点数	Input
Long	*lpIData	書き込むデバイス値	Input

VBScript : varRet = object.WriteDeviceBlock(varDevice, varSize, varData)

VARIANT	varRet	戻り値(内容はLONG型)	Output
VARIANT	varDevice	デバイス名(内容は文字列型)	Input
VARIANT	varSize	書込み点数(内容はLONG型)	Input
VARIANT	varData	書き込むデバイス値(内容はLONG配列型)	Input

Visual Basic® .NET : IRet = object.WriteDeviceBlock(szDevice, iSize, IData(0))

Integer	IRet	戻り値	Output
String	szDevice	デバイス名	Input
Integer	iSize	書込み点数	Input
Integer	IData(n)	書き込むデバイス値	Input

Visual C++® .NET : iRet = object.WriteDeviceBlock(*szDevice, iSize, *ipIData)

int	iRet	戻り値	Output
String	*szDevice	デバイス名	Input
int	iSize	書込み点数	Input
int	*ipIData	書き込むデバイス値	Input

(4) 説 明

- (a) szDevice(varDevice)にて指定したデバイスから , ISize(varSize)分のデバイス値を一括して書き込みます。
- (b) 書き込むデバイス値を , IData(lpIDataまたはvarData)に格納します。
- (c) IData(lpIDataまたはvarData)は , ISize(varSize)以上の配列を確保してください。

(5) デバイス指定方法

デバイスの指定方法を下記に示します。

< ビットデバイス指定時 >

(例) M0から16点単位で3点 (3ワード分)

書き込む

上位2バイト	下位2バイト
*1	M0 ~ M15 ^{*2}
*1	M16 ~ M31 ^{*2}
*1	M32 ~ M47 ^{*2}

< ワードデバイス指定時 >

(例) D0から3点

上位2バイト	下位2バイト
*1	D0
*1	D1
*1	D2

< FXCPUのCN200以降指定時 >

(例) CN200から6点^{*3}

上位2バイト	下位2バイト
*1	CN200のL
*1	CN200のH
*1	CN201のL
*1	CN201のH
*1	CN202のL
*1	CN202のH

< FDデバイス指定時(4ワードデバイス) >

(例) FD0から6点

上位2バイト	下位2バイト
*1	FD0のLL
*1	FD0のLH
*1	FD0のHL
*1	FD0のHH
*1	FD1のLL
*1	FD1のLH

< ゲートウェイデバイスに割り付けられた8ビットデバイス >

(例) EG0から4点(EG0 ~ EG3に8ビットデバイス(シャープ社製シーケンサのE0000 ~ E0007)が割り付けられている場合)

上位2バイト	下位2バイト
*1	EG0 (E0001) (E0000)
*1	EG1 (E0003) (E0002)
*1	EG2 (E0005) (E0004)
*1	EG3 (E0007) (E0006)

*1: 使用しません。(0が格納されます。)

*2: デバイスの番号順に、下位ビットから格納されます。

*3: FXCPUのCN200以降は、2点で2ワード書き込みます。1点ではエラーとなります。

(6) 戻り値

正常終了：0を返す。

異常終了：0以外を返す。（6章エラーコードを参照）

ポイント
(1) lSize(varSize)に指定できる最大書込み点数は、下記の満たす範囲です。 書込み開始デバイス番号 + 書込み点数 最終デバイス番号
(2) ビットデバイス指定時は、デバイス番号は16の倍数が指定可能です。
(3) lData(lpDataまたはvarData)は、lSize(varSize)に指定した点数分のメモリ エリアを用意してください。 メモリエリアがない場合は、アプリケーションエラーなど重大な現象が発生する 恐れがあります。

4.2.5 ReadDeviceRandom (デバイスのランダム読出し)

(1) 使用可能ACTコントロール

ActSupportコントロールおよびActMLSupportコントロールを除くすべてのACTコントロールで使用可能です。

(2) 機 能

デバイスのランダム読出しを行います。

(3) 書 式

Visual Basic® 6.0, VBA : IRet = object.ReadDeviceRandom(szDeviceList, ISize, IData(0))

Long	IRet	戻り値	Output
String	szDeviceList	デバイス名	Input
Long	ISize	読出し点数	Input
Long	IData(n)	読み出したデバイス値	Output

Visual C++® 6.0, Visual C++® .NET(MFC) : IRet = object.ReadDeviceRandom
(szDeviceList, ISize,
*IpIData)

Long	IRet	戻り値	Output
CString	szDeviceList	デバイス名	Input
Long	ISize	読出し点数	Input
Long	*IpIData	読み出したデバイス値	Output

VBScript : varRet = object.ReadDeviceRandom(varDeviceList, varSize, IpvarData)

VARIANT	varRet	戻り値(内容はLONG型)	Output
VARIANT	varDeviceList	デバイス名(内容は文字列型)	Input
VARIANT	varSize	読出し点数(内容はLONG型)	Input
VARIANT	IpvarData	読み出したデバイス値(内容はLONG配列型)	Output

Visual Basic® .NET : IRet = object.ReadDeviceRandom(szDeviceList, iSize, iData(0))

Integer	IRet	戻り値	Output
String	szDeviceList	デバイス名	Input
Integer	iSize	読出し点数	Input
Integer	iData(n)	読み出したデバイス値	Output

Visual C++® .NET : iRet = object.ReadDeviceRandom(*szDeviceList, iSize, *ipIData)

int	iRet	戻り値	Output
String	*szDeviceList	デバイス名	Input
int	iSize	読出し点数	Input
int	*ipIData	読み出したデバイス値	Output

(4) 説 明

- (a) szDeviceList(varDeviceList)にて指定したデバイス群を，ISize(varSize)分のデバイス値だけ読み出します。
- (b) 読み出したデバイス値は，IData(IpDataまたはIpvarData)に格納されます。
- (c) デバイスリストに指定する文字列は改行記号で区切ってください。
最終デバイスの後ろには改行記号は必要ありません。

(例)

Visual Basic[®], VBA, VBScript : "D0" & vbCrLf & "D1" & vbCrLf & "D2"
Visual C++[®] : D0¥nD1¥nD2

- (d) IData(IpDataまたはIpvarData)は，ISize(varSize)以上の配列を確保してください。

(5) デバイス指定方法

デバイスの指定方法を下記に示します。

(例1) 下記のように指定した場合(点数は3点)

Visual Basic[®], VBA, VBScript使用時 : M0 & vbCrLf & D0 & vbCrLf & K8M0
Visual C++[®] 使用時 : M0¥nD0¥nK8M0

上位2バイト	下位2バイト
* 1	M0
* 1	D0
M16 ~ M31 *2	M0 ~ M15 *2

(例2) FXCPUのCN200以降を含むデバイスを指定した場合(点数は合計3点) *3

Visual Basic[®], VBA, VBScript使用時 : D0 & vbCrLf & CN200 & vbCrLf & D1
Visual C++[®] 使用時 : D0¥nCN200¥nD1

上位2バイト	下位2バイト
* 1	D0
CN200のH	CN200のL
* 1	D1

(例3) FDを含むデバイスを指定した場合(点数は合計3点)

Visual Basic[®], VBA, VBScript使用時 : D0 & vbCrLf & FD0 & vbCrLf & D1
Visual C++[®] 使用時 : D0¥nFD0¥nD1

上位2バイト	下位2バイト
* 1	D0
* 1	FD0のLL
* 1	D1

* 1 : 使用しません。(0が格納されます。)

* 2 : デバイスの番号順に，下位ビットから格納されます。

* 3 : FXCPUのCN200以降は，ランダム読み出しでは1点で2ワード分読み出します。

(例4) EGを含むデバイスを指定した場合（点数は合計3点）

EG0に8ビットデバイス(シャープ社製シーケンサのE0000，E0001)が割り付けられている例を下記に示します。

Visual Basic[®], VBA, VBScript 使用時 : D0 & vbCrLf & EG0 & vbCrLf & D1

Visual C++[®] 使用時 : D0¥nEG0¥nD1

上位2バイト	下位2バイト
*1	D0
*1	EG0 (E0001) (E0000)
*1	D1

(6) 戻り値

正常終了：0を返す。

異常終了：0以外を返す。（6章エラーコードを参照）

ポイント
(1) ISize(varSize)に指定できる最大読出し点数は、0x7FFFFFFF点までです。
(2) IData(IpDataまたはIpvarData)は、ISize(varSize)に指定した点数分のメモリエリアを用意してください。
メモリエリアがない場合は、アプリケーションエラーなど重大な現象が発生する恐れがあります。

4.2.6 WriteDeviceRandom (デバイスのランダム書込み)

(1) 使用可能ACTコントロール

ActSupportコントロールおよびActMLSupportコントロールを除くすべてのACTコントロールで使用可能です。

(2) 機 能

デバイスのランダム書込みを行います。

(3) 書 式

Visual Basic® 6.0, VBA : IRet = object.WriteDeviceRandom(szDeviceList, ISize, IData(0))

Long	IRet	戻り値	Output
String	szDeviceList	デバイス名	Input
Long	ISize	書込み点数	Input
Long	IData(n)	書き込むデバイス値	Input

Visual C++® 6.0, Visual C++® .NET(MFC) : IRet = object.WriteDeviceRandom(szDeviceList, ISize, *IpIData)

Long	IRet	戻り値	Output
CString	szDeviceList	デバイス名	Input
Long	ISize	書込み点数	Input
Long	*IpIData	書き込むデバイス値	Input

VBScript : varRet = object.WriteDeviceRandom(varDeviceList, varSize, varData)

VARIANT	varRet	戻り値(内容はLONG型)	Output
VARIANT	varDeviceList	デバイス名(内容は文字列型)	Input
VARIANT	varSize	書込み点数(内容はLONG型)	Input
VARIANT	varData	書き込むデバイス値(内容はLONG配列型)	Input

Visual Basic® .NET : IRet = object.WriteDeviceRandom(szDeviceList, iSize, iData(0))

Integer	IRet	戻り値	Output
String	szDeviceList	デバイス名	Input
Integer	iSize	書込み点数	Input
Integer	iData(n)	書き込むデバイス値	Input

Visual C++® .NET : iRet = object.WriteDeviceRandom(*szDeviceList, iSize, *ipIData)

int	iRet	戻り値	Output
String	*szDeviceList	デバイス名	Input
int	iSize	書込み点数	Input
int	*ipIData	書き込むデバイス値	Input

(4) 説 明

- (a) szDeviceList(varDeviceList)にて指定したデバイス群を，ISize(varSize)分のデバイス値だけ書き込みます。
- (b) 書き込むデバイス値を，IData(IpIDataまたはvarData)に格納します。
- (c) デバイスリストに指定する文字列は改行記号で区切ってください。
最終デバイスの後ろには改行記号は必要ありません。

(例)

Visual Basic[®],VBA,VBScript : "D0" & vbLf & "D1" & vbLf & "D2"Visual C++[®] : D0¥nD1¥nD2

- (d) IData(IpIDataまたはvarData)は，ISize(varSize)以上の配列を確保してください。

(5) デバイス指定方法

デバイスの指定方法を下記に示します。

(例1) 下記のように指定した場合(点数は3点)

Visual Basic[®],VBA,VBScript使用時 : M0 & vbLf & D0 & vbLf & K8M0Visual C++[®] 使用時 : M0¥nD0¥nK8M0

上位2バイト	下位2バイト
*1	M0
*1	D0
M16 ~ M31 *2	M0 ~ M15 *2

(例2) FXCPUのCN200以降を含むデバイスを指定した場合(点数は合計3点) *3

Visual Basic[®],VBA,VBScript使用時 : D0 & vbLf & CN200 & vbLf & D1Visual C++[®] 使用時 : D0¥nCN200¥nD1

上位2バイト	下位2バイト
*1	D0
CN200のH	CN200のL
*1	D1

(例3) FDを含むデバイスを指定した場合(点数は合計3点)

Visual Basic[®],VBA,VBScript使用時 : D0 & vbLf & FD0 & vbLf & D1Visual C++[®] 使用時 : D0¥nFD0¥nD1

上位2バイト	下位2バイト
*1	D0
*1	FD0のLL
*1	D1

*1: 使用しません。(0が格納されます。)

*2: デバイスの番号順に，下位ビットから格納されます。

*3: FXCPUのCN200以降は，ランダム読出しでは1点で2ワード分書き込みます。

(例4) EGを含むデバイスを指定した場合（点数は合計3点）

EG0に8ビットデバイス(シャープ社製シーケンサのE0000，E0001)が割り付けられている例を下記に示します。

Visual Basic[®], VBA, VBScript使用時 : D0 & vbLf & EG0 & vbLf & D1

Visual C++[®] 使用時 : D0¥nEG0¥nD1

上位2バイト	下位2バイト
*1	D0
*1	EG0 (E0001) (E0000)
*1	D1

(6) 戻り値

正常終了：0を返す。

異常終了：0以外を返す。（6章エラーコードを参照）

ポイント
(1) ISize(varSize)に指定できる最大書込み点数は，0x7FFFFFFF点までです。
(2) IData(lpIDataまたはvarData)は，ISize(varSize)に指定した点数分のメモリエリアを用意してください。
メモリエリアがない場合は，アプリケーションエラーなど重大な現象が発生する恐れがあります。

4.2.7 SetDevice (デバイスデータの設定)

(1) 使用可能ACTコントロール

ActSupportコントロールおよびActMLSupportコントロールを除くすべてのACTコントロールで使用可能です。

(2) 機 能

デバイス1点の設定を行います。

(3) 書 式

Visual Basic® 6.0, VBA : IRet = object.SetDevice(szDevice, IData)

Long	IRet	戻り値	Output
String	szDevice	デバイス名	Input
Long	IData	設定データ	Input

Visual C++® 6.0, Visual C++® .NET(MFC) : IRet = object.SetDevice(szDevice, IData)

Long	IRet	戻り値	Output
CString	szDevice	デバイス名	Input
Long	IData	設定データ	Input

VBScript : varRet = object.SetDevice(varDevice, IpvarData)

VARIANT	varRet	戻り値 (内容はLONG型)	Output
VARIANT	varDevice	デバイス名 (内容は文字列型)	Input
VARIANT	varData	設定データ (内容はLONG型)	Input

Visual Basic® .NET : IRet = object.SetDevice(szDevice, iData)

Integer	IRet	戻り値	Output
String	szDevice	デバイス名	Input
Integer	iData	設定データ	Input

Visual C++® .NET : iRet = object.SetDevice(*szDevice, iData)

int	iRet	戻り値	Output
String	*szDevice	デバイス名	Input
int	iData	設定データ	Input

(4) 説 明

- (a) szDevice(varDevice)にて指定したデバイス1点に対してIData(varData)で指定する操作を行います。
- (b) ビットデバイス設定時は、IData値(varData値)の最下位のビットが有効となります。

(5) デバイス指定方法

デバイスの指定方法を下記に示します。

<ビットデバイス指定時>

(例) M0

上位2バイト	下位2バイト
*1	M0

<ワードデバイス指定時>

(例) D0

上位2バイト	下位2バイト
*1	D0

<ダブルワードデバイス指定時>

(例) K8M0

上位2バイト	下位2バイト
M16 ~ M31 *2	M0 ~ M15 *2

<FXCPUのCN200以降指定時>

(例) CN200

上位2バイト	下位2バイト
CN200のH	CN200のL

<ゲートウェイデバイス指定時>

(例) EGOに8ビットデバイス(シャープ社製シーケンサのE0000, E0001)が割り付けられている場合

上位2バイト	下位2バイト
*1	EGO (E0001) (E0000)

*1: 使用しません。(0が格納されます。)

*2: デバイスの番号順に, 下位ビットから格納されます。

(6) 戻り値

正常終了: 0を返す。

異常終了: 0以外を返す。(6章エラーコードを参照)

4.2.8 GetDevice (デバイスデータの取得)

(1) 使用可能ACTコントロール

ActSupportコントロールおよびActMLSupportコントロールを除くすべてのACTコントロールで使用可能です。

(2) 機 能

デバイス1点のデータを取得します。

(3) 書 式

Visual Basic® 6.0, VBA : IRet = object.GetDevice(szDevice, IData)

Long	IRet	戻り値	Output
String	szDevice	デバイス名	Input
Long	IData	取得データ	Output

Visual C++® 6.0, Visual C++® .NET(MFC) : IRet = object.GetDevice(szDevice, *IpIData)

Long	IRet	戻り値	Output
CString	szDevice	デバイス名	Input
Long	*IpIData	取得データ	Output

VBScript : varRet = object.GetDevice(varDevice, IpvarData)

VARIANT	varRet	戻り値(内容はLONG型)	Output
VARIANT	varDevice	デバイス名(内容は文字列型)	Input
VARIANT	IpvarData	取得データ(内容はLONG型)	Output

Visual Basic® .NET : IRet = object.GetDevice(szDevice, IData)

Integer	IRet	戻り値	Output
String	szDevice	デバイス名	Input
Integer	iData	取得データ	Output

Visual C++® .NET : iRet = object.GetDevice(*szDevice, *ipIData)

int	iRet	戻り値	Output
String	*szDevice	デバイス名	Input
int	*ipIData	取得データ	Output

(4) 説 明

(a) szDevice(varDevice)にて指定した1点のデバイスのデータを, IData(IpIData またはIpvarData)に格納します。

(5) デバイス指定方法

デバイスの指定方法を下記に示します。

<ビットデバイス指定時>

(例) M0

上位2バイト	下位2バイト
*1	M0

<ワードデバイス指定時>

(例) D0

上位2バイト	下位2バイト
*1	D0

<ダブルワードデバイス指定時>

(例) K8M0

上位2バイト	下位2バイト
M16 ~ M31 *2	M0 ~ M15 *2

<FXCPUのCN200以降指定時>

(例) CN200

上位2バイト	下位2バイト
CN200のH	CN200のL

<ゲートウェイデバイス指定時>

(例) EGOに8ビットデバイス(シャープ社製シーケンサのE0000, E0001)が割り付けられている場合

上位2バイト	下位2バイト
*1	EGO (E0001) (E0000)

*1: 使用しません。(0が格納されます。)

*2: デバイスの番号順に, 下位ビットから格納されます。

(6) 戻り値

正常終了: 0を返す。

異常終了: 0以外を返す。(6章エラーコードを参照)

4.2.9 ReadBuffer (バッファメモリ読出し)

(1) 使用可能ACTコントロール

使用可能ACTコントロールを下記に示します。

コントロール名	使用可否
ActEasyIF, ActMLEasyIF	*7
ActQCPUQ, ActMLQCPUQ	
ActQCPUA, ActMLQCPUA	
ActQnACPU, ActMLQnACPU	
ActACPU, ActMLACPU	
ActFXCPU, ActMLFXCPU	*4
ActQJ71C24, ActMLQJ71C24	
ActAJ71QC24, ActMLAJ71QC24	
ActAJ71UC24, ActMLAJ71UC24	×
ActAJ71C24, ActMLAJ71C24	×
ActFX485BD, ActMLFX485BD	×
ActQJ71E71TCP, ActMLQJ71E71TCP	
ActQJ71E71UDP, ActMLQJ71E71UDP	
ActAJ71QE71TCP, ActMLAJ71QE71TCP	×
ActAJ71QE71UDP, ActMLAJ71QE71UDP	*1, *2
ActAJ71E71TCP, ActMLAJ71E71TCP	*1
ActAJ71E71UDP, ActMLAJ71E71UDP	*1

コントロール名	使用可否
ActQCPUQUSB, ActMLQCPUQUSB	
ActCCG4Q, ActMLCCG4Q	
ActCCG4QnA, ActMLCCG4QnA	
ActCCG4A, ActMLCCG4A	
ActMnet2BD, ActMLMnet2BD	*1, *2, *3
ActMnet10BD, ActMLMnet10BD	*3
ActMnetHBD, ActMLMnetHBD	*3
ActCCBD, ActMLCCBD	*3
ActAnUBD, ActMLAnUBD	*6
ActAFBD, ActMLAFBD	
ActLLT, ActMLLLT	*5
ActQCPUQBus, ActMLQCPUQBus	
ActA6TEL, ActQ6TEL, ActFXCPU TEL, ActAJ71QC24TEL, ActQ71C24TEL	
ActGOT, ActMLGOT	×
ActSupport, ActMLSupport	×

：使用可能 ×：使用不可

*1：AnUCPU, QCPU (Aモード), A173UHCPU (-S1)およびA273UH (-S3)にアクセスを行うとエラーが返ります。

*2：QnACPUにアクセスを行うとエラーが返ります。

*3：自ボードアクセス時はエラーが返ります。

*4：FX2N, FX2NC, FX3U, FX3UC以外のCPUはエラーが返ります。

*5：FX0N, FX2, FX2C, FX2N, FX2NC以外のCPUはエラーが返ります。

*6：MELSECNET/10およびMELSECNET()経由でQnACPUにアクセスするとエラーが返ります。

*7：通信経路(Ethernet通信, MELSECNET/10通信など)によって、各通信経路用コントロールと同様の制約が発生します。

(2) 機 能

特殊機能ユニットのバッファメモリの値を読み出します。

(3) 書 式

Visual Basic® 6.0, VBA: IRet = object.ReadBuffer (IStartIO, IAddress, IReadSize, iData(0))

Long	IRet	戻り値	Output
Long	IStartIO	値を読み出すユニットの先頭I/O番号	Input
Long	IAddress	バッファメモリのアドレス	Input
Long	IReadSize	読み出すサイズ	Input
Integer	iData(n)	バッファメモリから読み出した値	Output

Visual C++® 6.0, Visual C++® .NET(MFC): IRet = object.ReadBuffer (IStartIO, IAddress, IReadSize* lpsData)

Long	IRet	戻り値	Output
Long	IStartIO	値を読み出すユニットの先頭I/O番号	Input
Long	IAddress	バッファメモリのアドレス	Input
Long	IReadSize	読み出すサイズ	Input
Short	* lpsData	バッファメモリから読み出した値	Output

VBScript : varRet = object.ReadBuffer(varStartIO, varAddress, varReadSize, IpvarData)

VARIANT	varRet	戻り値(内容はLONG型)	Output
VARIANT	varStartIO	値を読み出すユニットの先頭I/O番号 (内容はLONG型)	Input
VARIANT	varAddress	バッファメモリのアドレス(内容はLONG型)	Input
VARIANT	varReadSize	読み出すサイズ(内容はLONG型)	Input
VARIANT	IpvarData	バッファメモリから読み出した値 (内容はSHORT配列型)	Output

Visual Basic® .NET : IRet = object.ReadBuffer(iStartIO, iAddress, iReadSize, iData(0))

Integer	IRet	戻り値	Output
Integer	iStartIO	値を読み出すユニットのI/O番号	Input
Integer	iAddress	バッファメモリのアドレス	Input
Integer	iReadSize	読み出すサイズ	Input
short	iData(n)	バッファメモリから読み出した値	Output

Visual C++® .NET : iRet = object.ReadBuffer(iStartIO, iAddress, iReadSize, *ipsData)

int	iRet	戻り値	Output
int	iStartIO	値を読み出すユニットのI/O番号	Input
int	iAddress	バッファメモリのアドレス	Input
int	iReadSize	読み出すサイズ	Input
short	*ipsData	バッファメモリから読み出した値	Output

(4) 説 明

- (a) IStartIO(varStartIO)に指定するユニットのI/O番号は、実際のI/O番号を16で割った値を指定してください。
- (b) IStartIO(varStartIO)に指定した先頭I/O番号に位置する特殊機能ユニットの、IAddress(varAddress)に指定されたバッファメモリアドレスのバッファ値をIReadSize(varReadSize)分読み出します。
- (c) Act(ML)FXCPUコントロールおよびAct(ML)LLTコントロールを使用する際、ユニット先頭I/O番号には、特殊増設機器のブロックNo.(0~7)を、バッファメモリアドレスには0~32767を指定してください。
- (d) iData(IpsDataまたはIpvarData)は、IReadSize(varReadSize)以上の配列を確保してください。

(5) 戻り値

正常終了：0を返す。

異常終了：0以外を返す。(6章エラーコードを参照)

- (6) マルチCPUシステム構成時のバッファメモリ読出し / 書込み時の注意事項
実際に構成しているマルチCPUシステムとGX Developerで設定を行っているI/O割付けが異なる場合に関数を実行すると、下記に示す現象が発生します。
GX DeveloperでのI/O割付けの確認、値の読出し / 書込みを行うユニットのI/O番号の確認を行った後、関数を実行してください。
- (a) 正しいI/O番号を指定して関数を実行してもエラーが発生する。
 - (b) 特定のI/O番号(実際はI/O割付けが間違っているI/O番号)を指定すると、バッファメモリ読出しは正常に実行できるが、バッファメモリ書込みを行うとエラー (エラーコード : 0x010A4030 , 0x010A4042 など) が発生する。
 - (c) マルチCPUシステムではシーケンサCPUのエラー (パラメータエラー , SP.UNIT LAY ERR など) は発生していないが、関数を実行するとユーザアプリケーションでエラーが発生する。

ポイント
(1) モーションコントローラCPUへアクセスを行うと、エラーが返ります。
(2) iData(IpsDataまたはIpvarData)は、IReadSize(varReadSize)に指定した点数分のメモリエリアを用意してください。 メモリエリアがない場合は、アプリケーションエラーなど重大な現象が発生する恐れがあります。
(3) QCPU(Qモード)に対してバッファメモリ読出し(ReadBuffer)を行う場合、Qシリーズ専用ユニットにしか読出し操作を行うことができません。 また、QCPU(Qモード)の共有メモリからの読出し操作も行うことができません。

4.2.10 WriteBuffer (バッファメモリ書込み)

(1) 使用可能ACTコントロール

使用可能ACTコントロールを下記に示します。

コントロール名	使用可否	コントロール名	使用可否
ActEasyIF, ActMLEasyIF	*7	ActQCPUUSB, ActMLQCPUUSB	
ActQCPUQ, ActMLQCPUQ		ActCCG4Q, ActMLCCG4Q	
ActQCPUA, ActMLQCPUA		ActCCG4QnA, ActMLCCG4QnA	
ActQnACPU, ActMLQnACPU		ActCCG4A, ActMLCCG4A	
ActACPU, ActMLACPU		ActMnet2BD, ActMLMnet2BD	*1, *2, *3
ActFXCPU, ActMLFXCPU	*4	ActMnet10BD, ActMLMnet10BD	*3
ActQJ71C24, ActMLQJ71C24		ActMnetHBD, ActMLMnetHBD	*3
ActAJ71QC24, ActMLAJ71QC24		ActCCBD, ActMLCCBD	*3
ActAJ71UC24, ActMLAJ71UC24	×	ActAnUBD, ActMLAnUBD	*6
ActAJ71C24, ActMLAJ71C24	×	ActAFBD, ActMLAFBD	
ActFX485BD, ActMLFX485BD	×	ActLLT, ActMLLLT	*5
ActQJ71E71TCP, ActMLQJ71E71TCP		ActQCPUQBus, ActMLQCPUQBus	
ActQJ71E71UDP, ActMLQJ71E71UDP		ActA6TEL, ActQ6TEL, ActFXCPU TEL, ActAJ71QC24TEL, ActQ71C24TEL	
ActAJ71QE71TCP, ActMLAJ71QE71TCP	×	ActGOT, ActMLGOT	×
ActAJ71QE71UDP, ActMLAJ71QE71UDP	*1, *2	ActSupport, ActMLSupport	×
ActAJ71E71TCP, ActMLAJ71E71TCP	*1		
ActAJ71E71UDP, ActMLAJ71E71UDP	*1		

：使用可能 ×：使用不可

*1：AnUCPU, QCPU (Aモード), A173UHCPU(-S1)およびA273UH(-S3)にアクセスを行うとエラーが返ります。

*2：QnACPUにアクセスを行うとエラーが返ります。

*3：自ボードアクセス時はエラーが返ります。

*4：FX2N, FX2NC, FX3U, FX3UC以外のCPUはエラーが返ります。

*5：FX0N, FX2, FX2C, FX2N, FX2NC以外のCPUはエラーが返ります。

*6：MELSECNET/10およびMELSECNET()経由でQnACPUにアクセスするとエラーが返ります。

*7：通信経路(Ethernet通信, MELSECNET/10通信など)によって、各通信経路用コントロールと同様の制約が発生します。

(2) 機 能

特殊機能ユニットのバッファメモリの値を書き込みます。

(3) 書 式

Visual Basic® 6.0, VBA: IRet = object.WriteBuffer(IStartIO, IAddress, IWriteSize, iData(0))

Long	IRet	戻り値	Output
Long	IStartIO	値を書込むユニットの先頭I/O番号	Input
Long	IAddress	バッファメモリのアドレス	Input
Long	IWriteSize	書込むサイズ	Input
Integer	iData(n)	バッファメモリに書込む値	Input

Visual C++® 6.0, Visual C++® .NET(MFC): IRet = object.WriteBuffer(IStartIO, IAddress, IWriteSize * IpsData)

Long	IRet	戻り値	Output
Long	IStartIO	値を書込むユニットの先頭I/O番号	Input
Long	IAddress	バッファメモリのアドレス	Input
Long	IWriteSize	書込むサイズ	Input
Short	* IpsData	バッファメモリに書込む値	Input

VBScript : varRet = object.WriteBuffer(varStartIO, varAddress, varWriteSize, varData)

VARIANT	varRet	戻り値(内容はLONG型)	Output
VARIANT	varStartIO	値を書込むユニットの先頭I/O番号 (内容はLONG型)	Input
VARIANT	varAddress	バッファメモリのアドレス(内容はLONG型)	Input
VARIANT	varWriteSize	書込むサイズ(内容はLONG型)	Input
VARIANT	varData	バッファメモリに書込む値 (内容はSHORT配列型)	Input

Visual Basic® .NET: IRet = object.WriteBuffer(iStartIO, iAddress, iWriteSize, iData(0))

Integer	IRet	戻り値	Output
Integer	iStartIO	値を書込むユニットのI/O番号	Input
Integer	iAddress	バッファメモリのアドレス	Input
Integer	iWriteSize	書込むサイズ	Input
short	iData(n)	バッファメモリに書込む値	Output

Visual C++® .NET: iRet = object.WriteBuffer(iStartIO, iAddress, iWriteSize, *ipsData)

int	iRet	戻り値	Output
int	iStartIO	値を書込むユニットのI/O番号	Input
int	iAddress	バッファメモリのアドレス	Input
int	iWriteSize	書込むサイズ	Input
short	*ipsData	バッファメモリから書込む値	Output

(4) 説 明

- IStartIO(varStartIO)に指定するユニットのI/O番号は、実際のI/O番号を16で割った値を指定してください。
- IStartIO(varStartIO)に指定した先頭I/O番号に位置する特殊機能ユニットの、IAddress(varAddress)に指定されたバッファメモリアドレスのバッファ値をIWriteSize(varWriteSize)分書込みます。
- Act(ML)FXCPUコントロールおよびAct(ML)LLTコントロールを使用する際、ユニット先頭I/O番号には、特殊増設機器のブロックNo.(0~7)を、バッファメモリアドレスには0~32767を指定してください。
- iData(IpsDataまたはvarData)は、IWriteSize(varWriteSize)以上の配列を確保してください。

(5) 戻り値

正常終了: 0を返す。

異常終了: 0以外を返す。(6章エラーコードを参照)

- (6) マルチCPUシステム構成時のバッファメモリ読出し / 書込み時の注意事項
実際に構成しているマルチCPUシステムとGX Developerで設定を行っているI/O割付けが異なる場合に関数を実行すると、下記に示す現象が発生します。
GX DeveloperでのI/O割付けの確認、値の読出し / 書込みを行うユニットのI/O番号の確認を行った後、関数を実行してください。
- (a) 正しいI/O番号を指定して関数を実行してもエラーが発生する。
 - (b) 特定のI/O番号(実際はI/O割付けが間違っているI/O番号)を指定すると、バッファメモリ読出しは正常に実行できるが、バッファメモリ書込みを行うとエラー(エラーコード: 0x010A4030, 0x010A4042など)が発生する。
 - (c) マルチCPUシステムではシーケンサCPUのエラー(パラメータエラー, SP.UNIT LAY ERRなど)は発生していないが、関数を実行するとユーザアプリケーションでエラーが発生する。

ポイント
(1) モーションコントローラCPUへアクセスを行うと、エラーが返ります。
(2) iData(IpsDataまたはvarData)は、IWriteSize(varWriteSize)に指定した点数分のメモリエリアを用意してください。 メモリエリアがない場合は、アプリケーションエラーなど重大な現象が発生する恐れがあります。
(3) QCPU(Qモード)に対してバッファメモリ書込み(WriteBuffer)を行う場合、Qシリーズ専用ユニットにしか書込み操作を行うことができません。 また、QCPU(Qモード)の共有メモリへの書込み操作も行うことができません。

4.2.11 GetClockData (時計データ読出し)

(1) 使用可能ACTコントロール

使用可能ACTコントロールを下記に示します。

コントロール名	使用可否	コントロール名	使用可否
ActEasyIF, ActMLEasyIF	*4	ActQCPUUSB, ActMLQCPUUSB	
ActQCPUQ, ActMLQCPUQ		ActCCG4Q, ActMLCCG4Q	
ActQCPUA, ActMLQCPUA		ActCCG4QnA, ActMLCCG4QnA	
ActQnACPU, ActMLQnACPU		ActCCG4A, ActMLCCG4A	
ActACPU, ActMLACPU		ActMnet2BD, ActMLMnet2BD	*1, *2
ActFXCPU, ActMLFXCPU		ActMnet10BD, ActMLMnet10BD	*1
ActQJ71C24, ActMLQJ71C24		ActMnetHBD, ActMLMnetHBD	*1
ActAJ71QC24, ActMLAJ71QC24	*2	ActCCBD, ActMLCCBD	*1
ActAJ71UC24, ActMLAJ71UC24	*2	ActAnUBD, ActMLAnUBD	*3
ActAJ71C24, ActMLAJ71C24		ActAFBD, ActMLAFBD	*1
ActFX485BD, ActMLFX485BD		ActLLT, ActMLLLT	
ActQJ71E71TCP, ActMLQJ71E71TCP		ActQCPUQBus, ActMLQCPUQBus	
ActQJ71E71UDP, ActMLQJ71E71UDP		ActA6TEL, ActQ6TEL, ActFXCPU TEL ,	
ActAJ71QE71TCP, ActMLAJ71QE71TCP		ActAJ71QC24TEL, ActQ71C24TEL	
ActAJ71QE71UDP, ActMLAJ71QE71UDP		ActGOT, ActMLGOT	×
ActAJ71E71TCP, ActMLAJ71E71TCP	*2	ActSupport, ActMLSupport	×
ActAJ71E71UDP, ActMLAJ71E71UDP	*2		

: 使用可能 × : 使用不可

*1 : 自ボードアクセス時はエラーが返ります。

*2 : QnACPUにアクセスを行うとエラーが返ります。

*3 : MELSECNET/10およびMELSECNET()経由でQnACPUにアクセスするとエラーが返ります。

*4 : 通信経路(Ethernet通信, MELSECNET/10通信など)によって、各通信経路用コントロールと同様の制約が発生します。

(2) 機 能

シーケンサCPUの時計データから時間を読み出します。

(3) 書 式

```
Visual Basic® 6.0,VBA : IRet = object.GetClockData(iYear, iMonth, iDay,
                                                    iDayOfWeek, iHour, iMinute, iSecond)
Long          IRet          戻り値          Output
Integer       iYear         読み出した年の値      Output
Integer       iMonth        読み出した月の値      Output
Integer       iDay          読み出した日の値      Output
Integer       iDayOfWeek    読み出した曜日の値    Output
Integer       iHour         読み出した時間の値    Output
Integer       iMinute       読み出した分の値      Output
Integer       iSecond       読み出した秒の値      Output
```

```
Visual C++® 6.0, Visual C++® .NET(MFC) : IRet = object.GetClockData
(*IpsYear, *IpsMonth,
*IpsDay, *IpsDayOfWeek,
*IpsHour, *IpsMinute,
*IpsSecond)
```

Long	IRet	戻り値	Output
Short	*IpsYear	読み出した年の値	Output
Short	*IpsMonth	読み出した月の値	Output
Short	*IpsDay	読み出した日の値	Output
Short	*IpsDayOfWeek	読み出した曜日の値	Output
Short	*IpsHour	読み出した時間の値	Output
Short	*IpsMinute	読み出した分の値	Output
Short	*IpsSecond	読み出した秒の値	Output

```
VBScript : varRet = object.GetClockData(IpvarYear, IpvarMonth, IpvarDay,
IpvarDayOfWeek, IpvarHour, IpvarMinute, IpvarSecond)
```

VARIANT	varRet	戻り値(内容はLONG型)	Output
VARIANT	IpvarYear	読み出した年の値(内容はSHORT型)	Output
VARIANT	IpvarMonth	読み出した月の値(内容はSHORT型)	Output
VARIANT	IpvarDay	読み出した日の値(内容はSHORT型)	Output
VARIANT	IpvarDayOfWeek	読み出した曜日の値(内容はSHORT型)	Output
VARIANT	IpvarHour	読み出した時間の値(内容はSHORT型)	Output
VARIANT	IpvarMinute	読み出した分の値(内容はSHORT型)	Output
VARIANT	IpvarSecond	読み出した秒の値(内容はSHORT型)	Output

```
Visual Basic® .NET : IRet = object.GetClockData(iYear, iMonth, iDay,
iDayOfWeek, iHour, iMinute, iSecond)
```

Integer	IRet	戻り値	Output
short	iYear	読み出した年の値	Output
short	iMonth	読み出した月の値	Output
short	iDay	読み出した日の値	Output
short	iDayOfWeek	読み出した曜日の値	Output
short	iHour	読み出した時間の値	Output
short	iMinute	読み出した分の値	Output
short	iSecond	読み出した秒の値	Output

```
Visual C++® .NET : iRet = object.GetClockData(*IpsYear, *IpsMonth, *IpsDay,
*IpsDayOfWeek, *IpsHour, *IpsMinute, *IpsSecond)
```

int	iRet	戻り値	Output
short	*IpsYear	読み出した年の値	Output
short	*IpsMonth	読み出した月の値	Output
short	*IpsDay	読み出した日の値	Output
short	*IpsDayOfWeek	読み出した曜日の値	Output
short	*IpsHour	読み出した時間の値	Output
short	*IpsMinute	読み出した分の値	Output
short	*IpsSecond	読み出した秒の値	Output

(4) 説 明

- (a) シーケンサCPUに正しい時計データが設定されていない場合、エラーが返ります。
- (b) iYear(IpsYearまたはIpvarYear)に格納される値は、QCPU (Qモード) は西暦4桁、それ以外のCPUは西暦下2桁が返ります。
ただし、QCPU (Qモード) は1980年から2079年までとなります。
- (c) iDayOfWeek(IpsDayOfWeekまたはIpvarDayOfWeek)に格納される値は、下記の通りです。

値	曜 日
0	日曜日
1	月曜日
2	火曜日
3	水曜日
4	木曜日
5	金曜日
6	土曜日

(5) 戻り値

正常終了：0を返す。

異常終了：0以外を返す。(6章エラーコードを参照)

ポイント

- (1) A0J2HCPU, A2CCPU, A2CJCPUは時計データを持たないため、時計データの読出しは行えません。
- (2) QCPU (Aモード), ACPUは対象局がSTOP状態の場合のみ時計データが取得可能です。
- (3) FXCPUはFX1N, FX1NC, FX1S, FX2Nは時計内蔵, FX2, FX2C, FX2NCはRTCカセット装着時に時計データの読出しが行えます。
FX1N, FX1NC, FX1S, FX2, FX2C, FX2N, FX2NC, FX3U, FX3UC以外のFXCPUはエラーが返ります。
- (4) 時計設定は転送時間分の誤差が生じますのでご注意ください。

4.2.12 SetClockData (時計データ書込み)

(1) 使用可能ACTコントロール

使用可能ACTコントロールを下記に示します。

コントロール名	使用可否
ActEasyIF, ActMLEasyIF	*4
ActQCPUQ, ActMLQCPUQ	
ActQCPUA, ActMLQCPUA	
ActQnACPU, ActMLQnACPU	
ActACPU, ActMLACPU	
ActFXCPU, ActMLFXCPU	
ActQJ71C24, ActMLQJ71C24	
ActAJ71QC24, ActMLAJ71QC24	*2
ActAJ71UC24, ActMLAJ71UC24	*2
ActAJ71C24, ActMLAJ71C24	
ActFX485BD, ActMLFX485BD	
ActQJ71E71TCP, ActMLQJ71E71TCP	
ActQJ71E71UDP, ActMLQJ71E71UDP	
ActAJ71QE71TCP, ActMLAJ71QE71TCP	
ActAJ71QE71UDP, ActMLAJ71QE71UDP	
ActAJ71E71TCP, ActMLAJ71E71TCP	*2
ActAJ71E71UDP, ActMLAJ71E71UDP	*2

コントロール名	使用可否
ActQCPUQUSB, ActMLQCPUQUSB	
ActCCG4Q, ActMLCCG4Q	
ActCCG4QnA, ActMLCCG4QnA	
ActCCG4A, ActMLCCG4A	
ActMnet2BD, ActMLMnet2BD	*1, *2
ActMnet10BD, ActMLMnet10BD	*1
ActMnetHBD, ActMLMnetHBD	*1
ActCCBD, ActMLCCBD	*1
ActAnUBD, ActMLAnUBD	*3
ActAFBD, ActMLAFBD	*1
ActLLT, ActMLLLT	
ActQCPUQBus, ActMLQCPUQBus	
ActA6TEL, ActQ6TEL, ActFXCPU TEL, ActAJ71QC24TEL, ActQ71C24TEL	
ActGOT, ActMLGOT	×
ActSupport, ActMLSupport	×

: 使用可能 × : 使用不可

*1 : 自ボードアクセス時はエラーが返ります。

*2 : QnACPUにアクセスを行うとエラーが返ります。

*3 : MELSECNET/10およびMELSECNET()経由でQnACPUにアクセスするとエラーが返ります。

*4 : 通信経路(Ethernet通信, MELSECNET/10通信など)によって、各通信経路用コントロールと同様の制約が発生します。

(2) 機 能

シーケンサCPUの時計データへ時間を書き込みます。

(3) 書 式

Visual Basic® 6.0,VBA : IRet = object.SetClockData(iYear, iMonth, iDay, iDayOfWeek, iHour, iMinute, iSecond)

	Long	IRet	戻り値	Output
	Integer	iYear	書込む年の値	Input
	Integer	iMonth	書込む月の値	Input
	Integer	iDay	書込む日の値	Input
	Integer	iDayOfWeek	書込む曜日の値	Input
	Integer	iHour	書込む時間の値	Input
	Integer	iMinute	書込む分の値	Input
	Integer	iSecond	書込む秒の値	Input

Visual C++[®] 6.0, Visual C++[®] .NET(MFC) : IRet = object.SetClockData(sYear, sMonth, sDay, sDayOfWeek, sHour, sMinute, sSecond)

Long	IRet	戻り値	Output
Short	sYear	書込む年の値	Input
Short	sMonth	書込む月の値	Input
Short	sDay	書込む日の値	Input
Short	sDayOfWeek	書込む曜日の値	Input
Short	sHour	書込む時間の値	Input
Short	sMinute	書込む分の値	Input
Short	sSecond	書込む秒の値	Input

VBScript : varRet = object.SetClockData(varYear, varMonth, varDay, varDayOfWeek, varHour, varMinute, varSecond)

VARIANT	varRet	戻り値(内容はLONG型)	Output
VARIANT	varYear	書込む年の値(内容はSHORT型)	Input
VARIANT	varMonth	書込む月の値(内容はSHORT型)	Input
VARIANT	varDay	書込む日の値(内容はSHORT型)	Input
VARIANT	varDayOfWeek	書込む曜日の値(内容はSHORT型)	Input
VARIANT	varHour	書込む時間の値(内容はSHORT型)	Input
VARIANT	varMinute	書込む分の値(内容はSHORT型)	Input
VARIANT	varSecond	書込む秒の値(内容はSHORT型)	Input

Visual Basic[®] .NET : IRet = object.SetClockData(iYear, iMonth, iDay, iDayOfWeek, iHour, iMinute, iSecond)

Integer	IRet	戻り値	Output
short	iYear	書込む年の値	Input
short	iMonth	書込む月の値	Input
short	iDay	書込む日の値	Input
short	iDayOfWeek	書込む曜日の値	Input
short	iHour	書込む時間の値	Input
short	iMinute	書込む分の値	Input
short	iSecond	書込む秒の値	Input

Visual C++[®] .NET : iRet = object.SetClockData(sYear, sMonth, sDay, sDayOfWeek, sHour, sMinute, sSecond)

int	iRet	戻り値	Output
short	sYear	書込む年の値	Input
short	sMonth	書込む月の値	Input
short	sDay	書込む日の値	Input
short	sDayOfWeek	書込む曜日の値	Input
short	sHour	書込む時間の値	Input
short	sMinute	書込む分の値	Input
short	sSecond	書込む秒の値	Input

(4) 説 明

- (a) 設定する時計データが正しい値でない場合、エラーが返ります。
- (b) iYear(sYearまたはvarYear)に指定した値は、QCPU (Qモード) は西暦4桁、それ以外のCPUは西暦下2桁が有効となります。
ただし、QCPU (Qモード) は1980年から2079までとなります。
QCPU (Qモード) 以外のCPUで4桁を設定した場合はエラーとなります。
- (c) iDayOfWeek(sDayOfWeekまたはvarDayOfWeek)に指定する値は、下記の通りです。

値	曜 日
0	日曜日
1	月曜日
2	火曜日
3	水曜日
4	木曜日
5	金曜日
6	土曜日

(5) 戻り値

正常終了：0を返す。

異常終了：0以外を返す。(6章エラーコードを参照)

ポイント

- (1) A0J2HCPU, A2CCPU, A2CJCPUは時計データを持たないため設定できません。
- (2) QCPU (Aモード), ACPUIは対象局がSTOP状態の場合のみ時計データが設定可能です。
- (3) QCPU (Aモード), ACPUIは時計設定用特殊リレー “ M9028 ” が、時計データ設定後にOFFに変化します。
- (4) FXCPUはFX1N, FX1NC, FX1S, FX2Nは時計内蔵, FX2, FX2C, FX2NCはRTCカセット装着時に時計設定が行えます。
FX1N, FX1NC, FX1S, FX2, FX2C, FX2N, FX2NC, FX3U, FX3UC以外のFXCPUはエラーが返ります。
- (5) 時計設定は転送時間分の誤差が生じますのでご注意ください。

4.2.13 GetCpuType (シーケンサCPU形名読出し)

(1) 使用可能ACTコントロール

ActSupport コントロールおよびActMLSupport コントロールを除くすべてのACTコントロール^{*1}で使用可能です。

^{*1} : MELSECNET/10ボードおよびMELSECNET()ボードは、自ボードアクセス時はエラーとなります。

(2) 機 能

シーケンサCPU, ネットワークボード, GOTの形名文字列および形名コードを読み出します。

(3) 書 式

Visual Basic® 6.0, VBA : IRet = object.GetCpuType(szCpuName, ICpuType)

Long	IRet	戻り値	Output
String	szCpuName	シーケンサCPU形名文字列	Output
Long	ICpuType	シーケンサCPU形名コード	Output

Visual C++® 6.0, Visual C++® .NET(MFC) : IRet = object.GetCpuType(*szCpuName,
*IpICpuType)

Long	IRet	戻り値	Output
BSTR	*szCpuName	シーケンサCPU形名文字列	Output
Long	*IpICpuType	シーケンサCPU形名コード	Output

VBScript : varRet = object.GetCpuType(varCpuName, IpvarCpuCode)

VARIANT	varRet	戻り値(内容はLONG型)	Output
VARIANT	IpvarCpuName	シーケンサCPU形名文字列(内容は文字列型)	Output
VARIANT	IpvarCpuCode	シーケンサCPU形名コード(内容はLONG型)	Output

Visual Basic® .NET : IRet = object.GetCpuType(szCpuName, ICpuType)

Integer	IRet	戻り値	Output
String	szCpuName	シーケンサCPU形名文字列	Output
Integer	ICpuType	シーケンサCPU形名コード	Output

Visual C++® .NET : iRet = object.GetCpuType (**szCpuName, *ipICpuType)

int	iRet	戻り値	Output
String	**szCpuName	シーケンサCPU形名文字列	Output
int	*ipICpuType	シーケンサCPU形名コード	Output

(4) 説 明

- (a) 通信を行っているシーケンサCPUの形名をszCpuName(IpvarCpuName)に, 形名コードをICpuType(IpICpuTypeまたはIpvarCpuCode)に格納します。
- (b) シーケンサCPU形名文字列はUNICODEで返されます。

(5) CPU形名文字列および形名コード

GetCpuTypeで読み出されるシーケンサCPU，ネットワークボード，GOTの形名文字列および形名コードの一覧を下表に示します。

(a) 形名文字列一覧

CPU / ネットワークボード / GOTタイプ	形名文字列		CPU / ネットワークボード / GOTタイプ	形名文字列	
	CPU / 自ボード接続時	GX Simulator 接続時		CPU / 自ボード接続時	GX Simulator 接続時
Q00JCPU	Q00JCPU	Q00JCPU	A2ACPUP21/R21-S1	A2AS1	A2AS1
Q00CPU	Q00CPU	Q00CPU	A2UCPU	A2U	A2U
Q01CPU	Q01CPU	Q01CPU	A2UCPU-S1	A2US1	A2U
Q02CPU	Q02CPU	Q02CPU	A2USCPU	A2U	A2U
Q02HCPU	Q02HCPU	Q02CPU	A2USCPU-S1	A2US1	A2U
Q06HCPU	Q06HCPU	Q06HCPU	A2USHCPU-S1	A2USH	A2USH
Q12HCPU	Q12HCPU	Q12HCPU	A3NCPU	A3N	A3N
Q25HCPU	Q25HCPU	Q25HCPU	A3ACPU	A3A	A3A
Q12PHCPU	Q12HCPU	Q12HCPU	A3ACPUP21/R21	A3A	A3A
Q25PHCPU	Q25HCPU	Q25HCPU	A3UCPU	A3U	A3U
Q12PRHCPU	Q12PRHCPU	Q12PRHCPU	A4UCPU	A4U	A4U
Q25PRHCPU	Q25PRHCPU	Q25PRHCPU	A1FXCPU	A1FX	A1FX
Q02CPU-A	Q02CPU	Q02CPU-A	FX0	FX0/FX0S	FX0/FX0S
Q02HCPU-A	Q02HCPU	Q02CPU-A	FX0S	FX0/FX0S	FX0/FX0S
Q06HCPU-A	Q06HCPU	Q06HCPU-A	FX0N	FX0N	FX0N
Q2ACPU	Q2ACPU	Q2ACPU	FX1	FX1	FX1
Q2ACPU-S1	Q2ACPU-S1	Q2ACPU-S1	FX1S	FX1S	FX1S
Q2ASCPU	Q2ACPU	Q2ACPU	FX1N	FX1N	FX1N
Q2ASCPU-S1	Q2ACPU-S1	Q2ACPU-S1	FX1NC	FX1N	FX1N
Q2ASHCPU	Q2ACPU	Q2ACPU	FX2	FX2/FX2C	FX2/FX2C
Q2ASHCPU-S1	Q2ACPU-S1	Q2ACPU-S1	FX2C	FX2/FX2C	FX2/FX2C
Q3ACPU	Q3ACPU	Q3ACPU	FX2N	FX2N/FX2NC	FX2N/FX2NC
Q4ACPU	Q4ACPU	Q4ACPU	FX2NC	FX2N/FX2NC	FX2N/FX2NC
Q4ARCPU	Q4ACPU	Q4ACPU	FX3U	FX3UC	FX3UC
A0J2HCPU	A0J2H	A0J2H	FX3UC	FX3UC	FX3UC
A1SCPU	A1S	A1S	A171SHCPU	A171SH	A171SH
A1SCPUC24-R2	A1S	A1S	A172SHCPU	A172SH	A172SH
A1SHCPU	A1SH	A1SH	A173UHCPU	A173UHCPU	A173UH
A1SJCPU	A1S	A1S	A173UHCPU-S1	A173UHCPU-S1	A173UH
A1SJHCPU	A1SH	A1SH	A273UHCPU	A273UH	A273UH
A1NCPU	A1N	A1N	A273UHCPU-S3	A273UH	A273UH
A2CCPU	A2C	A2C	A70BD-J71AP21	A70BD-J71AP21	-
A2CCPUC24	A2C	A2C	A70BD-J71QLP23(G)	A70BD-J71QLP23	-
A2CCPUC24-PRF	A2C	A2C	A70BD-J71QBR13	A70BD-J71QBR13	-
A2CJCPU	A2C	A2C	A70BD-J71QLR23	A70BD-J71QLR23	-
A2NCPU	A2N	A2N	A80BD-J61BT11	A80BD-J61BT11	-
A2NCPU-S1	A2N	A2N	A80BD-J61BT13	A80BD-J61BT13	-
A2SCPU	A2S	A2N	A80BD-A2USH-S1	A2USH-S1	-
A2SHCPU	A2SH	A2SH	Q80BD-J71LP21-25	Q80BD-J71LP21-25	-
A2ACPU	A2A	A2AS1	Q80BD-J71LP21G	Q80BD-J71LP21G	-
A2ACPU-S1	A2AS1	A2AS1	Q80BD-J71BR11	Q80BD-J71BR11	-
A2ACPUP21/R21	A2AS1	A2AS1	GOT	*1	-

*1：GOTの製品形名が表示されます。

C24，E71，MELSECNET()ボードから，AnUCPU，QnACPU，QCPU(Aモード)，A273UHCPU(-S3)にアクセスする場合は，AnACPU相当の形名文字列(A2A，A3A)が返されます。

C24，UC24，E71から，AnNCPUにアクセスする場合は，AnNCPU相当の形名文字列(A1N，A2N，A3N)が返されます。

ただし，以下の2つの場合を除きます。

- ・ C24，E71からA1S，A1SJにアクセスする場合は，A0J2Hの形名文字列が返されます。
- ・ UC24からA1S，A1SJにアクセスする場合は，A1Sの形名文字列が返されます。

UC24からQ4ACPUにアクセスする場合は，Q3ACPUの形名文字列が返されます。
QE71からQnACPUにアクセスする場合は，Q4ACPUの形名文字列が返されます。

(b) 形名コード一覧

CPU / ネットワークボード / GOTタイプ	形名コード		CPU / ネットワークボード / GOTタイプ	形名コード	
	CPU / 自ボード接続時	GX Simulator 接続時		CPU / 自ボード接続時	GX Simulator 接続時
Q00JCPU	250 _H	250 _H	A2ACPUP21/R21-S1	93 _H	93 _H
Q00CPU	251 _H	251 _H	A2UCPU	82 _H	82 _H
Q01CPU	252 _H	252 _H	A2UCPU-S1	83 _H	82 _H
Q02CPU	41 _H	41 _H	A2USCPU	82 _H	82 _H
Q02HCPU	41 _H	41 _H	A2USCPU-S1	83 _H	82 _H
Q06HCPU	42 _H	42 _H	A2USHCPU-S1	84 _H	84 _H
Q12HCPU	43 _H	43 _H	A3NCPU	A3 _H	A3 _H
Q25HCPU	44 _H	44 _H	A3ACPU	94 _H	94 _H
Q12PHCPU	43 _H	43 _H	A3ACPUP21/R21	94 _H	94 _H
Q25PHCPU	44 _H	44 _H	A3UCPU	84 _H	84 _H
Q12PRHCPU	4B _H	4B _H	A4UCPU	85 _H	85 _H
Q25PRHCPU	4C _H	4C _H	A1FXCPU	A2 _H	A2 _H
Q02CPU-A	141 _H	141 _H	FX ₀	F0 _H	F0 _H
Q02HCPU-A	141 _H	141 _H	FX _{0S}	F0 _H	F0 _H
Q06HCPU-A	142 _H	142 _H	FX _{0N}	8E _H	8E _H
Q2ACPU	21 _H	21 _H	FX ₁	F1 _H	F1 _H
Q2ACPU-S1	22 _H	22 _H	FX _{1S}	F2 _H	F2 _H
Q2ASCPU	21 _H	21 _H	FX _{1N}	9E _H	9E _H
Q2ASCPU-S1	22 _H	22 _H	FX _{1NC}	9E _H	9E _H
Q2ASHCPU	21 _H	21 _H	FX ₂	8D _H	8D _H
Q2ASHCPU-S1	22 _H	22 _H	FX _{2C}	8D _H	8D _H
Q3ACPU	23 _H	23 _H	FX _{2N}	9D _H	9D _H
Q4ACPU	24 _H	24 _H	FX _{2NC}	9D _H	9D _H
Q4ARCPU	24 _H	24 _H	FX _{3U}	F3 _H	F3 _H
AOJ2HCPU	98 _H	98 _H	FX _{3UC}	F3 _H	F3 _H
A1SCPU	98 _H	98 _H	A171SHCPU	A3 _H	A3 _H
A1SCPUC24-R2	98 _H	98 _H	A172SHCPU	A3 _H	A3 _H
A1SHCPU	A3 _H	A3 _H	A173UHCPU	84 _H	84 _H
A1SJCPU	98 _H	98 _H	A173UHCPU-S1	84 _H	84 _H
A1SJHCPU	A3 _H	A3 _H	A273UHCPU	84 _H	84 _H
A1NCPU	A1 _H	A1 _H	A273UHCPU-S3	84 _H	84 _H
A2CCPU	9A _H	9A _H	A70BD-J71AP21	90 _H	-
A2CCPUC24	9A _H	9A _H	A70BD-J71QLP23(G)	90 _H	-
A2CCPUC24-PRF	9A _H	9A _H	A70BD-J71QBR13	90 _H	-
A2CJCPU	9A _H	9A _H	A70BD-J71QLR23	90 _H	-
A2NCPU	A2 _H	A2 _H	A80BD-J61BT11	90 _H	-
A2NCPU-S1	A2 _H	A2 _H	A80BD-J61BT13	90 _H	-
A2SCPU	A2 _H	A2 _H	A80BD-A2USH-S1	84 _H	-
A2SHCPU	A3 _H	A3 _H	Q80BD-J71LP21-25	90 _H	-
A2ACPU	92 _H	93 _H	Q80BD-J71LP21G	90 _H	-
A2ACPU-S1	93 _H	93 _H	Q80BD-J71BR11	90 _H	-
A2ACPUP21/R21	92 _H	93 _H	GOT	E340 _H	-

E71, QE71のTCP/IP使用時は各ユニットのマニュアルを参照してください。
 C24, E71, MELSECNET () ボードから, AnUCPU, QnACPU, QCPU (Aモード),
 A273UHCPU (-S3) にアクセスする場合は, AnACPUの形名コードが返されます。
 (92_H, 93_H, 94_H)
 C24, E71, UC24, AFボード装着のAnNCPU, AnACPUからネットワーク経由で
 AnUCPU, QnACPU, QCPU (Aモード), A273UHCPU (-S3) にアクセスする場
 合は, AnACPUの形名コードが返されます。(92_H, 93_H, 94_H)
 CPU COM通信にてAnNCPU, AnACPUからネットワーク経由で, AnUCPU, QCPU
 (Aモード), A273UHCPU (-S3) にアクセスする場合は, AnACPUの形名コ
 ードが返されます。(92_H, 93_H, 94_H)

CPUボードからQnACPU, QCPU (Aモード) にアクセスする場合, QnACPUはAnACPUの形名コード(92_H, 93_H, 94_H), QCPU (Aモード) は, A4UCPUの形名コード(85_H) が返されます。

UC24からQCPU(Aモード)にアクセスする場合は, A4UCPUの形名コード(85_H) が返されます。

AFボード装着のAnUCPUからQCPU(Aモード)にアクセスする場合は, A4UCPUの形名コード(85_H) が返されます。

CC-Link G4ユニットからQCPU (Aモード) にアクセスする場合は, A4UCPUの形名コード(85_H) が返されます。

(5) 戻り値

正常終了: 0を返す。

異常終了: 0以外を返す。(6章エラーコードを参照)

4.2.14 SetCpuStatus (リモートコントロール)

(1) 使用可能ACTコントロール

使用可能ACTコントロールを下記に示します。

コントロール名	使用可否	コントロール名	使用可否
ActEasyIF, ActMLEasyIF	*6	ActQCPUUSB, ActMLQCPUUSB	
ActQCPUQ, ActMLQCPUQ		ActCCG4Q, ActMLCCG4Q	
ActQCPUA, ActMLQCPUA		ActCCG4QnA, ActMLCCG4QnA	
ActQnACPU, ActMLQnACPU		ActCCG4A, ActMLCCG4A	
ActACPU, ActMLACPU		ActMnet2BD, ActMLMnet2BD	*2, *3
ActFXCPU, ActMLFXCPU	*5*7	ActMnet10BD, ActMLMnet10BD	*2
ActQJ71C24, ActMLQJ71C24		ActMnetHBD, ActMLMnetHBD	*2
ActAJ71QC24, ActMLAJ71QC24		ActCCBD, ActMLCCBD	*2
ActAJ71UC24, ActMLAJ71UC24	*5	ActAnUBD, ActMLAnUBD	*4
ActAJ71C24, ActMLAJ71C24	*5	ActAFBD, ActMLAFBD	*2
ActFX485BD, ActMLFX485BD	*5*7	ActLLT, ActMLLLT	
ActQJ71E71TCP, ActMLQJ71E71TCP		ActQCPUQBus, ActMLQCPUQBus	
ActQJ71E71UDP, ActMLQJ71E71UDP		ActA6TEL, ActQ6TEL, ActFXCPU TEL, ActAJ71QC24TEL, ActQ71C24TEL	
ActAJ71QE71TCP, ActMLAJ71QE71TCP	*1	ActGOT, ActMLGOT	×
ActAJ71QE71UDP, ActMLAJ71QE71UDP		ActSupport, ActMLSupport	×
ActAJ71E71TCP, ActMLAJ71E71TCP	*1		
ActAJ71E71UDP, ActMLAJ71E71UDP			

: 使用可能 × : 使用不可

*1: 自局へのリモート操作はエラーが返ります。

*2: 自ボードアクセス時はエラーが返ります。

*3: QnACPUにアクセスする場合、QnACPUにPAUSE指定を行うとエラーとなります。

*4: MELSECNET/10およびMELSECNET()経由でQnACPUにアクセスする場合、QnACPUにPAUSE指定を行うとエラーとなります。

*5: PAUSE指定を行うとエラーが返ります。

*6: 通信経路(Ethernet通信, MELSECNET/10通信など)によって、各通信経路用コントロールと同様の制約が発生します。

*7: FX1N, FX1NC, FX2N, FX2NC, FX3U, FX3UC以外のCPUはエラーが返ります。

(2) 機 能

シーケンサCPUのリモート操作を行います。

(3) 書 式

Visual Basic® 6.0, VBA: IRet = object.SetCpuStatus(IOperation)

Long	IRet	戻り値	Output
Long	IOperation	リモートRUN/STOP/PAUSE	Input

Visual C++® 6.0, Visual C++® .NET(MFC): IRet = object.SetCpuStatus(IOperation)

Long	IRet	戻り値	Output
Long	IOperation	リモートRUN/STOP/PAUSE	Input

VBScript: varRet = object.SetCpuStatus(varOperation)

VARIANT	varRet	戻り値(内容はLONG型)	Output
VARIANT	varOperation	リモートRUN/STOP/PAUSE(内容はLONG型)	Input

Visual Basic® .NET: IRet = object.SetCpuStatus(IOperation)

Integer	IRet	戻り値	Output
Integer	IOperation	リモートRUN/STOP/PAUSE	Input

Visual C++® .NET: iRet = object.SetCpuStatus(iOperation)

int	iRet	戻り値	Output
int	iOperation	リモートRUN/STOP/PAUSE	Input

(4) 説 明

- (a) IOperation(varOperation)にて指定された操作を行います。
下記以外の値を指定するとエラーとなります。

値	操 作
0	リモートRUN
1	リモートSTOP
2	リモートPAUSE

(5) 戻り値

正常終了：0を返す。

異常終了：0以外を返す。（6章エラーコードを参照）

ポイント

FXCPUはシーケンサCPUとしてPAUSEスイッチを持たないため、SetCpuStatusでリモートPAUSEを指定するとエラーを返します。

4.2.15 EntryDeviceStatus (デバイスの状態監視登録)

(1) 使用可能ACTコントロール

ActSupportコントロールおよびActMLSupportコントロールを除くすべてのACTコントロールで使用可能です。

(2) 機 能

状態監視を行うデバイスを登録します。

(3) 書 式

Visual Basic® 6.0, VBA : IRet = object.EntryDeviceStatus(szDeviceList, ISize, IMonitorCycle, IData(0))

Long	IRet	戻り値	Output
String	szDeviceList	登録デバイス名リスト	Input
Long	ISize	登録デバイス点数	Input
Long	IMonitorCycle	状態監視間隔時間	Input
Long	IData(n)	登録デバイス値リスト	Input

Visual C++® 6.0, Visual C++® .NET(MFC) : IRet = object.EntryDeviceStatus
(szDeviceList, ISize, IMonitorCycle, *IpIData)

Long	IRet	戻り値	Output
CString	szDeviceList	登録デバイス名リスト	Input
Long	ISize	登録デバイス点数	Input
Long	IMonitorCycle	状態監視間隔時間	Input
Long	* IpIData	登録デバイス値リスト	Input

VBScript : varRet = object.EntryDeviceStatus(varDeviceList, varSize, varMonitorCycle, varData)

VARIANT	varRet	戻り値(内容はLONG型)	Output
VARIANT	varDeviceList	登録デバイス名リスト(内容はBSTR型)	Input
VARIANT	varSize	登録デバイス点数(内容はLONG型)	Input
VARIANT	varMonitorCycle	状態監視間隔時間(内容はLONG型)	Input
VARIANT	varData	登録デバイス値リスト(内容はLONG型)	Input

Visual Basic® .NET : IRet = object.EntryDeviceStatus(szDeviceList, ISize, IMonitorCycle, IData(0))

Integer	IRet	戻り値	Output
String	szDeviceList	登録デバイス名リスト	Input
Integer	ISize	登録デバイス点数	Input
Integer	IMonitorCycle	状態監視間隔時間	Input
Integer	IData(n)	登録デバイス値リスト	Input

```
Visual C++® .NET : iRet = object.EntryDeviceStatus(szDeviceList, iSize,
                                                    iMonitorCycle, *
                                                    iplData)
```

int	iRet	戻り値	Output
String	*szDeviceList	登録デバイス名リスト	Input
int	iSize	登録デバイス点数	Input
int	iMonitorCycle	状態監視間隔時間	Input
int	*iplData	登録デバイス値リスト	Input

(4) 説 明

- (a) szDeviceList(varDeviceList)にて指定したISize(varSize)分のデバイス群が、IData(IplDataまたはvarData)にて指定した状態であるかを確認します。
確認時間はIMonitorCycle(varMonitorCycle)にて指定します。
状態成立によりユーザアプリケーションのOnDeviceStatus関数を実行します。

- (b) デバイスリストに指定する文字列は改行記号で区切ってください。
最終デバイスの後ろには改行記号は必要ありません。

(例)

```
Visual Basic® ,VBA,VBScript      : "D0" & vbLf & "D1" & vbLf & "D2"
Visual C++®                      : D0¥nD1¥nD2
```

- (c) ISize(varSize)に指定できる最大デバイス点数は、20点です。
(d) IMonitorCycle(varMonitorCycle)は1秒～1時間の範囲(1～3600の秒単位で設定)で指定してください。
これ以外の値を指定するとエラーとなります。
(e) 登録デバイス値リストを、IData(IplDataまたはvarData)に格納します。

(5) デバイス指定方法

デバイスの指定方法を下記に示します。

(例1) 下記のように指定した場合(点数は3点)

Visual Basic[®], VBA, VBScript 使用時 : M0 & vbLf & D0 & vbLf & K8M0

Visual C++[®] 使用時 : M0¥nD0¥nK8M0

上位2バイト	下位2バイト
*1	M0
*1	D0
M16 ~ M31 *2	M0 ~ M15 *2

(例2) FXCPUのCN200以降を含むデバイスを指定した場合(点数は合計3点) *3

Visual Basic[®], VBA, VBScript 使用時 : D0 & vbLf & CN200 & vbLf & D1

Visual C++[®] 使用時 : D0¥nCN200¥nD1

上位2バイト	下位2バイト
*1	D0
CN200のH	CN200のL
*1	D1

(例3) FDを含むデバイスを指定した場合(点数は合計3点)

Visual Basic[®], VBA, VBScript 使用時 : D0 & vbLf & FD0 & vbLf & D1

Visual C++[®] 使用時 : D0¥nFD0¥nD1

上位2バイト	下位2バイト
*1	D0
*1	FD0のLL
*1	D1

(例4) EGを含むデバイスを指定した場合(点数は合計3点)

EG0に8ビットデバイス(シャープ社製シーケンサのE0000, E0001)が割り付けられている例を下記に示します。

Visual Basic[®], VBA, VBScript 使用時 : D0 & vbLf & EG0 & vbLf & D1

Visual C++[®] 使用時 : D0¥nEG0¥nD1

上位2バイト	下位2バイト
*1	D0
*1	EG0 (E0001) (E0000)
*1	D1

*1: 使用しません。(0が格納されます。)

*2: デバイスの番号順に, 下位ビットから格納されます。

*3: FXCPUのCN200以降は, ランダム読み出しでは1点で2ワード分読み出します。

(6) 戻り値

正常終了：0を返す。

異常終了：0以外を返す。（6章エラーコードを参照）

(7) ワードデバイスを状態監視する場合の注意事項

ワードデバイスが負の値-1～-32768(FFFF_H～8000_H)になるのを状態監視する場合、EntryDeviceStatusの監視デバイス値は上位2バイトに「0」を格納した65535～32768(0000FFFF_H～00008000_H)を設定してください。

シーケンサCPUのワードデバイスがWORD型であるのに対し、EntryDeviceStatusの監視デバイス値の型はLONG型であるため、シーケンサCPUの現在値とEntryDeviceStatusの監視デバイス値を比較した場合、同じ値にはならず上記の設定が必要になります。（ビットデバイスおよびダブルワードデバイス使用時は、本注意事項は該当しません。）

本注意事項についてのプログラミング例は“付2 ワードデバイスを状態監視する場合のプログラミング例”を参照してください。

(例) D0が「-10」となるのを状態監視させる場合

「-10(FFFFFFF6_H)」の上位2バイトに「0」を格納した値「65526(0000FFF6_H)」を監視デバイス値に設定してください。

ポイント

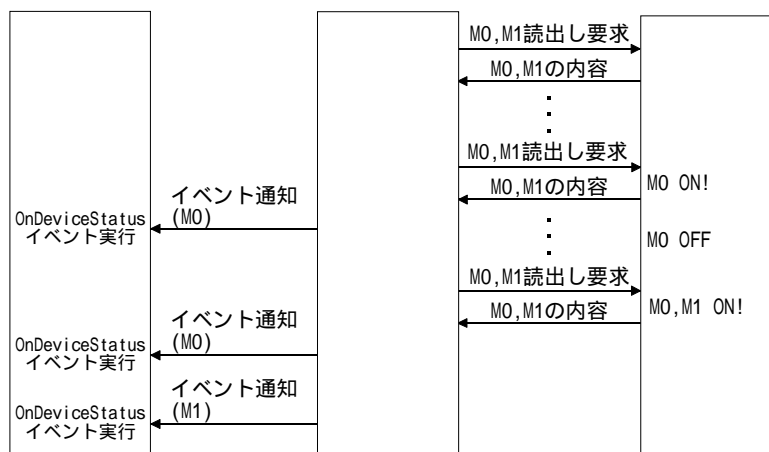
- (1) パソコン性能，実行中のアプリケーション負荷，シーケンサとの通信に要する時間などの条件により，指定の状態監視間隔時間に，デバイスの状態監視が行えない場合があります。
また，ACTコントロールの他の関数を同時に使用する場合も，指定の状態監視間隔時間でデバイスの状態監視ができない原因になります。
- (2) lData(lplDataまたはvarData)は，lSize(varSize)に指定した点数分のメモリエリアを用意してください。
メモリエリアがない場合は，アプリケーションエラーなど重大な現象が発生する恐れがあります。
- (3) 状態監視中にEntryDeviceStatusを実行した場合は，エラーとなります。
状態監視の条件を変更する場合は，FreeDeviceStatusを実行後，再度EntryDeviceStatusを実行してください。
- (4) 複数デバイスが同時に状態変化した場合は，状態変化した毎に，OnDeviceStatusイベントが実行されます。

(例：M0を監視している場合)

アプリケーション

MX Component

シーケンサ



- (5) ACTコントロールが定期的にデバイスランダム読出しを実行し，状態成立を確認する機能です。
したがって，シーケンサCPUがデバイスの状態成立をMX Componentに通知する機能ではありません。
そのため，指定の状態監視間隔時間によっては，ACTコントロールがシーケンサCPUのデバイスの状態成立を確認できない場合があります。

4.2.16 FreeDeviceStatus (デバイスの状態監視登録解除)

- (1) 使用可能ACTコントロール
ActSupportコントロールおよびActMLSupportコントロールを除くすべてのACTコントロールで使用可能です。
- (2) 機 能
EntryDeviceStatusにて登録した，状態監視を行うデバイスを解除します。
- (3) 書 式
Visual Basic® 6.0 , Visual C++® 6.0 ,
Visual C++® .NET(MFC) , VBA : IRet = object.FreeDeviceStatus()
Long IRet 戻り値 Output
VBScript : varRet = object.FreeDeviceStatus()
VARIANT varRet 戻り値(内容はLONG型) Output
Visual Basic® .NET : IRet = object.FreeDeviceStatus()
Integer IRet 戻り値 Output
Visual C++® .NET : iRet = object.FreeDeviceStatus()
int iRet 戻り値 Output
- (4) 説 明
EntryDeviceStatus関数にて設定した状態監視を行うデバイスを解除します。
- (5) 戻り値
正常終了 : 0を返す。
異常終了 : 0以外を返す。(6章エラーコードを参照)

4.2.17 OnDeviceStatus (イベント告知)

(1) 使用可能ACTコントロール

ActSupportコントロールおよびActMLSupportコントロールを除くすべてのACTコントロールで使用可能です。

(2) 機 能

EntryDeviceStatus関数にて登録したデバイス条件が成立時に実行します。

(3) 書 式

Visual Basic® 6.0, VBA : object.OnDeviceStatus(szDevice, IData, IReturnCode)

String	szDevice	条件成立したデバイス名	Input
Long	IData	条件成立したデバイス値	Input
Long	IReturnCode	条件チェック処理の戻り値	Input

Visual C++® 6.0, Visual C++® .NET(MFC) : object.OnDeviceStatus(*szDevice, IData, IReturnCode)

LPCTSTR	*szDevice	条件成立したデバイス名	Input
Long	IData	条件成立したデバイス値	Input
Long	IReturnCode	条件チェック処理の戻り値	Input

VBScript : object.OnDeviceStatus(varDevice, varData, varReturnCode)

VARIANT	varDevice	条件成立したデバイス名(内容はBSTR型)	Input
VARIANT	varData	条件成立したデバイス値(内容はLONG型)	Input
VARIANT	varReturnCode	条件チェック処理の戻り値(内容はLONG型)	Input

Visual Basic® .NET : Private Sub AxActEasyIF1_OnDeviceStatus(ByVal sender As System.Object, ByVal e As AxACTMULTILib._IActEasyIFEvents_OnDeviceStatusEvent)

ByVal sender As System.Object	イベントの発生元	Input
ByVal e As AxACTMULTILib._IActEasyIFEvents_OnDeviceStatusEvent		
OnDeviceStatus	イベントのデータ	Input
OnDeviceStatusイベントのデータのメンバは以下のとおりです。		
e.szDevice	条件成立したデバイス名	
e.IReturnCode	条件成立したデバイス値	
e.IData	条件チェック処理の戻り値	

Visual C++® .NET : private: System::Void axActEasyIF1_OnDeviceStatus
(System::Object * sender, AxInterop::ACTMULTILib
::_IActEasyIFEvents_OnDeviceStatusEvent * e)

System::Object * sender	イベントの発生元	Input
AxInterop::ACTMULTILib::_IActEasyIFEvents_OnDeviceStatusEvent * e		
OnDeviceStatus	イベントのデータ	Input
OnDeviceStatusイベントのデータのメンバは以下のとおりです。		
e->szDevice	条件成立したデバイス名	
e->IReturnCode	条件成立したデバイス値	
e->IData	条件チェック処理の戻り値	

(4) 説 明

(a) EntryDeviceStatus関数にて登録したデバイス条件が、成立時にアプリケーションに対してイベントを通知します。

ユーザアプリケーション側にて本関数を実装することにより、登録されたデバイス条件成立時に、イベントを受けることができます。

(b) IData(varData)には EntryDeviceStatusにて登録したデバイス値が入ります。

(例) ワードデバイスで「-1」の値を監視している場合

EntryDeviceStatusで65535(0000FFFF_H)を登録デバイス値として設定します。

シーケンサCPUの対象ワードデバイスが「-1」(FFFF_H)の状態になると、OnDeviceStatusが実行され、IData(varData)には(0000FFFF_H)が入ります。

(5) 戻り値

なし

ポイント

- ・ ユーザアプリケーション内で下記設定を行っている場合、EntryDeviceStatus関数で登録したデバイスの条件が成立してもOnDeviceStatusのイベントが発生しません。
イベント発生待ちになった場合、下記設定が終了するまでACTコントロールに制御が戻らず、デバイス管理処理が停止しますので注意してください。
- (1) Visual Basic[®]、VBA(Excel)で作成しているユーザアプリケーション
 - (a) ユーザアプリケーション内でメッセージボックスを表示している。
 - (b) ユーザアプリケーション内でInputBox/OutputBoxを表示している。
- (2) Visual Basic[®]、Visual C++[®]、VBA(Excel、Access)、VBScriptで作成しているユーザアプリケーション
 - (a) ユーザアプリケーション内でSleep処理、WaitForSingleObject関数などの待機関数を使用している。
- ・ 参照設定の実装方法については、VB.NET/VC.NETの参照設定用のサンプルプログラム(5.6節、5.7節)を参考にしてください。

4.2.18 ReadDeviceBlock2 (デバイスの一括読出し)

(1) 使用可能ACTコントロール

ActSupportコントロールおよびActMLSupportコントロールを除くすべてのACTコントロールで使用可能です。

(2) 機 能

2バイトデータでデバイスの一括読出しを行います。

(3) 書 式

Visual Basic® 6.0 , VBA : IRet = object.ReadDeviceBlock2(szDevice, ISize, iData(0))

Long	IRet	戻り値	Output
String	szDevice	デバイス名	Input
Long	ISize	読出し点数	Input
Integer	iData(n)	読み出したデバイス値	Output

Visual C++® 6.0 , Visual C++® .NET(MFC) : IRet = object.ReadDeviceBlock2(szDevice, ISize, *IpsData)

Long	IRet	戻り値	Output
CString	szDevice	デバイス名	Input
Long	ISize	読出し点数	Input
Short	*IpsData	読み出したデバイス値	Output

VBScript : varRet = object.ReadDeviceBlock2(varDevice, varSize, IpvarData)

VARIANT	varRet	戻り値(内容はLONG型)	Output
VARIANT	varDevice	デバイス名(内容は文字列型)	Input
VARIANT	varSize	読出し点数(内容はLONG型)	Input
VARIANT	IpvarData	読み出したデバイス値(内容はSHORT型)	Output

Visual Basic® .NET : IRet = object.ReadDeviceBlock2(szDevice, ISize, sData(0))

Integer	IRet	戻り値	Output
String	szDevice	デバイス名	Input
Integer	ISize	読出し点数	Input
short	sData(n)	読み出したデバイス値	Output

Visual C++® .NET : iRet = object.ReadDeviceBlock2(*szDevice, iSize, *IpsData)

int	iRet	戻り値	Output
String	*szDevice	デバイス名	Input
int	iSize	読出し点数	Input
short	*IpsData	読み出したデバイス値	Output

(4) 説 明

(a) szDevice(varDevice)にて指定したデバイスから, ISize(varSize)分のデバイス値をSHORT型のデータとして一括読み出します。

(b) 読み出したデバイス値は, iData(IpsDataまたはIpvarData)に格納されます。

(c) iData(IpsDataまたはIpvarData)は, ISize(varSize)以上の配列を確保してください。

(5) デバイス指定方法

デバイスの指定方法を下記に示します。

<ビットデバイス指定時>

(例) M0から16点単位で3点(3ワード分)

読み出す

2バイト
M0 ~ M15 ^{*1}
M16 ~ M31 ^{*1}
M32 ~ M47 ^{*1}

<ワードデバイス指定時>

(例) D0から3点

2バイト
D0
D1
D2

<FXCPUのCN200以降指定時>

(例) CN200から6点^{*2}

2バイト
CN200のL(下位2バイト)
CN200のH(上位2バイト)
CN201のL(下位2バイト)
CN201のH(上位2バイト)
CN202のL(下位2バイト)
CN202のH(上位2バイト)

<FDデバイス指定時(4ワードデバイス)>

(例) FD0から6点

2バイト
FD0のLL
FD0のLH
FD0のHL
FD0のHH
FD1のLL
FD1のLH

<ゲートウェイデバイスに割り付けられた8ビットデバイス>

(例) EG0から4点(EG0~EG3に8ビットデバイス(シャープ社製シーケンサのE0000~E0007)が割り付けられている場合)

2バイト
EG0
(E0001) (E0000)
EG1
(E0003) (E0002)
EG2
(E0005) (E0004)
EG3
(E0007) (E0006)

*1: デバイスの番号順に, 下位ビットから格納されます。

*2: FXCPUのCN200以降は, 2点で2ワード読み出します。1点ではエラーとなります。

(6) 戻り値

正常終了：0を返す。

異常終了：0以外を返す。（6章エラーコードを参照）

ポイント
(1) ISize(varSize)に指定できる最大読出し点数は、下記の満たす範囲です。 読出し開始デバイス番号 + 読出し点数 最終デバイス番号
(2) ビットデバイス指定時は、デバイス番号は16の倍数が指定可能です。
(3) iData(lpsDataまたはlpvarData)は、ISize(varSize)に指定した点数分のメモリエリアを用意してください。 メモリエリアがない場合は、アプリケーションエラーなど重大な現象が発生する恐れがあります。

4.2.19 WriteDeviceBlock2 (デバイスの一括書込み)

(1) 使用可能ACTコントロール

ActSupportコントロールおよびActMLSupportコントロールを除くすべてのACTコントロールで使用可能です。

(2) 機 能

2バイトデータでデバイスの一括書込みを行います。

(3) 書 式

Visual Basic® 6.0 , VBA : IRet = object.WriteDeviceBlock2(szDevice, ISize, iData(0))

Long	IRet	戻り値	Output
String	szDevice	デバイス名	Input
Long	ISize	書込み点数	Input
Integer	iData(n)	書き込むデバイス値	Input

Visual C++® 6.0 , Visual C++® .NET(MFC) : IRet = object.WriteDeviceBlock2(szDevice, ISize, *lpsData)

Long	IRet	戻り値	Output
CString	szDevice	デバイス名	Input
Long	ISize	書込み点数	Input
Short	*lpsData	書き込むデバイス値	Input

VBScript : varRet = object.WriteDeviceBlock2(varDevice, varSize, varData)

VARIANT	varRet	戻り値(内容はLONG型)	Output
VARIANT	varDevice	デバイス名(内容は文字列型)	Input
VARIANT	varSize	書込み点数(内容はLONG型)	Input
VARIANT	varData	書き込むデバイス値(内容はSHORT型)	Input

Visual Basic® .NET : IRet = object.WriteDeviceBlock2(szDevice, ISize, sData(0))

Integer	IRet	戻り値	Output
String	szDevice	デバイス名	Input
Integer	ISize	書込み点数	Input
short	sData(n)	書き込むデバイス値	Input

Visual C++® .NET : iRet = object.WriteDeviceBlock2(*szDevice, iSize, *lpsData)

int	iRet	戻り値	Output
String	*szDevice	デバイス名	Input
int	iSize	書込み点数	Input
short	*lpsData	書き込むデバイス値	Input

(4) 説 明

- szDevice(varDevice)にて指定したデバイスから , ISize(varSize)分のデバイス値を一括して書き込みます。
- 書き込むデバイス値を , iData(lpsDataまたはvarData)に格納します。
- iData(lpsDataまたはvarData)は , ISize(varSize)以上の配列を確保してください。

(5) デバイス指定方法

デバイスの指定方法を下記に示します。

<ビットデバイス指定時>

(例) M0から16点単位で3点 (3ワード分)
書き込む

2バイト
M0 ~ M15 ^{*1}
M16 ~ M31 ^{*1}
M32 ~ M47 ^{*1}

<ワードデバイス指定時>

(例) D0から3点

2バイト
D0
D1
D2

<FXCPUのCN200以降指定時>

(例) CN200から6点^{*2}

2バイト
CN200のL (下位2バイト)
CN200のH (上位2バイト)
CN201のL (下位2バイト)
CN201のH (上位2バイト)
CN202のL (下位2バイト)
CN202のH (上位2バイト)

<FDデバイス指定時(4ワードデバイス)>

(例) FD0から6点

2バイト
FD0のLL
FD0のLH
FD0のHL
FD0のHH
FD1のLL
FD1のLH

<ゲートウェイデバイスに割り付けられた8ビットデバイス>

(例) EG0から4点 (EG0 ~ EG3に8ビットデバイス(シャープ社製シーケンサのE0000 ~ E0007)が割り付けられている場合)

2バイト
EG0
(E0001) (E0000)
EG1
(E0003) (E0002)
EG2
(E0005) (E0004)
EG3
(E0007) (E0006)

*1: デバイスの番号順に, 下位ビットから格納されます。

*2: FXCPUのCN200以降は, 2点で2ワード書き込みます。1点ではエラーとなります。

(6) 戻り値

正常終了: 0を返す。

異常終了: 0以外を返す。(6章エラーコードを参照)

ポイント

- (1) ISize(varSize)に指定できる最大書込み点数は, 下記の満たす範囲です。
書込み開始デバイス番号 + 書込み点数 最終デバイス番号
- (2) ビットデバイス指定時は, デバイス番号は16の倍数が指定可能です。
- (3) iData(IpsDataまたはvarData)は, ISize(varSize)に指定した点数分のメモリエリアを用意してください。
メモリエリアがない場合は, アプリケーションエラーなど重大な現象が発生する恐れがあります。

4.2.20 ReadDeviceRandom2 (デバイスのランダム読出し)

(1) 使用可能ACTコントロール

ActSupportコントロールおよびActMLSupportコントロールを除くすべてのACTコントロールで使用可能です。

(2) 機 能

2バイトデータでデバイスのランダム読出しを行います。

(3) 書 式

Visual Basic® 6.0, VBA : IRet = object.ReadDeviceRandom2(szDeviceList, ISize, iData(0))

Long	IRet	戻り値	Output
String	szDeviceList	デバイス名	Input
Long	ISize	読出し点数	Input
Integer	iData(n)	読み出したデバイス値	Output

Visual C++® 6.0, Visual C++® .NET(MFC) : IRet = object.ReadDeviceRandom2(szDeviceList, ISize, *IpsData)

Long	IRet	戻り値	Output
CString	szDeviceList	デバイス名	Input
Long	ISize	読出し点数	Input
Short	*IpsData	読み出したデバイス値	Output

VBScript : varRet = object.ReadDeviceRandom2(varDeviceList, varSize, IpvarData)

VARIANT	varRet	戻り値(内容はLONG型)	Output
VARIANT	varDeviceList	デバイス名(内容は文字列型)	Input
VARIANT	varSize	読出し点数(内容はLONG型)	Input
VARIANT	IpvarData	読み出したデバイス値(内容はSHORT型)	Output

Visual Basic® .NET : IRet = object.ReadDeviceRandom2(szDeviceList, ISize, sData(0))

Integer	IRet	戻り値	Output
String	szDeviceList	デバイス名	Input
Integer	ISize	読出し点数	Input
short	sData(n)	読み出したデバイス値	Output

Visual C++® .NET : iRet = object.ReadDeviceRandom2(*szDeviceList, iSize, *IpsData)

int	iRet	戻り値	Output
String	*szDeviceList	デバイス名	Input
int	iSize	読出し点数	Input
short	*IpsData	読み出したデバイス値	Output

(4) 説 明

- (a) szDeviceList(varDeviceList)にて指定したデバイス群を，lSize(varSize)分のデバイス値だけ読み出します。
- (b) 読み出したデバイス値は，iData(lpsDataまたはlpvarData)に格納されます。
- (c) デバイスリストに指定する文字列は改行記号で区切ってください。
最終デバイスの後ろには改行記号は必要ありません。

(例)

Visual Basic[®], VBA, VBScript : D0 & vbCrLf & D1 & vbCrLf & D2
Visual C++[®] : D0¥nD1¥nD2

- (d) iData(lpsDataまたはlpvarData)は，lSize(varSize)以上の配列を確保してください。

(5) デバイス指定方法

デバイスの指定方法を下記に示します。

(例1) 下記のように指定した場合(点数は3点)

Visual Basic[®], VBA, VBScript使用時 : M0 & vbCrLf & D0 & vbCrLf & K8M0
Visual C++[®] 使用時 : M0¥nD0¥nK8M0

2バイト
M0 ^{*1}
D0
M0 ~ M15 ^{*2}

(例2) FXCPUのCN200以降を含むデバイスを指定した場合(点数は合計3点)^{*3}

Visual Basic[®], VBA, VBScript使用時 : D0 & vbCrLf & CN200 & vbCrLf & D1
Visual C++[®] 使用時 : D0¥nCN200¥nD1

2バイト
D0
CN200のL(下位2バイト) ^{*3}
D1

(例3) FDを含むデバイスを指定した場合(点数は合計3点)

Visual Basic[®], VBA, VBScript使用時 : D0 & vbCrLf & FD0 & vbCrLf & D1
Visual C++[®] 使用時 : D0¥nFD0¥nD1

2バイト
D0
FD0のLL(下位2バイト)
D1

^{*1} : 読出すデバイスは「M0」1点のみを対象とし、デバイス値は「0」または「1」が格納されます。

^{*2} : デバイスの番号順に、下位ビットから格納されます。
上位2バイトM16 ~ M31は読み出されません。

^{*3} : FXCPUのCN200以降は、ReadDeviceRandom2では1点で指定デバイスのL(下位2バイト)を読み出します。
指定デバイスのH(上位2バイト)は読み出されません。

(例4) EGを含むデバイスを指定した場合（点数は合計3点）

EG0に8ビットデバイス(シャープ社製シーケンサのE0000，E0001)が割り付けられている例を下記に示します。

Visual Basic[®], VBA, VBScript使用時 : D0 & vbLf & EG0 & vbLf & D1

Visual C++[®] 使用時 : D0¥nEG0¥nD1

2バイト	
D0	
EG0	
(E0001)	(E0000)
D1	

(6) 戻り値

正常終了：0を返す。

異常終了：0以外を返す。（6章エラーコードを参照）

ポイント
<p>(1) ISize(varSize)に指定できる最大読出し点数は、0x7FFFFFFF点までです。</p> <p>(2) iData(lpsDataまたはlpvarData)は、ISize(varSize)に指定した点数分のメモリエリアを用意してください。 メモリエリアがない場合は、アプリケーションエラーなど重大な現象が発生する恐れがあります。</p> <p>(3) ダブルワードデバイスを指定した場合、ReadDeviceRandom2では下位1ワード(2バイト)分のデータのみ格納されます。（エラーは発生しません。） ダブルワードデバイスの読出しを行う場合は、ReadDeviceRandomまたはGetDeviceを使用してください。</p>

4.2.21 WriteDeviceRandom2 (デバイスのランダム書込み)

(1) 使用可能ACTコントロール

ActSupportコントロールおよびActMLSupportコントロールを除くすべてのACTコントロールで使用可能です。

(2) 機 能

2バイトデータでデバイスのランダム書込みを行います。

(3) 書 式

Visual Basic® 6.0, VBA : IRet = object.WriteDeviceRandom2(szDeviceList, ISize, iData(0))

Long	IRet	戻り値	Output
String	szDeviceList	デバイス名	Input
Long	ISize	書込み点数	Input
Integer	iData(n)	書き込むデバイス値	Input

Visual C++® 6.0, Visual C++® .NET(MFC) : IRet = object.WriteDeviceRandom2(szDeviceList, ISize, *IpsData)

Long	IRet	戻り値	Output
CString	szDeviceList	デバイス名	Input
Long	ISize	書込み点数	Input
Short	*IpsData	書き込むデバイス値	Input

VBScript : varRet = object.WriteDeviceRandom2(varDeviceList, varSize, varData)

VARIANT	varRet	戻り値(内容はLONG型)	Output
VARIANT	varDeviceList	デバイス名(内容は文字列型)	Input
VARIANT	varSize	書込み点数(内容はLONG型)	Input
VARIANT	varData	書き込むデバイス値(内容はSHORT型)	Input

Visual Basic® .NET : IRet = object.WriteDeviceRandom2(szDeviceList, ISize, sData(0))

Integer	IRet	戻り値	Output
String	szDeviceList	デバイス名	Input
Integer	ISize	書込み点数	Input
short	sData(n)	書き込むデバイス値	Input

Visual C++® .NET : iRet = object.WriteDeviceRandom2(*szDeviceList, iSize, *IpsData)

int	iRet	戻り値	Output
String	*szDeviceList	デバイス名	Input
int	iSize	書込み点数	Input
short	*IpsData	書き込むデバイス値	Input

(4) 説 明

- (a) szDeviceList(varDeviceList)にて指定したデバイス群を、ISize(varSize)分のデバイス値だけ書き込みます。
- (b) 書き込むデバイス値を、iData(IpsDataまたはvarData)に格納します。
- (c) デバイスリストに指定する文字列は改行記号で区切ってください。
最終デバイスの後ろには改行記号は必要ありません。

(例)

Visual Basic®,VBA,VBScript : D0 & vbLf & D1 & vbLf & D2

Visual C++® : D0¥nD1¥nD2

- (d) iData(IpsDataまたはvarData)は、ISize(varSize)以上の配列を確保してください。

(5) デバイス指定方法

デバイスの指定方法を下記に示します。

(例1) 下記のように指定した場合(点数は3点)

Visual Basic®,VBA,VBScript使用時 : M0 & vbLf & D0 & vbLf & K8M0

Visual C++® 使用時 : M0¥nD0¥nK8M0

2バイト
M0 *1
D0
M0 ~ M15 *2

(例2) FXCPUのCN200以降を含むデバイスを指定した場合(点数は合計3点) *3

Visual Basic®,VBA,VBScript使用時 : D0 & vbLf & CN200 & vbLf & D1

Visual C++® 使用時 : D0¥nCN200¥nD1

2バイト
D0
CN200のL(下位2バイト) *3
D1

(例3) FDを含むデバイスを指定した場合(点数は合計3点)

Visual Basic®,VBA,VBScript使用時 : D0 & vbLf & FD0 & vbLf & D1

Visual C++® 使用時 : D0¥nFD0¥nD1

2バイト
D0
FD0のLL(下位2バイト)
D1

*1: 書込むデバイスは「M0」1点のみを対象とし、デバイス値は設定する2バイトデータの最下位ビットが書込む値となります。

*2: デバイスの番号順に、下位ビットから格納されます。
上位2バイトM16～M31には“0”が書き込まれます。

*3: FXCPUのCN200以降は、WriteDeviceRandom2では1点で指定デバイスのL(下位2バイト)に書込みを行います。

指定デバイスのH(上位2バイト)には“0”が書き込まれます。

(例4) EGを含むデバイスを指定した場合（点数は合計3点）

EG0に8ビットデバイス(シャープ社製シーケンサのE0000，E0001)が割り付けられている例を下記に示します。

Visual Basic[®], VBA, VBScript 使用時 : D0 & vbCrLf & EG0 & vbCrLf & D1

Visual C++[®] 使用時 : D0¥nEG0¥nD1

2バイト	
D0	
EG0	
(E0001)	(E0000)
D1	

(6) 戻り値

正常終了：0を返す。

異常終了：0以外を返す。（6章エラーコードを参照）

ポイント
<p>(1) ISize(varSize)に指定できる最大書込み点数は，0x7FFFFFFF点までです。</p> <p>(2) iData(lpsDataまたはvarData)は，ISize(varSize)に指定した点数分のメモリエリアを用意してください。 メモリエリアがない場合は，アプリケーションエラーなど重大な現象が発生する恐れがあります。</p> <p>(3) ダブルワードデバイスを指定した場合，WriteDeviceRandom2では下位1ワード(2バイト)分のデータに書込みを行い，上位1ワード(2バイト)分のデータには“0”を書き込みます。 ダブルワードデバイスの書込みを行う場合は，WriteDeviceRandomまたはSetDeviceを使用してください。</p>

4.2.22 SetDevice2 (デバイスデータの設定)

(1) 使用可能ACTコントロール

ActSupportコントロールおよびActMLSupportコントロールを除くすべてのACTコントロールで使用可能です。

(2) 機 能

2バイトデータでデバイス1点の設定を行います。

(3) 書 式

Visual Basic® 6.0, VBA : IRet = object.SetDevice2(szDevice, iData)

Long	IRet	戻り値	Output
String	szDevice	デバイス名	Input
Integer	iData	設定データ	Input

Visual C++® 6.0, Visual C++® .NET(MFC) : IRet = object.SetDevice2(szDevice, sData)

Long	IRet	戻り値	Output
CString	szDevice	デバイス名	Input
Short	sData	設定データ	Input

VBScript : varRet = object.SetDevice2(varDevice, varData)

VARIANT	varRet	戻り値(内容はLONG型)	Output
VARIANT	varDevice	デバイス名(内容は文字列型)	Input
VARIANT	varData	設定データ(内容はSHORT型)	Input

Visual Basic® .NET : IRet = object.SetDevice2(szDevice, sData)

Integer	IRet	戻り値	Output
String	szDevice	デバイス名	Input
short	sData	設定データ	Input

Visual C++® .NET : iRet = object.SetDevice2(*szDevice, sData)

int	iRet	戻り値	Output
String	*szDevice	デバイス名	Input
short	sData	設定データ	Input

(4) 説 明

(a) szDevice(varDevice)にて指定したデバイス1点に対してiData(sDataまたはvarData)で指定する操作を行います。

(b) ビットデバイス設定時は、iData値(sData値またはvarData値)の最下位のビットが有効となります。

(5) デバイス指定方法

デバイスの指定方法を下記に示します。

<ビットデバイス指定時>

(例) M0

2バイト
M0 * ¹

<ワードデバイス指定時>

(例) D0

2バイト
D0

<ダブルワードデバイス指定時>

(例) K8M0

2バイト
M0 ~ M15 * ²

<FXCPUのCN200以降指定時>

(例) CN200

2バイト
CN200のL (下位2バイト) * ³

<ゲートウェイデバイス指定時>

(例) E0に8ビットデバイス(シャープ社製シーケンサのE0000, E0001)が割り付けられている場合

2バイト
E0
(E0001) (E0000)

*1: 書込むデバイスは「M0」1点のみを対象とし、デバイス値は設定する2バイトデータの最下位ビットが書込む値となります。

*2: デバイスの番号順に、下位ビットから格納されます。
上位2バイトM16～M31には“0”が書き込まれます。

*3: FXCPUのCN200以降は、SetDevice2では1点で指定デバイスのL (下位2バイト) に書込みを行います。
指定デバイスのH (上位2バイト) には“0”が書き込まれます。

(6) 戻り値

正常終了: 0を返す。

異常終了: 0以外を返す。(6章エラーコードを参照)

ポイント

ダブルワードデバイスを指定した場合、SetDevice2では下位1ワード(2バイト)分のデータに書込みを行い、上位1ワード(2バイト)分のデータには“0”を書き込みます。
ダブルワードデバイスの書込みを行う場合は、WriteDeviceRandomまたはSetDeviceを使用してください。

4.2.23 GetDevice2 (デバイスデータの取得)

(1) 使用可能ACTコントロール

ActSupportコントロールおよびActMLSupportコントロールを除くすべてのACTコントロールで使用可能です。

(2) 機 能

2バイトデータでデバイス1点のデータを取得します。

(3) 書 式

Visual Basic® 6.0, VBA : IRet = object.GetDevice2(szDevice, iData)

Long	IRet	戻り値	Output
String	szDevice	デバイス名	Input
Integer	iData	取得データ	Output

Visual C++® 6.0, Visual C++® .NET(MFC) : IRet = object.GetDevice2(szDevice, *IpsData)

Long	IRet	戻り値	Output
CString	szDevice	デバイス名	Input
Short	*IpsData	取得データ	Output

VBScript : varRet = object.GetDevice2(varDevice, IpvarData)

VARIANT	varRet	戻り値(内容はLONG型)	Output
VARIANT	varDevice	デバイス名(内容は文字列型)	Input
VARIANT	IpvarData	取得データ(内容はSHORT型)	Output

Visual Basic® .NET : IRet = object.GetDevice2(szDevice, sData)

Integer	IRet	戻り値	Output
String	szDevice	デバイス名	Input
short	sData	取得データ	Output

Visual C++® .NET : iRet = object.GetDevice2(*szDevice, *spsData)

int	iRet	戻り値	Output
String	*szDevice	デバイス名	Input
short	*spsData	取得データ	Output

(4) 説 明

(a) szDevice(varDevice)にて指定した1点のデバイスのデータを, iData(IpsData またはIpvarData)に格納します。

(5) デバイス指定方法

デバイスの指定方法を下記に示します。

<ビットデバイス指定時>

(例) M0

2バイト
M0 ^{*1}

<ワードデバイス指定時>

(例) D0

2バイト
D0

<ダブルワードデバイス指定時>

(例) K8M0

2バイト
M0 ~ M15 ^{*2}

<FXCPUのCN200以降指定時>

(例) CN200

2バイト
CN200のL ^{*3}

<ゲートウェイデバイス指定時>

(例) E0に8ビットデバイス(シャープ社製シーケンサのE0000, E0001)が割り付けられている場合

2バイト
E0
(E0001) (E0000)

*1: 読出すデバイスは「M0」1点のみを対象とし、デバイス値は「0」または「1」が格納されます。

*2: デバイスの番号順に、下位ビットから格納されます。
上位2バイトM16 ~ M31のデータは読み出されません。

*3: FXCPUのCN200以降は、GetDevice2では1点で指定デバイスのL(下位2バイト)を読み出します。
指定デバイスのH(上位2バイト)は読み出されません。

(6) 戻り値

正常終了: 0を返す。

異常終了: 0以外を返す。(6章エラーコードを参照)

ポイント

ダブルワードデバイスを指定した場合、GetDevice2では下位1ワード(2バイト)分のデータのみ格納されます。(エラーは発生しません。)
ダブルワードデバイスの読出しを行う場合は、ReadDeviceRandomまたはGetDeviceを使用してください。

4.2.24 Connect (電話回線の接続)

(1) 使用可能ACTコントロール

ActEasyIF , ActA6TEL , ActQ6TEL , ActFXCPU TEL , ActAJ71QC24TEL および
ActQJ71C24TELコントロールで使用可能です。

(2) 機 能

電話回線の接続を行います。

(3) 書 式

Visual Basic® 6.0, Visual C++® 6.0, Visual C++® .NET(MFC),
VBA : IRet = object.Connect()

Long	IRet	戻り値	Output
------	------	-----	--------

Visual Basic® .NET : IRet = object.Connect()

Integer	IRet	戻り値	Output
---------	------	-----	--------

Visual C++® .NET : iRet = object.Connect()

int	iRet	戻り値	Output
-----	------	-----	--------

(4) 説 明

(a) モデム通信用コントロールのプロパティの設定値をもとに、電話回線の接続を行います。

(b) ActQJ71C24TELコントロールの場合、ActConnectWayプロパティで設定した接続方式により電話回線の接続を行います。

ActConnectWayプロパティにて自動(コールバック番号指定時)、コールバック接続(番号指定時)およびコールバック要求(番号指定時)が設定されている場合、ActCallbackNumberプロパティに番号が設定されていないとエラーが発生します。

(5) 戻り値

正常終了 : 0を返す。

異常終了 : 0以外を返す。(6章エラーコードを参照)

(6) Connect実行時の注意事項

(a) 電話回線の接続は必ずOpen前に実行してください。

(b) 電話回線を切断する場合は、Disconnectを実行してください。

Connect中はOpenとCloseを何度繰り返しても、電話回線は接続されたままとなります。

(c) 何らかの原因により電話回線が切断された場合、電話回線が切断される前の状態がOpen中の時は、必ずCloseを行ってから電話回線の再接続を行ってください。

(7) 複数の電話回線接続オブジェクトを使用している場合の注意事項

- (a) 各コントロールのコントロール種別，ポート番号，電話番号が異なる場合
 複数のコントロールで設定しているコントロール種別，ポート番号，電話番号が異なる場合，最初にConnectを実行したコントロールとポート番号，電話番号が異なるコントロールがConnectを実行するとエラー（エラーコード：0xF1000016）が発生します。
- (b) 各コントロールのポート番号，電話番号が同一の場合
 複数のコントロールで設定しているコントロール種別，ポート番号，電話番号が同一の場合，コールバック機能の接続方式により終了状態が異なります。コールバック機能の接続方式と終了状態の関係を下表に示します。

最初にConnectを実行したコントロールの接続方式	2回目以降にConnectを実行するコントロールの接続方式			
	自 動	コールバック接続（固定時）	コールバック要求（固定時）	コールバック受信待ち
	自動（コールバック固定時） 自動（コールバック番号指定時）	コールバック接続（番号指定時）	コールバック要求（番号指定時）	
自 動				
自動（コールバック固定時）			×	×
自動（コールバック番号指定時）				
コールバック接続（固定時）			×	×
コールバック接続（番号指定時）				
コールバック要求（固定時）				
コールバック要求（番号指定時）				
コールバック受信待ち	×	×	×	

：正常終了 ×：異常終了（エラー発生）

4.2.25 Disconnect (電話回線の切断)

- (1) 使用可能ACTコントロール
ActEasyIF, ActA6TEL, ActQ6TEL, ActFXCPU TEL, ActAJ71QC24TELおよび
ActQJ71C24TELコントロールで使用可能です。

- (2) 機 能
電話回線の切断を行います。

- (3) 書 式
- | | | | | |
|------------------------------------------------------------------------------------------------|---------|------|-----|--------|
| Visual Basic® 6.0, Visual C++® 6.0, Visual C++® .NET(MFC),
VBA : IRet = object.Disconnect() | Long | IRet | 戻り値 | Output |
| Visual Basic® .NET : IRet = object.Disconnect() | Integer | IRet | 戻り値 | Output |
| Visual C++® .NET : iRet = object.Disconnect() | int | iRet | 戻り値 | Output |

- (4) 説 明
(a) Connect関数により接続した電話回線を切断します。

- (5) 戻り値
正常終了 : 0を返す。
異常終了 : 0以外を返す。(6章エラーコードを参照)

(6) Disconnect実行時の注意事項

(a) Disconnectを実行する場合

Open中の場合は、Closeを行ってからDisconnectを実行してください。

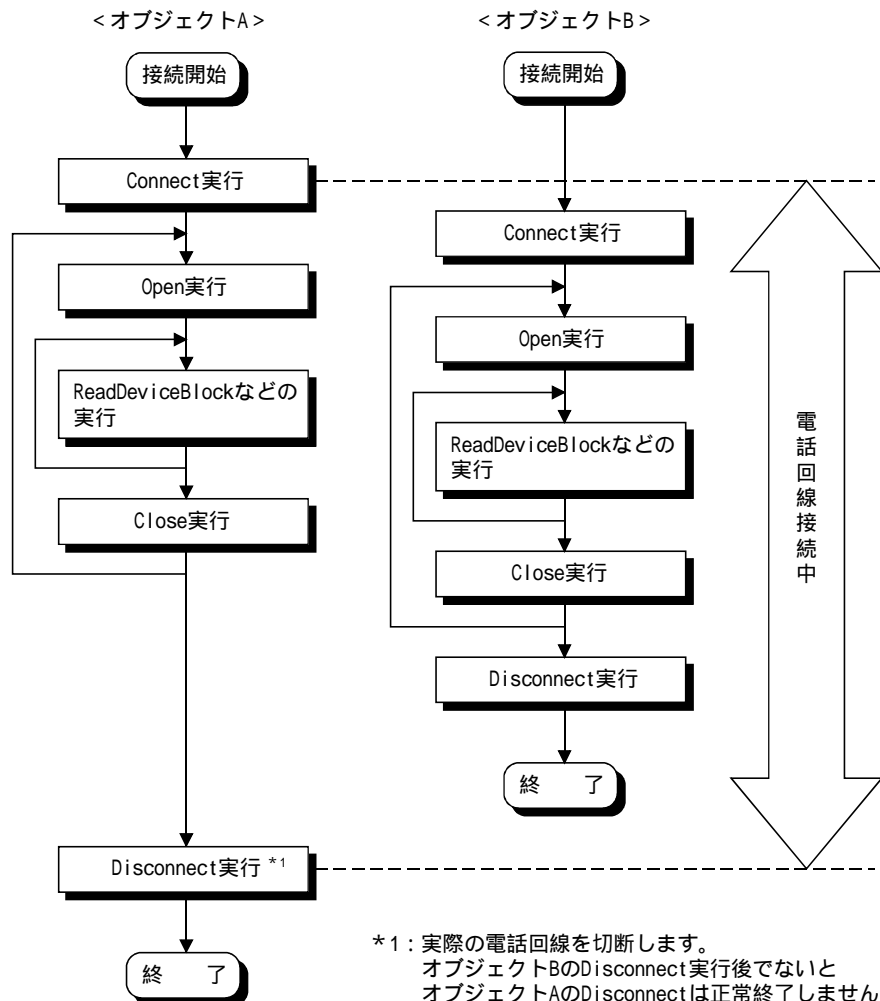
(b) 何らかの原因により電話回線が切断された場合、電話回線が切断される前の状態がOpen中の時は、必ずCloseを行ってから電話回線の再接続を行ってください。

(c) 複数の電話回線接続オブジェクトを使用している場合、最初にConnectを実行したオブジェクトは他のオブジェクトがDisconnectを実行後、Disconnectを実行してください。

また、複数の電話回線接続オブジェクトを使用している場合、最初にConnectを実行したオブジェクトがDisconnectを実行しないと電話回線は切断されません。

下記に複数オブジェクトを同時に使用する場合の例を示します。

<例> コントロールを2つ同時に使用する場合
(オブジェクトA、オブジェクトBが異なるアプリケーションで動作する場合も含む)



4.2.26 GetErrorMessage (エラーメッセージの取得)

(1) 使用可能ACTコントロール

ActSupportコントロールおよびActMLSupportコントロールで使用可能です。

(2) 機 能

エラーコードに対するエラー内容および処置方法を取得します。

(3) 書 式

Visual Basic® 6.0, VBA : IRet = object.GetErrorMessage(IErrorCode, szErrorMessage)

Long	IRet	戻り値	Output
Long	IErrorCode	エラーコード	Input
String	szErrorMessage	エラーメッセージ	Output

Visual C++® 6.0, Visual C++® .NET(MFC) : IRet = object.GetErrorMessage(IErrorCode, *lpszErrorMessage)

Long	IRet	戻り値	Output
Long	IErrorCode	エラーコード	Input
BSTR	*lpszErrorMessage	エラーメッセージ	Output

VBScript : varRet = object.GetErrorMessage(varErrorCode, IpvarErrorMessage)

VARIANT	varRet	戻り値(内容はLONG型)	Output
VARIANT	varErrorCode	エラーコード(内容はLONG型)	Input
VARIANT	IpvarErrorMessage	エラーメッセージ(内容は文字列型)	Output

Visual Basic® .NET : IRet = object.GetErrorMessage(IErrorCode, szErrorMessage)

Integer	IRet	戻り値	Output
Integer	IErrorCode	エラーコード	Input
String	szErrorMessage	エラーメッセージ	Output

Visual C++® .NET : iRet = object.GetErrorMessage(iErrorCode, **lpszErrorMessage)

int	iRet	戻り値	Output
int	iErrorCode	エラーコード	Input
String	**lpszErrorMessage	エラーメッセージ	Output

(4) 説 明

(a) IErrorCode(varErrorCode)にて指定したエラーコードのエラー内容および処置方法を読み出します。

(b) 読み出したエラー内容および処置方法はszErrorMessage(lpszErrorMessageまたはIpvarErrorMessage)に格納されます。

(5) 戻り値

正常終了 : 0を返す。

異常終了 : 0以外を返す。(6章エラーコード参照)

4.3 関数の詳細（カスタムI/F）

各関数の詳細について説明します。

下記関数の詳細は、カスタムI/Fです。

カスタムI/Fは、Visual C++[®] のみ使用可能です。

ディスパッチI/Fについては、“4.2節 関数の詳細（ディスパッチI/F）”を参照してください。

本節では各関数の書式についてのみ説明しています。

書式以外の詳細については“4.2節 関数の詳細（ディスパッチI/F）”を参照してください。

4.3.1 Open（通信回線のオープン）

```
hResult = object.Open( *IpIRetCode )
```

HRESULT	hResult	COMの戻り値	Output
LONG	*IpIRetCode	通信関数の戻り値	Output

4.3.2 Close（通信回線のクローズ）

```
hResult = object.Close( *IpIRetCode )
```

HRESULT	hResult	COMの戻り値	Output
LONG	*IpIRetCode	通信関数の戻り値	Output

4.3.3 ReadDeviceBlock（デバイスの一括読出し）

```
hResult = object.ReadDeviceBlock( szDevice, ISize, *IpIData, *IpIRetCode )
```

HRESULT	hResult	COMの戻り値	Output
BSTR	szDevice	デバイス名	Input
LONG	ISize	読出し点数	Input
LONG	*IpIData	読み出したデバイス値	Output
LONG	*IpIRetCode	通信関数の戻り値	Output

4.3.4 WriteDeviceBlock（デバイスの一括書込み）

```
hResult = object.WriteDeviceBlock( szDevice, ISize, *IpIData, *IpIRetCode )
```

HRESULT	hResult	COMの戻り値	Output
BSTR	szDevice	デバイス名	Input
LONG	ISize	書込み点数	Input
LONG	*IpIData	書き込んだデバイス値	Input
LONG	*IpIRetCode	通信関数の戻り値	Output

4.3.5 ReadDeviceRandom (デバイスのランダム読出し)

```
hResult = object.ReadDeviceRandom( szDeviceList, ISize, *lpData,
                                     *lpRetCode )
```

HRESULT	hResult	COMの戻り値	Output
BSTR	szDeviceList	デバイス名	Input
LONG	ISize	読出し点数	Input
LONG	*lpData	読み出したデバイス値	Output
LONG	*lpRetCode	通信関数の戻り値	Output

4.3.6 WriteDeviceRandom (デバイスのランダム書込み)

```
hResult = object.WriteDeviceRandom( szDeviceList, ISize, *lpData,
                                     *lpRetCode )
```

HRESULT	hResult	COMの戻り値	Output
BSTR	szDeviceList	デバイス名	Input
LONG	ISize	書込み点数	Input
LONG	*lpData	書き込んだデバイス値	Input
LONG	*lpRetCode	通信関数の戻り値	Output

4.3.7 SetDevice (デバイスデータの設定)

```
hResult = object.SetDevice( szDevice, IData, *lpRetCode )
```

HRESULT	hResult	COMの戻り値	Output
BSTR	szDevice	デバイス名	Input
LONG	IData	設定データ	Input
LONG	*lpRetCode	通信関数の戻り値	Output

4.3.8 GetDevice (デバイスデータの取得)

```
hResult = object.GetDevice( szDevice, *lpData, *lpRetCode )
```

HRESULT	hResult	COMの戻り値	Output
BSTR	szDevice	デバイス名	Input
LONG	*lpData	取得データ	Output
LONG	*lpRetCode	通信関数の戻り値	Output

4.3.9 ReadBuffer (バッファメモリ読出し)

```
hResult = object.ReadBuffer( IStartI0, IAddress, IReadSize,
                             *IpsData, *IpIRetCode )
```

HRESULT	hResult	COMの戻り値	Output
LONG	IStartI0	値を読出すユニットの先頭I/O番号	Input
LONG	IAddress	バッファメモリのアドレス	Input
LONG	IReadSize	読み出すサイズ	Input
SHORT	*IpsData	バッファメモリから読出した値	Output
LONG	*IpIRetCode	通信関数の戻り値	Output

4.3.10 WriteBuffer (バッファメモリ書込み)

```
hResult = object.WriteBuffer( IStartI0, IAddress, IWriteSize,
                              *IpsData, *IpIRetCode )
```

HRESULT	hResult	COMの戻り値	Output
LONG	IStartI0	値を書込むユニットの先頭I/O番号	Input
LONG	IAddress	バッファメモリのアドレス	Input
LONG	IWriteSize	書込むサイズ	Input
SHORT	*IpsData	バッファメモリに書込む値	Input
LONG	*IpIRetCode	通信関数の戻り値	Output

4.3.11 GetClockData (時計データ読出し)

```
hResult = object.GetClockData( *IpsYear, *IpsMonth, *IpsDay, *IpsDayOfWeek,
                                *IpsHour, *IpsMinute, *IpsSecond, *IpIRetCode )
```

HRESULT	hResult	COMの戻り値	Output
SHORT	*IpsYear	読み出した年の値	Output
SHORT	*IpsMonth	読み出した月の値	Output
SHORT	*IpsDay	読み出した日の値	Output
SHORT	*IpsDayOfWeek	読み出した曜日の値	Output
SHORT	*IpsHour	読み出した時間の値	Output
SHORT	*IpsMinute	読み出した分の値	Output
SHORT	*IpsSecond	読み出した秒の値	Output
LONG	*IpIRetCode	通信関数の戻り値	Output

4.3.12 SetClockData (時計データ書込み)

```
hResult = object.SetClockData( sYear, sMonth, sDay, sDayOfWeek,
                               sHour, sMinute, sSecond, *IpIRetCode )
```

HRESULT	hResult	COMの戻り値	Output
SHORT	sYear	書込む年の値	Input
SHORT	sMonth	書込む月の値	Input
SHORT	sDay	書込む日の値	Input
SHORT	sDayOfWeek	書込む曜日の値	Input
SHORT	sHour	書込む時間の値	Input
SHORT	sMinute	書込む分の値	Input
SHORT	sSecond	書込む秒の値	Input
LONG	*IpIRetCode	通信関数の戻り値	Output

4.3.13 GetCpuType (シーケンサCPU形名読出し)

```
hResult = object.GetCpuType( *szCpuName, *IpICpuType, *IpIRetCode )
```

HRESULT	hResult	COMの戻り値	Output
BSTR	*szCpuName	シーケンサCPU形名文字列	Output
LONG	*IpICpuType	シーケンサCPU形名コード	Output
LONG	*IpIRetCode	通信関数の戻り値	Output

4.3.14 SetCpuStatus (リモートコントロール)

```
hResult = object.SetCpuStatus( IOperation, *IpIRetCode )
```

HRESULT	hResult	COMの戻り値	Output
LONG	IOperation	リモートRUN/STOP/PAUSE	Input
LONG	*IpIRetCode	通信関数の戻り値	Output

4.3.15 EntryDeviceStatus (デバイスの状態監視登録)

```
hResult = object.EntryDeviceStatus( szDeviceList, ISize, IMonitorCycle,
                                     *IpIData, *IpIRetCode )
```

HRESULT	hResult	COMの戻り値	Output
BSTR	szDeviceList	登録デバイス名リスト	Input
LONG	ISize	登録デバイス点数	Input
LONG	IMonitorCycle	状態監視間隔時間	Input
LONG	*IpIData	書き込んだデバイス値	Input
LONG	*IpIRetCode	通信関数の戻り値	Output

4.3.16 FreeDeviceStatus (デバイスの状態監視登録解除)

```
hResult = object.FreeDeviceStatus( *IpIRetCode )
```

HRESULT	hResult	COMの戻り値	Output
LONG	*IpIRetCode	通信関数の戻り値	Output

4.3.17 OnDeviceStatus (イベント告知)

```
object.OnDeviceStatus( szDevice, IData, IReturnCode, *IpIRetCode )
```

LPCTSTR	szDevice	条件成立したデバイス名	Input
LONG	IData	条件成立したデバイス値	Input
LONG	IReturnCode	条件チェック処理の戻り値	Input
LONG	*IpIRetCode	通信関数の戻り値	Output

4.3.18 ReadDeviceBlock2 (デバイスの一括読出し)

```
hResult = object.ReadDeviceBlock2( szDevice, ISize, *IpsData,
                                    *IpIRetCode )
```

HRESULT	hResult	COMの戻り値	Output
BSTR	szDevice	デバイス名	Input
LONG	ISize	読出し点数	Input
SHORT	*IpsData	読み出したデバイス値	Output
LONG	*IpIRetCode	通信関数の戻り値	Output

4.3.19 WriteDeviceBlock2 (デバイスの一括書込み)

```
hResult = object.WriteDeviceBlock2( szDevice, ISize, *IpsData,
                                     *IpIRetCode )
```

HRESULT	hResult	COMの戻り値	Output
BSTR	szDevice	デバイス名	Input
LONG	ISize	書込み点数	Input
SHORT	*IpsData	書き込むデバイス値	Input
LONG	*IpIRetCode	通信関数の戻り値	Output

4.3.20 ReadDeviceRandom2 (デバイスのランダム読出し)

```
hResult = object.ReadDeviceRandom2( szDeviceList, ISize, *IpsData,
                                     *IpIRetCode )
```

HRESULT	hResult	COMの戻り値	Output
BSTR	szDeviceList	デバイス名	Input
LONG	ISize	読出し点数	Input
SHORT	*IpsData	読み出したデバイス値	Output
LONG	*IpIRetCode	通信関数の戻り値	Output

4.3.21 WriteDeviceRandom2 (デバイスのランダム書込み)

```
hResult = object.WriteDeviceRandom2( szDeviceList, ISize, *IpsData,
                                      *IpIRetCode )
```

HRESULT	hResult	COMの戻り値	Output
BSTR	szDeviceList	デバイス名	Input
LONG	ISize	書込み点数	Input
SHORT	*IpsData	書き込むデバイス値	Input
LONG	*IpIRetCode	通信関数の戻り値	Output

4.3.22 SetDevice2 (デバイスデータの設定)

```
hResult = object.SetDevice2( szDevice, sData, *IpIRetCode )
```

HRESULT	hResult	COMの戻り値	Output
BSTR	szDevice	デバイス名	Input
SHORT	sData	設定データ	Input
LONG	*IpIRetCode	通信関数の戻り値	Output

4.3.23 GetDevice2 (デバイスデータの取得)

```
hResult = object.GetDevice2( szDevice, *IpsData, *IpIRetCode )
```

HRESULT	hResult	COMの戻り値	Output
BSTR	szDevice	デバイス名	Input
SHORT	*IpsData	取得データ	Output
LONG	*IpIRetCode	通信関数の戻り値	Output

4.3.24 Connect (電話回線の接続)

```
hResult = object.Connect( *IpRetCode )
```

HRESULT	hResult	COMの戻り値	Output
LONG	*IpRetCode	通信関数の戻り値	Output

4.3.25 Disconnect (電話回線の切断)

```
hResult = object.Disconnect( *IpRetCode )
```

HRESULT	hResult	COMの戻り値	Output
LONG	*IpRetCode	通信関数の戻り値	Output

4.3.26 GetErrorMessage (エラーメッセージの取得)

```
hResult = object.GetErrorMessage( IErrorCode, *lpzErrorMessage,  
                                   *IpRetCode )
```

HRESULT	hResult	COMの戻り値	Output
LONG	IErrorCode	エラーコード	Input
BSTR	*lpzErrorMessage	エラーメッセージ	Output
LONG	*IpRetCode	通信関数の戻り値	Output

メ 毛

[illegible]

5 サンプルプログラム

MX Component インストール時に登録されるサンプルプログラムについて説明します。

- (1) サンプルプログラム，テストプログラム，サンプルシーケンスプログラムについて
- (a) サンプルプログラム，テストプログラム
サンプルプログラムはユーザプログラムを作成する際に，参考にしていただくために添付しています。
また，テストプログラムは通信テストを行うために添付しています。
これらのご使用に関しては，お客様の責任においてご使用ください。
- (b) サンプルシーケンスプログラム
サンプルシーケンスプログラムは，システム構成，パラメータの設定によって内容の変更が必要になります。
システムに最適な内容に修正してください。
また，サンプルシーケンスプログラムをご使用の際は，お客様の責任においてご使用ください。
- (2) サンプルプログラム，テストプログラム，サンプルシーケンスプログラム一覧
MX Component Version 3インストール時に[ユーザ指定フォルダ] - [Act] - [Sample]に登録されるサンプルプログラム一覧を下記に示します。

5

フォルダ名		サンプルプログラムの詳細	対応言語	参照項
AccessVBA	Sample	ActEasyIFコントロール用サンプルプログラム	VBA(Access)	5.3.3項
	TestPro	各コントロールに対応したテストプログラム		*1
ExcelVBA	Sample	ActEasyIFコントロール用サンプルプログラム	VBA(Excel)	5.3.1項
	Sample_DeviceRW	ActEasyIFコントロールを使用し，D0～D9の値を読み出し／書き込みするサンプルプログラム		5.3.2項
	TestPro	各コントロールに対応したテストプログラム		*1
Vb	ModemSample	モデム通信用サンプルプログラム	Visual Basic®	5.1.2項
	Sample	ActEasyIFコントロール，ActACPUコントロール用サンプルプログラム		5.1.1項
	Sample_TypeConv	型変換サンプルプログラム		5.1.3項
VBScript	SampleASP	ActMLEasyIF用サンプルプログラム	HTML (ASP機能)	5.5節
	SampleHTML	ActMLEasyIF用サンプルプログラム	HTML	5.4節
	TestPro	VBScriptに対応した全コントロール用テストプログラム		*1
Vc	CustomSample	ActEasyIFコントロール，ActAJ71QE71UDPコントロール用サンプルプログラム	Visual C++ (カスタムI/F)	5.2.2項
	Sample	ActEasyIFコントロール，ActAJ71QE71UDPコントロール用サンプルプログラム	Visual C++ (ディスパッチI/F)	5.2.1項
	Sample_Support	トラブルシュート機能 (ActSupportコントロール) 用サンプルプログラム		5.2.3項
Vb.NET	Sample_TypeConv	型変換サンプルプログラム	Visual Basic.NET	5.6.1項
	Sample_Sample_References	Read/Writeサンプルプログラム		5.6.2項
Vc.NET	Sample_Sample_References	Read/Writeサンプルプログラム	Visual C++.NET	5.7.1項

*1：動作確認用テストプログラムです。

動作確認を行う場合に使用してください。

(次のページへ)

フォルダ名		サンプルプログラムの詳細	対応言語	参照項
GppW	AJ71QC24NTEL	モデム通信(QC24N)用サンプルラダー	シーケンス プログラム (GX Developer)	*2
	Ccg4a	CC-Link G4(Aモード)通信用サンプルラダー		
	E71_tcp	Ethernet通信(E71 TCP/IP)用サンプルラダー		
	E71_udp	Ethernet通信(E71 UDP/IP)用サンプルラダー		
	Fxcputel	モデム通信(FXCPU)用サンプルラダー		
	Qe71_tcp	Ethernet通信(QE71 TCP/IP)用サンプルラダー		
	QJ71C24Callback	コールバック機能指定に設定1を使用したモデム通信(Qシリーズ対応C24, Qシリーズ対応CMO)用サンプルラダー		
	QJ71C24Callback_Number	コールバック機能指定に設定3を使用したモデム通信(Qシリーズ対応C24, Qシリーズ対応CMO)用サンプルラダー		
	QJ71C24TEL	モデム通信(Qシリーズ対応C24, Qシリーズ対応CMO)用サンプルラダー		

*2: MX Component Version 3オペレーティングマニユアルを参照してください。

5.1 Visual Basic® 6.0サンプルプログラム

本項では、Actコントロールを用いて作成した、Visual Basic® 6.0用のサンプルプログラムについて説明します。

5.1.1 ActEasyIFコントロール、ActACPUコントロール用サンプルプログラム

本サンプルプログラムは、ActEasyIFコントロール及びActACPUコントロールを使用して、シーケンサCPUのCPU読出し及びデバイス値の読出し／書込みを行うサンプルプログラムです。

(1) 使用方法

フォームをロードし、使用するコントロールを選択します。

Open ボタンをクリックし、通信回線をオープンします。

なお、ActEasyIFコントロールの場合は、**Open** ボタンをクリックする前に、通信設定ユーティリティにて通信設定した論理番号を“LogicalStationNumber”のテキストボックス内に入力します。

Close ボタンをクリックし、通信回線をクローズします。

GetCpuType ボタンをクリックすると、“Data”のリストボックス内に現在回線を接続しているシーケンサCPUの形名と形名コードが表示されます。

読出しを行いたいデバイス名と点数を“DeviceName”、“DeviceSize”のテキストボックス内にデバイス入力し、**ReadDeviceRandom** ボタンをクリックすると“Data”のリストボックスにデバイスデータが表示されます。

書込みを行いたいデバイス名と点数を“DeviceName”、“DeviceSize”のテキストボックス内に、書き込むデバイス値を“DeviceData”のテキストボックス内に入力し、**WriteDeviceRandom** ボタンをクリックすると、シーケンサCPUにデバイス値を書き込みます。

実行時にエラーが発生した場合、“ReturnCode”のテキストボックス内にエラーコードを表示します。

エラーが発生した場合、“6 エラーコード”を参照しエラー原因を排除してください。

(2) サンプルプログラム使用時の注意事項

(a) ActEasyIFコントロールを使用する場合、本サンプルプログラムを実行する前に通信設定ユーティリティにて通信設定を行ってください。

(b) ActACPUコントロールを使用する場合、本サンプルプログラムではシーケンサCPUを“A1N”、COMポートを“COM1”固定で使用する仕様となっています。

(c) 使用するコントロールを変更する場合、**Close** ボタンをクリックし一度通信回線をクローズしてからコントロールを変更し、**Open** ボタンをクリックして再度回線をオープンしてください。

(3) サンプルファイル一覧

デフォルトパスでインストールしたときには、サンプルプログラムは下記フォルダにインストールされます。

C:\MELSEC\Act\SAMPLE\VB\SAMPLE.vbp プロジェクトファイル

C:\MELSEC\Act\SAMPLE\VB\SAMPLEFORM.frm Visual Basic Formファイル

C:\MELSEC\Act\SAMPLE\VB\SAMPLEFORM.frx Visual Basic Form Binaryファイル

(4) 画面

サンプルプログラムの画面について説明します。

項 目	内 容
Control	使用するコントロールを選択します。
LogicalStationNumber	通信設定ユーティリティにて通信設定を行った論理局番を入力します。
DeviceName	読出し / 書込みを行うデバイス名を入力します。
DeviceSize	読出し / 書込みを行うデバイスの点数を入力します。
DeviceData	書込みを行うデバイス値を入力します。
Open	通信回線をオープンします。
Close	通信回線をクローズします。
GetCpuType	シーケンサCPU形名読出しを実行します。
ReadDeviceRandom	“デバイス名”テキストボックス内に入力したデバイスのデータ読出しを実行します。
WriteDeviceRandom	“デバイス名”テキストボックス内に入力したデバイスのデータ書込みを実行します。
ReturnCode	各メソッドの実行結果を表示します。
Data	CPU形名、CPU形名コードおよび読み出したデバイス値を表示します。

5.1.2 モデム通信用サンプルプログラム

本サンプルプログラムは、ActEasyIFコントロールを使用して、指定した論理局番に対するシーケンサCPUのデバイスのモニタを行うサンプルプログラムです。

(1) 使用方法

通信設定ユーティリティにてモデム通信の設定を行った論理局番の値を“LogicalStationNumber”のテキストボックス内に入力します。

接続するユニットにパスワードが設定されている場合，“Password”のテキストボックス内にパスワードを入力します。

モニタを行う間隔を“MonitorInterval”のテキストボックス内に入力します。

モニタするデバイス名を“DeviceName”のテキストボックスに、デバイス点数を“Size”のテキストボックス内に入力します。

MonitorStart ボタンをクリックすると、電話回線接続後に通信回線のオープンを行い、ReadDeviceBlock関数にて指定した間隔でデバイス値を読み出します。
(電話回線の接続が必要無い論理局番の場合、電話回線の接続は行わず通信回線のオープンのみ行います。)

MonitorStop ボタンをクリックすると、通信回線のクローズ後に電話回線の切断を行います。

本サンプルプログラム実行時にエラーが発生した場合，“ReturnValue”のテキストボックス内にエラーコードを表示します。

“ReturnValue”のテキストボックス内にエラーコードが表示された場合、

GetErrorMessage ボタンをクリックすると、表示されているエラーコードに対するエラー内容および処置方法をが表示されます。

エラーが発生した場合、エラーコードの内容を確認しエラー原因を排除してください。

(2) サンプルプログラム使用時の注意事項

(a) ActEasyIFコントロールを使用するため、本サンプルプログラム実行前に通信設定ユーティリティにて論理局番の設定を行ってください。

(b) 論理局番，モニタ間隔，デバイス名および読出し点数を変更する場合，

MonitorStop ボタンをクリックし一度通信回線をクローズし，

MonitorStart ボタンをクリックして再度通信を再開させてください。

(3) サンプルファイル一覧

デフォルトパスでインストールしたときには、サンプルプログラムは下記フォルダにインストールされます。

C:\MELSEC\Act\Sample\ModemSample\ModemSample.vbp プロジェクトファイル

C:\MELSEC\Act\Sample\ModemSample\ModemSample.frm Visual Basic Formファイル

C:\MELSEC\Act\Sample\ModemSample\ModemSample.frx Visual Basic Form Binaryファイル

(4) 画 面

サンプルプログラムの画面について説明します。

項 目	内 容
LogicalStationNumber	通信設定ユーティリティにて設定した論理局番を入力します。
Password	パスワードが必要な場合、パスワードの入力を行います。
MonitorInterval	モニタ間隔を設定します。(単位：s)
DeviceName	モニタするデバイス名を入力します。
Size	読出し点数を入力します。
ReturnValue	実行されたメソッドの戻り値が表示されます。
MonitorStart	電話回線接続後、通信回線をオープンしモニタを開始します。
MonitorStop	通信回線クローズ後、電話回線を切断しモニタを終了します。
GetErrorMessage	“ ReturnValue ” のエラーコードについてのエラー内容および処置方法を取得し表示させます。

5.1.3 型変換サンプルプログラム

本サンプルプログラムは、ActEasyIFコントロールを使用して、ASCII文字列、32bit整数、実数の各データをそれぞれのデータ形式にてシーケンサCPUのデバイスに読み出し/書き込みを行ない、実行時にエラーが発生した場合は、ActSupportコントロールを使用して、エラーメッセージを表示するサンプルプログラムです。

(1) 使用方法

フォームをロードし、通信設定ユーティリティにて通信設定した論理番号を“論理局番”のテキストボックス内に入力後、**Open** ボタンをクリックし、通信回線をオープンします。

ASCII文字の書き込みは、“ASCII文字”フレーム内の上段にあるテキストボックスにASCII文字データを入力後、同フレーム内にある**Write** ボタンをクリックすると、シーケンサCPUに対して実行します。（書き込みは、入力する文字数の過不足に関係なく、D0～D9の範囲で実行されます。文字数の不足時は、0(Hex)で埋められます。）

ASCII文字の読み出しは、“ASCII文字”フレーム内の**Read** ボタンをクリックします。同フレーム内の下段にあるテキストボックスにシーケンサCPUからのデータが表示されます。（読み出しは、D0～D9の範囲で実行されます。）

32bit整数の書き込みは、“32bit整数”フレーム内の上段にあるテキストボックスに32bit整数データを入力後、同フレーム内にある**Write** ボタンをクリックすると、シーケンサCPUに対して実行します。（書き込みは、D10～D11の範囲で実行されます。）

32bit整数の読み出しは、“32bit整数”フレーム内の**Read** ボタンをクリックします。同フレーム内の下段にあるテキストボックスにシーケンサCPUからのデータが表示されます。（読み出しは、D10～D11の範囲で実行されます。）

実数の書き込みは、“実数”フレーム内の上段にあるテキストボックスに実数データを入力後、同フレーム内にある**Write** ボタンをクリックすると、シーケンサCPUに対して実行します。（書き込みは、D12～D13の範囲で実行されます。）

実数の読み出しは、“実数”フレーム内の**Read** ボタンをクリックします。同フレーム内の下段にあるテキストボックスにシーケンサCPUからのデータが表示されます。（読み出しは、D12～D13の範囲で実行されます。）

実行時にエラーが発生した場合、メッセージボックス内にエラーメッセージとエラーコードを表示します。エラーが発生した場合は“6 エラーコード”を参照しエラー原因を排除してください。

Close ボタンをクリックすると、通信回線をクローズします。

(2) サンプルプログラム使用時の注意事項

(a) ActEasyIFコントロールを使用する場合、本サンプルプログラムを実行する前に通信設定ユーティリティにて通信設定を行なってください。

(b) ActEasyIFコントロール以外によるエラーが発生した場合（32bit整数/実数に文字列や範囲外の数値を入力するなど）、該当するエラーをメッセージボックスで表示した後、プログラムが終了します。

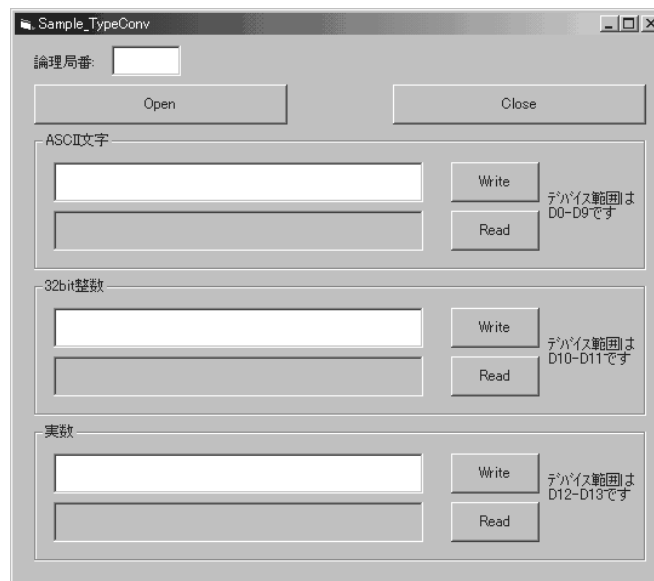
(3) サンプルファイル一覧

デフォルトパスでインストールしたときには、サンプルプログラムは下記フォルダにインストールされます。

C:\MELSEC\Act\Sample\Vb\Sample_TypeConv\Sample_TypeConv.vbp	プロジェクトファイル
C:\MELSEC\Act\Sample\Vb\Sample_TypeConv\frm_Sample_TypeConv.frm	Visual Basic Formファイル
C:\MELSEC\Act\Sample\Vb\Sample_TypeConv\frm_Sample_TypeConv.frx	Visual Basic Form Binaryファイル

(4) 画面

サンプルプログラムの画面について説明します。



項 目		内 容
論理局番		通信設定ユーティリティにて通信設定を行った論理局番を入力します。
Open		通信回線をオープンします。
Close		通信回線をクローズします。
“ ASCII文字 ” フレーム	Write	フレーム内上段のテキストボックスに入力されたASCII文字データを、シーケンサCPUに書き込みます。
	Read	シーケンサCPUから読み出されたASCII文字データを、フレーム内下段のテキストボックスに表示します。
“ 32bit整数 ” フレーム	Write	フレーム内上段のテキストボックスに入力された32bit整数データを、シーケンサCPUに書き込みます。
	Read	シーケンサCPUから読み出された32bit整数データを、フレーム内下段のテキストボックスに表示します。
“ 実数 ” フレーム	Write	フレーム内上段のテキストボックスに入力された実数データを、シーケンサCPUに書き込みます。
	Read	シーケンサCPUから読み出された実数データを、フレーム内下段のテキストボックスに表示します。

5.2 Visual C++® 6.0サンプルプログラム

本項では、ディスパッチI/FおよびカスタムI/Fを用いて作成した、Visual C++® 6.0用のサンプルプログラムについて説明します。

5.2.1 ディスパッチI/F

本サンプルプログラムは、ディスパッチI/FでActAJ71QE71UDPコントロールおよびActEasyIFコントロールを使用して接続先CPUの形名読出しおよびデバイス値の読出し/書込みを行うサンプルプログラムです。

(1) 使用方法

フォームをロードし、使用するコントロールを選択します。

Open Communication ボタンをクリックすると、Ethernet通信にて通信回線Openを実行します。

GetCpuType ボタンをクリックすると、現在回線を接続しているシーケンサCPUの形名コードが“Output Data”のテキストボックス（上段）に、CPU形名が“Output Data”のテキストボックス（下段）に表示されます。

読出しを行いたいデバイスを“デバイス”のテキストボックス内に入力し、**GetDevice** ボタンをクリックすると“Output Data”のテキストボックス（上段）にデバイスデータが表示されます。

書込みを行いたいデバイスを“デバイス”のテキストボックス内に、書き込むデバイス値を“デバイス値”のテキストボックス内に入力し、**SetDevice** ボタンをクリックするとデバイス値を書き込みます。

Close Communication ボタンをクリックすると通信回線をCloseします。

関数実行時にエラーが発生した場合、“Return Value”のテキストボックス内にエラーコードを表示します。

エラーが発生した場合、“6章 エラーコード”を参照しエラー原因を排除してください。

(2) サンプルプログラム使用時の注意事項

(a) ActEasyIFコントロールを使用する場合、サンプルプログラムを実行する前に通信設定ユーティリティにてEthernet通信の情報を論理局番“2”に設定してください。

(b) 使用するコントロールを変更する場合、**Close Communication** ボタンをクリックし一度通信回線をCloseしてから、コントロールを変更し、再度回線をOpenしてください。

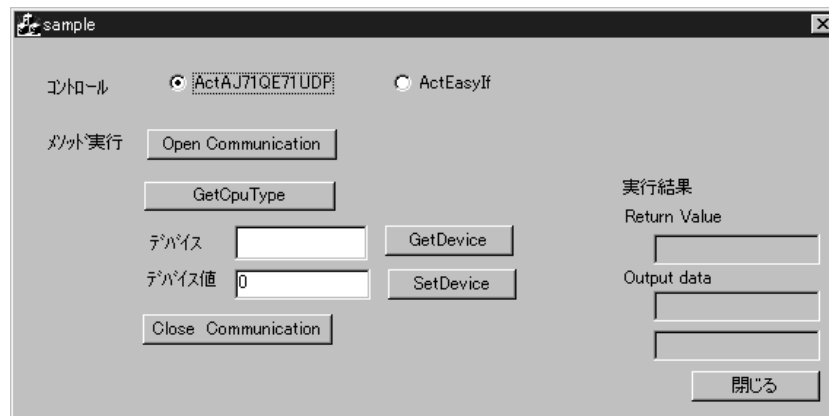
(3) サンプルファイル一覧

デフォルトパスでインストールしたときには、サンプルプログラムは下記フォルダにインストールされます。

C:\¥MELSEC¥ACT¥SAMPLE¥VC¥SAMPLE¥sample.rc	リソースファイル
C:\¥MELSEC¥ACT¥SAMPLE¥VC¥SAMPLE¥sample.dsw	プロジェクトワークスペース
C:\¥MELSEC¥ACT¥SAMPLE¥VC¥SAMPLE¥sample.dsp	プロジェクトファイル
C:\¥MELSEC¥ACT¥SAMPLE¥VC¥SAMPLE¥sample.cpp	クラス定義用ソースファイル
C:\¥MELSEC¥ACT¥SAMPLE¥VC¥SAMPLE¥sampleDlg.cpp	ダイアログインプリメンテーション用ソースファイル
C:\¥MELSEC¥ACT¥SAMPLE¥VC¥SAMPLE¥actaj71qe71udp.cpp	ActAJ71QE71UDPコントロールのソースファイル
C:\¥MELSEC¥ACT¥SAMPLE¥VC¥SAMPLE¥actaj71qe71udp.h	ActAJ71QE71UDPコントロールのヘッダファイル
C:\¥MELSEC¥ACT¥SAMPLE¥VC¥SAMPLE¥acteasyif.cpp	ActEasyIFコントロールのソースファイル
C:\¥MELSEC¥ACT¥SAMPLE¥VC¥SAMPLE¥acteasyif.h	ActEasyIFのヘッダファイル

(4) 画 面

サンプルプログラムの画面について説明します。



項 目		内 容
コントロール		使用するコントロールを選択します。
Open Communication		通信回線をOpenします。
GetCpuType		シーケンサCPU形名読出しを実行します。
デバイス		読出し / 書き込みを行うデバイスを入力します。
デバイス値		書き込みを行うデバイスのデバイス値を入力します。
Close Communication		通信回線をCloseします。
GetDevice		“ デバイス ” テキストボックス内に入力したデバイスのデータ読出しを実行します。
SetDevice		“ デバイス ” テキストボックス内に入力したデバイスのデータ書き込みを実行します。
Return Value		関数の実行結果を表示します。
Output Data	上 段	CPU形名コードおよび読み出したデバイス値を表示します。
	下 段	CPU形名を表示します。

5.2.2 カスタムI/F

本サンプルプログラムは、カスタムI/FでActAJ71QE71UDPコントロールおよびActEasyIFコントロールを使用して接続先CPUの形名読出しおよびデバイス値の読出し/書込みを行うサンプルプログラムです。

(1) 使用方法

使用方法是ディスパッチI/F用サンプルプログラムと同様です。

“ 5.2.1項 ディスパッチI/F (1) 使用方法 ” を参照してください。

(2) サンプルプログラム使用時の注意事項

使用方法是ディスパッチI/F用サンプルプログラムと同様です。

“ 5.2.1項 ディスパッチI/F (2) サンプルプログラム使用時の注意事項 ” を参照してください。

(3) サンプルファイル一覧

デフォルトパスでインストールしたときには、サンプルプログラムは下記フォルダにインストールされます。

C:\MELSEC\ACT\SAMPLE\VC\CUSTOMSAMPLE\CustomSample.rc	リソースファイル
C:\MELSEC\ACT\SAMPLE\VC\CUSTOMSAMPLE\CustomSample.dsw	プロジェクトワークスペース
C:\MELSEC\ACT\SAMPLE\VC\CUSTOMSAMPLE\CustomSample.dsp	プロジェクトファイル
C:\MELSEC\ACT\SAMPLE\VC\CUSTOMSAMPLE\CustomSample.cpp	クラス定義用ソースファイル
C:\MELSEC\ACT\SAMPLE\VC\CUSTOMSAMPLE\CustomSampleDlg.cpp	ダイアログインプリメンテーション用ソースファイル

(4) 画 面

画面はディスパッチI/F用サンプルプログラムと同様です。

“ 5.2.1項 ディスパッチI/F (4) 画面 ” を参照してください。

5.2.3 トラブルシュート機能サンプルプログラム

本サンプルプログラムは、ディスパッチI/FでActSupportコントロールを使用してトラブルシュート機能を行うサンプルプログラムです。

(1) 使用方法

フォームをロードします。

“ ErrorCode ”のテキストボックスにエラー内容を知りたいエラーコードを入力します。

GetErrorMessage ボタンをクリックすると、エラー内容表示用テキストボックスにエラー内容および処置方法が表示されます。

表示されるエラー内容および処置方法は“ 6.1 ACTコントロールが返すエラーコード ”に記載の内容と同様の内容が表示されます。

Exit ボタンをクリックするとサンプルプログラムを終了します。

(2) サンプルプログラム使用時の注意事項

(a) “ ErrorCode ”のテキストボックスに入力するエラーコードは、“ 6.1 ACTコントロールが返すエラーコード ”に記載のエラーコード(0x*****)または10進数で入力してください。

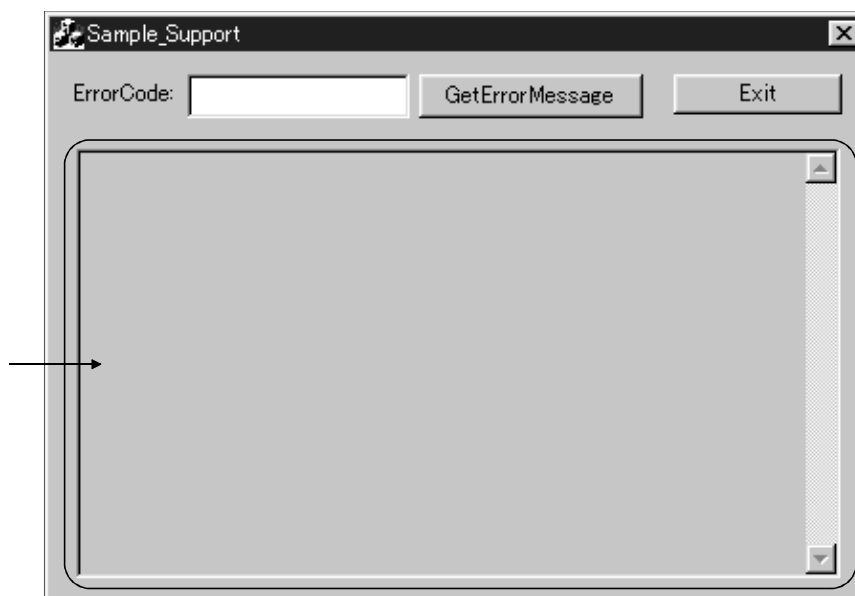
(3) サンプルファイル一覧

デフォルトパスでインストールしたときには、サンプルプログラムは下記フォルダにインストールされます。

C:\MELSEC\ACT\SAMPLE\VC\Sample_Support\actsupport3.cpp	ActSupportコントロールのソースファイル
C:\MELSEC\ACT\SAMPLE\VC\Sample_Support\actsupport3.h	ActSupportコントロールのヘッダファイル
C:\MELSEC\ACT\SAMPLE\VC\Sample_Support\resource.h	リソースファイル
C:\MELSEC\ACT\SAMPLE\VC\Sample_Support\Sample_Support.cpp	クラス定義用ソースファイル
C:\MELSEC\ACT\SAMPLE\VC\Sample_Support\Sample_Support.dsp	プロジェクトファイル
C:\MELSEC\ACT\SAMPLE\VC\Sample_Support\Sample_Support.dsw	プロジェクトワークスペース
C:\MELSEC\ACT\SAMPLE\VC\Sample_Support\Sample_Support.h	クラス定義用ヘッダファイル
C:\MELSEC\ACT\SAMPLE\VC\Sample_Support\Sample_Support.rc	リソースファイル
C:\MELSEC\ACT\SAMPLE\VC\Sample_Support\Sample_SupportDlg.cpp	ダイアログインプリメンテーション用ソースファイル
C:\MELSEC\ACT\SAMPLE\VC\Sample_Support\Sample_SupportDlg.h	ダイアログインプリメンテーション用ヘッダファイル

(4) 画 面

サンプルプログラムの画面について説明します。



項 目	内 容
Error Code	エラーコードを入力します。
GetErrorMessage	“ Error Code ” テキストボックス内に入力したエラーコードのエラー内容および処置方法を読み出します。
Exit	サンプルプログラムを終了します。
(エラー内容表示用テキストボックス)	“ Error Code ” テキストボックス内に入力したエラーコードのエラー内容および処置方法を表示します。

5.3 VBAサンプルプログラム

Excel, Access用のVBAサンプルプログラムについて説明します。

5.3.1 Excelサンプルプログラム

本サンプルプログラムは、ActEasyIFコントロールを使用して、シーケンサCPUのデバイス値のロギングおよびグラフ表示を行うサンプルプログラムです。

本サンプルプログラムは、Excel 2000にて作成したものです。

(1) 使用方法

サンプルシートを開きます。

通信設定ユーティリティにて通信設定を行った論理局番を“LogicalStationNumber”の入力セル内に入力します。

読出しを行いたいデバイスの先頭デバイスを“DeviceName”の入力セル内に入力します。

ロギングする間隔を“LoggingTiming”の入力セル内に入力します。

LoggingStart ボタンをクリックすると、ロギングを開始します。

なお、ロギングを開始するとグラフ上に過去10件のデバイス値と折れ線グラフが表示されます。

LoggingStop ボタンをクリックすると、ロギングを停止します。

なお、画面上のロギングデータはクリアされません。

実行時にエラーが発生した場合、“Message”の出力セル内にエラーメッセージ、“Return Code”の出力セル内にエラーコードを表示します。

エラーが発生した場合、“6 エラーコード”を参照しエラー原因を排除してください。

(2) サンプルプログラム使用時の注意事項

(a) 本サンプルプログラムを実行する前に通信設定ユーティリティに通信設定を行ってください。

(b) 入力値を変更する場合、**LoggingStop** ボタンをクリックし、一度ロギングを停止してから入力値を変更し、**LoggingStart** ボタンをクリックしてロギングを開始してください。

(c) 本サンプルプログラムは、ロギングを行うデバイス点数を10点、ロギング数を10件としています。

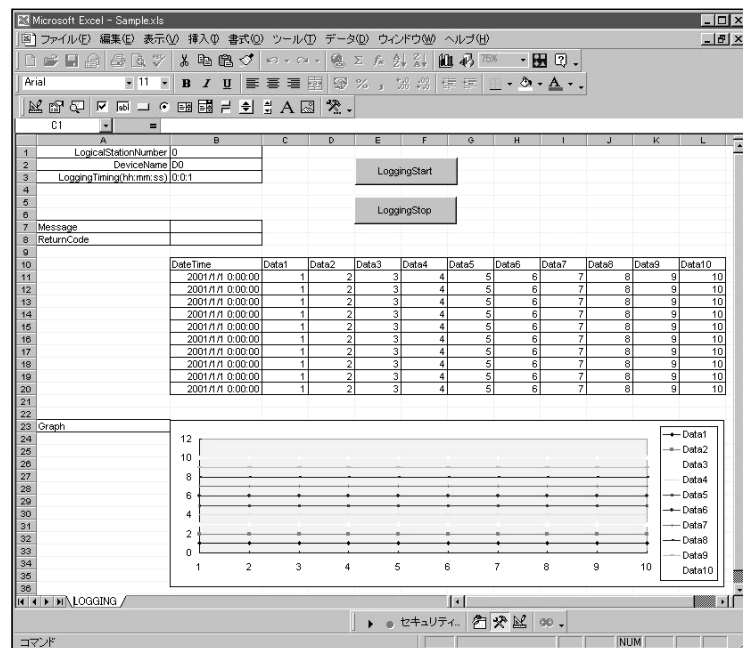
(3) サンプルファイル

デフォルトパスでインストールしたときには、サンプルプログラムは下記フォルダにインストールされます。

C:\MELSEC\Act\Sample\Excel\VBA\Sample\Sample.xls Excelファイル

(4) 画面

サンプルプログラムの画面について説明します。



項 目	内 容
LogicalStationNumber	通信設定ユーティリティにて通信設定を行った論理局番を入力します。
DeviceName	読み出しを行うデバイスの先頭を入力します。
LoggingTiming (hh:mm:ss)	ロギングする間隔を入力します。 例：1秒間隔でロギングする場合 0:0:1 1時間30分間隔でロギングする場合 1:30:0
Message	関数の実行結果を表示します。（文字列）
ReturnCode	関数の実行結果を表示します。（数値 16進）
Time	ロギングしたシステム時間を表示します。
Data01 ~ 10	ロギングしたデバイス値を表示します。
Graph	ロギングしたデバイス値10点を過去10件分、折れ線グラフにして表示します。
LoggingStart	ロギングを開始します。
LoggingStop	ロギングを停止します。

5.3.2 Excelサンプルプログラム（デバイス読出し／書込み）

本サンプルプログラムは、ActEasyIFコントロールを使用して、シーケンサCPUのデバイス（D0～D9）の読出し／書込みを行うサンプルプログラムです。

また、エラーが発生した場合、ActSupportコントロールを使用して、エラーコードおよびエラーメッセージをダイアログボックスに表示します。

本サンプルプログラムは、Excel 2000にて作成したものです。

(1) 使用方法

サンプルシートを開きます。

通信設定ユーティリティにて通信設定を行った論理局番を“LogicalStationNumber”の入力セル内に入力します。

DeviceRead ボタンをクリックするとシーケンサCPUのD0～D9のデバイス値を読み出し、DeviceReadエリアに表示させます。

また、DeviceWriteエリアのD0～D9に値を入力し、**DeviceWrite** ボタンをクリックするとシーケンサCPUのD0～D9へ値を書き込みます。

D0～D9のデバイス読出し／書込みに失敗した場合、エラーコードに対するエラーメッセージをダイアログボックスに表示します。

(2) サンプルプログラム使用時の注意事項

(a) 本サンプルプログラムを実行する前に通信設定ユーティリティに通信設定を行ってください。

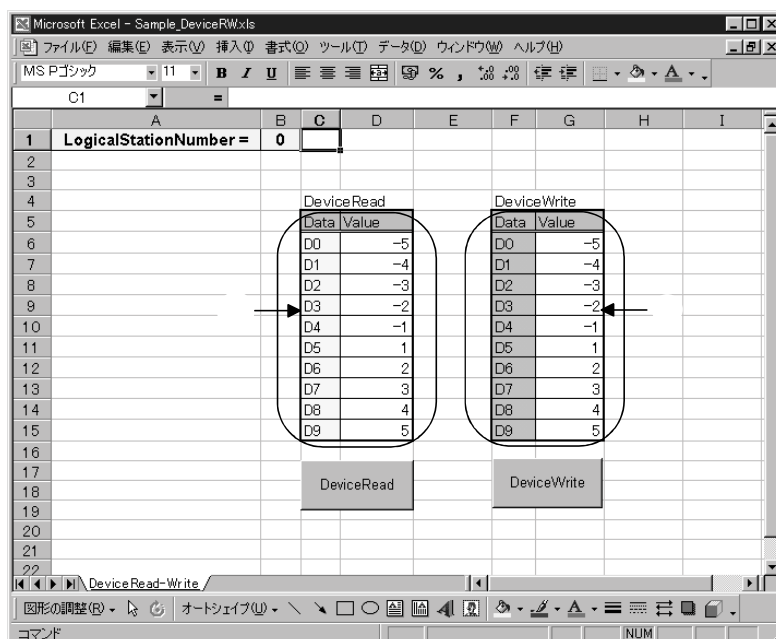
(3) サンプルファイル

デフォルトパスでインストールしたときには、サンプルプログラムは下記フォルダにインストールされます。

C:\MELSEC\Act\Sample\Excel\VBASample\Sample_DeviceRW.xls Excelファイル

(4) 画面

サンプルプログラムの画面について説明します。



項 目	内 容
LogicalStationNumber	通信設定ユーティリティにて通信設定を行った論理局番を入力します。
(DeviceReadエリア)	シーケンサCPUのD0～D9のデバイス値を表示します。
(DeviceWriteエリア)	シーケンサCPUのD0～D9に書き込む値を入力します。
DeviceRead	シーケンサCPUのD0～D9のデバイス値を読み出し，DeviceReadエリアへ表示させます。
DeviceWrite	DeviceWriteエリアのD0～D9に入力されたデバイス値をシーケンサCPUのD0～D9へ書き込みます。

5.3.3 Accessサンプルプログラム

本サンプルプログラムは、ActEasyIFコントロールを使用して、シーケンサCPUのデバイス値のロギングおよび監視を行うサンプルプログラムです。

本サンプルプログラムは、Access 2000にて作成したものです。

(1) 使用方法

データベースを開きます。

通信設定ユーティリティにて通信設定を行った論理局番を“LogicalStationNumber”のテキストボックス内に入力します。

ロギングする間隔を“Logging Timing”のテキストボックス内に入力します。

ボタンをクリックすると、ロギングを開始します。

ボタンをクリックすると、ロギングを停止します。

なお、画面上のロギングデータはクリアされません。

実行時にエラーが発生した場合、メッセージボックスにエラーメッセージ、エラーコードを表示します。

エラーが発生した場合、“6 エラーコード”を参照しエラー原因を排除してください。

(2) サンプルプログラム使用時の注意事項

(a) 本サンプルプログラムを実行する前に通信設定ユーティリティにて通信設定を行ってください。

(b) 入力値を変更する場合、 ボタンをクリックし一度ロギングを停止してから、入力値を変更し、 ボタンをクリックしてロギングを開始してください。

(c) 本サンプルプログラムは、デバイス“D0”～“D4”を監視対象デバイス、“D10”～“D17”をロギング対象デバイスとして作成してあります。
また、監視時間は1秒間隔で行う仕様になっています。

(d) 本サンプルプログラムは、デバイス値のロギングを100件まで行います。
100件を超える場合は、1番古いロギングデータを削除して、最新のロギングデータを登録します。

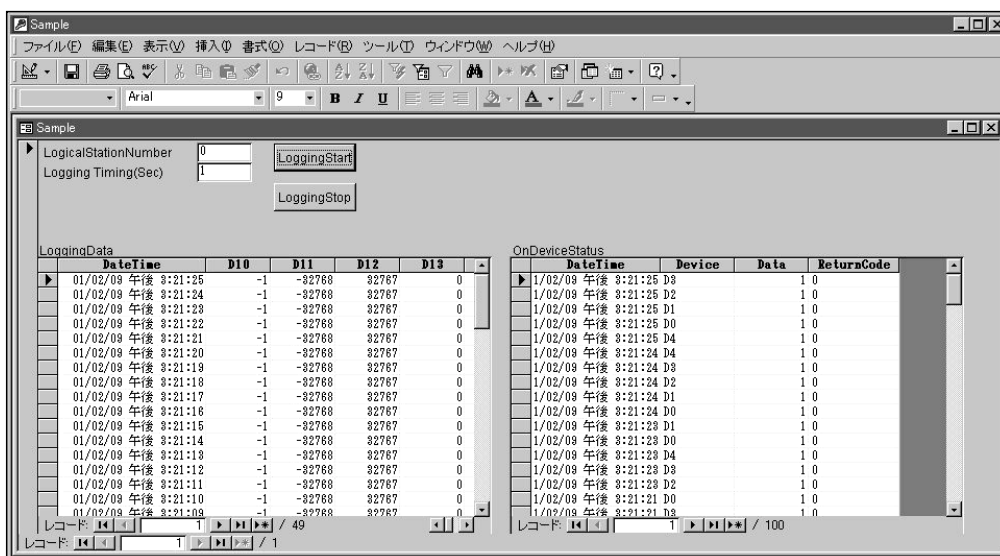
(3) サンプルファイル

デフォルトパスでインストールしたときには、サンプルプログラムは下記フォルダにインストールされます。

C:\MELSEC\Act\Sample\Access\VBASample\Sample.mdb Accessファイル

(4) 画面

サンプルプログラムの画面について説明します。



項 目	内 容
LogicalStationNumber	通信設定ユーティリティにて通信設定を行った論理局番を入力します。
LoggingTiming	ロギングする間隔を入力します。(単位は秒)
LoggingData	ロギングされたデータを表示します。
OnDeviceStatus	監視対象のデバイス中で条件が成立したデバイスを表示します。
LoggingStart	ロギングを開始します。
LoggingStop	ロギングを停止します。

5.4 VBScriptサンプルプログラム

VBScriptのサンプルプログラムについて説明します。

本サンプルプログラムは、ActMLEasyIFコントロールを使用して、シーケンサCPUのデバイス値をタンクの容量および状態とし、その値を監視するサンプルプログラムです。

本サンプルプログラムは、Microsoft® FrontPage® 2000にて作成したものです。

(1) 使用方法

サンプルファイルを開くと使用してシーケンサCPUへの通信回線をオープンします。

その後、1秒間隔でシーケンサCPUのデバイス値を取得し、そのデバイス値を使用してタンクの容量および状態を表示します。

実行時にエラーが発生した場合、メッセージボックスにエラーメッセージ、エラーコードを表示します。

エラーが発生した場合、“6 エラーコード”を参照しエラー原因を排除してください。

(2) サンプルプログラム使用時の注意事項

(a) 本サンプルプログラムを実行する前に通信設定ユーティリティにて論理局番“0”の通信設定を行ってください。

(b) 本サンプルプログラムではデバイス“D100”をタンクの容量、“D101”をタンクの状態として作成されています。

(3) サンプルファイル

デフォルトパスでインストールしたときには、サンプルプログラムは下記フォルダにインストールされます。

C:\MELSEC\Act\Sample\VBScript\SampleHTML\Sample.html	HTMLファイル
C:\MELSEC\Act\Sample\VBScript\SampleHTML\Pics\Fill.gif	画像ファイル
C:\MELSEC\Act\Sample\VBScript\SampleHTML\Pics\FFrame.gif	画像ファイル
C:\MELSEC\Act\Sample\VBScript\SampleHTML\Pics\LampERR.gif	画像ファイル
C:\MELSEC\Act\Sample\VBScript\SampleHTML\Pics\LampOFF.gif	画像ファイル
C:\MELSEC\Act\Sample\VBScript\SampleHTML\Pics\Tank.gif	画像ファイル

(4) 画面

サンプルプログラムの画面について説明します。

(a) タンク容量 : Empty
タンク状態 : Normal



(b) タンク容量 : Full
タンク状態 : Error



項 目	内 容	備 考
タンク容量	タンクの容量を表します。 (0 デバイス値 200の範囲内)	デバイス “ D100 ” とリンク しています。
タンク状態	タンクの状態を表します。 Normal (デバイス値 = 0) : 青ランプ点灯 Error (デバイス値 <> 0) : 赤ランプ点灯	デバイス “ D101 ” とリンク しています。

5.5 ASPサンプルプログラム

本サンプルプログラムは、ActMLEasyIFコントロールを使用して、シーケンサCPUのCPU読み出し及びデバイス値の読み出しを行うサンプルプログラムです。

(1) ファイル構成

(a) Sample.asp (データ入力画面)

初期表示画面で、ユーザがモニタを行うためのデータを設定する画面です。

(b) SampleControl.asp (データ取得画面)

Sample.aspの入力データを取得し、グローバル変数に格納および入力データのエラーチェックを行います。

(c) SampleMon.asp (データ表示画面)

Sample.aspの入力データにしたがってデータを表示します。また、エラーが発生した場合は、エラー内容を表示します。

(2) 使用方法

Sample.asp, SampleControl.asp, SampleMon.aspをWWWサーバ上の同一フォルダに格納します。

Microsoft® Internet Explorerで、Sample.aspのURLをブラウズし、初期画面を表示します。

初期画面の“MonitorTiming”, “LogicalStationNumber”, “DeviceName”,

“DeviceSize”を入力して、**MonitorStart** ボタンを押すと、Open処理、

ReadDeviceBlock処理、GetCpuType処理、Close処理を行います。

データ表示画面の“MonitorTiming:”, “LogicalStationNumber:”, “DeviceName:”

“DeviceSize:”には、入力したデータが表示されます。

“Message:”は、各処理にエラーが発生したときに、エラー発生処理を表示します。

“Return Code:”は、各処理の結果が表示されます。

“CpuType:”は、接続しているシーケンサCPUの型名が表示されます。

“ReadData(Hex)”は、接続しているシーケンサCPUのデバイスデータを表示します。

エラーが発生した場合、“6 エラーコード”を参照しエラー原因を排除してください。

また、データ表示画面は、“MonitorTiming:”の間隔で更新を繰り返します。

Back ボタンを押すと、初期画面に戻ります。

(3) サンプルプログラム使用時の注意事項

本サンプルプログラムを実行する前に、通信設定ユーティリティにて通信設定を行ってください。

(4) サンプルファイル一覧

デフォルトパスでインストールしたときには、サンプルプログラムは下記フォルダにインストールされます。

C:\MELSEC\Act\SAMPLE\VBScript\SAMPLEASP\Sample.asp	ASPファイル
C:\MELSEC\Act\SAMPLE\VBScript\SAMPLEASP\SampleControl.asp	ASPファイル
C:\MELSEC\Act\SAMPLE\VBScript\SAMPLEASP\SampleMon.asp	ASPファイル

(5) 画面

サンプルプログラムの画面について説明します。

(a) データ入力画面 (Sample.asp)

項 目	内 容
MonitorTiming	モニタ間隔を入力します。
LogicalStationNumber	論理局番を入力します。
DeviceName	読出しを行うデバイス名を入力します。
DeviceSize	読出しを行うデバイスの点数を入力します。
MonitorStart	モニタ処理を開始します。

(b) データ取得画面 (SampleControl.asp)

データ取得画面は、データ入力画面で入力された各データをグローバル変数への格納とエラーチェックを行うためのページであり、データ取得画面がInternet Explorerの画面上に表示されることはありません。

(c) データ表示画面 (SampleMon.asp)



項 目	内 容
MonitorTiming:	モニタ間隔を表示します。
LogicalStationNumber:	論理局番を表示します。
DeviceName:	読出しを行うデバイス名を表示します。
DeviceSize:	読出しを行うデバイスの点数を表示します。
Message:	エラー発生時に内容を表示します。
Return Code:	各メソッドの実行結果を表示します。
CpuType:	CPU形名を表示します。
ReadData(Hex)	読み出したデバイス値を表示します。
Back	初期画面に戻ります。

5.6 Visual Basic® .NETサンプルプログラム

本項では、Actコントロールを用いて作成した、Visual Basic® .NET用のサンプルプログラムについて説明します。

5.6.1 型変換サンプルプログラム

本サンプルプログラムは、ActEasyIFコントロールを使用して、ASCII文字列、32bit整数、実数の各データをそれぞれのデータ形式にてシーケンサCPUのデバイスに読出し/書き込みを行ない、実行時にエラーが発生した場合は、ActSupportコントロールを使用して、エラーメッセージを表示するサンプルプログラムです。

(1) 使用方法

Visual Basic用と同様です。5.1.3項を参照してください。

(2) サンプルプログラム使用時の注意事項

Visual Basic用と同様です。5.1.3項を参照してください。

(3) サンプルファイル一覧

デフォルトパスでインストールしたときには、サンプルプログラムは下記フォルダにインストールされます。

C:\MELSEC\Act\Sample\Vb.NET\Sample_TypeConv\AssemblyInfo.vb	アセンブリ情報ファイル
C:\MELSEC\Act\Sample\Vb.NET\Sample_TypeConv\Sample_TypeConv.resx	リソースファイル
C:\MELSEC\Act\Sample\Vb.NET\Sample_TypeConv\Sample_TypeConv.sln	Visual Studio Solutionファイル
C:\MELSEC\Act\Sample\Vb.NET\Sample_TypeConv\Sample_TypeConv.vb	VBファイル
C:\MELSEC\Act\Sample\Vb.NET\Sample_TypeConv\Sample_TypeConv.vbproj	VBメインプロジェクトファイル

(4) 画面

サンプルプログラムの画面について説明します。

項 目		内 容
論理局番		通信設定ユーティリティにて通信設定を行った論理局番を入力します。
Open		通信回線をオープンします。
Close		通信回線をクローズします。
“ ASCII文字 ” フレーム	Write	フレーム内上段のテキストボックスに入力されたASCII文字データを、シーケンサCPUに書き込みます。
	Read	シーケンサCPUから読み出されたASCII文字データを、フレーム内下段のテキストボックスに表示します。
“ 32bit整数 ” フレーム	Write	フレーム内上段のテキストボックスに入力された32bit整数データを、シーケンサCPUに書き込みます。
	Read	シーケンサCPUから読み出された32bit整数データを、フレーム内下段のテキストボックスに表示します。
“ 実数 ” フレーム	Write	フレーム内上段のテキストボックスに入力された実数データを、シーケンサCPUに書き込みます。
	Read	シーケンサCPUから読み出された実数データを、フレーム内下段のテキストボックスに表示します。

5.6.2 Read/Writeサンプルプログラム

本サンプルプログラムは、ActEasyIFコントロールおよびActQCPUQコントロールを使用して、シーケンサCPUのデバイス値の読み出し/書き込みおよびデバイスの状態監視を行うサンプルプログラムです。

(1) 使用方法

フォームをロードし、使用するコントロールを選択します。

ボタンをクリックし、通信回線をオープンします。

ActEasyIFコントロールの場合は、 ボタンをクリックする前に、通信設定ユーティリティにて通信設定した論理番号を“LogicalStationNumber”テキストボックスに入力します。

ランダム読み出しは、読み出しを行いたいデバイス名と点数を“Random Read/Write”フレーム内の“DeviceName”、“DeviceSize”テキストボックスに入力し、

ボタンをクリックすると、“Output”フレーム内の“Data”のテキストボックスにデバイスデータが表示されます。

ランダム書き込みは、書き込みを行いたいデバイス名と点数を“Random Read/Write”フレーム内の“DeviceName”、“DeviceSize”のテキストボックスに、書き込むデバイス値を同フレーム内の“DeviceData”のテキストボックスに入力し、

ボタンをクリックすると、シーケンサCPUにデバイス値を書き込みます。

一括読み出しは、読み出しを行いたいデバイス名と点数を“Block Read/Write”フレーム内の“DeviceName”、“DeviceSize”テキストボックスに入力し、

ボタンをクリックすると、“Output”フレーム内の“Data”のテキストボックスにデバイスデータが表示されます。

一括書き込みは、書き込みを行いたいデバイス名と点数を“Block Read/Write”フレーム内の“DeviceName”、“DeviceSize”のテキストボックスに、書き込むデバイス値を同フレーム内の“DeviceData”のテキストボックスに入力し、

ボタンをクリックすると、シーケンサCPUにデバイス値を書き込みます。

デバイスの状態監視の登録は、イベント発生条件としてデバイス名と点数とデバイス値及び状態監視間隔を“Status Entry/Free”フレーム内の“DeviceName”、“DeviceSize”、“DeviceData”、“MonitorCycle”テキストボックスに入力し、

ボタンをクリックすると実行されます。登録したイベントの発生条件が成立すると、“Output”フレーム内の“Data”のテキストボックスにイベントデータが表示されます。

既に登録したデバイスの状態監視の解除は、 ボタンをクリックすると実行されます。

実行時にエラーが発生した場合、“Output”フレーム内“ReturnCode”のテキストボックス内にエラーコードを表示します。

エラーが発生した場合、“6 エラーコード”を参照しエラー原因を排除してください。

ボタンをクリックすると、通信回線をクローズします。

(2) サンプルプログラム使用時の注意事項

- (a) ActEasyIFコントロールを使用する場合、本サンプルプログラムを実行する前に通信設定ユーティリティにて通信設定を行ってください。
- (b) ActQCPUQコントロールを使用する場合、本サンプルプログラムではシーケンサCPUを“ Q02(H) ”，COMポートを“ COM1 ”，伝送速度を19200bps固定で使用する仕様となっています。
変更する場合は、該当プロパティの値を変更する必要があります。
- (c) 使用するコントロールを変更する場合、Close ボタンをクリックし一度通信回線をクローズしてからコントロールを変更し、Open ボタンをクリックして再度回線をオープンしてください。

(3) サンプルファイル一覧

デフォルトパスでインストールしたときには、サンプルプログラムは下記フォルダにインストールされます。

C:\¥MELSEC¥Act¥Sample¥Vb.NET¥Sample¥AssemblyInfo.vb	アセンブリ情報ファイル
C:\¥MELSEC¥Act¥Sample¥Vb.NET¥Sample¥Sample.resx	リソースファイル
C:\¥MELSEC¥Act¥Sample¥Vb.NET¥Sample¥Sample.sln	Visual Studio Solutionファイル
C:\¥MELSEC¥Act¥Sample¥Vb.NET¥Sample¥Sample.vb	VBファイル
C:\¥MELSEC¥Act¥Sample¥Vb.NET¥Sample¥Sample.vbproj	VBメインプロジェクトファイル
C:\¥MELSEC¥Act¥Sample¥Vb.NET¥Sample_References¥AssemblyInfo.vb	アセンブリ情報ファイル
C:\¥MELSEC¥Act¥Sample¥Vb.NET¥Sample_References¥Sample_References.resx	リソースファイル
C:\¥MELSEC¥Act¥Sample¥Vb.NET¥Sample_References¥Sample_References.sln	Visual Studio Solutionファイル
C:\¥MELSEC¥Act¥Sample¥Vb.NET¥Sample_References¥Sample_References.vb	VBファイル
C:\¥MELSEC¥Act¥Sample¥Vb.NET¥Sample_References¥Sample_References.vbproj	VBメインプロジェクトファイル

(4) 画面

サンプルプログラムの画面について説明します。

<Sample>

The 'Sample' window contains the following controls:

- Control:** Radio buttons for 'ActEasyIF' (selected) and 'ActQCPUQ'. A 'LogicalStationNumber' text box and 'Open'/'Close' buttons.
- Random Read/Write:** Fields for 'DeviceName', 'DeviceSize', and 'DeviceData' with dropdown arrows. Buttons for 'ReadDeviceRandom2' and 'WriteDeviceRandom2'.
- Block Read/Write:** Fields for 'DeviceName', 'DeviceSize', and 'DeviceData' with dropdown arrows. Buttons for 'ReadDeviceBlock2' and 'WriteDeviceBlock2'.
- Status Entry/Free:** Fields for 'DeviceName', 'DeviceSize', and 'DeviceData' with dropdown arrows. A 'MonitorCycle' text box. Buttons for 'EntryDeviceStatus' and 'FreeDeviceStatus'.
- Output:** A 'Return Code' text box and a large 'Data' text area with a vertical scrollbar.

<Sample_References>

The 'Sample_References' window contains the following controls:

- Control:** Radio buttons for 'ActEasyIF' (selected) and 'ActQCPUQ'. A 'LogicalStationNumber' text box and 'Open'/'Close' buttons.
- Random Read/Write:** Fields for 'DeviceName', 'DeviceSize', and 'DeviceData' with dropdown arrows. Buttons for 'ReadDeviceRandom2' and 'WriteDeviceRandom2'.
- Block Read/Write:** Fields for 'DeviceName', 'DeviceSize', and 'DeviceData' with dropdown arrows. Buttons for 'ReadDeviceBlock2' and 'WriteDeviceBlock2'.
- Status Entry/Free:** Fields for 'DeviceName', 'DeviceSize', and 'DeviceData' with dropdown arrows. A 'MonitorCycle' text box. Buttons for 'EntryDeviceStatus' and 'FreeDeviceStatus'.
- Output:** A 'Return Code' text box and a large 'Data' text area with a vertical scrollbar.

項 目		内 容
“ Control ” フレーム	ActEasyIF , ActQCPUQ	使用するコントロールを選択します。
	LogicalStationNumber	通信設定ユーティリティにて通信設定を行った論理局番を入力します。
Open		通信回線をオープンします。
Close		通信回線をクローズします。
“ Random Read/Write ” フレーム	DeviceName	ランダム読出し / 書込みを行うデバイス名を入力します。
	DeviceSize	ランダム読出し / 書込みを行うデバイスの点数を入力します。
	DeviceData	ランダム書込みを行うデバイス値を入力します。
	ReadDeviceRandom2	同フレーム内の “ DeviceName ” , “ DeviceSize ” テキストボックスに入力されたデータ元に , デバイスデータをシーケンサCPUからランダム読出し , “ Output ” フレームの “ Data ” テキストボックスへ表示する事を実行します。
	WriteDeviceRandom2	同フレーム内の “ DeviceName ” , “ DeviceSize ” , “ DeviceData ” テキストボックスに入力されたデータ元に , デバイスデータをシーケンサCPUへランダム書込みする事を実行します。
“ Block Read/Write ” フレーム	DeviceName	一括読出し / 書込みを行うデバイス名を入力します。
	DeviceSize	一括読出し / 書込みを行うデバイスの点数を入力します。
	DeviceData	一括書込みを行うデバイス値を入力します。
	ReadDeviceBlock2	同フレーム内の “ DeviceName ” , “ DeviceSize ” テキストボックスに入力されたデータ元に , デバイスデータをシーケンサCPUからブロック読出し , “ Output ” フレームの “ Data ” テキストボックスへ表示する事を実行します。
	WriteDeviceBlock2	同フレーム内の “ DeviceName ” , “ DeviceSize ” , “ DeviceData ” テキストボックスに入力されたデータ元に , デバイスデータをシーケンサCPUへブロック書込みする事を実行します。
“ Status Entry/Free ” フレーム	DeviceName	イベント発生条件としてのデバイス名を入力します。
	DeviceSize	イベント発生条件としてのデバイスの点数を入力します。
	MonitorCycle	イベントの監視間隔を入力します。
	DeviceData	イベント発生条件としてのデバイス値を入力します。
	EntryDeviceStatus	同フレーム内の “ DeviceName ” , “ DeviceSize ” , “ MonitorCycle ” , “ DeviceData ” テキストボックスに入力されたデータ元に , オンデバイスステータス・イベントの登録を実行します。登録したイベントの発生条件が成立すると , “ Output ” フレームの “ Data ” テキストボックスにイベントデータを表示します。
	FreeDeviceStatus	既に登録したオンデバイスステータス・イベントを削除します。
“ Output ” フレーム	Return Code	各メソッドの実行結果を表示します。
	Data	読出したデバイス値を表示します。

5.7 Visual C++® .NETサンプルプログラム

本項では、Actコントロールを用いて作成した、Visual C++® .NET用のサンプルプログラムについて説明します。

5.7.1 Read/Writeサンプルプログラム

本サンプルプログラムは、ActEasyIFコントロールおよびActQCPUQコントロールを使用して、シーケンサCPUのデバイス値の読出し / 書込みおよびデバイスの状態監視を行なうサンプルプログラムです。

(1) 使用方法

Visual Basic.NET用と同様です。5.6.2項を参照してください。

(2) サンプルプログラム使用時の注意事項

Visual Basic.NET用と同様です。5.6.2項を参照してください。

(3) サンプルファイル一覧

デフォルトパスでインストールしたときには、サンプルプログラムは下記フォルダにインストールされます。

C:\¥MELSEC¥Act¥Sample¥Vc.NET¥Sample¥app.ico	アイコンファイル
C:\¥MELSEC¥Act¥Sample¥Vc.NET¥Sample¥app.rc	リソースファイル
C:\¥MELSEC¥Act¥Sample¥Vc.NET¥Sample¥AssemblyInfo.cpp	アセンブリ情報ファイル
C:\¥MELSEC¥Act¥Sample¥Vc.NET¥Sample¥Form1.cpp	C++ソースファイル
C:\¥MELSEC¥Act¥Sample¥Vc.NET¥Sample¥Form1.h	Cヘッダーファイル
C:\¥MELSEC¥Act¥Sample¥Vc.NET¥Sample¥Form1.resX	リソースファイル
C:\¥MELSEC¥Act¥Sample¥Vc.NET¥Sample¥resource.h	Cヘッダーファイル
C:\¥MELSEC¥Act¥Sample¥Vc.NET¥Sample¥Sample.sln	Visual Studio Solutionファイル
C:\¥MELSEC¥Act¥Sample¥Vc.NET¥Sample¥Sample.vcproj	VC++メインプロジェクトファイル
C:\¥MELSEC¥Act¥Sample¥Vc.NET¥Sample¥stdafx.cpp	C++ソースファイル
C:\¥MELSEC¥Act¥Sample¥Vc.NET¥Sample¥stdafx.h	Cヘッダーファイル
C:\¥MELSEC¥Act¥Sample¥Vc.NET¥Sample_References¥app.ico	アイコンファイル
C:\¥MELSEC¥Act¥Sample¥Vc.NET¥Sample_References¥app.rc	リソースファイル
C:\¥MELSEC¥Act¥Sample¥Vc.NET¥Sample_References¥AssemblyInfo.cpp	アセンブリ情報ファイル
C:\¥MELSEC¥Act¥Sample¥Vc.NET¥Sample_References¥Form1.cpp	C++ソースファイル
C:\¥MELSEC¥Act¥Sample¥Vc.NET¥Sample_References¥Form1.h	Cヘッダーファイル
C:\¥MELSEC¥Act¥Sample¥Vc.NET¥Sample_References¥Form1.resX	リソースファイル
C:\¥MELSEC¥Act¥Sample¥Vc.NET¥Sample_References¥resource.h	Cヘッダーファイル
C:\¥MELSEC¥Act¥Sample¥Vc.NET¥Sample_References¥Sample_References.sln	Visual Studio Solutionファイル
C:\¥MELSEC¥Act¥Sample¥Vc.NET¥Sample_References¥Sample_References.vcproj	VC++メインプロジェクトファイル
C:\¥MELSEC¥Act¥Sample¥Vc.NET¥Sample_References¥stdafx.cpp	C++ソースファイル
C:\¥MELSEC¥Act¥Sample¥Vc.NET¥Sample_References¥stdafx.h	Cヘッダーファイル

(4) 画面

Visual Basic® .NET用と同様です。5.6.2項を参照してください。

6 エラーコード

ACTコントロールが返すエラーコードおよびCPU、ユニットネットワークボードが返すエラーコードについて説明します。

6.1 ACTコントロールが返すエラーコード

ACTコントロールが返すエラーコードを次に示します。

エラーコード	エラー内容	処置方法
0x00000000	正常終了	-
0x01010002	タイムアウトエラー	プロパティのタイムアウトの値を見直す。 通信設定ユーティリティにて再度設定し直す。 シーケンサCPU、ユニットの設定およびケーブル状態などのシステムを見直す。 一度Closeし、再度Openを行う。 プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。
0x01010005	伝文エラー	システムのノイズを確認する。 プロパティのタイムアウトの値を見直す。 通信設定ユーティリティにて再度設定し直す。 シーケンサCPU、ユニットの設定およびケーブル状態などのシステムを見直す。 一度Closeし、再度Openを行う。 プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。
0x01010010	PC No.エラー 指定の局番では通信ができなかった。	通信設定ユーティリティにて設定した局番をチェックする。 ActStationNumberに設定した局番を確認する。
0x01010011	モードエラー 未サポートコマンドであった。	正しいICPUタイプが設定されているか確認する。 シーケンサCPU、ユニットの設定およびケーブル状態などのシステムを見直す。 プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x01010012	特殊ユニット指定エラー	特殊ユニットの指定アドレスをチェックする。
0x01010013	他データエラー 何らかの原因で通信できない。	システム構成が未サポートの構成でないか確認する。 正しいICPUタイプが設定されているか確認する。 プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x01010018	リモート要求エラー 通信中の経路とは別の経路で、リモート操作が実行中である。	別経路で実行中のリモート操作を解除する。
0x01010020	リンクエラー リンク交信が行えなかった。	通信相手または管理局（マスタ局）、通信経路中の局に対して、リセット操作が行われていないか確認する。 ネットワークパラメータの設定が正しく行われているか確認する。

エラーコード	エラー内容	処置方法
0x01010021	特殊ユニットバスエラー 対象の特殊ユニットが応答しない。	対象の特殊ユニットを修理, また, 交換する。 プログラムを終了し, DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社, テレフォンセンタに連絡する。
0x01800001	ノーコマンドエラー メソッドがサポートしていない。	該当メソッドはサポートしていないため, 使用しない。
0x01800002	メモリロックエラー	プログラムを終了し, DOS/Vパソコンを再起動する。
0x01800003	メモリ確保エラー	プログラムを終了し, DOS/Vパソコンを再起動する。 他のプログラムを終了し, 空きメモリを確保する。
0x01800004	DLLロードエラー	プログラムを終了し, DOS/Vパソコンを再起動する。 他のプログラムを終了し, 空きメモリを確保する。 MX Componentを再インストールする。
0x01800005	リソース確保エラー	プログラムを終了し, DOS/Vパソコンを再起動する。 他のプログラムを終了し, 空きメモリを確保する。
0x01801001	リソースタイムアウトエラー 時間内にリソースの取得が行えなかった。	他オブジェクトが通信完了後, 再度, 実行する。 タイムアウト時間を長くして, 再度, 実行する。 プログラムを終了し, DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。
0x01801002	多重回線オープンエラー	プログラムを終了し, DOS/Vパソコンを再起動する。
0x01801003	オープン未実行	プログラムを終了し, DOS/Vパソコンを再起動する。
0x01801004	オープンタイプエラー	プログラムを終了し, DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社, テレフォンセンタに連絡する。
0x01801005	指定ポートエラー	プログラムを終了し, DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。
0x01801006	指定ユニットエラー	プログラムを終了し, DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社, テレフォンセンタに連絡する。
0x01801007	指定CPUエラー	ActCpuTypeに設定したCPUタイプを確認する。 システム構成が未サポートの構成でないか確認する。 プログラムを終了し, DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 ActPacketTypeに設定したパケットタイプを確認する。
0x01801008	対象局アクセスエラー	対象局を見直す。
0x01801009	レジストリオープン失敗 レジストリのデータキーのオープン処理に失敗した。	プログラムを終了し, DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社, テレフォンセンタに連絡する。
0x0180100A	パケットタイプエラー 指定のパケットタイプが間違っている。	ActPacketTypeを見直す。 プログラムを終了し, DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。
0x0180100B	プロトコルタイプエラー 指定のプロトコルが間違っている。	プログラムを終了し, DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社, テレフォンセンタに連絡する。
0x0180100C	レジストリ検索失敗	プログラムを終了し, DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。
0x0180100D	GetProcAddress失敗	プログラムを終了し, DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。

エラーコード	エラー内容	処置方法
0x0180100E	DLL未ロードエラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。
0x0180100F	他Object実行中 排他制御中で、メソッドを実行できない。	ある程度の時間をおいてから再度実行する。
0x01802001	デバイスエラー メソッドに指定したデバイス文字列が、不正なデバイス文字列である。	デバイス名を見直す。
0x01802002	デバイス番号エラー メソッドに指定したデバイス文字列の番号が、不正なデバイス番号である。	デバイス番号を見直す。
0x01802003	プログラムタイプエラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x01802004	サムチェックエラー 受信したデータのサムチェック値が異常である。	ユニット側のサムチェック設定を確認する。 コントロールのサムチェック用プロパティを確認する。 ケーブルを確認する。 プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。
0x01802005	サイズエラー メソッドに指定した点数が不正である。	メソッドに指定した点数を確認する。 シーケンサCPU、ユニットの設定およびケーブルの状態などのシステムを見直す。 プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。
0x01802006	ブロックNo.エラー メソッドで指定したデバイス文字列のブロック指定の番号が不正である。	メソッドで指定したデバイス文字列のブロック指定の番号を見直す。
0x01802007	受信データエラー 受信したデータが異常なデータである。	シーケンサCPU、ユニットの設定およびケーブル状態などのシステムを見直す。 ケーブルを確認する。 プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。
0x01802008	ライトプロテクトエラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x01802009	パラメータ読み出しエラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x0180200A	パラメータ書き込みエラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x0180200B	PCタイプ不一致 プロパティに設定したCPUタイプおよび通信設定ユーティリティで設定したCPUタイプが、通信相手のCPUとタイプが一致しない。	プロパティのCPUタイプに正しいICPUタイプを設定する。 通信設定ユーティリティにて正しいICPUタイプを設定する。 シーケンサCPU、ユニットの設定およびケーブル状態などのシステムを見直す。

エラーコード	エラー内容	処置方法
0x0180200C	要求キャンセルエラー 要求が途中でキャンセルされた。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x0180200D	ドライブ名エラー 指定したドライブ名が間違っている。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x0180200E	先頭ステップエラー 指定した先頭ステップ番号が間違っている。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x0180200F	パラメータタイプエラー パラメータタイプが間違っている。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x01802010	ファイル名エラー ファイル名が間違っている。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x01802011	ステータスエラー 登録 / 解除 / 設定ステータスが間違っている。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x01802012	詳細条件区分エラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x01802013	ステップ条件エラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x01802014	ビットデバイス条件エラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x01802015	パラメータ設定エラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x01802016	局番指定エラー メソッドが指定の局番に対する操作をサポートしていない。	局番を見直す。 未サポートメソッドを実行していないか確認する。 CPU、ユニットなどシステム構成を見直す。
0x01802017	キーワードエラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x01802018	読み書きフラグエラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x01802019	リフレッシュ方式エラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。

エラーコード	エラー内容	処置方法
0x0180201A	バッファアクセス方式エラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x0180201B	起動モード / 停止モードエラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x0180201C	書込み時計データエラー 書込み指定した時計データに誤りがあるため、正常に書き込めない。	書込み時計データを見直す。
0x0180201D	時計データRUN中書込みエラー 時計データの書込みに失敗した。 シーケンサCPUがRUN中であるため、時計データを書き込めない。	シーケンサCPUをSTOP状態にする。
0x0180201E	ROM運転エラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x0180201F	トレース中エラー トレース中にできない操作を行った。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x01802020	先頭I/O番号エラー メソッドで指定した先頭I/O番号が不正な値である。	メソッドに指定する先頭I/O番号の値を確認する。 GPP機能にて、シーケンサのパラメータ（I/O割付）を確認する。 プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。
0x01802021	先頭アドレスエラー メソッドで指定したバッファアドレスが不正な値である。	メソッドに指定したバッファアドレスの値を確認する。 プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。
0x01802022	パターンエラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x01802023	SFCブロックNo.エラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x01802024	SFCステップNo.エラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x01802025	ステップNo.エラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x01802026	データエラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x01802027	システムデータエラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。

エラーコード	エラー内容	処置方法
0x01802028	TC設定値個数エラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x01802029	クリアモードエラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x0180202A	シグナルフローエラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x0180202B	バージョン管理エラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x0180202C	モニタ未登録エラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x0180202D	PIタイプエラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x0180202E	PINo.エラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x0180202F	PI個数エラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x01802030	シフトエラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x01802031	ファイルタイプエラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x01802032	指定ユニットエラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x01802033	エラーチェックフラグエラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x01802034	ステップRUN運転エラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x01802035	ステップRUNデータエラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x01802036	ステップRUN中エラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。

エラーコード	エラー内容	処置方法
0x01802037	E ² ROMに対するプログラムRUN中書き込みエラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x01802038	時計データ読出し / 書込みエラー 時計素子を持たないシーケンサCPUに対して時計データ読出し / 書込みメソッドを実行した。	時計データ読出し / 書込みを実行しない。
0x01802039	トレース未完了エラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x0180203A	登録クリアフラグエラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x0180203B	操作エラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x0180203C	局数エラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x0180203D	ループ回数指定エラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x0180203E	取得データ選択エラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x0180203F	SFCサイクル数エラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x01802040	モーションCPUエラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x01802041	モーションCPU通信エラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x01802042	定時実行時間設定エラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x01802043	機能数エラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x01802044	システム情報指定エラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x01802045	登録条件未成立エラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。

エラーコード	エラー内容	処置方法
0x01802046	機能No.エラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x01802047	RAM運転エラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x01802048	ブート元ROM運転エラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x01802049	ブート元転送モード指定エラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x0180204A	メモリ不足エラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x0180204B	バックアップドライブROMエラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x0180204C	ブロックサイズエラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x0180204D	RUN中脱着エラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x0180204E	ユニット登録済みエラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x0180204F	パスワード登録データフルエラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x01802050	パスワード未登録エラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x01802051	リモートパスワードエラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x01802052	IPアドレスエラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x01802053	タイムアウト値範囲外エラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x01802054	命令サーチ未検出エラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。

エラーコード	エラー内容	処置方法
0x01802055	トレース実行種別エラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x01802056	バージョンエラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x01802057	トラッキングケーブルエラー トラッキングケーブルが異常である。 シーケンサCPUの状態が異常である。	シーケンサCPU、ユニットの設定およびケーブル状態などのシステムを見直す。
0x0180205C	キーワードプロテクトエラー シーケンサCPUがキーワードプロテクトによりアクセス禁止になっている。	キーワードを解除してから再度実行する。
0x0180205D	キーワード解除失敗 指定したキーワードが間違っている。	正しいキーワードを指定する。
0x0180205E	キーワードプロテクト失敗 シーケンサCPUがコマンドを受け付けなかった。	再度実行するか、シーケンサCPUの電源を再投入する。
0x0180205F	キーワード登録失敗 指定したキーワードに使用できない文字が含まれている。	正しいキーワードを指定する。
0x01802060	キーワード削除失敗 指定したキーワードが間違っている。	正しいキーワードを指定する。
0x01808001	2重オープンエラー Open状態で、Openメソッドを実行した。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 Open以外のメソッドを実行する。
0x01808002	チャネル番号指定エラー プロパティを設定したポート番号および通信設定ユーティリティで設定したポート番号が不正な値である。	プロパティのポート番号に正しい値を設定する。 通信設定ユーティリティで通信設定を再度行う。
0x01808003	ドライバ未起動 ネットワークボードのドライバが起動されていない。	ドライバを起動する。
0x01808004	オーバーラップイベント生成エラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x01808005	MUTEX生成エラー 排他制御を行うためのMUTEXの作成に失敗した。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。
0x01808006	Socketオブジェクト生成エラー Socketオブジェクトが作成できなかった。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x01808007	Socket生成エラー Socketの生成に失敗した。	同一のポート番号を使用したアプリケーションを起動していないか確認する。 プロパティのポート番号値を変更してリトライする。 通信設定ユーティリティにてポート番号の値を変更してリトライする。 Ethernetボードおよびプロトコル設定をOSのコントロールパネルで行う。 プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。

エラーコード	エラー内容	処置方法
0x01808008	ポート接続エラー コネクションの確立に失敗した。 相手先が応答しない。	プロパティのIPアドレスおよびポート番号の値を見直す。 通信設定ユーティリティにてポート番号の値を見直す。 シーケンサCPU, ユニットの設定およびケーブル状態などのシステムを見直す。 プログラムを終了し, DOS/Vパソコンを再起動する。
0x01808009	COMポートハンドルエラー COMポートのハンドルを取得できない。 COMポートオブジェクトのコピーができない。 SOCKETオブジェクトのコピーができない。	COMポートを使用しているアプリケーションがないか確認する。 プログラムを終了し, DOS/Vパソコンを再起動する。
0x0180800A	バッファサイズ設定エラー COMポートのバッファサイズの設定に失敗した。	COMポートを使用しているアプリケーションがないか確認する。 COMポート設定をOSのコントロールパネルで行う。 プログラムを終了し, DOS/Vパソコンを再起動する。
0x0180800B	DCB値取得エラー COMポートのDCB値の取得に失敗した。	COMポートを使用しているアプリケーションがないか確認する。 COMポート設定をOSのコントロールパネルで行う。 プログラムを終了し, DOS/Vパソコンを再起動する。
0x0180800C	DCB設定エラー COMポートのDCB値の設定に失敗した。	COMポートを使用しているアプリケーションがないか確認する。 COMポート設定をOSのコントロールパネルで行う。 プログラムを終了し, DOS/Vパソコンを再起動する。
0x0180800D	タイムアウト値設定エラー COMポートのタイムアウト値の設定に失敗した。	プロパティのタイムアウトの値を見直す。 通信設定ユーティリティにてタイムアウトの値を見直す。 COMポートを使用しているアプリケーションがないか確認する。 COMポート設定をOSのコントロールパネルで行う。 プログラムを終了し, DOS/Vパソコンを再起動する。
0x0180800E	共有メモリオープンエラー 共有メモリのオープン処理に失敗した。	GX Simulatorが起動しているか確認する。 プログラムを終了し, DOS/Vパソコンを再起動する。
0x01808101	2重クローズエラー	プログラムを終了し, DOS/Vパソコンを再起動する。
0x01808102	ハンドルクローズエラー COMポートのハンドルのクローズに失敗した。	プログラムを終了し, DOS/Vパソコンを再起動する。
0x01808103	ドライバクローズエラー ドライバのハンドルのクローズに失敗した	プログラムを終了し, DOS/Vパソコンを再起動する。
0x01808104	オーバーラップイベントクローズエラー	プログラムを終了し, DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社, テレフォンセンタに連絡する。
0x01808105	Mutexハンドルクローズエラー	プログラムを終了し, DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社, テレフォンセンタに連絡する。
0x01808106	COMポートハンドルクローズエラー	プログラムを終了し, DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社, テレフォンセンタに連絡する。

エラーコード	エラー内容	処置方法
0x01808201	送信エラー データ送信に失敗した。	シーケンサCPU, ユニットの設定およびケーブル状態などのシステムを見直す。 COMポート設定をOSのコントロールパネルで行う。 Ethernetボードおよびプロトコルの設定をコントロールパネルで行う。 メソッドをリトライする。 プログラムを終了し, DOS/Vパソコンを再起動する。
0x01808202	送信データサイズエラー データ送信に失敗した。	プログラムを終了し, DOS/Vパソコンを再起動する。
0x01808203	キュークリアエラー COMポートのキューのクリアに失敗した。	プログラムを終了し, DOS/Vパソコンを再起動する。 一度Closeし, 再度Openを行う。
0x01808301	受信エラー データ受信に失敗した。	シーケンサCPU, ユニットの設定およびケーブル状態などのシステムを見直す。 プロパティのタイムアウトの値を見直す。 通信設定ユーティリティにてタイムアウトの値を見直す。 メソッドをリトライする。 プログラムを終了し, DOS/Vパソコンを再起動する。
0x01808302	未送信エラー	プログラムを終了し, DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社, テレフォンセンタに連絡する。
0x01808303	オーバーラップイベント取得エラー	プログラムを終了し, DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社, テレフォンセンタに連絡する。
0x01808304	受信バッファサイズ不足 受信データがシステムで用意した受信バッファサイズよりも大きいデータであった。	プログラムを終了し, DOS/Vパソコンを再起動する。
0x01808401	コントロールエラー COMポートの通信制御の変更に失敗した。	プログラムを終了し, DOS/Vパソコンを再起動する。
0x01808402	信号線制御エラー	プログラムを終了し, DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社, テレフォンセンタに連絡する。
0x01808403	信号線指定エラー COMポートの通信制御の変更に失敗した。	プログラムを終了し, DOS/Vパソコンを再起動する。
0x01808404	オープン未実行	オープンを実行する。 プログラムを終了し, DOS/Vパソコンを再起動する。
0x01808405	通信パラメータエラー プロパティのデータビットおよびストップビットの組合わせが不正である。	プロパティのデータビットおよびストップビットの値を見直す。 通信設定ユーティリティにて再度設定し直す。
0x01808406	伝送速度値指定エラー プロパティの伝送速度が不正である。	プロパティの伝送速度の値を見直す。 通信設定ユーティリティにて再度設定し直す。
0x01808407	データ長エラー プロパティのデータビットの値が不正である。	プロパティのデータビットの値を見直す。 通信設定ユーティリティにて再度設定し直す。
0x01808408	パリティ指定エラー プロパティのパリティの値が不正である。	プロパティのパリティの値を見直す。 通信設定ユーティリティにて再度設定し直す。
0x01808409	ストップビット指定エラー プロパティのストップビットの値が不正である	プロパティのストップビットの値を見直す。 通信設定ユーティリティにて再度設定し直す。
0x0180840A	通信制御設定エラー プロパティのコントロールの値が不正である。	プロパティのコントロールの値を見直す。 通信設定ユーティリティにて再度設定し直す。

エラーコード	エラー内容	処置方法
0x0180840B	タイムアウトエラー タイムアウト時間を経過したが、データの受信ができなかった。	プロパティのタイムアウトの値を見直す。 通信設定ユーティリティにて再度設定し直す。 シーケンサCPU、ユニットの設定およびケーブル状態などのシステムを見直す。 メソッドをリトライする。 一度Closeし、再度Openを行う。 プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。
0x0180840C	コネクトエラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。
0x0180840D	2重コネクトエラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。
0x0180840E	アタッチ失敗 ソケットオブジェクトのアタッチに失敗した。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。
0x0180840F	信号線状態取得失敗 COMポートの信号線状態の取得に失敗した。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。
0x01808410	CD信号線OFF 通信相手のCD信号がOFF状態である。	シーケンサCPU、ユニットの設定およびケーブル状態などのシステムを見直す。 プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。
0x01808411	パスワード不一致エラー	プロパティのリモートパスワードを確認する。
0x01808412	TEL通信エラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x01808501	USBドライバロードエラー USBドライバのロードに失敗した。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。
0x01808502	USBドライバコネクトエラー USBドライバのコネクトに失敗した。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。
0x01808503	USBドライバ送信エラー データの送信に失敗した。	シーケンサCPU、ユニットの設定およびケーブル状態などのシステムを見直す。 USB設定をOSのコントロールパネル（デバイスマネージャ）で行う。 メソッドをリトライする。 プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。
0x01808504	USBドライバ受信エラー データの受信に失敗した。	シーケンサCPU、ユニットの設定およびケーブル状態などのシステムを見直す。 USB設定をOSのコントロールパネル（デバイスマネージャ）で行う。 メソッドをリトライする。 プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。
0x01808505	USBドライバタイムアウトエラー	タイムアウト時間を見直す。 プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x01808506	USBドライバ初期化エラー USBドライバの初期化に失敗した。	USB設定をOSのコントロールパネル（デバイスマネージャ）で行う。 プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。
0x01808507	USBその他のエラー データ送受信に関するエラーが発生した。	一度ケーブルを抜いた後、再度接続する。 プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。

エラーコード	エラー内容	処置方法
0x02000001	点数オーバーエラー モニタリングサーバに登録した点数が多すぎる。	モニタ登録した点数を減らす。 プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x02000002	共有メモリ作成エラー 共有メモリの作成に失敗した。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x02000003	共有メモリアクセスエラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x02000004	メモリ確保エラー モニタリングサーバのメモリ確保に失敗した。	他アプリケーションを終了する。 システムのメモリを増加する。 プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x02000005	デバイス未登録エラー モニタ登録が行われていない。	モニタリングサーバに対してモニタ登録を行う。 プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x02000006	モニタリングサーバ起動エラー モニタリングサーバを起動していない。	モニタリングサーバを起動する。 プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x02000010	デバイス値未取得エラー モニタリングがまだ完了していない。	一定時間経過後、再度、取得をする。 プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x03000001	コマンド未サポート コマンドを未サポートである。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x03000002	メモリロックエラー メモリのロックに失敗した。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x03000003	メモリ確保エラー メモリの確保に失敗した。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x03000004	DLL読み出しエラー DLLの読み出しに失敗した。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x03000005	リソース確保エラー リソースの確保に失敗した。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x03010001	ファイル作成エラー ファイルの作成に失敗した。	HDの空き容量を確認する。 プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x03010002	ファイルオープンエラー ファイルのオープンに失敗した。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。

エラーコード	エラー内容	処置方法
0x03010003	バッファサイズエラー 指定したバッファのサイズが不正 / 不十分である。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x03010004	SIL構文エラー SIL構文が間違っている。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x03010005	ファイル名エラー 指定したファイル名が長すぎる。	ファイル名を短くする。 プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x03010006	ファイルなしエラー 指定したファイルが存在しない。	ファイル名を確認する。 ファイルがあるかどうか、確認する。 プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x03010007	ファイル構造エラー 指定したファイル内のデータ構造が間違っている。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x03010008	ファイルありエラー 指定したファイルは既に存在する。	ファイル名を確認する。 プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x03010009	ファイルなしエラー 指定したファイルは存在しない。	ファイル名を確認する。 プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x0301000A	ファイル削除エラー 指定したファイルが削除できない。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x0301000B	二重オープンエラー 指定プロジェクトを二重オープンした。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x0301000C	ファイル名エラー 指定したファイル名が間違っている。	ファイル名を確認する。 プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x0301000D	ファイル読み出しエラー ファイルの読み出しに失敗した。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x0301000E	ファイル書き込みエラー ファイルの書き込みに失敗した。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x0301000F	ファイルシークエラー ファイルのシークに失敗した。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x03010010	ファイルのクローズエラー ファイルのクローズに失敗した。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。

エラーコード	エラー内容	処置方法
0x03010011	フォルダ生成エラー フォルダの作成に失敗した。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x03010012	ファイルコピーエラー ファイルのコピーに失敗した。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x03010013	プロジェクトパスエラー プロジェクトのパスの長さが間違っている。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x03010014	プロジェクトタイプエラー プロジェクトタイプが間違っている。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x03010015	ファイルタイプエラー ファイルタイプが間違っている。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x03010016	サブファイルタイプエラー サブファイルタイプが間違っている。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x03010017	ディスク容量不足エラー ディスクの容量が不足している。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x03020002	二重オープンエラー DBProductを二重オープンした。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x03020003	未オープンエラー DBProductがオープンされていない。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x03020004	Extractエラー DBProductがExtractされていない。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x03020010	パラメータエラー DBProductのパラメータが間違っている。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x03020011	言語エラー 言語パラメータが間違っている。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x03020012	メーカー指定エラー メーカーパラメータが間違っている。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x03020013	ユニット指定エラー ユニットパラメータが間違っている。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x03020014	SQLパラメータエラー DBProductのSQLパラメータが間違っている。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。

エラーコード	エラー内容	処置方法
0x03020015	SIL構文エラー DBProductのSIL構文が間違っている。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x03020016	フィールドキー入力エラー 入力されたフィールドキーが間違っている。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x03020050	レコードデータ構文エラー DBProductのレコードデータ再構築に失敗した。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x03020060	レコードデータ取得エラー DBProductのレコードデータ取得に失敗した。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x03020061	最終レコードエラー 最終レコードであるため、次のレコードを取得できない。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x03FF0000	初期化エラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x03FF0001	未初期化エラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x03FF0002	二重初期化エラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x03FF0003	ワークスペース初期化エラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x03FF0004	データベース初期化エラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x03FF0005	レコードセット初期化エラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x03FF0006	データベースクローズエラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x03FF0007	レコードセットクローズエラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x03FF0008	データベース未オープンエラー データベースがオープンされていない。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x03FF0009	レコードセット未オープンエラー レコードセットがオープンされていない。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。

エラーコード	エラー内容	処置方法
0x03FF000A	テーブル初期化エラー TtableInformationテーブルの初期化に失敗した。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x03FF000B	テーブル初期化エラー TfieldInformationテーブルの初期化に失敗した。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x03FF000C	テーブル初期化エラー TrelationInformationテーブルの初期化に失敗した。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x03FF000D	テーブル初期化エラー Tlanguageテーブルの初期化に失敗した。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x03FF000E	テーブル初期化エラー Tmakerテーブルの初期化に失敗した。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x03FF000F	テーブル初期化エラー TOpenDatabaseテーブルの初期化に失敗した。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x03FF0010	フィールド値エラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x03FF0011	フィールド値エラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x03FF0012	終了エラー DBの終了処理に失敗した。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x03FF0100	レコード移動エラー レコードの移動に失敗した。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x03FF0101	レコードカウント取得エラー レコードカウントの取得に失敗した。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x03FF0110	フィールド値取得エラー フィールド値の取得に失敗した。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x03FF0111	フィールド値設定エラー フィールド値の設定に失敗した。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x03FFFFFF	その他エラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x04000001	ノーコマンドエラー 指定のCPUタイプでは処理が行えない。	ActCpuTypeに設定したCPUタイプを確認する。 システム構成が未サポートの構成でないか確認する。 プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。

エラーコード	エラー内容	処置方法
0x04000002	メモリーロックエラー メモリのロックに失敗した。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x04000003	メモリ確保エラー メモリの確保に失敗した。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x04000004	内部サーバDLLロードエラー 内部サーバの起動に失敗した。	MX Componentのインストールファイルが削除または移動されていないか確認する。 プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。
0x04000005	リソース確保エラー 必要なリソースが確保できなかった。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x04000006	メインオブジェクトロードエラー ファイルの読み出しに失敗した。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x04000007	変換テーブルロードエラー テーブルデータの読み出しに失敗した。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x04000100	中間コードサイズ不正エラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x04010001	中間コード無変換エラー 変換した1命令のマシンコードが256バイトを超えた。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x04010002	中間コード終了エラー 変換元の中間コードエリアが途中で終了した。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x04010003	中間コード不足エラー 変換元の中間コードが足りない。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x04010004	中間コードデータエラー 変換元の中間コードが不正である。変換できないコードがある。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x04010005	中間コード構成エラー 中間コードのステップ数が不正である。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x04010006	ステップ数エラー コメント中間コードのステップ数が不正である。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x04010007	マシンコード格納領域不足エラー マシンコード格納領域が不足している。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x04010008	その他のエラー (中間コード マシンコード変換中に発生したその他のエラー)	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。

エラーコード	エラー内容	処置方法
0x04011001	マシンコード無変換エラー 変換した1命令の中間コードが256バイトを超えた。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x04011002	マシンコード終了エラー 変換元のマシンコードエリアが途中で終了した。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x04011003	マシンコード異常 変換元のマシンコードが異常で変換できない。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x04011004	中間コード格納領域不足エラー 中間コード格納領域が不足している。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x04011005	その他エラー (マシンコード 中間コード変換中に発生したその他のエラー)	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x04020001	テキストコード無変換エラー 変換した1命令の中間コードが256バイトを超えた。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x04020002	入力なしエラー 入力されたリストコードが足りない。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x04020003	命令エラー 変換元のリストコードの命令名が不正である。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x04020004	デバイスエラー 変換元のリストコードのデバイス名が不正である。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x04020005	デバイスNo.エラー 変換元のリストコードのデバイスNo.が範囲外である。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x04020006	変換エラー 変換元のリストコードが認識できないコードである。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x04020007	テキストデータエラー 変換元のリストコードが不正である。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x04020008	SFC動作出力エラー SFCの動作出力命令が不正である。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x04020009	SFC移行条件エラー SFCの移行条件命令が不正である。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x0402000A	行間ステートメントエラー 行間ステートメント入力不正である。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。

エラーコード	エラー内容	処置方法
0x0402000B	P.Iステートメントエラー P.Iステートメントの入力が不正である。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x0402000C	ノートエラー ノートの入力が不正である。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x0402000D	コメントエラー コメントの入力が不正である。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x0402000E	その他エラー (リスト 中間コード変換中に発生したその他のエラー)	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x04021001	中間コード無変換エラー 変換した1命令のリストコードが256バイトを超えた。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x04021002	中間コードエリアオーバーエラー 変換元の中間格納領域が終了した。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x04021003	命令エラー 変換元の中間コードの命令が不正である。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x04021004	デバイスエラー 変換元の中間コードのデバイスが不正である。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x04021005	中間コードエラー 変換元の中間コード構成が不正である。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x04021006	リスト格納領域不足エラー 変換したリストコードを格納する領域が不足している。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x04021007	その他エラー (中間コード リスト変換中に発生したその他のエラー)	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x04030001	無変換エラー 変換した中間コード格納領域が不足している。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x04030002	回路作成不良エラー キャラクタメモリの回路がシーケンスとして完成していない。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x04030003	指定回路サイズオーバー 指定回路が大きすぎる。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x04030004	折り返し回路不正エラー 折り返し回路の元と先の整合性があっていない。 折り返し回路の設定が多すぎる。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。

エラーコード	エラー内容	処置方法
0x04030005	その他エラー (キャラクタメモリ 中間コード変換中に発生したその他のエラー)	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x04031001	無変換エラー 指定したキャラクタメモリの縦・横サイズが不正である。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x04031002	命令コード異常エラー 変換元の命令中間コードが不正である。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x04031003	回路作成不良エラー シーケンス回路に変換できない。END命令がない。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x04031004	指定回路サイズオーバーエラー 指定回路が大きすぎる。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x04031005	致命的エラー 致命的エラーが発生した。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x04031006	格納ブロック数不足エラー 変換したキャラクタメモリ回路のブロック数分の格納領域がない。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x04031007	回路ブロックサーチエラー 回路ブロックの途中でデータが途切れている。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x04031008	その他エラー (中間コード キャラクタメモリ変換中に発生したその他のエラー)	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x04040001	CADデータエラー 変換元CADデータがない。CADデータのフォーマットが間違っている。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x04040002	出力データエラー 入力CADデータタイプと出力データタイプが不整合である。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x04040003	ライブラリロードエラー ライブラリのロードに失敗した。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x04040004	格納領域確保エラー 変換後データの格納領域が不足している。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x04040005	END命令なしエラー 変換元CADデータにEND命令がない。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x04040006	命令コード異常 変換元CADデータに命令コード異常がある。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。

エラーコード	エラー内容	処置方法
0x04040007	デバイスNo.エラー デバイスNo.が範囲外である。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x04040008	ステップNo.エラー ステップNo.が範囲外である。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x04040009	指定回路サイズオーバーエラー 1回路ブロックが大きすぎる。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x0404000A	折り返し回路エラー 折り返し回路が不正である。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x0404000B	回路作成不良エラー 回路データが不正である。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x0404000C	SFCデータエラー 変換元SFCデータが不正である。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x0404000D	リストデータエラー 変換元リストデータが不正である。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x0404000E	コメントデータエラー 変換元コメントデータが不正である。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x0404000F	ステートメントエラー 変換元ステートメントデータが不正である。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x04040010	その他エラー (CADコード 中間コード変換中に発生したその他のエラー)	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x04041001	中間コードデータエラー 変換元中間コードデータがない。中間コードのフォーマットが間違っている。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x04041002	CADデータタイプエラー 入力データタイプと出力CADデータタイプが不整合である。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x04041003	ライブラリエラー ライブラリのロードに失敗した。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x04041004	入力データ不足エラー 変換元データが不足している。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x04041005	格納領域不足エラー 変換後CADデータ格納領域が不足している。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。

エラーコード	エラー内容	処置方法
0x04041006	END命令なしエラー 変換元データにEND命令がない。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x04041007	命令コード異常エラー 変換元データに命令コード異常がある。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x04041008	デバイスNo.エラー デバイスNo.が範囲外である。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x04041009	ステップNo.エラー ステップNo.が範囲外である。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x0404100A	指定回路サイズオーバーエラー 1回路ブロックが大きすぎる。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x0404100B	折り返し回路エラー 折り返し回路が不正である。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x0404100C	回路作成不良エラー 回路データが不正である。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x0404100D	SFCデータエラー 変換元SFCデータが不正である。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x0404100E	リストデータエラー 変換元リストデータが不正である。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x0404100F	コメントデータエラー 変換元コメントデータが不正である。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x04041010	ステートメントエラー 変換元ステートメントデータが不正である。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x04041011	その他エラー (中間コード CADコード変換中に発生したその他のエラー)	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x040A0001	中間コード格納領域不足 変換後データの格納領域が不足している。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x040A0002	SFC付属情報格納領域不足	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x040A0003	変換エラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。

エラーコード	エラー内容	処置方法
0x040A0004	非SFCプログラムエラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x040A1001	ステップ未使用・動作出力なしエラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x040A1002	ステップNo.範囲外エラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x040A1003	ステップ未使用・動作出力なしエラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x040A1004	移行No.範囲外エラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x040A1005	最大数オーバーエラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x040A1006	マイコンプログラム容量エラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x040A1007	非SFCプログラムエラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x040B0001	中間コード格納領域不足 変換後データの格納領域が不足している。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x040B0002	変換エラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x040B1001	ステップ開始位置テーブル作成失敗	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x040B1002	ステップ情報読み出し失敗	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x040B1003	ステップNo.エラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x040B1004	動作出力・移行条件中間コード読出失敗エラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x040B1005	内部ワークエリア確保失敗エラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。

エラーコード	エラー内容	処置方法
0x040B1006	キャラクタメモリX軸方向最大値設定エラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x040B1007	内部ワークエリア不足エラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x040B1008	スタックオーバーフロー、キャラクタメモリ異常	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x040B1009	格納ブロック数不足エラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x040B100A	非SFCプログラムエラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x04050001	指定文字列異常エラー デバイス文字列が不正である。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x04050002	デバイス点数エラー デバイス点数が範囲外である。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x04050003	その他エラー (デバイス文字列 デバイス中間コード変換中に発生したその他のエラー)	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x04051001	デバイス名エラー デバイス中間コードの区分指定が不正である。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x04051002	デバイス名エラー 拡張指定デバイス中間コードの区分指定が不正である。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x04051003	その他エラー (デバイス中間コード デバイス文字列変換中に発生したその他のエラー)	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x04052001	指定文字列異常エラー デバイス文字列が不正である。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x04052002	デバイス点数エラー デバイス点数が範囲外である。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x04052003	その他エラー (デバイス文字列 デバイス表現コード変換中に発生したその他のエラー)	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x04053001	デバイス表現エラー デバイス中間コードの指定区分が不正である。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。

エラーコード	エラー内容	処置方法
0x04053002	デバイス表現エラー 拡張指定デバイス中間コードの区分指定が不正である。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x04053003	デバイス表現エラー デバイス修飾部指定が不正である。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x04053004	デバイス表現エラー 拡張デバイス修飾部指定が不正である。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x04053005	その他エラー (デバイス表現コード デバイス文字列変換中に発生したその他のエラー)	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x04064001	デバイス中間コード異常エラー デバイス中間コードが不正である。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x04064002	その他エラー (デバイス中間コード デバイス名変換中に発生したその他のエラー)	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x04065001	デバイス名異常エラー デバイス中間コードの区分指定が不正である。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x04065002	デバイス名異常エラー 拡張指定デバイス中間コードのコード区分指定が不正である。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x04065003	その他エラー (デバイス名 中間コード変換中に発生したその他のエラー)	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x04066001	デバイス中間コードエラー デバイス中間コードが不正である。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x04066002	その他エラー (デバイス中間コード デバイス表現変換中に発生したその他のエラー)	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x04067001	デバイス表現エラー デバイス中間コードの区分指定が不正である。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x04067002	デバイス表現エラー 拡張指定デバイス中間コードの区分指定が不正である。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x04067003	デバイス表現エラー デバイス修飾部指定が不正である。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x04067004	デバイス表現エラー 拡張デバイス修飾部指定が不正である。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。

エラーコード	エラー内容	処置方法
0x04067005	その他エラー (デバイス表現 デバイス中間コード変換中に発生したその他のエラー)	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x04070001	共通データ変換エラー デバイスコメント変換の入力データが不正である。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x04070002	共通データ不足 変換元のデータが足りない。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x04070003	格納エリア不足 変換データを格納するエリアが不足している。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x04071001	CPUデータ変換エラー デバイスコメント変換の入力データが不正である。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x04071002	CPUデータ不足エラー 変換元のデータが足りない。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x04071003	格納エリア不足エラー 変換データを格納するエリアが不足している。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x04072001	オープンエラー 変換オブジェクトの生成に失敗した。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x04072002	CPUタイプエラー 指定したCPUタイプが存在しない。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x04072003	無変換エラー 変換オブジェクトが存在しない。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x04072004	入力データエラー 入力データが不正である。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x04073001	プログラム共通データ変換エラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x04073002	プログラム共通データ変換エラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x04073101	プログラムCPUデータ変換エラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x04074001	パラメータ共通データエラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。

エラーコード	エラー内容	処置方法
0x04074002	ネットワークパラメータ共通データエラー パラメータブロックは存在するが、中のデータが セットされていない。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x04074101	パラメータCPUデータエラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x04074102	ネットワークパラメータCPUデータエラー パラメータブロックは存在するが、中のデータは セットされていない。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x04074103	オフセットエラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x04074201	ネットワークタイプ指定エラー 指定CPUではサポートされていないネットワークタ イプである。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x04074202	パラメータブロックNo.エラー 指定パラメータブロックNo.のブロックは存在しな い。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x04074203	パラメータブロック内容エラー 指定CPUでサポートしている内容と異なる。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x04074204	パラメータブロック情報エラー 存在しないブロックNo.が指定された。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x04074205	デフォルトパラメータブロック異常 存在しないブロックNo.が指定された。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x04074301	共通パラメータブロック変換エラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x04074302	共通パラメータブロックNo.1001エラー RUN-PAUSE設定有無フラグの値が不正である。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x04074303	共通パラメータブロックNo.1003エラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x04074304	共通パラメータブロックNo.1008エラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x04074305	共通パラメータブロックNo.1100エラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x04074306	共通パラメータブロックNo.2001エラー 存在しないデバイス中間コードが指定された。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。

エラーコード	エラー内容	処置方法
0x04074307	共通パラメータブロックNo.3000エラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x04074308	共通パラメータブロックNo.3002エラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x04074309	共通パラメータブロックNo.3004エラー アナンシェータ表示モードの設定が不正である。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x0407430A	共通パラメータブロックNo.4000エラー I/O割付データが作成されていない。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x0407430B	共通パラメータブロックNo.5000エラー 指定ネットワークはサポートされていない。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x0407430C	共通パラメータブロックNo.5001エラー 他局アクセス時有効ユニットNo.を設定していない。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x0407430D	共通パラメータブロックNo.5002エラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x0407430E	共通パラメータブロックNo.5003エラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x0407430F	共通パラメータブロックNo.5NM0エラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x04074310	共通パラメータブロックNo.5NM1エラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x04074311	共通パラメータブロックNo.5NM2エラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x04074312	共通パラメータブロックNo.5NM3エラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x04074313	共通パラメータブロックNo.6000エラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x04074314	共通パラメータブロックNo.FF18エラー リンクパラメータ容量を設定していない。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x04074315	共通パラメータブロックNo.FF25エラー 演算回路チェックを設定していない。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。

エラーコード	エラー内容	処置方法
0x04074316	共通パラメータブロックNo.FF30エラー サンプリングトレースデータが作成されていない。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x04074317	共通パラメータブロックNo.FF31エラー ステータスラッチデータが作成されていない。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x04074318	共通パラメータブロックNo.FF42エラー タイマ処理点数が設定されていない。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x04074319	共通パラメータブロックNo.FF30エラー 指定拡張タイマ用設定値デバイスが存在しない。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x0407431A	共通パラメータブロックNo.FF44エラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x0407431B	共通パラメータブロックNo.FF45エラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x0407431C	共通パラメータブロックNo.FF60エラー ターミナル設定が設定されていない。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x0407431D	共通パラメータブロックNo.FF70エラー ユーザ開放領域が設定されていない。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x04074401	CPUパラメータブロック変換エラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x04074402	CPUパラメータブロックNo.1001エラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x04074403	CPUパラメータブロックNo.1003エラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x04074404	CPUパラメータブロックNo.1008エラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x04074405	CPUパラメータブロックNo.1100エラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x04074406	CPUパラメータブロックNo.2001エラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x04074407	CPUパラメータブロックNo.3000エラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。

エラーコード	エラー内容	処置方法
0x04074408	CPUパラメータブロックNo.3002エラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x04074409	CPUパラメータブロックNo.3004エラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x0407440A	CPUパラメータブロックNo.4000エラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x0407440B	CPUパラメータブロックNo.5000エラー 指定ネットワークタイプはサポートされていない。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x0407440C	CPUパラメータブロックNo.5001エラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x0407440D	CPUパラメータブロックNo.5002エラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x0407440E	CPUパラメータブロックNo.5003エラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x0407440F	CPUパラメータブロックNo.5NM0エラー 指定ネットワークタイプはサポートされていない。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x04074410	CPUパラメータブロックNo.5NM1エラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x04074411	CPUパラメータブロックNo.5NM2エラー 指定ネットワークタイプはサポートされていない。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x04074412	CPUパラメータブロックNo.5NM3エラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x04074413	CPUパラメータブロックNo.6000エラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x04074414	CPUパラメータブロックNo.FF18エラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x04074415	CPUパラメータブロックNo.FF25エラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x04074416	CPUパラメータブロックNo.FF30エラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。

エラーコード	エラー内容	処置方法
0x04074417	CPUパラメータブロックNo. FF31エラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x04074418	CPUパラメータブロックNo. FF42エラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x04074419	CPUパラメータブロックNo. FF43エラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x0407441A	CPUパラメータブロックNo. FF44エラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x0407441B	CPUパラメータブロックNo. FF45エラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x0407441C	CPUパラメータブロックNo. FF60エラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x0407441D	CPUパラメータブロックNo. FF70エラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x04075001	共通データ変換エラー デバイスメモリ設定部変換に失敗した。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x04075002	共通データ変換エラー デバイスメモリデータ部変換に失敗した。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x04075003	共通データ変換エラー デバイスメモリデータ部が存在しなかった。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x04075101	CPUデータ変換エラー デバイスメモリ設定部変換に失敗した。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x04075102	CPUデータ変換エラー デバイスメモリデータ部変換に失敗した。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x04076001	共通データ変換エラー デバイスコメント設定部変換に失敗した。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x04076002	共通データ変換エラー デバイスコメントデータ部変換に失敗した。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x04076101	CPUデータ変換エラー デバイスコメント設定部変換に失敗した。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。

エラーコード	エラー内容	処置方法
0x04076102	CPUデータ変換エラー デバイスコメントデータ部変換に失敗した。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x04077001	共通データ変換エラー サンプリングトレース設定部変換に失敗した。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x04077002	共通データ変換エラー サンプリングトレースデータ部変換に失敗した。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x04077101	CPUデータ変換エラー サンプリングトレース設定部変換に失敗した。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x04077102	CPUデータ変換エラー サンプリングトレースデータ部変換に失敗した。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x04078001	共通データ変換エラー ステータスラッチ設定部変換に失敗した。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x04078002	共通データ変換エラー ステータスラッチデータ部変換に失敗した。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x04078101	CPUデータ変換エラー ステータスラッチ設定部変換に失敗した。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x04078102	CPUデータ変換エラー ステータスラッチデータ部変換に失敗した。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x04079101	故障履歴CPUデータ変換エラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x0407A101	ファイル一覧CPUデータ変換エラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x0407B101	エラー情報CPUデータ変換エラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x0407C001	間接アドレス デバイス名変換エラー デバイス名格納領域が確保されていない。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x0407C002	デバイス名 間接アドレス変換エラー 間接アドレス格納領域が確保されていない。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x0407C003	間接アドレス デバイス表現変換エラー デバイス表現格納エリアが確保されていない。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。

エラーコード	エラー内容	処置方法
0x0407C004	デバイス表現 間接アドレス変換エラー 間接アドレス格納エリアが確保されていない。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x0407C005	間接アドレス デバイス文字列変換エラー デバイス文字列格納領域が確保されていない。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x0407C006	デバイス文字列 間接アドレス変換エラー 間接アドレス格納領域が確保されていない。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x0407C007	中間コード デバイス名変換エラー デバイス名格納領域が確保されていない。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x0407C008	デバイス名 中間コード変換エラー 中間コード格納領域が確保されていない。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x0407C009	中間コード デバイス表現変換エラー デバイス表現格納領域が確保されていない。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x0407C00A	デバイス表現 中間コード変換エラー 中間コード格納領域が確保されていない。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x0407C00B	中間コード 間接アドレス変換エラー 間接アドレス格納領域が確保されていない。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x0407C00C	間接アドレス 中間コード変換エラー 中間コード格納領域が確保されていない。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x0407C00D	CPUタイプエラー 指定したCPUタイプはサポートしていない。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x0407C00E	デバイス文字列エラー 指定したデバイスはサポートしていない。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x0407C00F	デバイス文字列エラー 指定したデバイス文字列、種別が不正である。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x0407C010	デバイスエラー 指定デバイスは、指定CPUでサポートしていない。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x0407C011	CPUタイプエラー 指定したCPUはサポートしていない。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x0407C012	デバイス範囲外エラー AnA系に対して、AnA系の範囲を超えたデバイスを指定した。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。

エラーコード	エラー内容	処置方法
0x0407D001	共通データ変換エラー SFCトレース条件設定部変換エラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x0407D002	共通データ変換エラー SFCトレースデータ部変換エラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x0407D101	CPUデータ変換エラー SFCトレース条件設定部変換エラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x0407D102	CPUデータ変換エラー SFCトレースデータ部変換エラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x04080001	中間コード区分範囲外エラー 指定した中間コード区分が範囲外である。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x04080002	拡張指定中間コード区分範囲外エラー 指定した拡張指定中間コード区分が範囲外である。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x04080003	デバイス点数チェックなしエラー デバイス点数チェックをしないデバイスである。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x04090001	GPPプロジェクトエラー 指定したCPUタイプとGPPプロジェクトタイプが不整合である。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x04090002	ファイルタイプエラー 指定したGPPプロジェクトタイプとファイルタイプが不整合である。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x04090010	変換元GPPデータ不足 変換元データが存在しない。変換元データサイズの指定が不正である。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x04090011	変換データ格納領域不足エラー 変換データ格納領域が不足している。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x04090012	変換元GPPデータエラー 変換元GPPデータが不正である。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x04090110	変換元データ不足エラー 変換元データが存在しない。変換元データサイズの指定が不足している。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x04090111	変換データ格納領域不足エラー 変換データ格納領域が不足している。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x04090112	変換元データエラー 変換元データが不正である。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。

エラーコード	エラー内容	処置方法
0x04FFFFFF	その他のエラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x10000001	ノーコマンドエラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x10000002	MX Componentの通信用DLLの起動に失敗した。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。
0x10000003	Openに失敗した。(DiskDrive)	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。
0x10000004	2重Openエラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。
0x10000005	ファイルアクセスエラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x10000006	フォルダ名不正エラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x10000007	ファイルアクセス禁止エラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x10000008	Diskフルエラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x10000009	ファイル削除エラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x1000000A	ファイル名不正エラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x1000000C	他アプリケーションまたは他スレッドがリクエスト実行中のため実行に失敗した。	ある程度の時間をおいてから再度実行する。 COMおよびActiveXのマルチスレッド規則に従ったプログラミングを行う。 プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。
0x1000000D	フォルダ作成エラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x1000000E	フォルダ/ファイルタイプエラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x1000000F	オフセットアドレスエラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x10000010	リクエストキャンセル キャンセル処理が発生した。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。

エラーコード	エラー内容	処置方法
0x10000011	メモリ確保エラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。
0x10000012	オープン未実行	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。
0x10000013	アタッチ未実行エラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x10000014	オブジェクト無効エラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x10000015	リクエストキャンセル失敗エラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x10000016	ステータス読み出し失敗エラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x10000017	指定サイズ（デバイス数）が不正。	メソッドに指定した点数を確認する。 プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。
0x10000018	登録デバイスがない。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。
0x10000019	データセット未実行	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x1000001A	読み出し未実行エラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x1000001B	作成フラグ不正エラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x1000001C	オペレーションオーバーアクセス	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x1000001D	デバイス重複エラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x1000001E	レジストリ検索を失敗した。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 他のプログラムを終了し、空きメモリを確保する。 MX Componentを再インストールする。
0x1000001F	ファイルタイプエラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x10000020	デバイスメモリ種別エラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x10000021	プログラム範囲エラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。

エラーコード	エラー内容	処置方法
0x10000022	TELタイプエラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x10000023	TELアクセスエラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x10000024	キャンセルフラグタイプエラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x10000030	多重デバイス登録エラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x10000031	未登録デバイスエラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x10000032	指定デバイスエラー	指定デバイスの内容を見直す。 プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 他のプログラムを終了し、空きメモリを確保する。
0x10000033	指定デバイス範囲エラー	指定デバイスの内容を見直す。 プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 他のプログラムを終了し、空きメモリを確保する。
0x10000034	ファイル書き込みエラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x10000040	サーバ起動に失敗した。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x10000041	サーバ停止エラー サーバ停止に失敗した。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x10000042	サーバ二重起動エラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x10000043	サーバ未起動エラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x10000044	リソースタイムアウトエラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x10000045	サーバタイプエラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x10000046	サーバアクセス失敗エラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。

エラーコード	エラー内容	処置方法
0x10000047	サーバアクセス実施済みエラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x10000048	シュミレータ起動失敗	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x10000049	シュミレータ終了失敗	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x1000004A	シュミレータ未起動エラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x1000004B	シュミレータタイプエラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x1000004C	シュミレータ未サポートエラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x1000004D	シュミレータ二重起動エラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0x1000004E	共有メモリ未起動エラー	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0xF0000001	ライセンスなしエラー DOS/Vパソコンにライセンスが与えられていない。	ライセンスキーFDにて、DOS/Vパソコンにライセンスを与える。
0xF0000002	設定データ読出しエラー 論理局番の設定データ読出しに失敗した。	正しい論理局番を指定する。 通信設定ユーティリティにて、論理局番を設定する。
0xF0000003	オープン済みエラー オープン状態でOpenメソッドを実行した。	通信対象CPUを変更する場合は、Close後Openメソッドを実行する。
0xF0000004	未オープンエラー Openメソッドを実行していない。	Openメソッドを実行後、該当メソッドを実行する。
0xF0000005	初期化エラー MX Component内部保持のオブジェクトの初期化に失敗した。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。
0xF0000006	メモリ確保エラー MX Component内部メモリの確保に失敗した。	プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 他のプログラムを終了し、空きメモリを確保する。
0xF0000007	機能未サポートエラー メソッドがサポートしていない。	該当メソッドはサポートしていないため、使用しない。
0xF1000001	文字コード変換エラー 文字コードの変換（UNICODE ASCIIコード、またはASCIIコード UNICODE）に失敗した。	メソッドで指定した文字列を確認する。 シーケンサCPUから取得したASCII文字列が異常である。 シーケンサCPU、ユニットの設定およびケーブル状態などのシステムを見直す。 プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 GetCpuTypeメソッドをリトライする。

エラーコード	エラー内容	処置方法
0xF1000002	先頭I/O番号エラー 指定した先頭I/O番号が不正な値である。 一致する先頭I/O番号が存在しない。	メソッドに指定する先頭I/O番号の値を確認する。 GPP機能にて、シーケンサのパラメータ（I/O割付）を確認する。
0xF1000003	バッファアドレスエラー 指定したバッファアドレスが不正な値である。 バッファアドレスが範囲外である。	メソッドに指定したバッファアドレスの値を確認する。
0xF1000004	バッファ読出しサイズエラー バッファ読出しを行った結果、指定サイズの取得ができなかった。	再Open処理を行う。 シーケンサCPU、ユニットの設定およびケーブル状態などのシステムを見直す。 リトライする。 プログラムを終了する。
0xF1000005	サイズエラー 読出し / 書き込みメソッドで指定したサイズが異常である。 読出し / 書き込み先頭 + サイズが、デバイスまたはバッファのエリアを越えている。	メソッドに指定したサイズを確認する。
0xF1000006	オペレーションエラー リモート操作で指定したオペレーションが異常な値である。	メソッドに指定したオペレーション指定の値を確認する。
0xF1000007	時計データエラー 時計データが異常である。	メソッドに指定した時計データを確認する。 シーケンサCPUの時計データに正しい時計データを設定する。
0xF1000008	監視デバイス登録数オーバ EntryDeviceStatusメソッドで登録したデバイス点数が0点以下だった。 EntryDeviceStatusメソッドで登録したデバイス点数が20点より多かった。	EntryDeviceStatusメソッドで登録するデバイス点数を1点以上20点以下にする。
0xF1000009	監視デバイスデータ登録済みエラー	FreeDeviceStatusメソッドで登録解除を行った後、再度EntryDeviceStatusメソッドを実行する。
0xF1000010	デバイス状態監視処理の起動に失敗した。 デバイス状態監視処理の終了に失敗した	EntryDeviceStatusメソッドにて、デバイス状態監視処理の起動/終了を再実行する。
0xF1000011	VARIANT引数のデータタイプが間違っている。	VARIANT引数に指定したデータタイプを見直す。 ・配列変数のサイズは十分を確認する。 ・各メソッドで指定されたデータタイプを設定しているか確認する。
0xF1000012	デバイス状態監視間隔時間の範囲が、1秒から1時間（1～3600）以外の値である。	デバイス状態監視時間を1～3600の間を指定する。
0xF1000013	Connect済みエラー 同一オブジェクトでConnect実行後Connectを実行した。	Disconnectメソッド実行後、Connectを実行する。
0xF1000014	電話番号不正エラー 電話番号に、設定可能文字 “ 0123456789- *# ” 以外の文字が含まれている。	電話番号を設定しなおして、再度Connectを行う。

エラーコード	エラー内容	処置方法
0xF1000015	<p>排他制御失敗エラー</p> <p>Connect実行時、およびDisconnect実行時に排他制御処理に失敗した。</p>	<p>他のオブジェクトがConnectもしくは、Disconnect実行中である場合は、Connect/Disconnectメソッドが完了後、失敗したメソッド(Connect/Disconnect)を再度、実行する。</p> <p>自オブジェクトのみがConnect/Disconnectの処理を行っている場合は、以下の処理を行う。</p> <p>プログラムを終了する。</p> <p>DOS/Vパソコンを再起動する。</p> <p>MX Componentを再インストールする。</p>
0xF1000016	<p>電話回線接続中エラー</p> <p>MX Componentを使用したアプリケーション以外のアプリケーションで既に電話回線接続中である。</p>	電話回線接続中のアプリケーションで電話回線切断後、再度Connectを実行する。
0xF1000017	<p>電話回線未接続中エラー</p> <p>電話回線が接続中ではない。</p> <p>Connectを実行し、一度は電話回線接続中になったが、何らかの理由により電話回線が切断された。</p>	<p>(Connectメソッドが失敗したとき)</p> <p>Disconnect実行後、再度Connectを実行する。</p> <p>(Connect以外のメソッドで失敗したとき)</p> <p>Disconnect実行後、再度Connectを実行し、電話回線接続する。電話回線接続後、失敗したメソッドを実行する。</p>
0xF1000018	<p>電話番号なしエラー</p> <p>電話番号が設定されていない。</p> <p>接続方式が自動(コールバック番号指定時)、コールバック接続(番号指定時)、コールバック要求(番号指定時)時には、電話番号もしくは、コールバック番号が設定されていない。</p>	<p>プログラム設定タイプの場合は、プロパティ ActDialNumberに電話番号を設定する。(接続方式が自動(コールバック番号指定時)、コールバック接続(番号指定時)、コールバック要求(番号指定時)時には、プロパティ ActDialNumber, プロパティ ActCallbackNumberに電話番号を設定する。)</p> <p>ユーティリティ設定タイプの場合は、ウィザードで、電話番号を設定する。(接続方式が自動(コールバック番号指定時)、コールバック接続(番号指定時)、コールバック要求(番号指定時)時には、電話番号、コールバック番号を設定する。)</p>
0xF1000019	<p>未Closeエラー</p> <p>Open中にDisconnectを実行した。</p>	Closeを実行してから、再度Disconnectを実行する。
0xF100001A	<p>電話回線接続先不一致エラー</p> <p>すでに電話回線接続中であるポートを使用して、現在接続中の電話番号と異なる電話番号に対して、Connectを実行した。(接続方式がコールバック受信の場合は、コールバック受信以外の接続方式とは電話番号が異なるとみなす。)</p>	<p>すでに電話回線接続中である電話番号以外の電話番号に対して、接続を行う場合は、一度接続中である電話回線に対してDisconnectを実行し、電話回線を切断した後、Connectを実行する。</p> <p>コールバック受信で回線接続する場合は、同じポートで先に実行するConnectの接続方式をコールバック受信にする。</p>
0xF100001B	<p>コントロール種別不一致エラー</p> <p>すでに電話回線Tel接続中であるオブジェクトとは異なるコントロール種別のオブジェクトがConnectを実行した。</p>	現在電話回線接続中のオブジェクトでDisconnectを実行し、電話回線を切断した後、再度Connectを実行する。
0xF100001C	<p>未Disconnectエラー</p> <p>実際に電話回線の接続を行ったオブジェクトがDisconnectを実行したときに、他のオブジェクトでConnect中のものがある。</p>	Connect中のオブジェクトにおいて、全てDisconnectを実行後、再度実際に電話回線接続を行ったオブジェクトでDisconnectを実行する。

エラーコード	エラー内容	処置方法
0xF100001D	未Connectエラー Connectを実行せずにOpenを実行した。 もしくは、Disconnectを実行した。	Connectを実行してから再度Openを実行する。 もしくは、Connectを実行してから再度Disconnectを実行する。
0xF100001E	致命的エラー	プログラムを終了する。 DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0xF100001F	Open時設定エラー Connect時に使用した電話番号、ポート番号の設定値とOpen時に設定している値が異なる。 接続方式の指定が誤っている。	電話番号、ポート番号を確認する。 接続方式を確認する。
0xF2000002	接続先のTELがエラー応答した。 以下の原因が考えられる。 ・通信エラーが発生した。	プログラム設定タイプでは、プロパティの設定値確認し、ユーティリティ設定タイプの場合は、ウィザードでの設定内容を確認する。
0xF2000003	不正なデータを受信した。 以下の原因が考えられる。 ・ノイズによる誤伝文を受信した。 ・A(Q)6TEL/C24以外の機器と通信した。	リトライする。 通信相手の機器を確認する。
0xF2000004	モデムから応答がない。以下の原因が考えられる。 ・モデム異常。 ・電話番号設定ミス。	モデムの状態を確認する。 電話番号を確認する。 上記2点を確認しても問題がある場合は、プログラム設定タイプでは、プロパティ（ActConnectionCDWaitTimeなどの時間を設定するプロパティ）の値を、ユーティリティ設定タイプではウィザードで設定した詳細設定の内容を変更する。
0xF2000005	回線が切断していない可能性がある。	電話回線を確認する。
0xF2000006	パソコン側モデムがATコマンドを受け付けなかった。以下の原因が考えられる。 ・対応していないATコマンドを指定している。 ・モデムの異常。	設定したATコマンドの内容を確認する。 モデムの状態を確認する。
0xF2000007	モデムが標準のエスケープコマンドに正常応答しない。	モデムを確認する。 タイムアウトの値が短すぎないか確認する。 （5000ms以上推奨。）
0xF2000009	モデムが回線切断コマンドに正常応答しない。	モデムを確認する。
0xF200000A	相手先が着信しなかった。 ・相手先のモデムの着信設定が間違っている。 ・話し中である。 ・電話番号が間違っている。	相手先のモデムの着信設定を確認する。 相手先が話し中でないか確認する。 電話番号を確認する。
0xF200000B	コールバック受信待ちがタイムアウトになった。	コールバック受信待ちタイムアウト（ActCallbackReceptionWaitingTimeOut）の時間を長くし、再度Connect実行する。
0xF200000C	A6TEL、Q6TEL、QJ71C24/CM0ユニットのパスワードが解除できなかった。	プロパティActPasswordにパスワード設定後、再度失敗したメソッドを実行する。

エラーコード	エラー内容	処置方法
0xF2010001	コールバック回線切断待ち時間が0～180秒以外である。 コールバック実施ディレイ時間が0～1800秒以外である。 電話番号が62文字より大きい。	コールバック回線切断待ち時間が0～180秒以内であるか確認する。 コールバック実施ディレイ時間が0～1800秒以内であるか確認する。 電話番号が62文字以内であるか確認する。 プログラムを終了し、DOS/Vパソコンを再起動する。 MX Componentを再インストールする。 弊社、テレフォンセンタに連絡する。
0xF2010002	QJ71C24/CMOが指定の接続方式を受け付けなかった。 以下の原因が考えられる。 ・接続方式の間違い。 ・コールバック用電話番号の間違い。	QJ71C24/CMO側の設定と、MX Componentで設定した内容が統一されているか確認する。
0xF2010003	QJ71C24/CMOは「自動（コールバック固定時 / 番号指定時）」での接続を許可していない。	QJ71C24/CMOの設定を確認する。
0xF2100005	回線切断していない可能性がある。	モデムと回線に異常がない場合は、プログラム設定タイプではプロパティ（ActConnectionCDWaitTimeなどの時間を設定するプロパティ）の値を、ユーティリティ設定タイプではウィザードで設定した詳細設定の内容を変更する。
0xF2100006	モデムが初期化ATコマンドを受け付けなかった。	プログラム設定タイプでは、プロパティ ActATCommand の設定を変更する。ユーティリティ設定タイプでは、ウィザードで設定したATコマンドを変更する。
0xF2100007	パソコン側モデムがエスケープコマンドに回答しない。	パソコン側モデムに異常がない場合は、プログラム設定タイプでは、プロパティ（ActConnectionCDWaitTimeなどの時間を設定するプロパティ）の値を、ユーティリティ設定タイプではウィザードで設定した詳細設定の内容を変更する。
0xF2100008	パソコン側の送信データに対し、モデムからの回答がなかった。	プログラム設定タイプではプロパティ（ActConnectionCDWaitTimeなどの時間を設定するプロパティ）の値を、ユーティリティ設定タイプではウィザードで設定した詳細設定の内容を変更する。
0xF21000**	モデムからの回答がない。以下の原因が考えられる。 ・モデム異常。 ・電話番号設定ミス。	モデムの状態を確認する。 電話番号を確認する。 上記2点を確認しても問題がある場合は、プログラム設定タイプでは、プロパティ（ActConnectionCDWaitTimeなどの時間を設定するプロパティ）の値を、ユーティリティ設定タイプではウィザードで設定した詳細設定の内容を変更する。
0xF21001**	A(Q)6TEL/C24からの回答がない。以下の原因が考えられる。 ・A(Q)6TEL/C24への設定ミス。 ・A(Q)6TEL/C24が存在しないモデムに接続した。	A(Q)6TEL/C24の設定を見直す。 モデムの存在を確認する。 上記2点を確認しても問題がある場合は、プログラム設定タイプでは、プロパティ（ActConnectionCDWaitTimeなどの時間を設定するプロパティ）の値を、ユーティリティ設定タイプではウィザードで設定した詳細設定の内容を変更する。

エラーコード	エラー内容	処置方法
0xF202****	通信に失敗しました。ステータスにより以下の原因が考えられる。 ・通信タイムオーバ（ケーブル断線，指定ポート未サポート，COMポート指定ミス） ・モデムの電源がOFFしている。	ケーブルが断線していないか確認する。 指定ポートが未サポートでないか確認する。 正しいCOMポートを設定しているか確認する。 モデムの電源がOFFしていないか確認する。 さらに詳細なトラブルシュートについては，上位4桁を「0x0180」に置き換えたエラーコードに対する内容を参照してください。 例：「0xF202480B」の場合 「0x0180480B」のエラーコードを参照ください。
0xFF000001	MX Component体験版エラー MX Component体験版の期限切れ。	MX Component体験版をアンインストールし製品版をインストールする，または再度体験版をインストールする。

6.2 CPU, ユニット, ネットワークボードが返すエラーコード

CPU, ユニットおよびネットワークボードが返すエラーコードについて説明します。

ポイント
“ (1) エラーコード一覧 ” のとおりエラーコードが返らない場合があります。 初めに “ (2) エラーコード確認時の注意事項 ” の内容を確認後, “ (1) エラーコード一覧 ” を参照してください。

(1) エラーコード一覧

CPU, ユニットおよびネットワークボードがエラーを検出した場合は, 下記表に示すエラーコードが返ってきます。

上位2バイトがエラー検出ユニットを示しており, 下位2バイトがエラー検出ユニットの返すエラーコードを示しています。

エラーの詳細については, エラーコードに対応するCPU, ユニットまたはネットワークボードのマニュアルを参照ください。

エラーコード	エラー検出ユニット
0x01010000 ~ 0x0101FFFF *1, *2	QCPU (Aモード), ACPU, モーションコントローラCPU
0x01020000 ~ 0x0102FFFF *1	QnACPU
0x01030000 ~ 0x0103FFFF *1	C24
0x01040000 ~ 0x0104FFFF *1	QC24(N)
0x01050000 ~ 0x0105FFFF *1	E71
0x01060000 ~ 0x0106FFFF *1	QE71
0x01070000 ~ 0x0107FFFF *1	MELSECNET/Hボード, MELSECNET/10ボード, MELSECNET()ボード, CC-Linkボード, CPUボード, AFボード
0x01090000 ~ 0x0109FFFF *1	FXCPU
0x010A0000 ~ 0x010AFFFF *1	QCPU (Qモード)
0x010B0000 ~ 0x010BFFFF *1	Qシリーズ対応C24
0x010C0000 ~ 0x010CFFFF *1	Qシリーズ対応E71
0x010D0000 ~ 0x010DFFFF *1	パソコンCPUユニット
0x010F0000 ~ 0x010FFFFF *1	GOT

*1: ポイントを参照してください。

*2: “ 6.1 ACTコントロールが返すエラーコード ” にもエラーコードを記載しています。

(2) エラーコード確認時の注意事項

CPU, ユニットおよびネットワークボードが返すエラーコード確認時の注意事項を下記に示します。

(a) プロパティ設定ミス

使用しているシステム構成と設定したプロパティ値が一致しない場合, 上位2バイトが正しいエラー検出ユニットを示しません。

例えば, QCPU (Qモード) に対して, ActCpuTypeにACPUのプロパティ値を設定している場合では, 上位2バイトはACPUがエラー検出ユニットとなる場合があります。

このような場合は, システム構成と設定した全プロパティの値を確認の上, 再度通信を行ってください。

また, ActEasyIF, ActMLEasyIFコントロールを使用している場合は, 通信設定ユーティリティの設定内容を確認ください。

(b) AJ71E71, AJ71QE71使用時

E71およびQE71通信時に発生したエラーコードで、下位2バイトのエラーコードがE71およびQE71のマニュアルに記載されていない場合、E71およびQE71のユニット前面のディップスイッチ(SW2)とプロパティActPacketTypeに設定された値が一致しているか確認してください。

ディップスイッチが正しく設定されてない場合、パケット形式(ASCII/バイナリ)に違いが発生しているため、ユニットから返されたエラーコードを正しく認識できなくなります。

(c) 他局アクセス時

他局アクセス時には、使用している経由ユニット(MELSECNET/H, MELSECNET/10, MELSECNET(), CC-Link, 計算機リンク, Ethernetユニット)のエラーコードが、下位2バイトに入る場合があります。

このような場合には、エラー検出ユニットを示す上位2バイトが必ずしもエラー発生したユニットと一致しない場合がありますので、システム構成を確認の上、使用しているCPU、経由ネットワークユニットおよびネットワークボードのマニュアルも合わせてご確認ください。

6.3 HRESULT型のエラーコード

通常、ActiveXコントロールはHRESULT型の戻り値を返します。ACTコントロールも同様です。

カスタムI/Fを使用の場合、メソッドAPIの戻り値に相当します。

ディスパッチI/Fを使用の場合、HRESULT型の戻り値は例外処理を行うことで取得できます。

ACTコントロールのHRESULT型の戻り値を下記に示します。

戻り値	終了状態	内 容
S_OK	正常終了	関数処理が正常に終了した。
S_FALSE	正常終了	関数処理(ActiveXコントロールとしての)が正常終了したが、操作(シーケンサへのアクセス)は失敗した。
E_POINTER	異常終了	関数に渡されたポインタが異常である。
E_OUTOFMEMORY	異常終了	メモリ確保またはオブジェクト作成に失敗した。
E_FAIL	異常終了	不特定のエラーが発生した。

ポイント

ディスパッチI/Fは、HRESULT型の戻り値を取得するための例外処理を行っていない場合、ACTコントロールからE_POINTER(E_XXXXX 定義の戻り値)などが返ったときにOSレベルでエラーダイアログを表示します。

付 録

付1 コールバック機能の接続方式について

Qシリーズ対応C24およびQシリーズ対応CM0を使用したモデム通信時のコールバック機能の接続方式について説明します。

コールバック機能は、MX Componentから回線接続後、Qシリーズ対応C24およびQシリーズ対応CM0からの回線再接続（コールバック）によりMX ComponentからシーケンサCPUへのアクセスが可能になる機能です。

(1)～(3)はパソコン側で電話料金を負担します。

(4)～(8)はQシリーズ対応C24およびQシリーズ対応CM0側で電話料金を負担します。

コールバック機能の詳細については下記マニュアルを参照してください。

・Q対応シリアルコミュニケーションユニットユーザズマニュアル（応用編）

(1) 自動

Qシリーズ対応C24およびQシリーズ対応CM0にコールバック機能が設定されていない場合に選択します。

(2) 自動（コールバック固定時）

Qシリーズ対応C24およびQシリーズ対応CM0にコールバック機能が設定されている場合にコールバック機能を使用しないで回線を接続します。

Qシリーズ対応C24およびQシリーズ対応CM0のバッファメモリ（2101H）に登録されている電話番号のパソコンのみ接続可能です。

(3) 自動（コールバック番号指定時）

Qシリーズ対応C24およびQシリーズ対応CM0にコールバック機能が設定されている場合にコールバック機能を使用しないで回線を接続します。

MX Componentで指定した電話番号のパソコンのみ接続可能です。

(4) コールバック接続（固定時）

Qシリーズ対応C24およびQシリーズ対応CM0のバッファメモリ（2101H）に登録されている電話番号のパソコンのみコールバックします。

(5) コールバック接続（番号指定時）

MX Componentで指定した電話番号のパソコンのみコールバックします。

(6) コールバック要求（固定時）

任意のパソコンからコールバック要求を発信し、Qシリーズ対応C24およびQシリーズ対応CM0のバッファメモリ（2101H）に登録されている電話番号のパソコンに対してコールバックします。（始めに接続したパソコンにはコールバックされません。）

(7) コールバック要求（番号指定時）

任意のパソコンからコールバック要求を発信し、MX Componentで指定した電話番号のパソコンにのみコールバックします。（始めに接続したパソコンにはコールバックされません。）

(8) コールバック受信待ち

コールバック要求（固定時、番号指定時）で回線接続する場合、コールバック先のパソコンは“コールバック受信待ち”を選択して回線を接続します。

付2 ワードデバイスを状態監視する場合のプログラミング例

EntryDeviceStatusにてワードデバイスが負の値になるのを監視させる場合のプログラミング例について説明します。

(1) Visual Basic® 6.0を使用する場合

Visual Basic® 6.0を使用し、D0が-10、D1が0、D2が10になるのを監視する場合のプログラミング例を下記に示します。

```
Dim szDevice As String      '監視するデバイスリスト
Dim IInputData(2) As Long   '設定する値
Dim IEntryData(2) As Long   'EntryDeviceStatusの引数に設定する値
Dim IReturnCode As Long     'EntryDeviceStatus戻り値
Dim ICount As Long          'ループ用カウンタ

'監視するデバイスリストにD0、D1、D2を設定する。
szDevice = "D0" + vbCrLf + "D1" + vbCrLf + "D2"

'D0に対する監視するデバイス値「-10」を設定する。
IInputData(0) = -10
'D1に対する監視するデバイス値「0」を設定する。
IInputData(1) = 0
'D2に対する監視するデバイス値「10」を設定する。
IInputData(2) = 10

'設定する値が負の値である場合は、EntryDeviceStatusに
'設定する値に変換するため、上位2バイトに「0」を格納する。
'デバイス点数分ループする。
For ICount = 0 To 2
    '設定する値が負の値の場合
    If IInputData(ICount) < 0 Then
        '上位2バイトに「0」を格納するため、
        '65535(0000FFFF[hex])でマスクする。
        IEntryData(ICount) = IInputData(ICount) And 65535
    Else
        '設定する値が正の値である場合
        'そのままの値をIEntryDataに代入する。
        IEntryData(ICount) = IInputData(ICount)
    End If
Next
'EntryDeviceStatusを実行する。
IReturnCode = ActLLT1.EntryDeviceStatus(szDevice, 3, 5, IEntryData(0))
```

(次のページへ)

< Idata= - 1 の場合 >

```
Private Sub ActLLT1_OnDeviceStatus(ByVal szDevice As String, ByVal IData As Long, ByVal IReturnCode As Long)
```

```
    Dim ICheckData As Long 'EntryDeviceStatusで、設定した値(上位2バイトに0を格納する前の値)
```

```
    '条件成立したデバイス値がWORD型の
```

```
    '負の値(32767(7FFF[Hex])より大きい)である場合
```

```
    If IData > 32767 Then
```

```
        '上位2バイトに「0」が格納されているため、FFFF0000[Hex]との
```

```
        '論理和をとることにより、LONG型の負の値に変換する。
```

```
        ICheckData = IData Or &HFFFF0000
```

```
    Else
```

```
        '条件成立したデバイス値が正の値である場合
```

```
        'そのままの値をICheckDataに代入する。
```

```
        ICheckData = IData
```

```
    End If
```

```
End Sub
```


(2) Visual C++® 6.0を使用する場合

Visual C++® 6.0を使用し、D0が-10、D1が0、D2が10になるのを監視する場合のプログラミング例を下記に示します。

```
CString szDevice; //監視するデバイスリスト
LONG lInputData[3]; //設定する値
LONG lEntryData[3]; //EntryDeviceStatusの引数に設定する値
LONG lReturnCode; //EntryDeviceStatus用返回值
LONG lCount; //ループ用カウンタ

//監視するデバイスリストにD0、D1、D2を設定する。
szDevice = "D0¥nD1¥nD2";
// D0に対する監視するデバイス値「-10」を設定する。
lInputData[0] = -10;
// D1に対する監視するデバイス値「0」を設定する。
lInputData[1] = 0;
// D2に対する監視するデバイス値「10」を設定する。
lInputData[2] = 10;

//設定する値が負の値である場合は、EntryDeviceStatusに
//設定する値に変換するため、上位2バイトに「0」を格納する。
//デバイス点数分ループする。
for(lCount = 0; lCount <= 2; lCount++) {
    //設定する値が負の値の場合
    if (lInputData[lCount] < 0 ) {
        //上位2バイトに「0」を格納するため、0x0000FFFFでマスクする。
        lEntryData[lCount] = lInputData[lCount] & 0x0000FFFF;
    } //設定する値が正の値の場合
    else {
        //そのままの値をlEntryDataに代入する。
        lEntryData[lCount] = lInputData[lCount];
    }
}

//EntryDeviceStatusを実行する。
lReturnCode = m_ActLLT.EntryDeviceStatus(szDevice,3,5,lEntryData);
```

(次のページへ)

< IData = - 1 の場合 >

```
void CVCTestDlg::OnOnDeviceStatusAct1It1(LPCTSTR szDevice, long IData, long IReturnCode)
{
    LONG ICheckData;    //EntryDeviceStatusで、設定した値（上位2バイトに0を格納する前の値）

    //条件成立したデバイス値がWORD型の
    //負の値(7FFF[Hex]より大きい)である場合
    if(IData > 0x7FFF){
        //上位2バイトに「0」が格納されているため、FFFF0000[Hex]との
        //論理和をとることにより、LONG型の負の値に変換する。
        ICheckData = IData | 0xFFFF0000;
    }else{
        //条件成立したデバイス値が正の値である場合
        //そのままの値をICheckDataに代入する。
        ICheckData = IData;
    }
}
```

付3 タイムアウト時間について

MX ComponentではACTコントロール内のActTimeOut プロパティに設定した値とは別の時間でタイムアウトが発生する場合があります。
各状態でのタイムアウト時間について説明します。

付3.1 タイムアウトエラーでリトライする場合

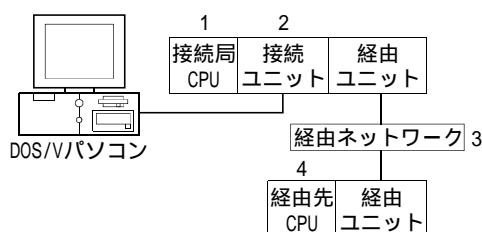
通信を行いタイムアウトエラーが発生した場合 ,ACTコントロール内部でタイムアウトの処理を最大3回繰り返すことがあります。

その際はタイムアウトが発生するまでに設定したタイムアウト値の最大3倍の時間かかります。

下記にタイムアウトエラーでリトライする通信経路を示します。

(1) 計算機リンクユニット通信

(a) 構 成



(b) 対象, 非対象表

タイムアウトエラーでリトライを行う通信経路を下表に示します。

接続局CPUはすべて対象となります。

対象となる経由先CPUを (対象) , × (非対象) で示します。

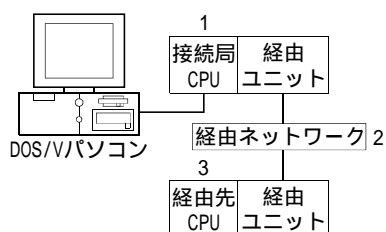
接続局		3. 経由ネットワーク	4. 経由先CPU					
1. CPU	2. 接続ユニット (使用可能コントロール名)		QCPU (Qモード)	QCPU (Aモード)	QnACPU	ACPU	FXCPU	モーション コントローラ CPU
QCPU (Qモード)	Qシリーズ 対応C24 (ActQJ71C24 , ActMLQJ71C24)	MELSECNET/H		×	×	×	×	×
		MELSECNET/10					×	
		MELSECNET()	×	×	×	×	×	×
		Ethernet		×		×	×	×
		計算機リンク		×		×	×	×
		CC-Link					×	
		マルチドロップ (独立モード)		×		×	×	×
		マルチドロップ (連動モード)		×	×	×	×	×
QnACPU	QC24(N) (ActAJ71QC24 , ActMLAJ71QC24)	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×
		MELSECNET/10	×	×		×	×	×
		MELSECNET()	×	×		×	×	×
		Ethernet	×	×		×	×	×
		計算機リンク	×	×		×	×	×
		CC-Link	×	×		×	×	×
		マルチドロップ (独立モード)	×	×		×	×	×
		マルチドロップ (連動モード)	×	×		×	×	×

(次ページへ)

接続局		3. 経由ネットワーク	4. 経由先CPU					
1. CPU	2. 接続ユニット (使用可能コントロール名)		QCPU (Qモード)	QCPU (Aモード)	QnACPU	ACPU	FXCPU	モーション コントローラ CPU
QCPU(Aモード) , QnACPU , ACPU , モーション コントローラCPU	UC24 (ActAJ71UC24 , ActMLAJ71UC24)	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×
		MELSECNET/10	×				×	
		MELSECNET()	×				×	
		Ethernet	×	×	×	×	×	×
		計算機リンク	×	×	×	×	×	×
		CC-Link	×	×	×	×	×	×
		マルチドロップ	×				×	
QCPU(Aモード) , QnACPU , ACPU , モーション コントローラCPU	C24 (ActAJ71C24 , ActMLAJ71C24)	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×
		MELSECNET/10	×				×	
		MELSECNET()	×				×	
		Ethernet	×	×	×	×	×	×
		計算機リンク	×	×	×	×	×	×
		CC-Link	×	×	×	×	×	×
		マルチドロップ	×				×	
FXCPU	FX拡張ポート (ActFX485BD , ActMLFX485BD)	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×
		MELSECNET/10	×	×	×	×	×	×
		MELSECNET()	×	×	×	×	×	×
		Ethernet	×	×	×	×	×	×
		計算機リンク	×	×	×	×		×
		CC-Link	×	×	×	×	×	×
		マルチドロップ	×	×	×	×		×

(2) CPU COM通信

(a) 構 成



(b) 対象，非対象表

タイムアウトエラーでリトライを行う通信経路を下表に示します。

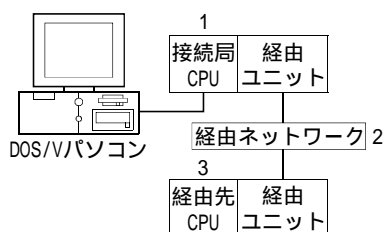
接続局CPUはすべて対象となります。

対象となる経由先CPUを (対象)，× (非対象) で示します。

1. 接続局CPU (使用可能コントロール名)	2. 経由ネットワーク	3. 経由先CPU					
		QCPU (Qモード)	QCPU (Aモード)	QnACPU	ACPU	FXCPU	モーション コントローラ CPU
QCPU (Qモード) (ActQCPUQ, ActMLQCPUQ)	MELSECNET/H		×	×	×	×	×
	MELSECNET/10					×	
	MELSECNET()	×	×	×	×	×	×
	Ethernet		×		×	×	×
	計算機リンク		×		×	×	×
	CC-Link					×	
QCPU (Aモード) (ActQCPUA, ActMLQCPUA)	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/10	×		×		×	
	MELSECNET()	×		×		×	
	Ethernet	×	×	×	×	×	×
	計算機リンク	×	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×	×
QnACPU (ActQnACPU, ActMLQnACPU)	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/10	×	×		×	×	×
	MELSECNET()	×	×		×	×	×
	Ethernet	×	×		×	×	×
	計算機リンク	×	×		×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×	×
ACPU, モーションコントローラCPU (ActACPU, ActMLACPU)	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/10	×		×		×	
	MELSECNET()	×		×		×	
	Ethernet	×	×	×	×	×	×
	計算機リンク	×	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×	×
FXCPU (ActFXCPU, ActMLFXCPU)	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/10	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET()	×	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×	×
	計算機リンク	×	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×	×

(3) CPU USB通信

(a) 構 成



(b) 対象，非対象表

タイムアウトエラーでリトライを行う通信経路を下表に示します。

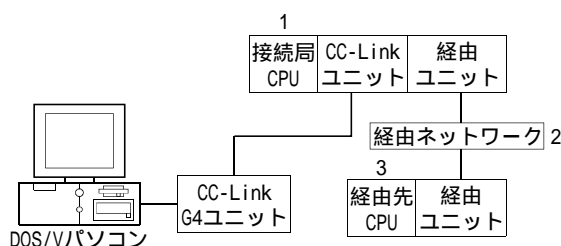
接続局CPUはすべて対象となります。

対象となる経由先CPUを (対象) , × (非対象) で示します。

1. 接続局CPU (使用可能コントロール名)	2. 経由ネットワーク	3. 経由先CPU					
		QCPU (Qモード)	QCPU (Aモード)	QnACPU	ACPU	FXCPU	モーションコントロールCPU
QCPU (Qモード) (ActQCPUUSB, ActMLQCPUUSB)	MELSECNET/H		×	×	×	×	×
	MELSECNET/10					×	
	MELSECNET()	×	×	×	×	×	×
	Ethernet		×		×	×	×
	計算機リンク		×		×	×	×
	CC-Link					×	

(4) CC-Link G4通信

(a) 構 成



(b) 対象，非対象表

タイムアウトエラーでリトライを行う通信経路を下表に示します。

接続局CPUはすべて対象となります。

対象となる経由先CPUを（対象），×（非対象）で示します。

CC-Link G4-S3ユニットがQモードの場合

1. 接続局CPU (使用可能コントロール名)	2. 経由ネットワーク	3. 経由先CPU					
		QCPU (Qモード)	QCPU (Aモード)	QnACPU	ACPU	FXCPU	モーションコントロールCPU
QCPU (Qモード) (ActCCG4Q, ActMLCCG4Q)	MELSECNET/H		×	×	×	×	×
	MELSECNET/10					×	
	MELSECNET()	×	×	×	×	×	×
	Ethernet		×		×	×	×
	計算機リンク		×		×	×	×
	CC-Link					×	

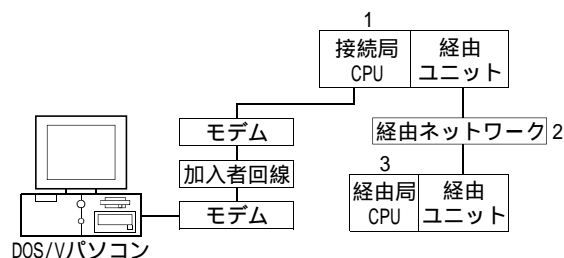
CC-Link G4ユニットがQnAモードの場合

1. 接続局CPU (使用可能コントロール名)	2. 経由ネットワーク	3. 経由先CPU					
		QCPU (Qモード)	QCPU (Aモード)	QnACPU	ACPU	FXCPU	モーションコントロールCPU
QnACPU (ActCCG4QnA, ActMLCCG4QnA)	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/10	×	×		×	×	×
	MELSECNET()	×	×		×	×	×
	Ethernet	×	×		×	×	×
	計算機リンク	×	×		×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×	×

CC-Link G4ユニットがAモードの場合

1. 接続局CPU (使用可能コントロール名)	2. 経由ネットワーク	3. 経由先CPU					
		QCPU (Qモード)	QCPU (Aモード)	QnACPU	ACPU	FXCPU	モーションコントロールCPU
QCPU (Aモード), ACPU, モーションコントロールCPU (ActCCG4A, ActMLCCG4A)	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/10	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET()	×	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×	×
	計算機リンク	×	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×	×

(5) モデム通信

(a) A6TEL使用時
構 成

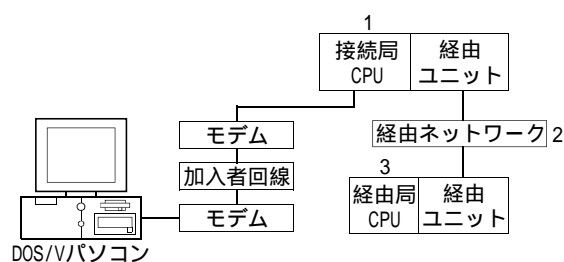
対象, 非対象表

タイムアウトエラーでリトライを行う通信経路を下表に示します。

接続局CPUはすべて対象となります。

対象となる経由先CPUを (対象), × (非対象) で示します。

接続局		2. 経由ネットワーク	3. 経由先CPU					
1. CPU	接続ユニット (使用可能コントロール名)		QCPU (Qモード)	QCPU (Aモード)	QnACPU	ACPU	FXCPU	モーション コントローラ CPU
ACPU, モーション コントローラ CPU	A6TEL, Q6TEL (Aモード) (ActA6TEL)	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×
		MELSECNET/10	×		×		×	
		MELSECNET()	×		×		×	
		Ethernet	×	×	×	×	×	×
		計算機リンク	×	×	×	×	×	×
		CC-Link	×	×	×	×	×	×

(b) Q6TEL使用時
構 成

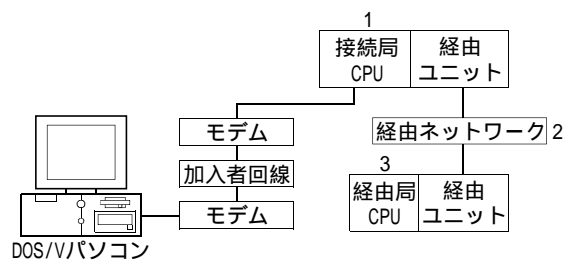
対象, 非対象表

タイムアウトエラーでリトライを行う通信経路を下表に示します。

接続局CPUはすべて対象となります。

対象となる経由先CPUを (対象), × (非対象) で示します。

接続局		2. 経由ネットワーク	3. 経由先CPU					
1. CPU	接続ユニット (使用可能コントロール名)		QCPU (Qモード)	QCPU (Aモード)	QnACPU	ACPU	FXCPU	モーション コントローラ CPU
QnACPU	Q6TEL (QnAモード) (ActQ6TEL)	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×
		MELSECNET/10	×	×		×	×	×
		MELSECNET()	×	×		×	×	×
		Ethernet	×	×		×	×	×
		計算機リンク	×	×		×	×	×
		CC-Link	×	×	×	×	×	×

(c) FXCPU使用時
構 成

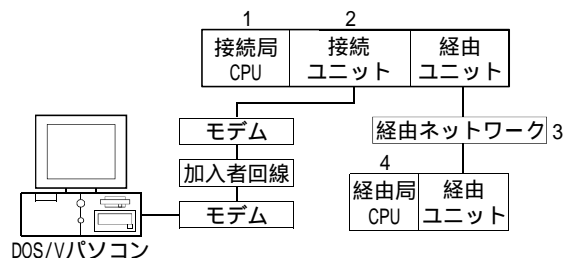
対象, 非対象表

タイムアウトエラーでリトライを行う通信経路を下表に示します。

接続局CPUはすべて対象となります。

対象となる経由先CPUを (対象), × (非対象) で示します。

1. 接続局CPU (使用可能コントロール名)	2. 経由ネットワーク	3. 経由先CPU					
		QCPU (Qモード)	QCPU (Aモード)	QnACPU	ACPU	FXCPU	モーション コントローラCPU
FXCPU (ActFXCPUTEL)	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/10	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET()	×	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×	×
	計算機リンク	×	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×	×

(d) Qシリーズ対応C24, Qシリーズ対応CM0, QC24N使用時
構 成

対象, 非対象表

タイムアウトエラーでリトライを行う通信経路を下表に示します。

接続局CPUはすべて対象となります。

対象となる経由先CPUを (対象), × (非対象) で示します。

接続局		3. 経由ネットワーク	4. 経由先CPU					
1. CPU	2. 接続ユニット (使用可能コントロール名)		QCPU (Qモード)	QCPU (Aモード)	QnACPU	ACPU	FXCPU	モーション コントローラCPU
QCPU (Qモード)	Qシリーズ 対応C24, Qシリーズ 対応CM0, (ActQJ71C24TEL)	MELSECNET/H		×	×	×	×	×
		MELSECNET/10					×	
		MELSECNET()	×	×	×	×	×	×
		Ethernet		×		×	×	×
		計算機リンク		×		×	×	×
		CC-Link					×	
		マルチドロップ (独立モード)		×		×	×	×
		マルチドロップ (連動モード)		×	×	×	×	×

(次ページへ)

接続局		3. 経由ネットワーク	4. 経由先CPU					
1. CPU	2. 接続ユニット (使用可能コントロール名)		QCPU (Qモード)	QCPU (Aモード)	QnACPU	ACPU	FXCPU	モーション コントローラ CPU
QnACPU	QC24N (ActAJ71QC24TEL)	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×
		MELSECNET/10	×	×		×	×	×
		MELSECNET()	×	×		×	×	×
		Ethernet	×	×		×	×	×
		計算機リンク	×	×		×	×	×
		CC-Link	×	×		×	×	×
		マルチドロップ (独立モード)	×	×		×	×	×
		マルチドロップ (連動モード)	×	×		×	×	×

付3.2 受信データエラーでリトライする場合

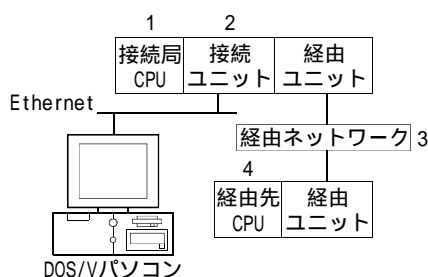
通信を行い受信データエラーが発生した場合、ACTコントロール内部で送受信のリトライ処理を最大3回繰り返すことがあります。

その際は関数が正常終了または異常終了するまでに設定したタイムアウト値の最大3倍の時間がかかります。

下記に受信エラーでリトライする通信経路を示します。

(1) Ethernet通信

(a) 構 成



(b) 対象，非対象表

受信データエラーでリトライを行う通信経路を下表に示します。

接続局CPUはすべて対象となります。

対象となる経由先CPUを（対象），×（非対象）で示します。

接続局		3. 経由ネットワーク	4. 経由先CPU					
1. CPU	2. 接続ユニット (使用可能コントロール名)		QCPU (Qモード)	QCPU (Aモード)	QnACPU	ACPU	FXCPU	モーション コントローラ CPU
QCPU (Qモード)	Qシリーズ 対応E71 (ActQJ71E71TCP, ActMQJ71E71TCP)	MELSECNET/H		×	×	×	×	×
		MELSECNET/10					×	
		MELSECNET()	×	×	×	×	×	×
		Ethernet		×		×	×	×
		計算機リンク		×	×	×	×	×
		CC-Link		×	×	×	×	×
QCPU (Qモード)	Qシリーズ 対応E71 (ActQJ71E71UDP, ActMQJ71E71UDP)	MELSECNET/H		×	×	×	×	×
		MELSECNET/10					×	
		MELSECNET()	×	×	×	×	×	×
		Ethernet		×		×	×	×
		計算機リンク		×	×	×	×	×
		CC-Link		×	×	×	×	×
QnACPU	QE71 (ActAJ71QE71UDP, ActMLAJ71QE71UDP)	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×
		MELSECNET/10	×	×		×	×	×
		MELSECNET()	×	×	×	×	×	×
		Ethernet	×	×	×	×	×	×
		計算機リンク	×	×	×	×	×	×
		CC-Link	×	×	×	×	×	×

付3.3 ACTコントロール内部の固定時間でタイムアウトが発生する場合

MX Componentでは、Open関数を実行する際にパソコンとシーケンサシステムとの間で正常に接続されているかどうかの確認のための通信を行います。

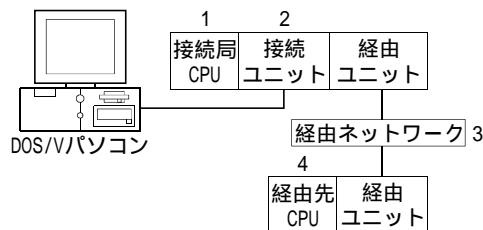
上記通信を行う場合、ACTコントロール内部の固定タイムアウト時間(1000ms ~ 4500ms)を使用します。

ただし、上記通信を行っている間にエラーが発生した場合、タイムアウトエラー以外のエラーが発生することがあります。

下記にACTコントロール内部の固定時間でタイムアウトが発生する通信経路を示します。

(1) 計算機リンクユニット通信

(a) 構 成



(b) 対象、非対象表

ACTコントロール内部の固定時間でタイムアウトが発生する通信経路を下表に示します。

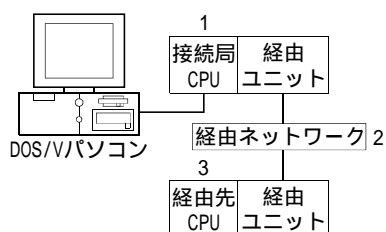
接続局CPUはすべて対象となります。

対象となる経由先CPUを (対象) , × (非対象) で示します。

接続局		3. 経由ネットワーク	4. 経由先CPU					
1. CPU	2. 接続ユニット (使用可能コントロール名)		QCPU (Qモード)	QCPU (Aモード)	QnACPU	ACPU	FXCPU	モーション コントローラ CPU
QCPU (Qモード)	Qシリーズ 対応C24 (ActQJ71QC24 , ActMLQJ71QC24)	MELSECNET/H		×	×	×	×	×
		MELSECNET/10					×	
		MELSECNET()	×	×	×	×	×	×
		Ethernet		×		×	×	×
		計算機リンク		×		×	×	×
		CC-Link					×	
		マルチドロップ (独立モード)		×		×	×	×
		マルチドロップ (連動モード)		×	×	×	×	×
QnACPU	QC24(N) (ActAJ71QC24 , ActMLAJ71QC24)	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×
		MELSECNET/10	×	×		×	×	×
		MELSECNET()	×	×		×	×	×
		Ethernet	×	×		×	×	×
		計算機リンク	×	×		×	×	×
		CC-Link	×	×		×	×	×
		マルチドロップ (独立モード)	×	×		×	×	×
		マルチドロップ (連動モード)	×	×		×	×	×

(2) CPU COM通信

(a) 構 成



(b) 対象，非対象表

ACTコントロール内部の固定時間でタイムアウトが発生する通信経路を下表に示します。

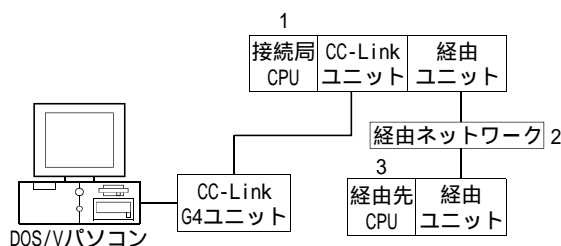
接続局CPUはすべて対象となります。

対象となる経由先CPUを (対象) , × (非対象) で示します。

1. 接続局CPU (使用可能コントロール名)	2. 経由ネットワーク	3. 経由先CPU					
		QCPU (Qモード)	QCPU (Aモード)	QnACPU	ACPU	FXCPU	モーション コントローラ CPU
QCPU (Qモード) (ActQCPUQ, ActMLQCPUQ)	MELSECNET/H		×	×	×	×	×
	MELSECNET/10					×	
	MELSECNET()	×	×	×	×	×	×
	Ethernet		×		×	×	×
	計算機リンク		×		×	×	×
	CC-Link					×	
QCPU (Aモード) (ActQCPUA, ActMLQCPUA)	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/10	×		×		×	
	MELSECNET()	×		×		×	
	Ethernet	×	×	×	×	×	×
	計算機リンク	×	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×	×
QnACPU (ActQnACPU, ActMLQnACPU)	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/10	×	×		×	×	×
	MELSECNET()	×	×		×	×	×
	Ethernet	×	×		×	×	×
	計算機リンク	×	×		×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×	×
ACPU , モーションコントローラCPU (ActACPU, ActMLACPU)	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/10	×		×		×	
	MELSECNET()	×		×		×	
	Ethernet	×	×	×	×	×	×
	計算機リンク	×	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×	×
FXCPU (ActFXCPU, ActMLFXCPU)	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/10	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET()	×	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×	×
	計算機リンク	×	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×	×

(3) CC-Link G4通信

(a) 構 成



(b) 対象，非対象表

ACTコントロール内部の固定時間でタイムアウトが発生する通信経路を下表に示します。

接続局CPUはすべて対象となります。

対象となる経由先CPUを (対象) , × (非対象) で示します。

CC-Link G4-S3ユニットがQモードの場合

1. 接続局CPU (使用可能コントロール名)	2. 経由ネットワーク	3. 経由先CPU					
		QCPU (Qモード)	QCPU (Aモード)	QnACPU	ACPU	FXCPU	モーションコントロールCPU
QCPU (Qモード) (ActCCG4Q, ActMLCCG4Q)	MELSECNET/H		×	×	×	×	×
	MELSECNET/10					×	
	MELSECNET()	×	×	×	×	×	×
	Ethernet		×		×	×	×
	計算機リンク		×		×	×	×
	CC-Link					×	

CC-Link G4ユニットがQnAモードの場合

1. 接続局CPU (使用可能コントロール名)	2. 経由ネットワーク	3. 経由先CPU					
		QCPU (Qモード)	QCPU (Aモード)	QnACPU	ACPU	FXCPU	モーションコントロールCPU
QnACPU (ActCCG4QnA, ActMLCCG4QnA)	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/10	×	×		×	×	×
	MELSECNET()	×	×		×	×	×
	Ethernet	×	×		×	×	×
	計算機リンク	×	×		×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×	×

CC-Link G4ユニットがAモードの場合

1. 接続局CPU (使用可能コントロール名)	2. 経由ネットワーク	3. 経由先CPU					
		QCPU (Qモード)	QCPU (Aモード)	QnACPU	ACPU	FXCPU	モーションコントロールCPU
QCPU (Aモード) , ACPU , モーションコントロールCPU (ActCCG4A, ActMLCCG4A)	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/10	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET()	×	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×	×
	計算機リンク	×	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×	×

保証について

ご使用に際しましては、以下の製品保証内容をご確認いただきますよう、よろしくお願いいたします。

1. 無償保証期間と無償保証範囲

無償保証期間中に、製品に当社側の責任による故障や瑕疵（以下併せて「故障」と呼びます）が発生した場合、当社は買い上げいただきました販売店または当社サービス会社を通じて、無償で製品を修理させていただきます。

ただし、国内および海外における出張修理が必要な場合は、技術者派遣に要する実費を申し受けます。

また、故障ユニットの取替えに伴う現地再調整、試運転は当社責務外とさせていただきます。

【無償保証期間】

製品の無償保証期間は、お客様にてご購入後またはご指定場所に納入後1年間とさせていただきます。

ただし、当社製造出荷後の流通期間を最長6ヵ月として、製造から18ヵ月を無償保証期間の上限とさせていただきます。また修理品の無償保証期間は、修理前の無償保証期間を超えて長くなることはありません。

【無償保証範囲】

(1) 使用状態、使用方法および使用環境などが、取扱説明書、ユーザーズマニュアル、製品本体注意ラベルなどに記載された条件、注意事項などにしたがった正常な状態で使用されている場合に限定させていただきます。

(2) 無償保証期間内であっても、以下の場合には有償修理とさせていただきます。

お客様における不適切な保管や取扱い、不注意、過失などにより生じた故障およびお客様のハードウェアまたはソフトウェア設計内容に起因した故障。

お客様にて当社の了解なく製品に改造などの手を加えたことに起因する故障。

当社製品がお客様の機器に組み込まれて使用された場合、お客様の機器が受けている法的規制による安全装置または業界の通念上備えられているべきと判断される機能・構造などを備えていれば回避できたと認められる故障。

取扱説明書などに指定された消耗部品（バッテリー、バックライト、ヒューズなど）が正常に保守・交換されていれば防げたと認められる故障。

火災、異常電圧などの不可抗力による外部要因および地震、雷、風水害などの天変地異による故障。

当社出荷当時の科学技術の水準では予見できなかった事由による故障。

その他、当社の責任外の場合またはお客様が当社責任外と認めた故障。

2. 生産中止後の有償修理期間

(1) 当社が有償にて製品修理を受け付けることができる期間は、その製品の生産中止後7年間です。

生産中止に関しましては、当社テクニカルニュースなどにて報じさせていただきます。

(2) 生産中止後の製品供給（補用品も含む）はできません。

3. 海外でのサービス

海外においては、当社の各地域海外FAセンタで修理受付をさせていただきます。ただし、各FAセンタでの修理条件などが異なる場合がありますのでご了承ください。

4. 機会損失、二次損失などへの保証責務の除外

無償保証期間の内外を問わず、当社の責に帰すことができない事由から生じた損害、当社製品の故障に起因するお客様での機会損失、逸失利益、当社の予見の有無を問わず特別の事情から生じた損害、二次損害、事故補償、当社製品以外への損傷および、お客様による交換作業、現地機械設備の再調整、立上げ試運転その他の業務に対する補償については、当社は責任を負いかねます。

5. 製品仕様の変更

カタログ、マニュアルもしくは技術資料に記載されている仕様は、お断りなしに変更される場合がありますので、あらかじめご承知おきください。

6. 製品の適用について

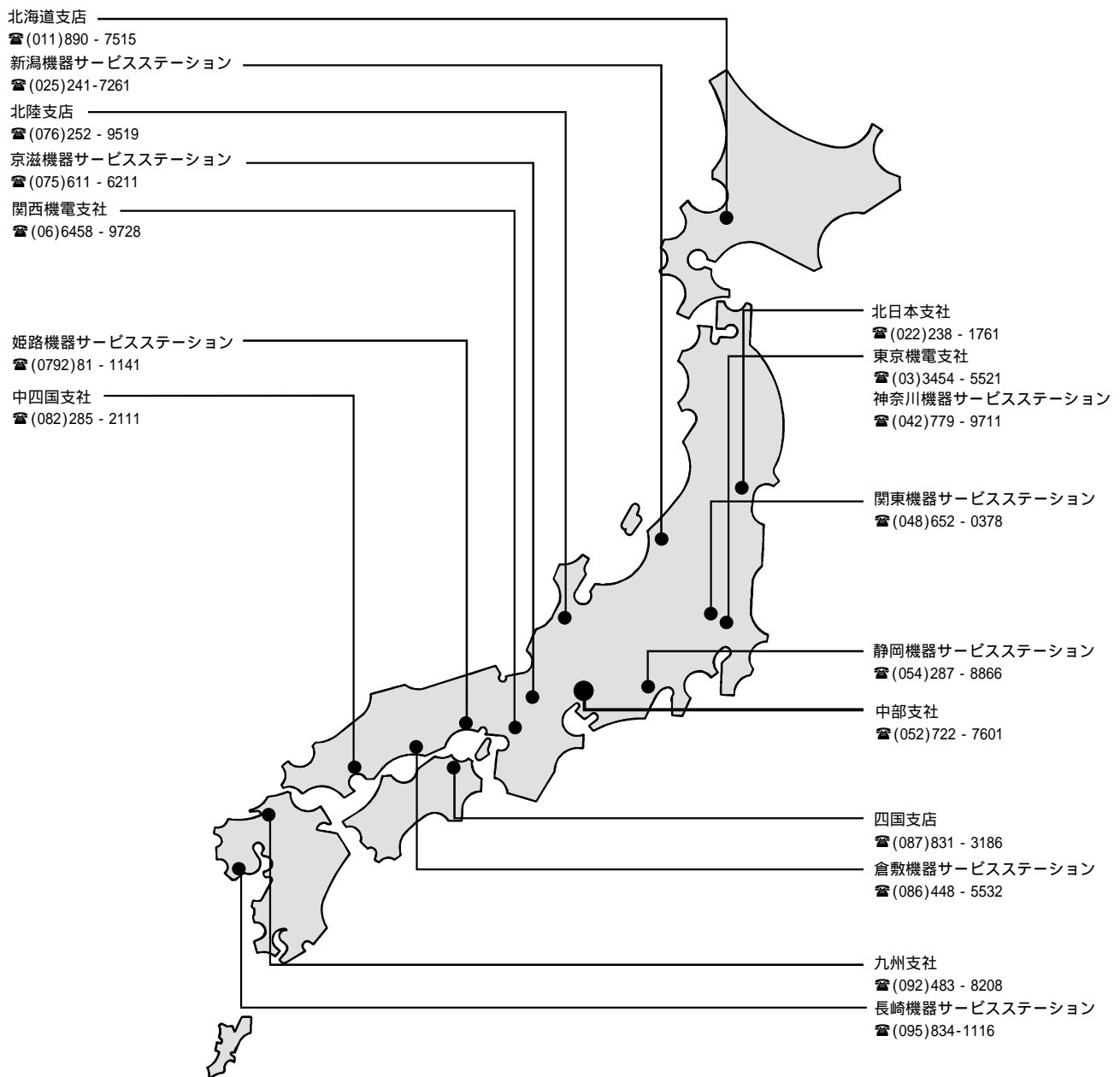
(1) 当社MELSEC汎用シーケンサをご使用いただくにあたりましては、万ーシーケンサ機器に故障・不具合などが発生した場合でも重大な事故にいたらない用途であること、および故障・不具合発生時にはバックアップやフェールセーフ機能が機器外部で系統的に実施されていることを、ご使用の条件とさせていただきます。

(2) 当社汎用シーケンサは、一般工業などへの用途を対象とした汎用品として設計・製作されています。したがって、各電力会社殿の原子力発電所およびその他発電所向けなどの公共への影響が大きい用途や、鉄道各社殿および官公庁殿向けの用途などで、特別品質保証体制をご要求になる用途には、シーケンサの適用を除外させていただきます。また、航空、医療、燃焼・燃料装置、有人搬送装置、娯楽機械、安全機械など人命や財産に大きな影響が予測される用途へのご使用についても、当社シーケンサの適用を除外させていただきます。

ただし、これらの用途であっても、事前に当社窓口へご相談いただき、用途を限定して特別な品質をご要求されないことをお客様にご承認いただいた場合には、必要な文書の取り交わしの上、適用可能とさせていただきます。

以上

サービスネットワーク（三菱電機システムサービス(株)）



Microsoft, Windows, Windows NT, Visual Basic, Visual C++は、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における商標または登録商標です。

PC98-NXIは、日本電気株式会社の登録商標です。

Ethernetは、XEROX社の登録商標です。

その他、文中における会社名、商品名は各社の商標または登録商標です。

SPREAD

Copyright(c) 1999 Far Point Technologies, Inc.

MX Component Version 3

プログラミングマニュアル



三菱電機株式会社

〒100-8310 東京都千代田区丸の内2-2-3(三菱電機ビル)

お問い合わせは下記へどうぞ

本社機器営業部	〒104-6215	東京都中央区晴海1-8-12(オフィスタワーZ棟15階)	(03)6221-2190
北海道支社	〒060-8693	札幌市中央区北二条西4-1(北海道ビル)	(011)212-3792
東北支社	〒980-0011	仙台市青葉区上杉1-17-7(仙台上杉ビル)	(022)216-4546
関越支社	〒330-6034	さいたま市中央区新都心11番地2(明治安田生命さいたま新都心ビルランド・アクセス・タワー34F)	(048)600-5835
新潟支店	〒950-8504	新潟市東大通2-4-10(日本生命ビル)	(025)241-7227
神奈川支社	〒220-8118	横浜西区みなとみらい2-2-1(横浜ランドマークタワー)	(045)224-2624
北陸支社	〒920-0031	金沢市広岡3-1-1(金沢パークビル)	(076)233-5502
中部支社	〒450-8522	名古屋市中村区名駅3-28-12(大名古屋ビル)	(052)565-3314
豊田支店	〒471-0034	豊田市小坂本町1-5-10(矢作豊田ビル)	(0565)34-4112
関西支社	〒530-8206	大阪市北区堂島2-2-2(近鉄堂島ビル)	(06)6347-2771
中国支社	〒730-0037	広島市中区中町7-32(日本生命ビル)	(082)248-5445
四国支社	〒760-8654	高松市寿町1-1-8(日本生命高松駅前ビル)	(087)825-0055
九州支社	〒810-8686	福岡市中央区天神2-12-1(天神ビル)	(092)721-2247

インターネットによる三菱電機FA機器技術情報サービス

MELFANSwebホームページ: <http://www.MitsubishiElectric.co.jp/melfansweb>

MELFANSwebのFAランドでは、体験版ソフトウェアやソフトウェアアップデートのダウンロードサービス、MELSECシリーズのオンラインマニュアル、Q&Aサービス等がご利用いただけます。FAランドのID登録(無料)が必要です。

電話技術相談窓口

対 象 機 種		電 話 番 号	受 付 時 間 ¹		
MELSEC-Q/QnA/A	シーケンサ一般 (ネットワーク/インテリジェント機能ユニット以外)	052-711-5111	月曜～木曜 9:00～19:00 金曜 9:00～17:00		
	ネットワーク、シリアルコミュニケーションユニット	052-712-2578			
	インテリジェント機能ユニット(ネットワーク以外)	052-712-2579			
MELSOFTシーケンサ プログラミングツール	MELSOFT GXシリーズ	052-711-0037			
	SW IVD-GPPA/GPPQなど	052-712-2370			
MELSOFT通信支援 ソフトウェアツール	MELSOFT MXシリーズ				
	SW D5F-CSKP/OLEX/XMOPなど				
MELSEC/パソコンボード	Q80BDシリーズなど	052-712-2830			
MELSEC計装/Q二重化	プロセスCPU(Q12/Q25PHCPU)				
	二重化CPU(Q12/Q25PRHCPU)				
	MELSOFT PXシリーズ				
GOT表示器	GOT1000/A900シリーズなど	052-712-2417			
	MELSOFT GTシリーズ				

FAX技術相談窓口

対 象 機 種	F A X 番 号	受 付 時 間 ¹
上記対象機種	052-719-6762	9:00～16:00(受信は常時 2)

1: 土・日・祝祭日、春期・夏期・年末年始を除く通常業務日

2: 春期・夏期・年末年始を除く

形名	MELS3-ACTJ-P-J
形名 コード	13JC10
SH(名)-080275-F(0508)MEE	

本マニュアルは、輸出する場合、経済産業省への役務取引許可申請は不要です。